Ⅲ　調査結果の分析

Ⅲ　調査結果の分析

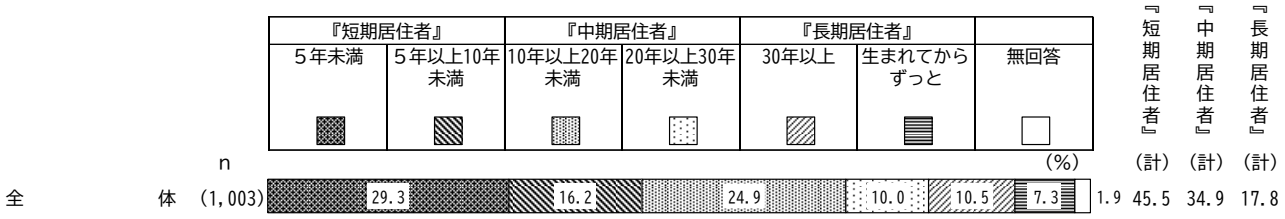
１．区民の定住性

（１）居住年数

◇「５年未満」が３割弱

問１　あなたは、千代田区にお住まいになって何年になりますか。（○は１つ）

図１－１－１ 居住年数

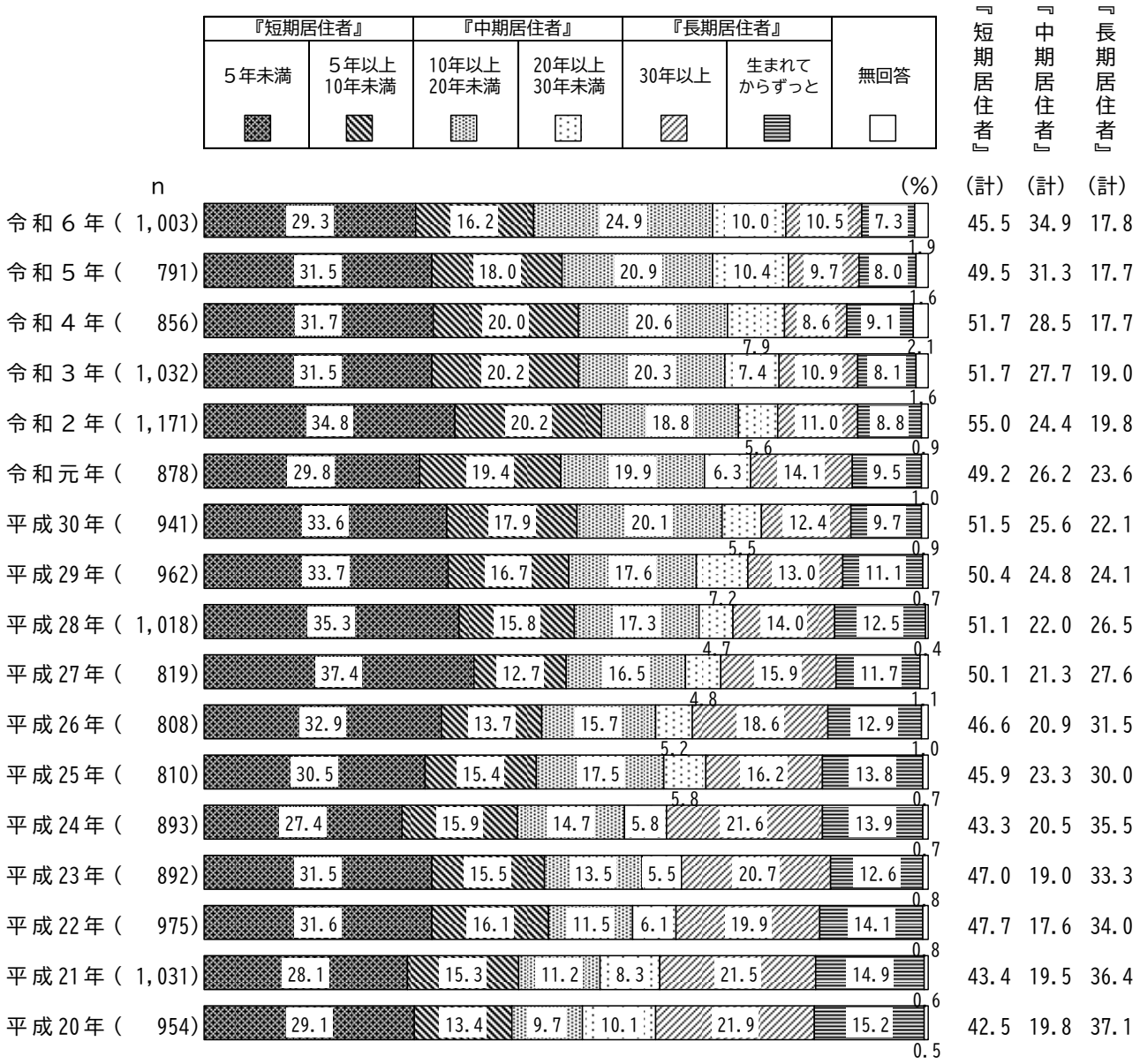


居住年数について聞いたところ、「５年未満」(29.3%)が３割弱と最も高く、これに「５年以上10年未満」(16.2%)を合わせた『短期居住者』(45.5%)は４割台半ばとなっている。次いで「10年以上20年未満」(24.9%)が２割台半ば近くと高くなっている。また、「30年以上」(10.5%)と「生まれてからずっと」(7.3%)を合わせた『長期居住』(17.8%)は１割台半ば超えとなっている。(図１－１－１)

経年比較にみると、『中期居住者』は令和２年度から増加傾向がみられる。

（図１－１－２）

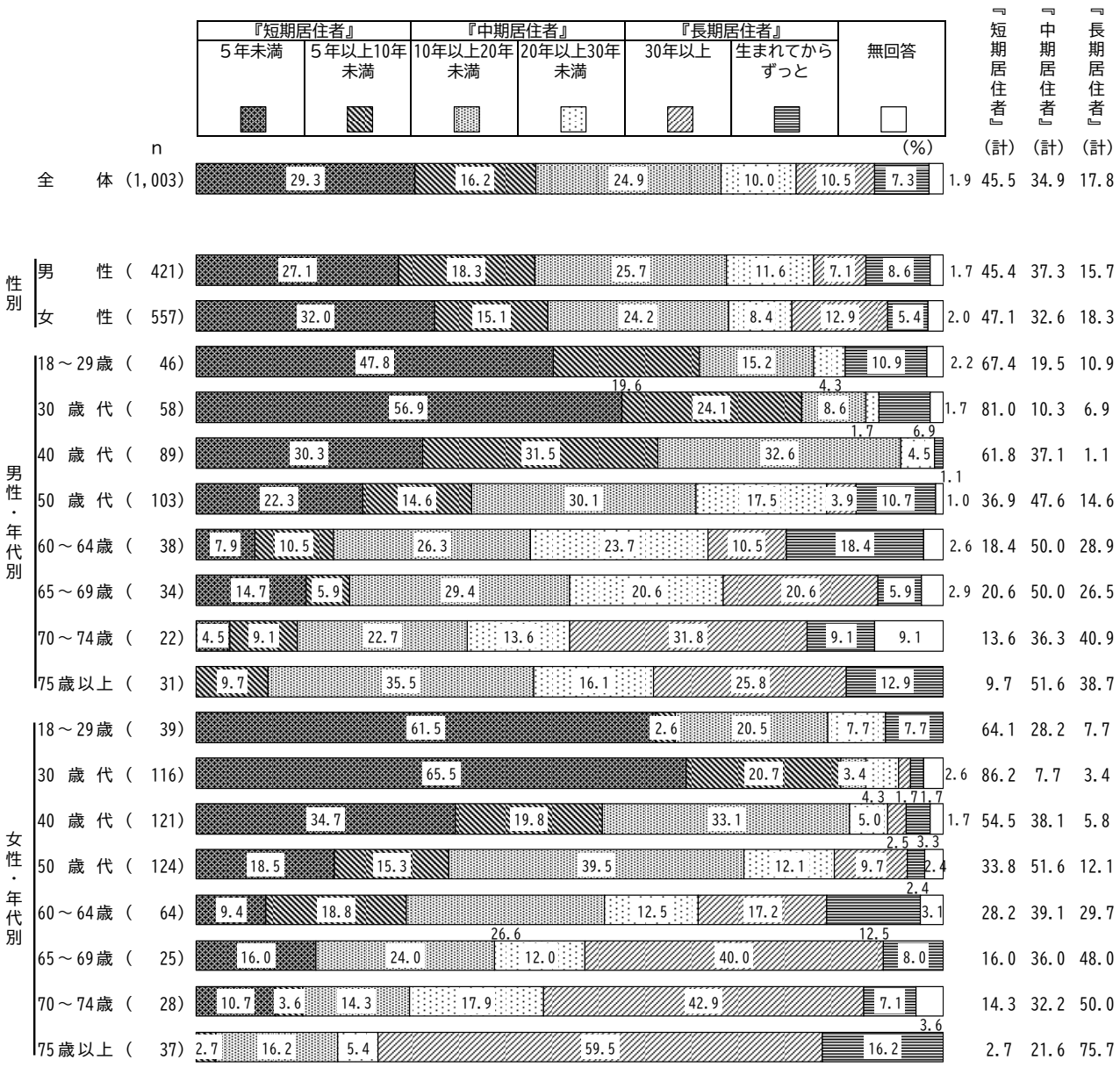
図１－１－２ 居住年数（経年比較）



性・年代別にみると、『短期居住者』は女性30歳代(86.2%)が８割台半ば超えと最も高くなっており、男性30歳代(81.0%)が８割強、男性18～29歳(67.4%)が６割台半ば超えと高くなっている。

『長期居住者』は女性75歳以上(75.7%)が７割台半ばと最も高くなっており、女性70～74歳(50.0%)で５割、女性65～69歳(48.0%)が５割近く、男性75歳以上(38.7%)が４割近くと高くなっている。(図１－１－３)

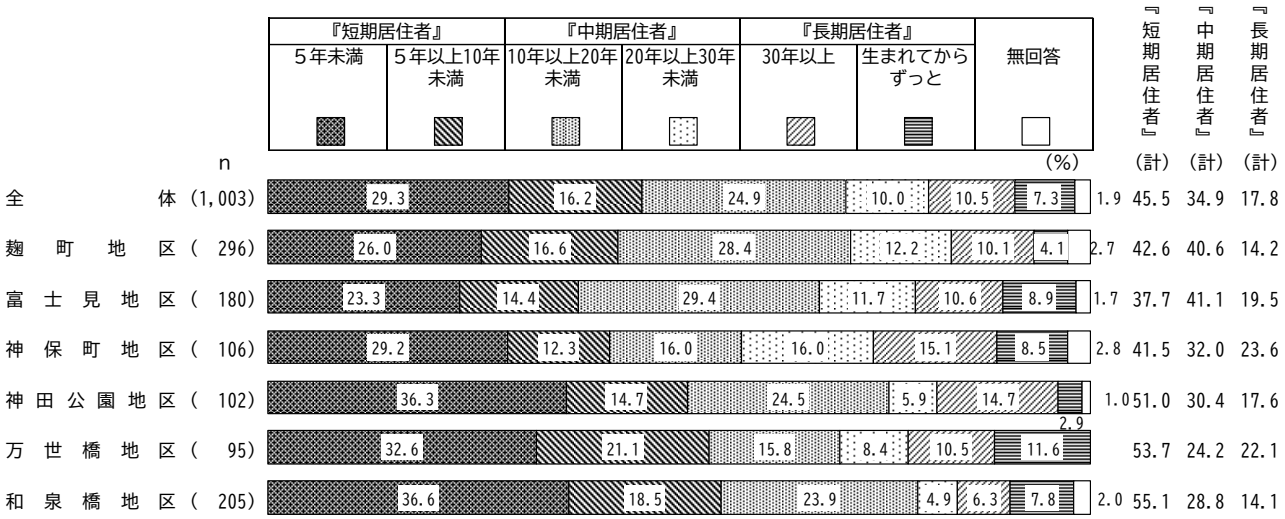
図１－１－３ 居住年数（性・年代別）



地区別にみると、『短期居住者』は和泉橋地区(55.1%)で、『中期居住者』は富士見地区(41.1%)で、『長期居住者』は神保町地区(23.6%)で、それぞれ高い割合となっている。

（図１－１－４）

図１－１－４ 居住年数（地区別）



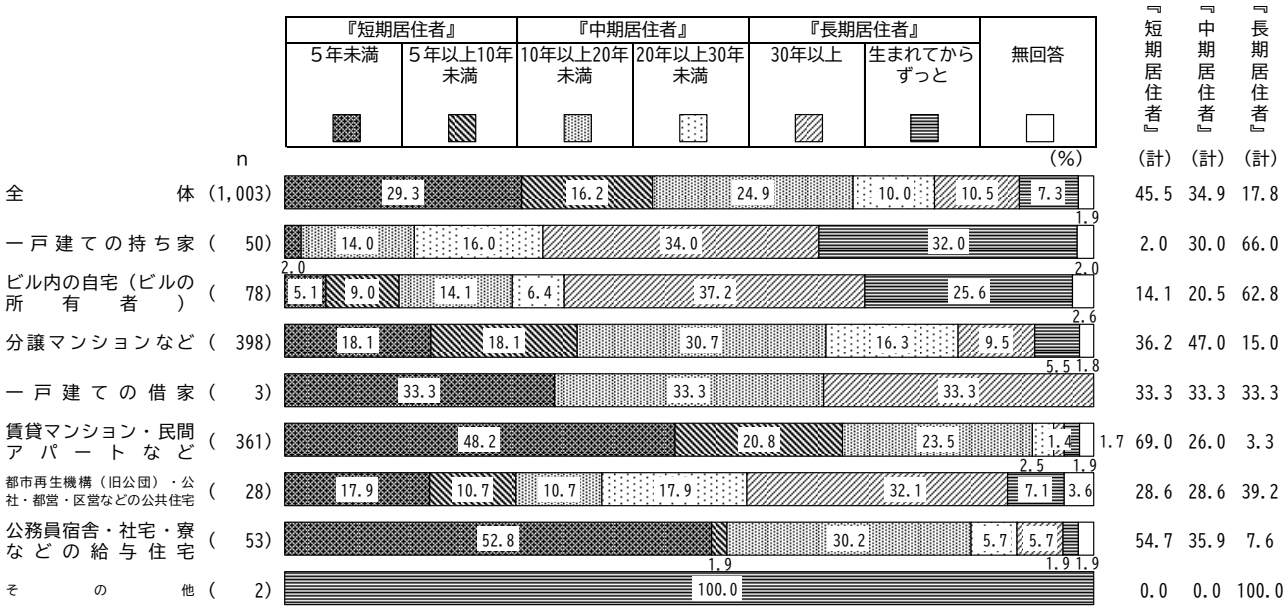
住居形態別にみると、「５年未満」は公務員宿舎・社宅・寮などの給与住宅(52.8%)が５割強と最も高くなっている。

「30年以上」はビル内の自宅（ビルの所有者）(37.2%)が３割台半ば超えと最も高くなっており、一戸建ての持ち家(34.0%)が３割台半ば近く、都市再生機構（旧公団）・公社・都営・区営などの公共住宅(32.1%)が３割強と高くなっている。

「生まれてからずっと」は一戸建ての持ち家(32.0%)が３割強と高くなっている。

（図１－１－５）

図１－１－５ 居住年数（住居形態別）

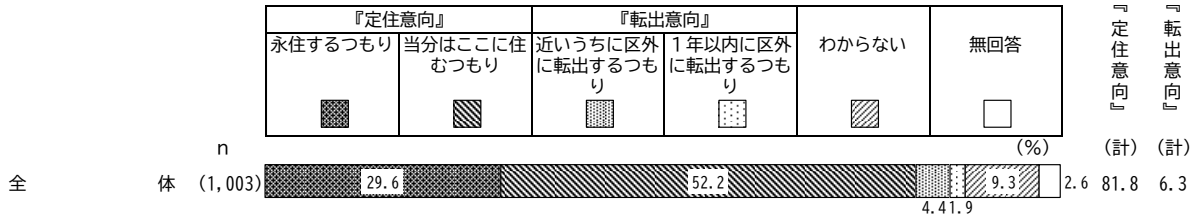


（２）定住意向

◇「当分はここに住むつもり」が５割強

問２　あなたは、これからも千代田区にお住まいになりますか。（○は１つ）

図１－２－１　定住意向



定住意向について聞いたところ、「当分はここに住むつもり」(52.2%)が５割強と最も高く、これに「永住するつもり」(29.6%)を合わせた『定住意向』(81.8%)は８割強となっている。一方で、「近いうちに区外に転出するつもり」(4.4%)と「１年以内に区外に転出するつもり」(1.9%)を合わせた『転出意向』(6.3%)は１割未満となっている。

（図１－２－１）

経年比較をみると、平成19年以降「当分はここに住むつもり」が最も高い割合となっている。「永住するつもり」は令和６年調査では微増している。

（図１－２－２、１－２－３）

図１－２－２ 定住意向（経年比較）

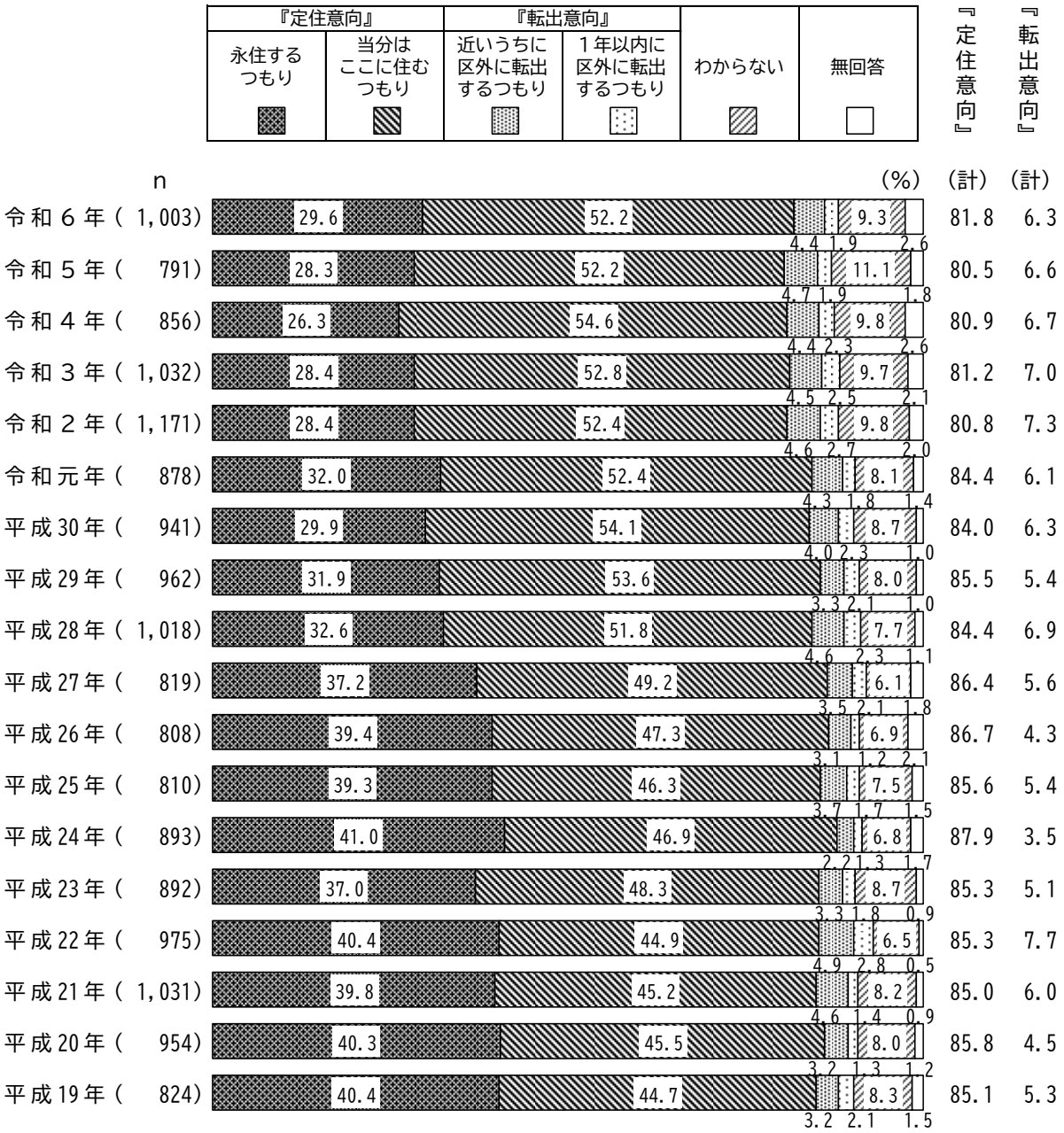
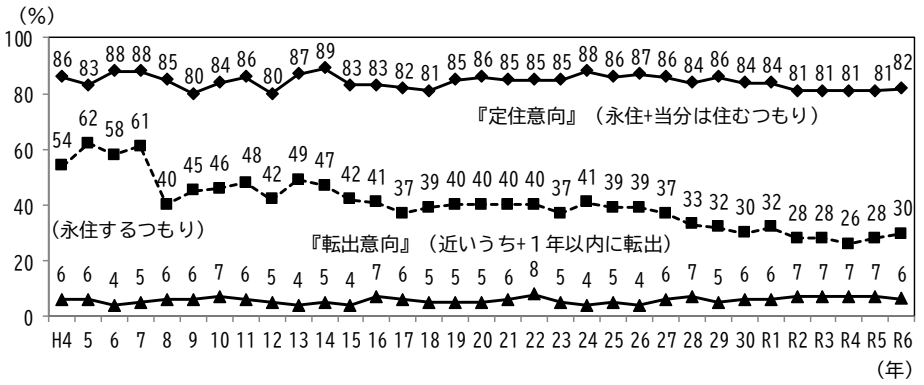


図１－２－３ 定住意向（経年比較）

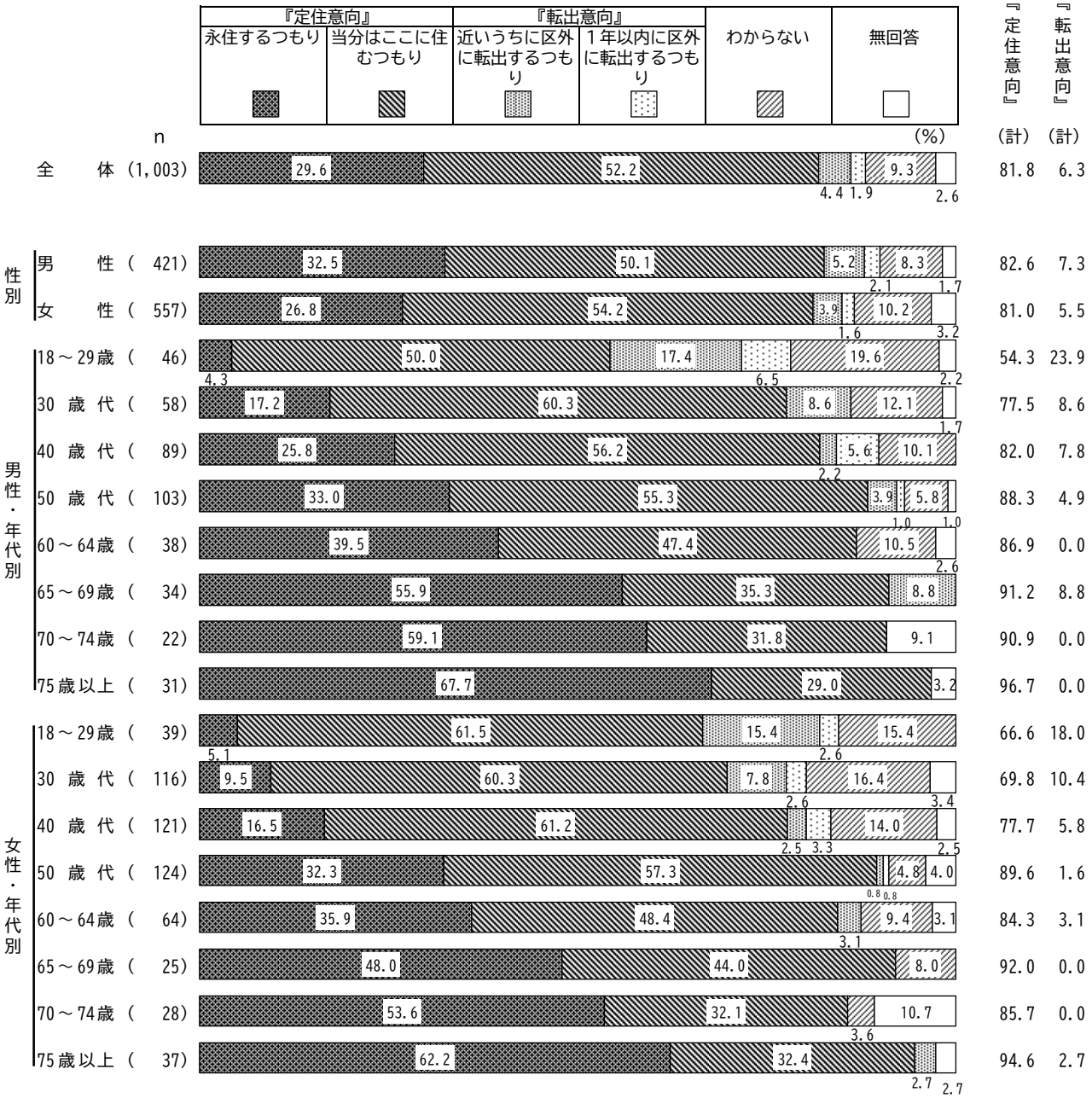


注）比率は四捨五入している

性・年代別にみると、男性・女性ともに年代が上がるほど『定住意向』が高くなる傾向がある。また、いずれの年代でも『定住意向』が『転出意向』を上回っている。

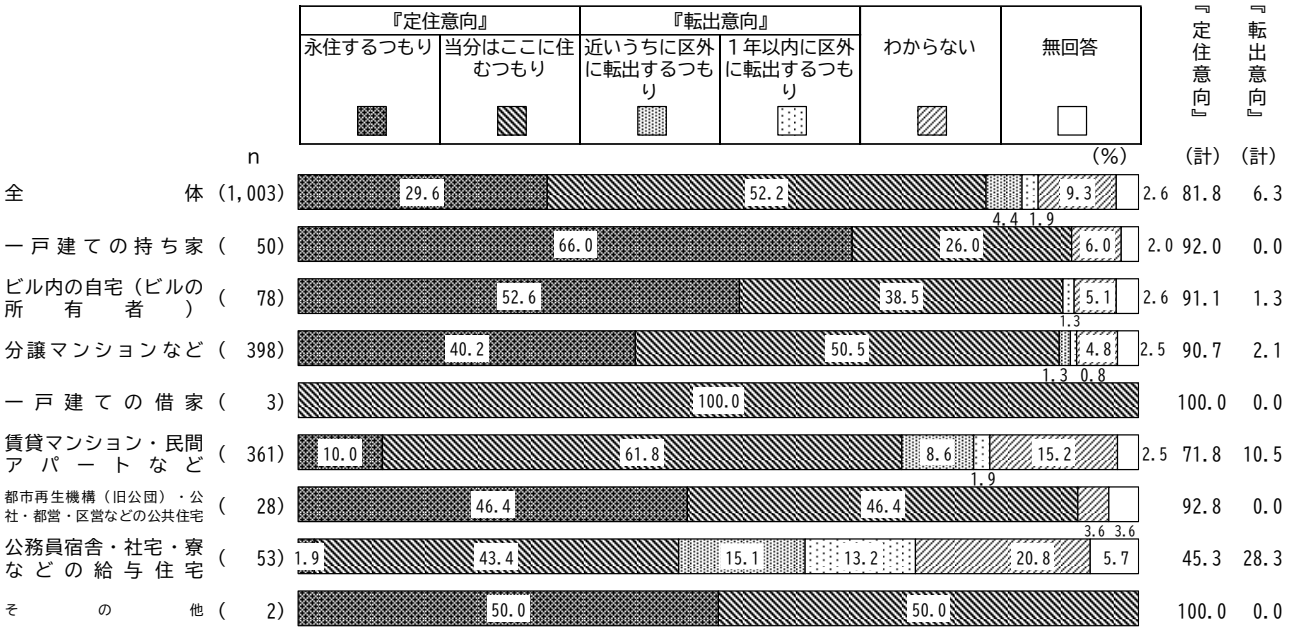
（図１－２－４）

図１－２－４ 定住意向（性・年代別）



住居形態別にみると、「永住するつもり」は一戸建ての持ち家(66.0%)が６割台半ば超えと最も高くなっており、ビル内の自宅（ビルの所有者）(52.6%)が５割強と高くなっている。(図１－２－５)

図１－２－５ 定住意向（住居形態別）

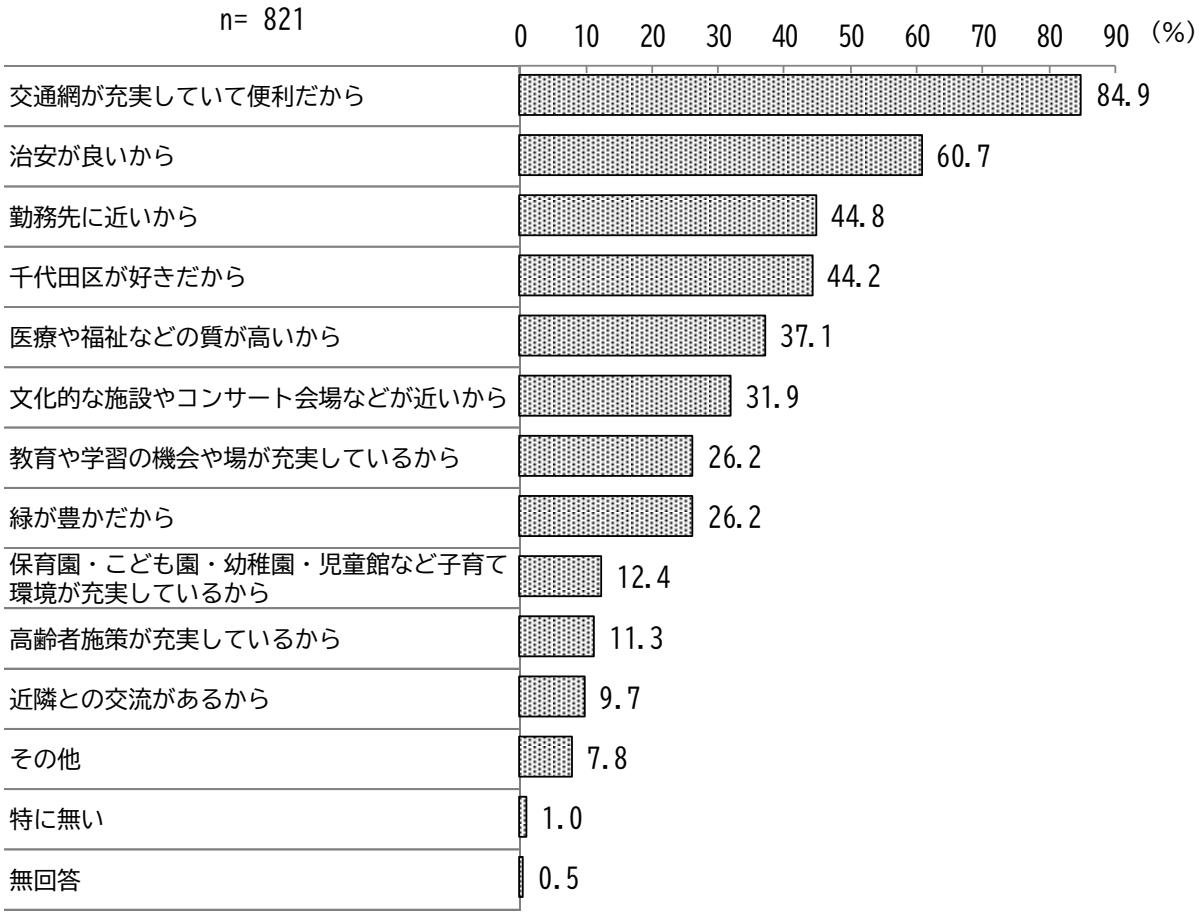


（２－１）定住意向の理由

◇「交通網が充実していて便利だから」が８割台半ば近く

（問２で「１　永住するつもり」か「２　当分はここに住むつもり」とお答えの方に）
問２－１　あなたが、そう思う理由は何ですか。（○はいくつでも）

図１－２－６ 定住意向の理由

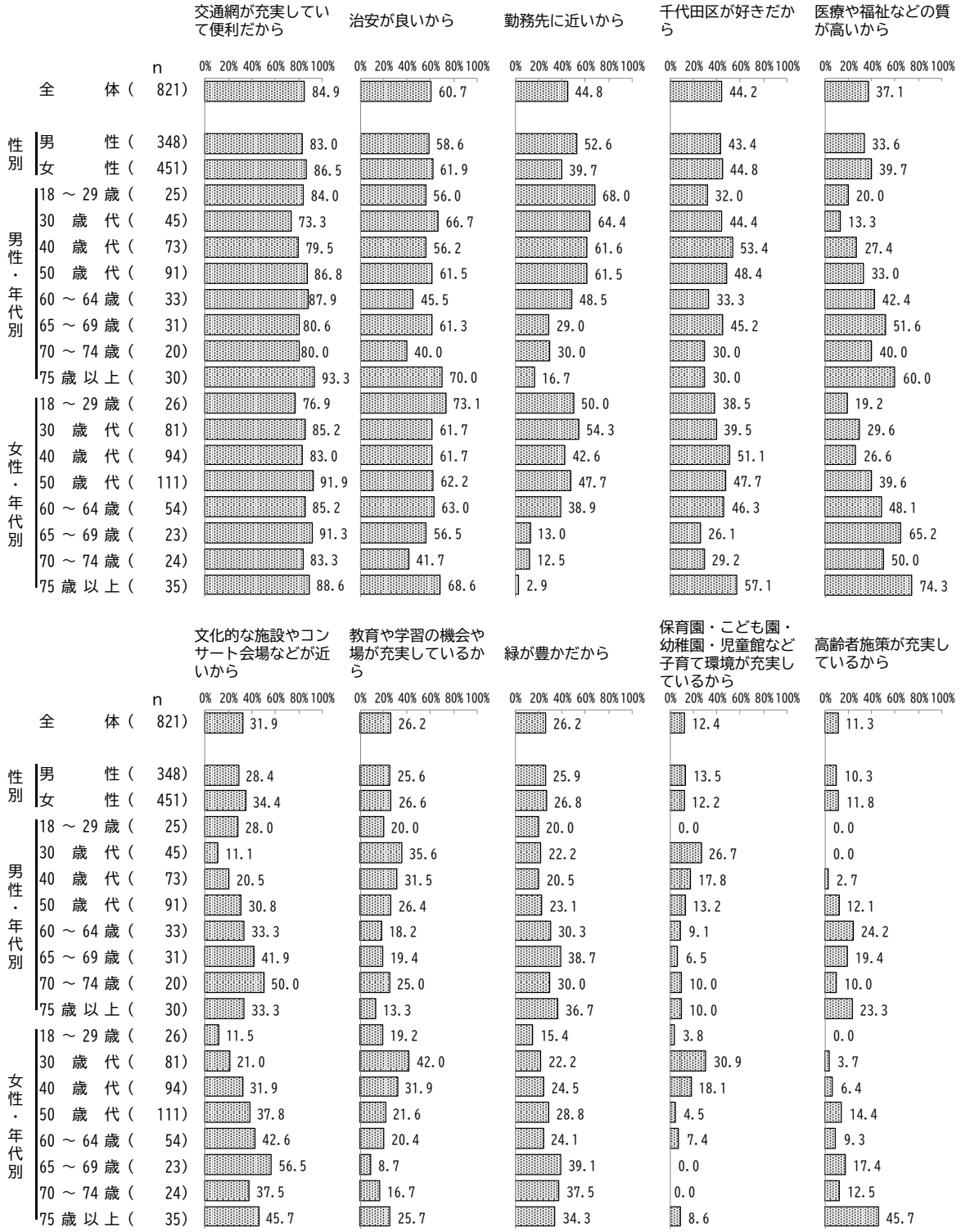


定住意向の理由について聞いたところ、「交通網が充実していて便利だから」(84.9%)が８割台半ば近くと最も高く、次いで「治安が良いから」(60.7%)が約６割、「勤務先に近いから」(44.8%)が４割台半ば近く、「千代田区が好きだから」(44.2%)が４割台半ば近く、「医療や福祉などの質が高いから」(37.1%)が３割台半ば超え、「文化的な施設やコンサート会場などが近いから」(31.9%)が３割強、「教育や学習の機会や場が充実しているから」(26.2%)、「緑が豊かだから」(26.2%)が２割台半ば超えと高くなっている。

（図１－２－６）

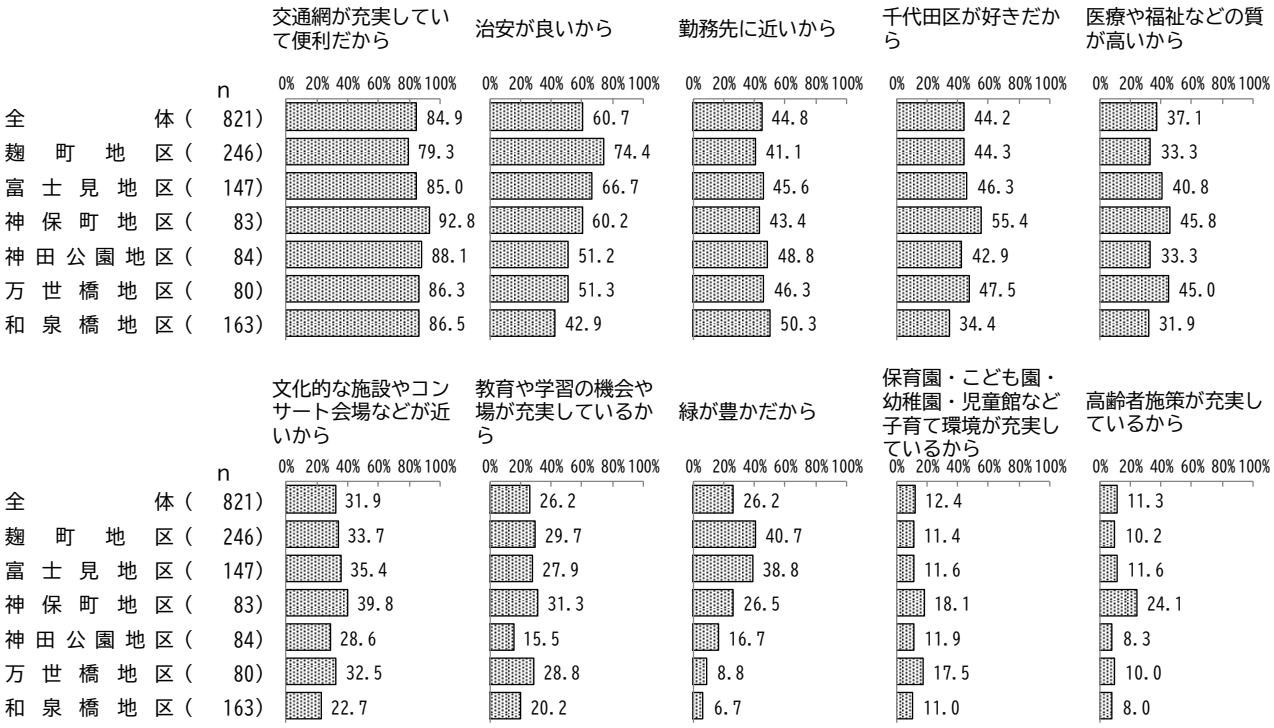
性・年代別にみると、「勤務先に近いから」は男性18～29歳(68.0%)が７割近くと最も高くなっている。「医療や福祉などの質が高いから」は女性75歳以上(74.3%)が７割台半ば近くと最も高くなっており、女性65～69歳(65.2%)が６割台半ば、男性75歳以上(60.0%)が６割と高くなっている。「高齢者施策が充実しているから」は女性75歳以上(45.7%)が４割台半ばと最も高くなっている。（図１－２－７）

図１－２－７ 定住意向の理由（性・年代別）上位10項目



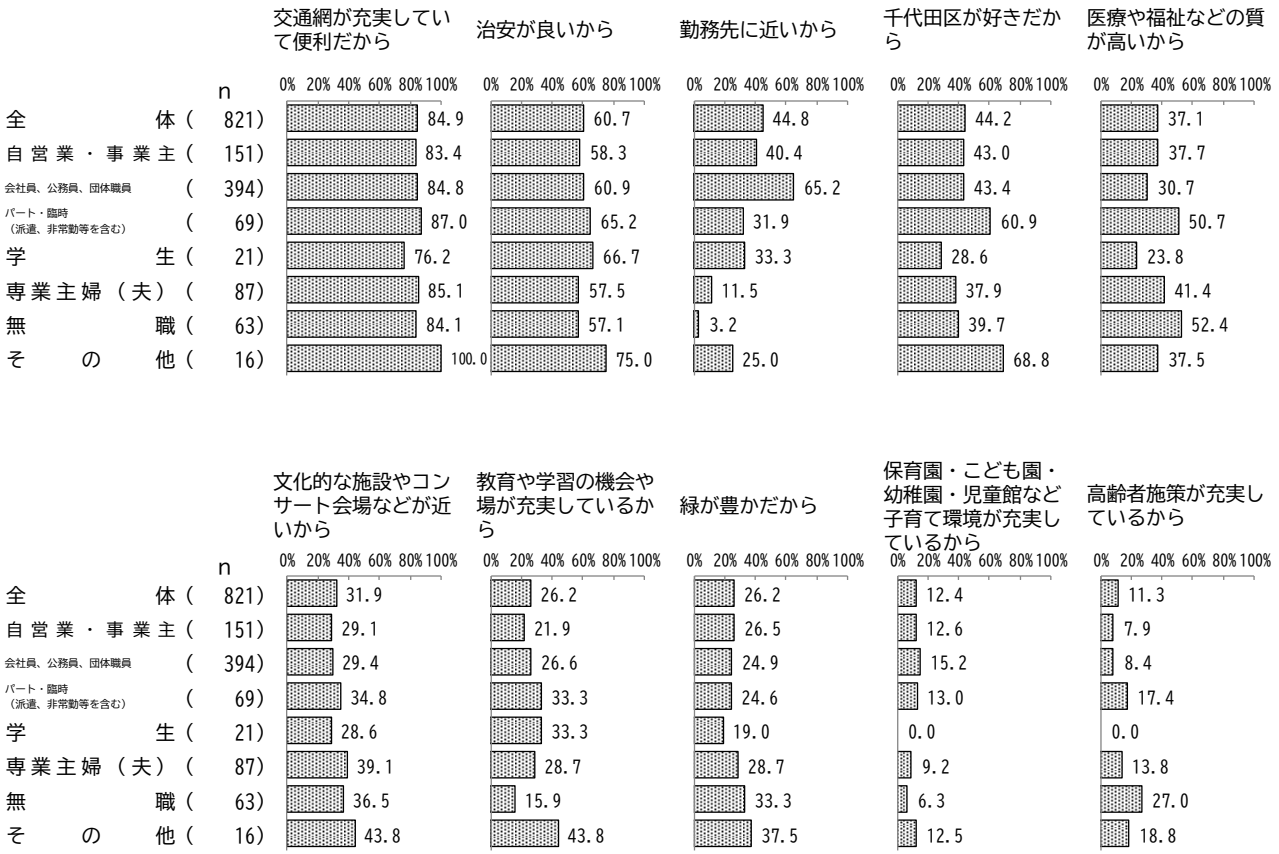
地区別にみると、「治安が良いから」は麹町地区(74.4%)が７割台半ば近くと最も高くなっている。「千代田区が好きだから」は神保町地区(55.4%)が５割台半ばと最も高くなっている。「緑が豊かだから」は麹町地区(40.7%)で約４割と最も高く、次いで富士見地区(38.8%)が４割近くと高くなっている。「高齢者施設が充実しているから」は神保町地区(24.1%)が２割台半ば近くと最も高くなっている。(図１－２－８)

図１－２－８ 定住意向の理由（地区別）上位10項目



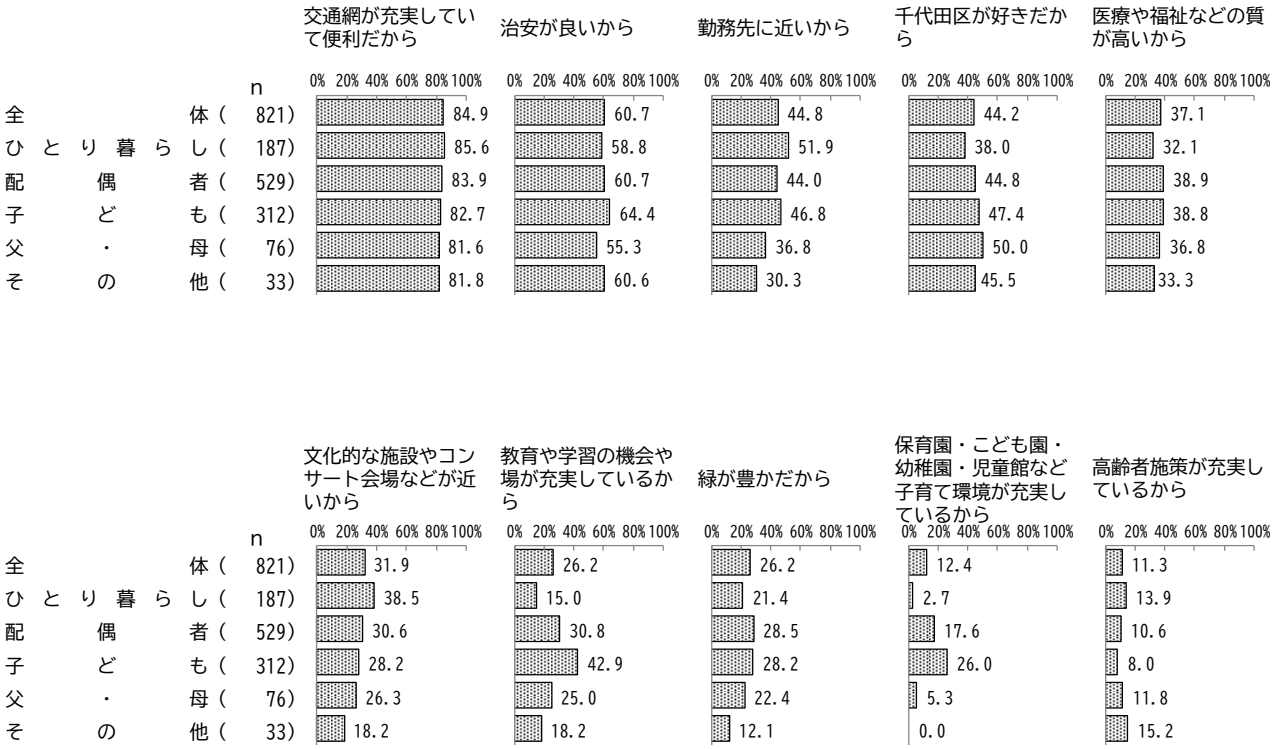
職業別にみると、「勤務先に近いから」は会社員、公務員、団体職員(65.2%)が６割台半ばと最も高くなっている。「医療や福祉などの質が高いから」は無職(52.4%)が５割強と最も高く、次いでパート・臨時（派遣、非常勤等を含む）(50.7%)で約５割と高くなっている。(図１－２－９)

図１－２－９ 定住意向の理由（職業別）上位10項目



世帯構成別にみると、「教育や学習の機会や場が充実しているから」は子どもがいる世帯(42.9%)が４割強と最も高くなっている。「保育園・こども園・幼稚園・児童館など子育て環境が充実しているから」は子どもがいる世帯(26.0%)が２割台半ば超えと最も高くなっている。(図１－２－10)

図１－２－10 定住意向の理由（世帯構成別）上位10項目



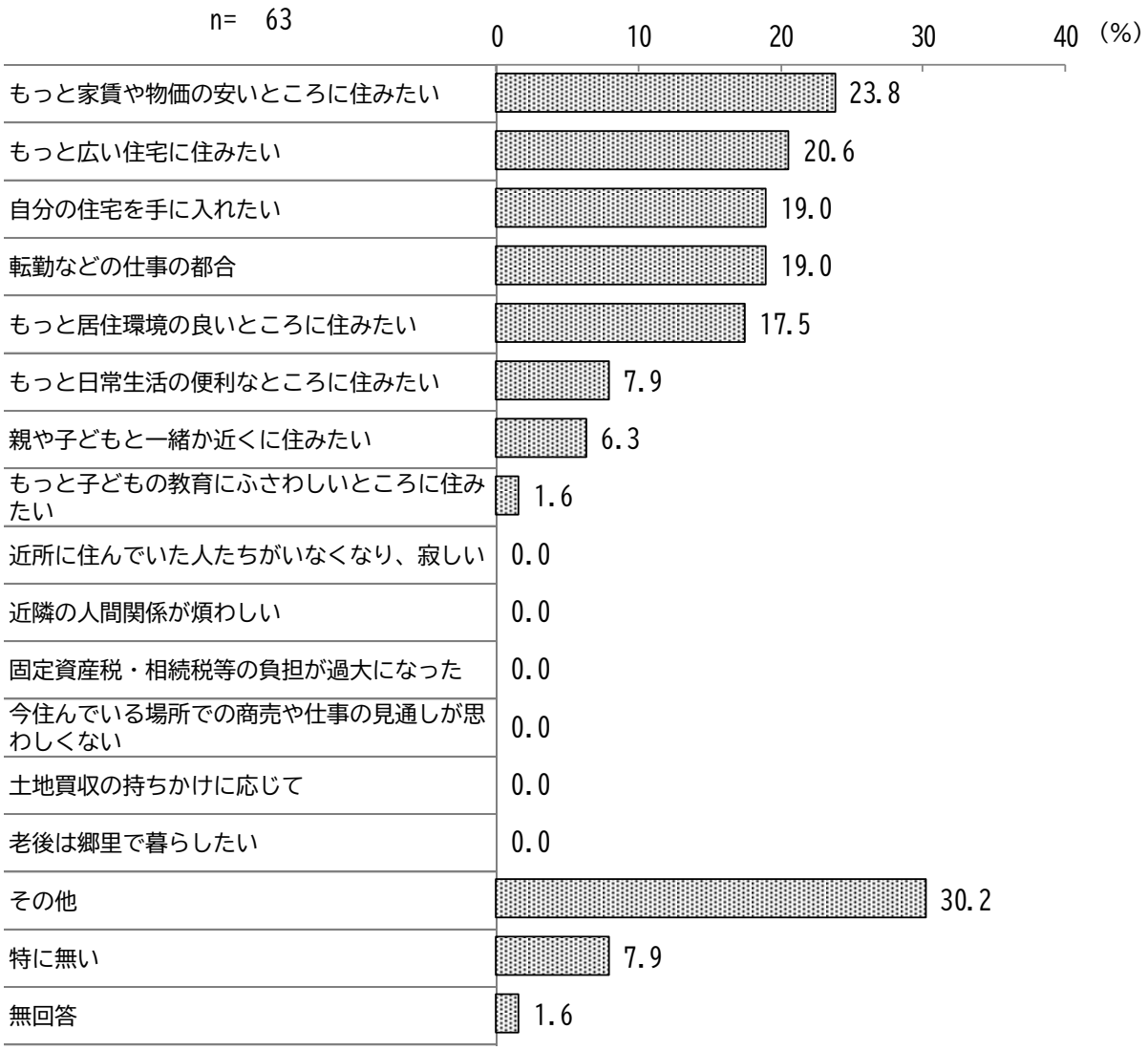
（２－２）転出意向の理由

◇「その他」が約３割

（問２で「３　近いうちに区外に転出するつもり」または「４　１年以内に区外に転出するつもり」とお答えの方に）

問２－２　あなたが、そう思う理由は何ですか。（○はいくつでも）

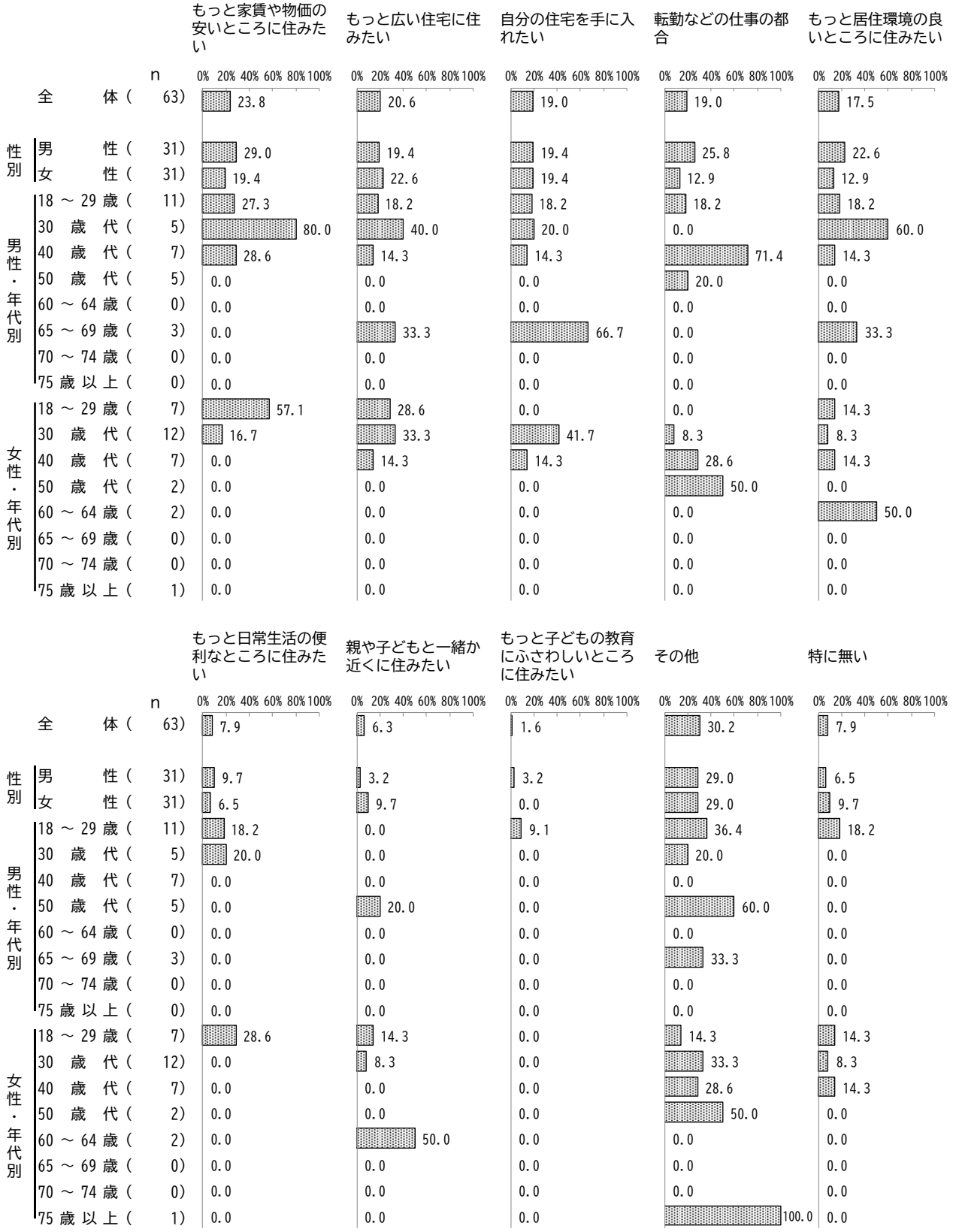
図１－２－11 転出意向の理由



転出意向の理由について聞いたところ、「もっと家賃や物価の安いところに住みたい」(23.8%)が２割台半ば近くと最も高く、次いで「もっと広い住宅に住みたい」(20.6%)が約２割と高くなっている。「その他」についての具体的な記述としては「実家から出る必要があるから」、「前から転出が決まっていた」といった意見があった。(図１－２－11)

性・年代別にみると、「自分の住宅を手に入れたい」は女性30歳代(41.7%)が４割強と高くなっている。(図１－２－12)

図１－２－12 転出意向の理由（性・年代別）



※　回答有りのもののみを掲出

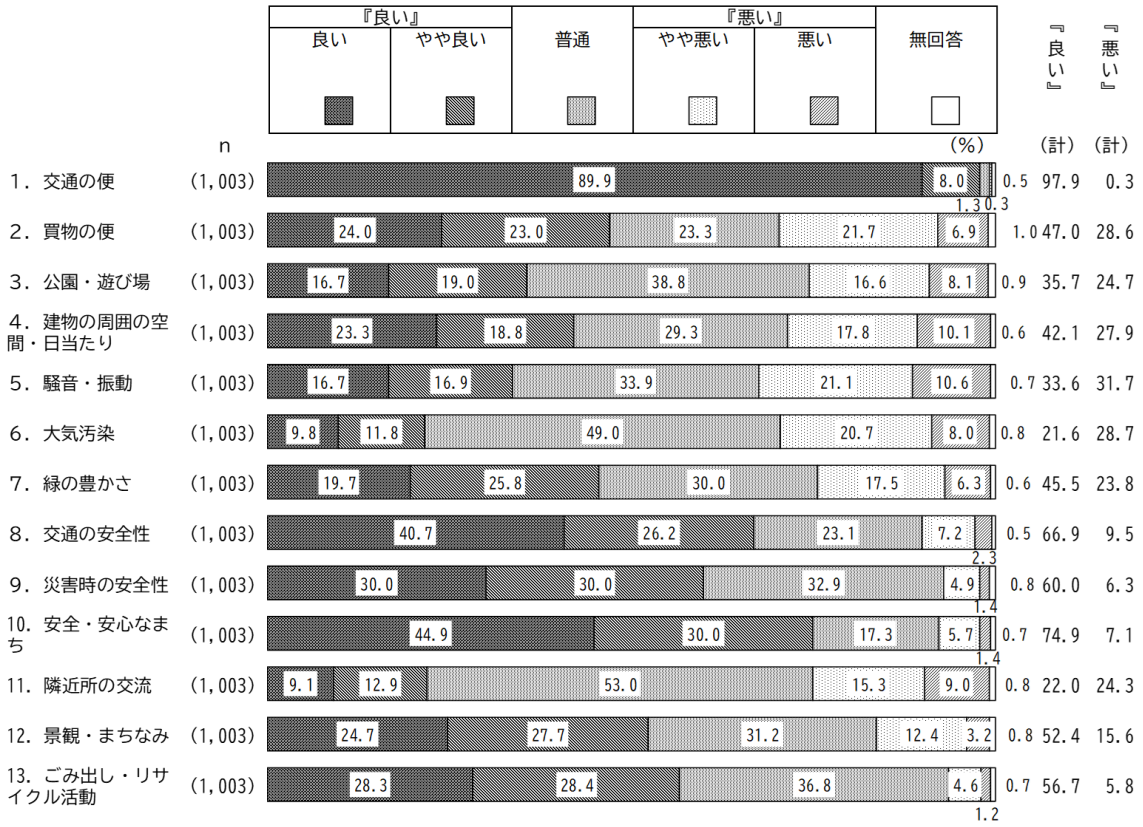
２．居住環境評価

（１）周辺の生活環境評価

◇『良い』は“交通の便”が９割台半ば超え、『悪い』は“騒音・振動”が３割強

問３　あなたは、ご自宅の周辺の生活環境についてどう思いますか。各項目ごとに５段階で評価してください。（○はそれぞれに１つ）

図２－１－１　周辺の生活環境評価



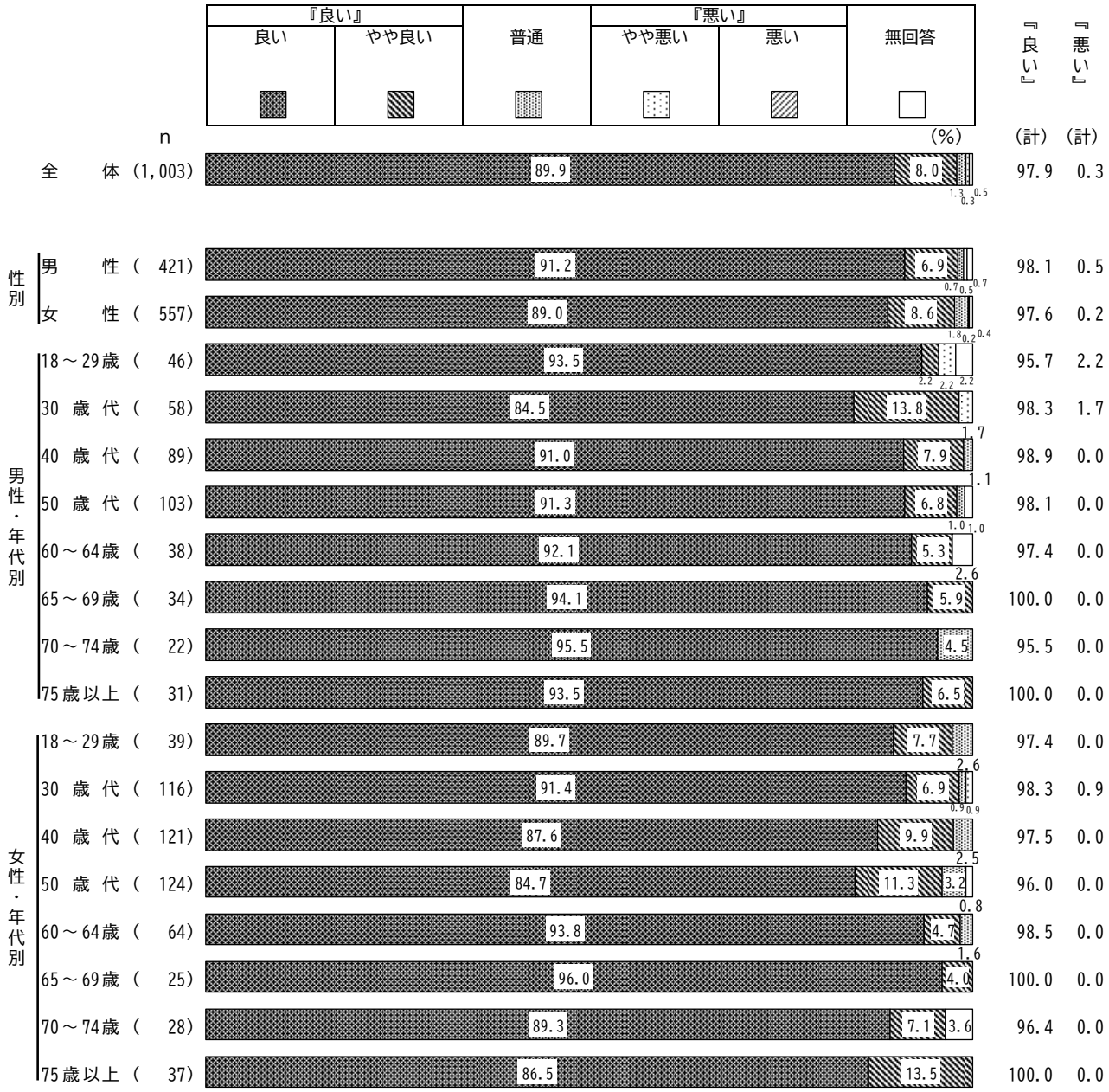
周辺の生活環境評価について聞いたところ、『良い』が最も多い項目は“交通の便”(97.9%)が９割台半ば超え、『悪い』は“騒音・振動”(31.7%)が３割強となっている。（図２－１－１）

「良い」と「やや良い」を合わせた『良い』と、「やや悪い」と「悪い」を合わせた『悪い』の上位５項目を下表に示した。

『良い』上位５項目			『悪い』上位５項目		
1	交通の便	97.9%	1	騒音・振動	31.7%
2	安全・安心なまち	74.9%	2	大気汚染	28.7%
3	交通の安全性	66.9%	3	買物の便	28.6%
4	災害時の安全性	60.0%	4	建物の周囲の空間・日当たり	27.9%
5	ごみ出し・リサイクル活動	56.7%	5	公園・遊び場	24.7%

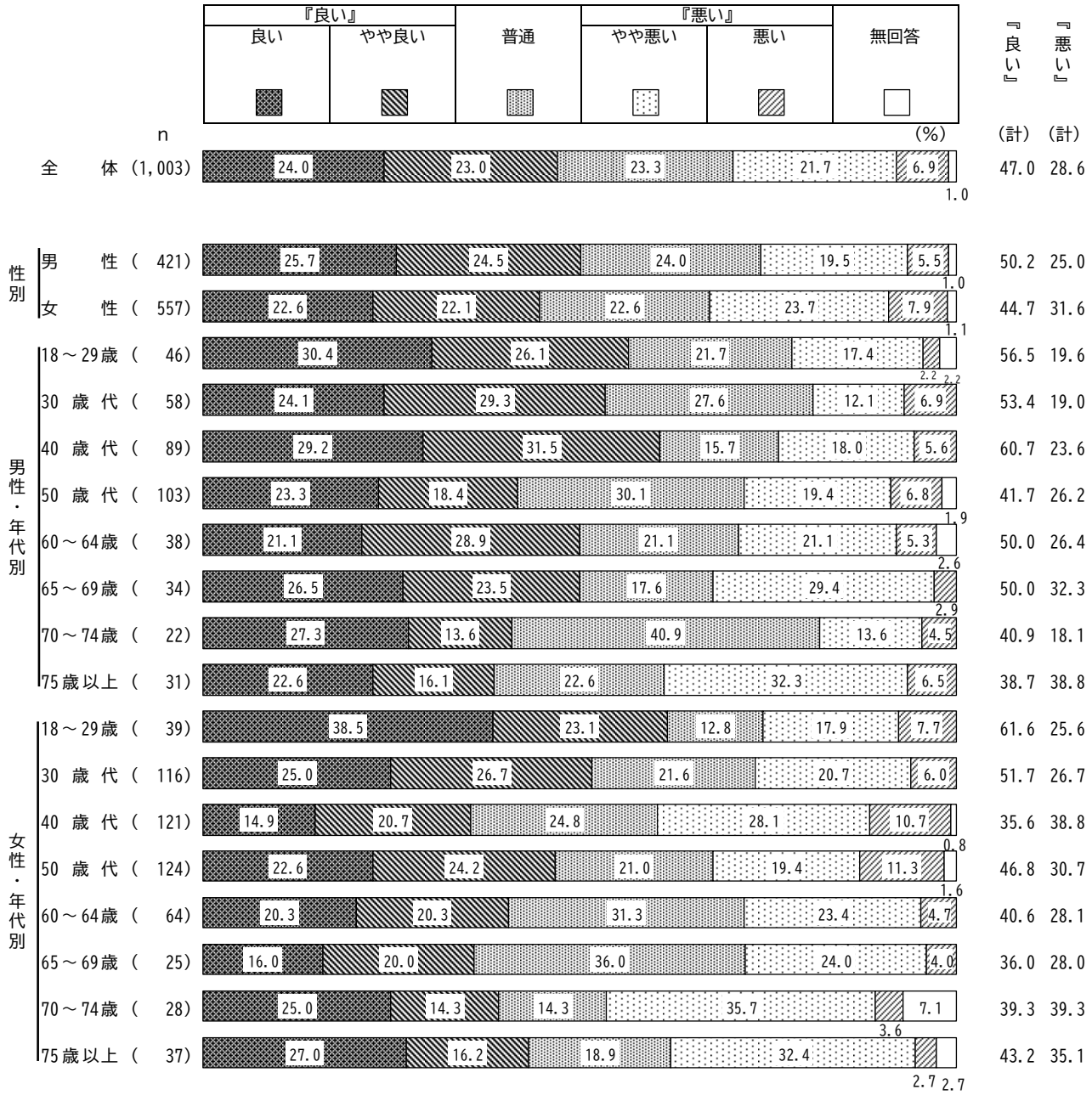
“交通の便”について性・年代別にみると、『良い』は男性・女性ともに65～69歳、75歳以上(100.0%)と最も高くなっている。(図２－１－２)

図２－１－２ 周辺の生活環境評価 交通の便（性・年代別）



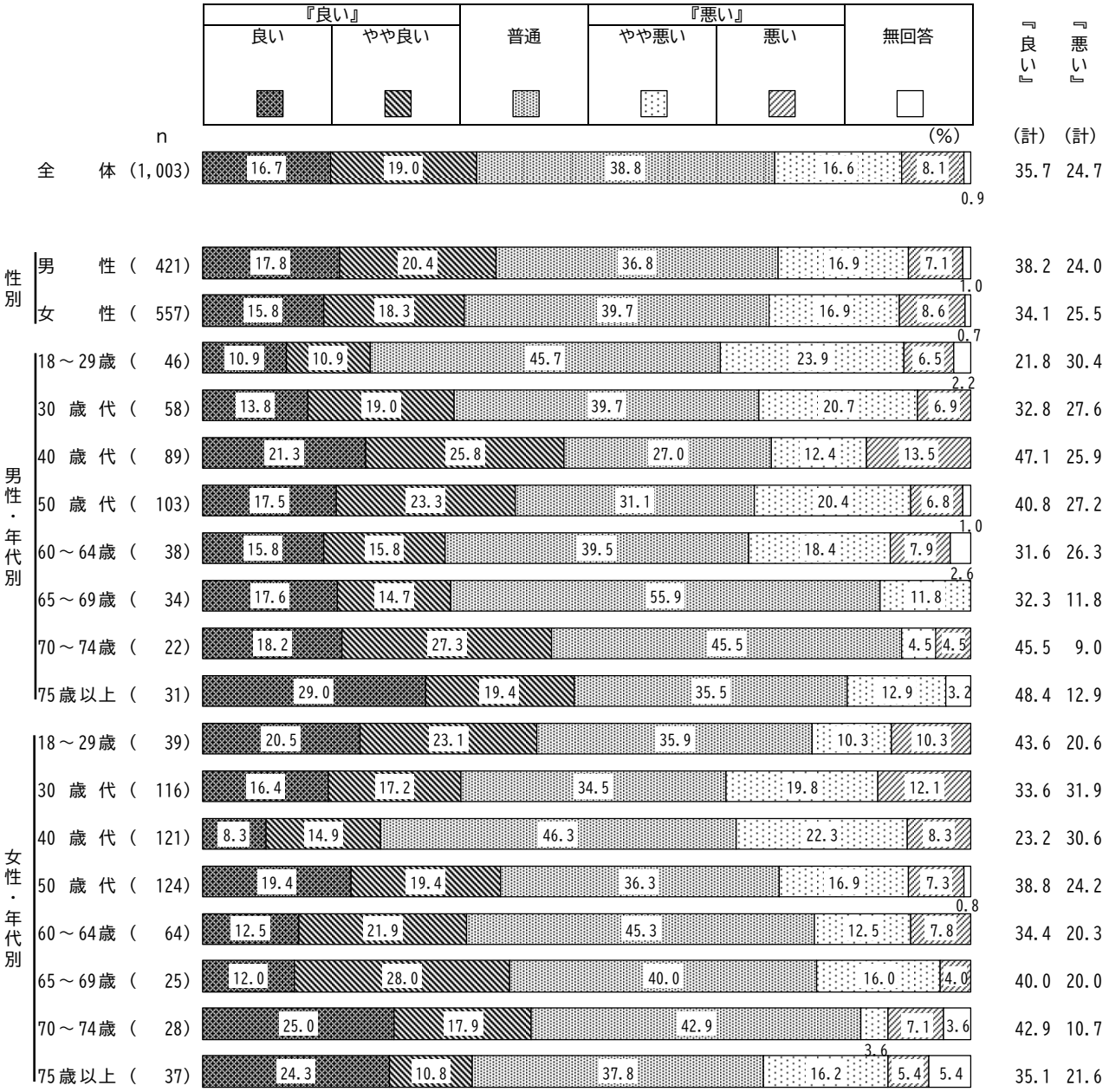
“買物の便”について性・年代別にみると、『良い』は女性18～29歳(61.6%)が６割強と最も高く、次いで男性40歳代(60.7%)が約６割と高くなっている。一方で、『悪い』は女性70～74歳(39.3%)が４割弱と最も高く、男性75歳以上(38.8%)、女性40歳代(38.8%)が４割近くと高くなっている。(図２－１－３)

図２－１－３ 周辺の生活環境評価 買物の便（性・年代別）



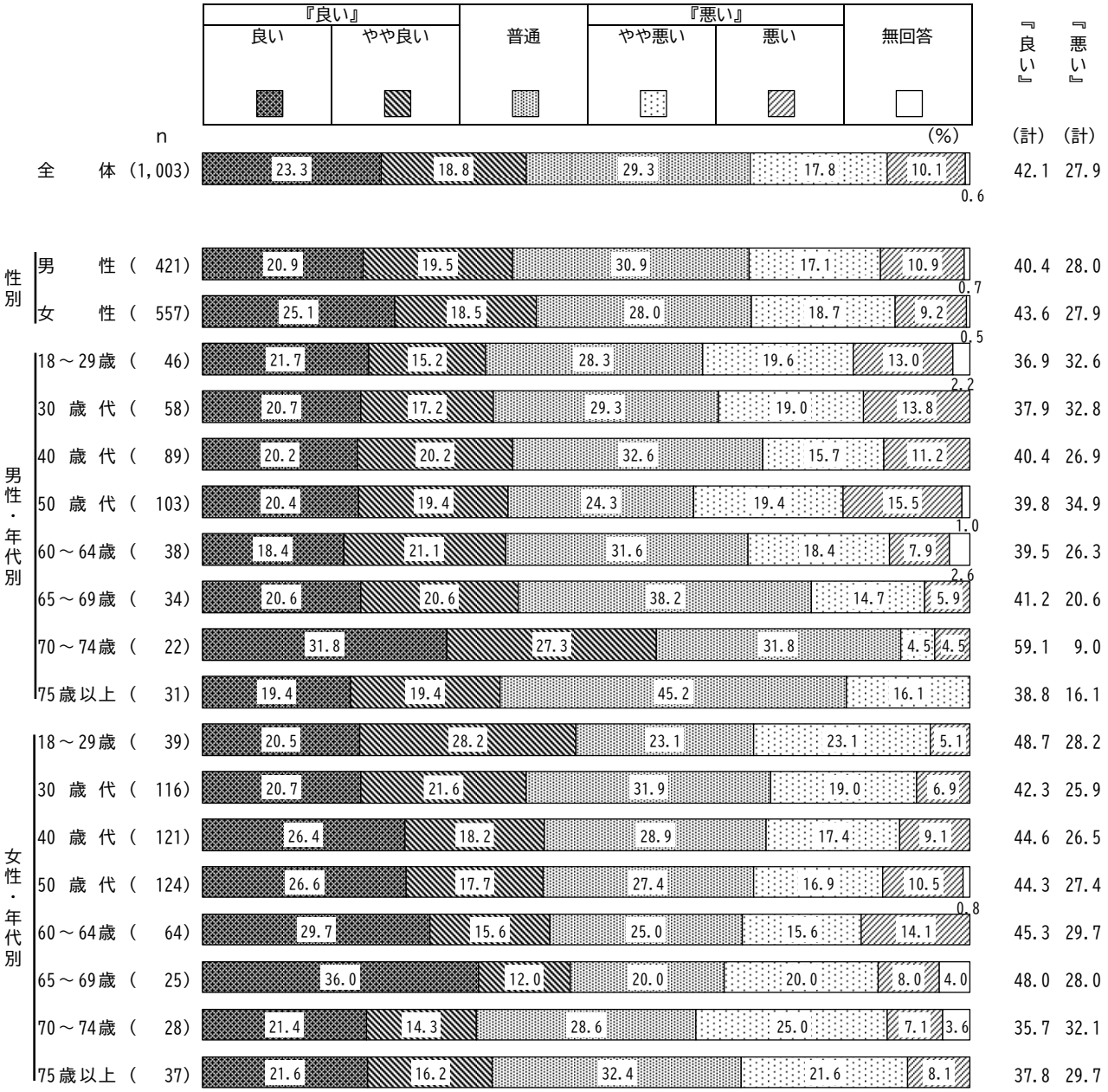
“公園・遊び場”について性・年代別にみると、『良い』は男性75歳以上(48.4%)が５割近くと最も高く、次いで男性40歳代(47.1%)が４割台半ば超えと高くなっている。一方で、『悪い』は女性30歳代(31.9%)が３割強と最も高くなっている。(図２－１－４)

図２－１－４ 周辺の生活環境評価 公園・遊び場（性・年代別）



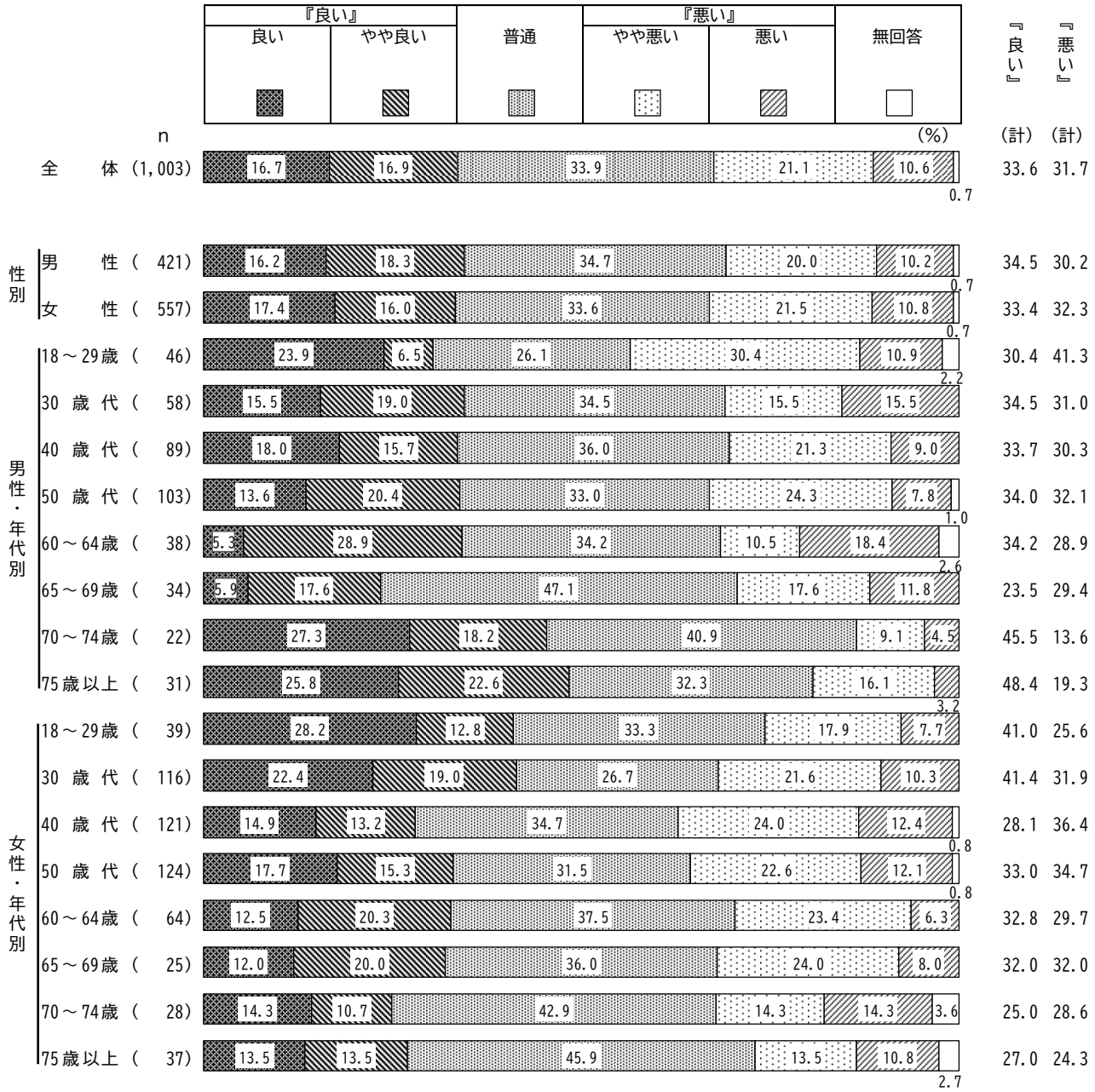
“建物の周囲の空間・日当たり”について性・年代別にみると、『良い』は女性18～29歳（48.7%)が５割近くと高くなっている。一方で、『悪い』は男性50歳代(34.9%)が３割台半ば近くと最も高くなっている。(図２－１－５）

図２－１－５ 周辺の生活環境評価　建物の周囲の空間・日当たり（性・年代別）



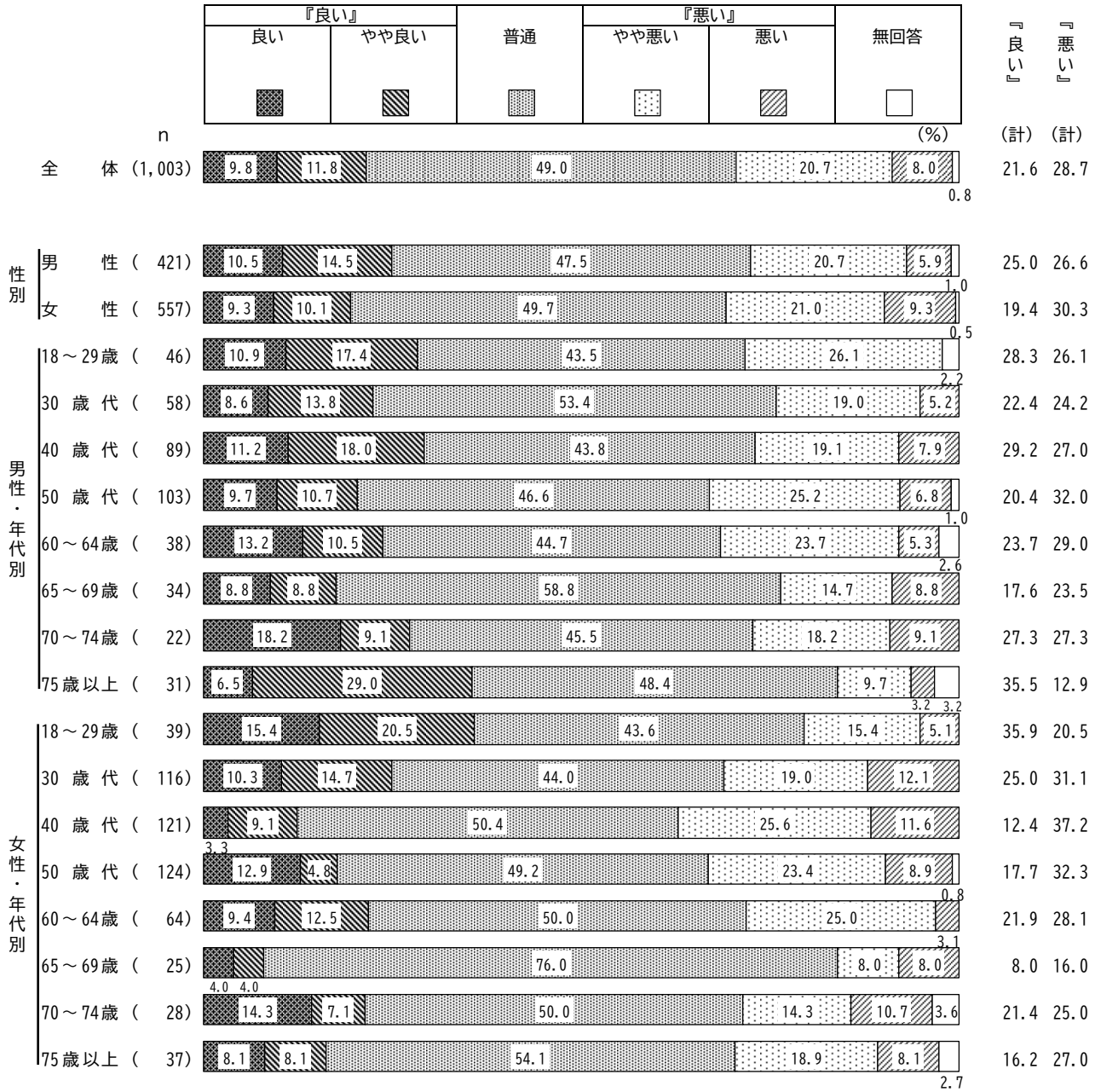
“騒音・振動”について性・年代別にみると、『良い』は男性75歳以上(48.4%)が５割近くと最も高くなっている。一方で、『悪い』は男性18～29歳(41.3%)が４割強と最も高くなっている。(図２－１－６)

図２－１－６ 周辺の生活環境評価 騒音・振動（性・年代別）



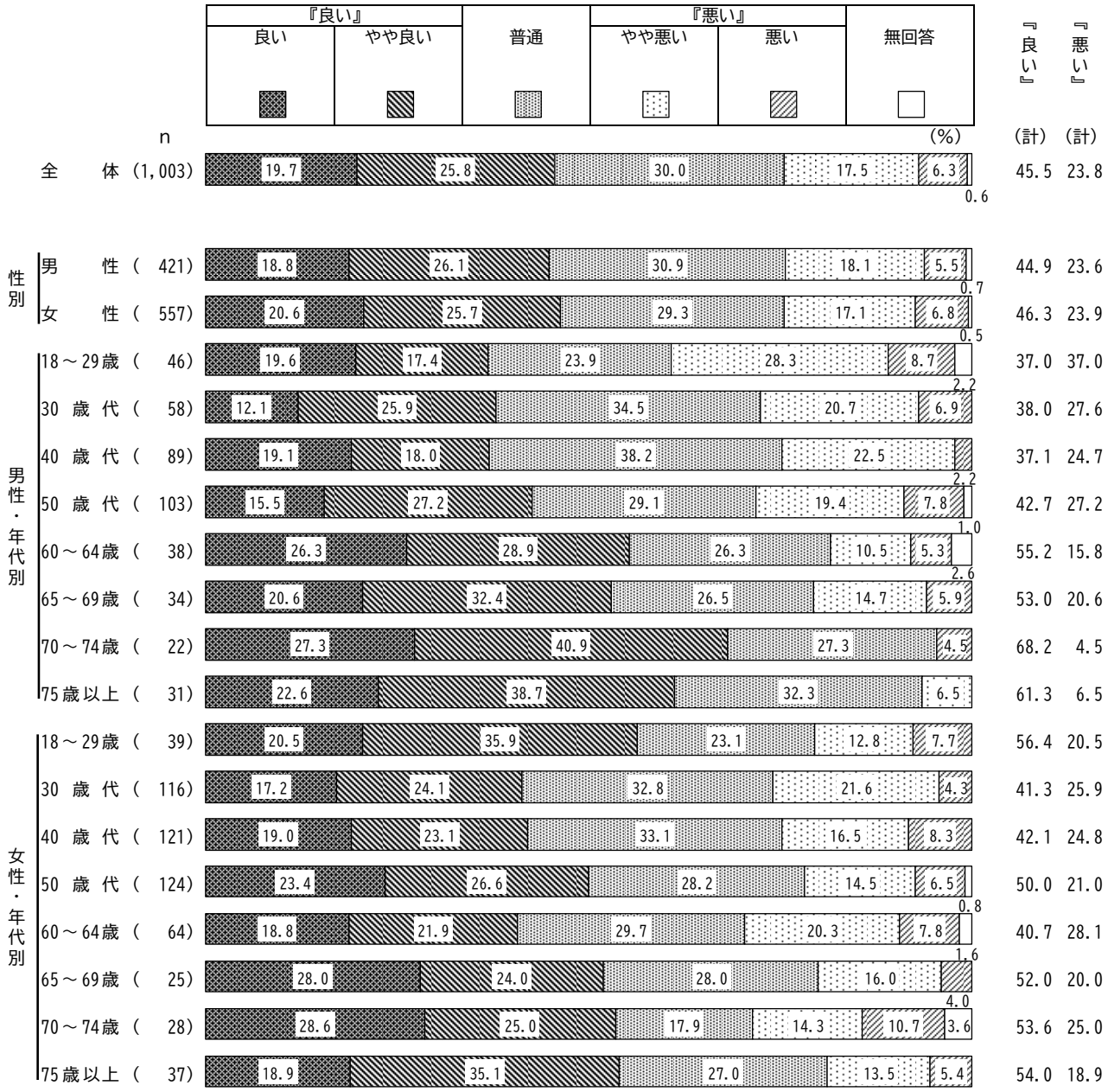
“大気汚染”について性・年代別にみると、「普通」は女性65～69歳(76.0%)が７割台半ば超えと最も高くなっている。一方で、『悪い』は女性40歳代(37.2%)が３割台半ば超えと最も高くなっている。(図２－１－７)

図２－１－７ 周辺の生活環境評価 大気汚染（性・年代別）



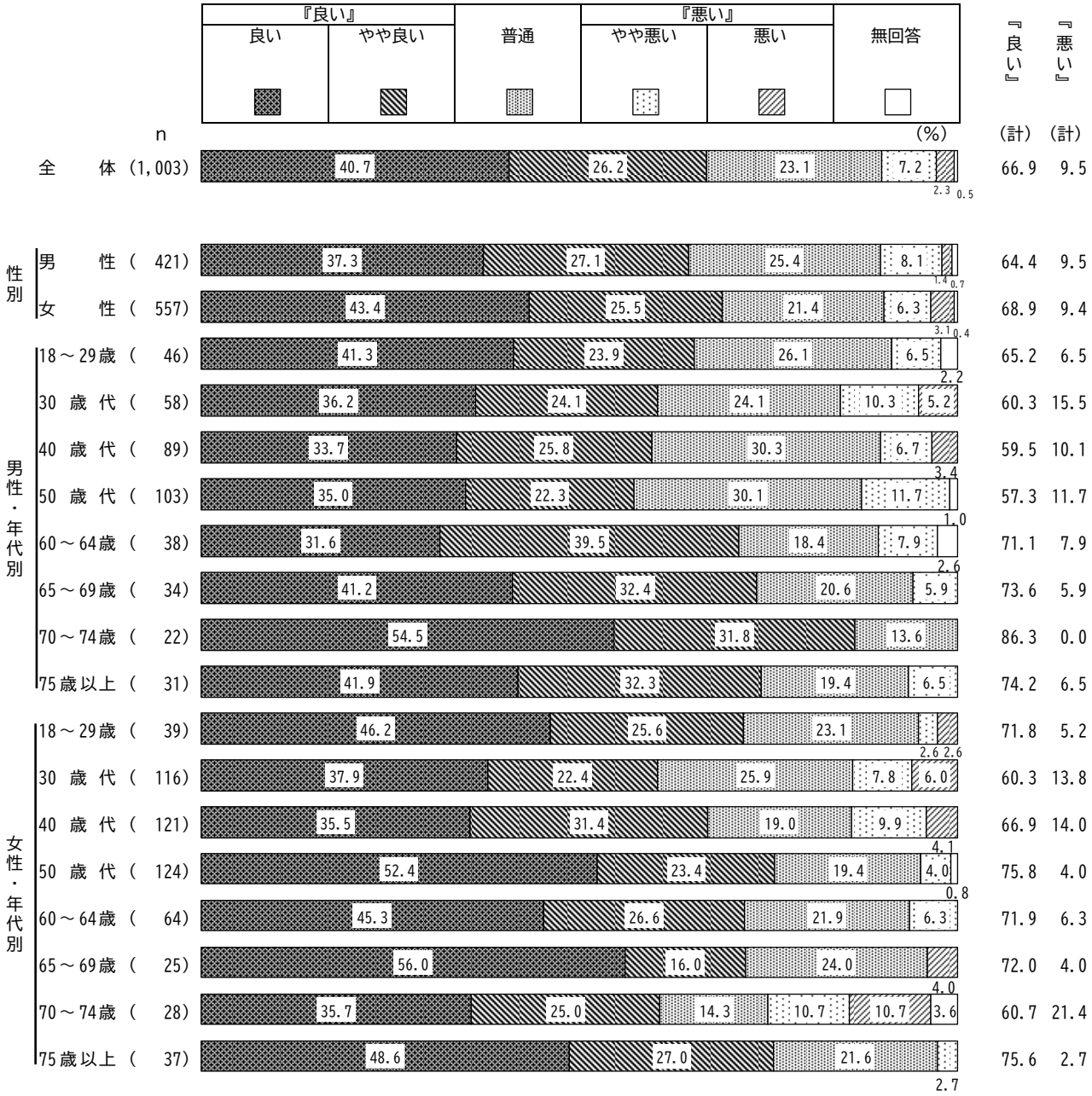
“緑の豊かさ”について性・年代別にみると、『良い』は男性70～74歳(68.2%)が７割近くと最も高くなっている。(図２－１－８)

図２－１－８ 周辺の生活環境評価 緑の豊かさ（性・年代別）



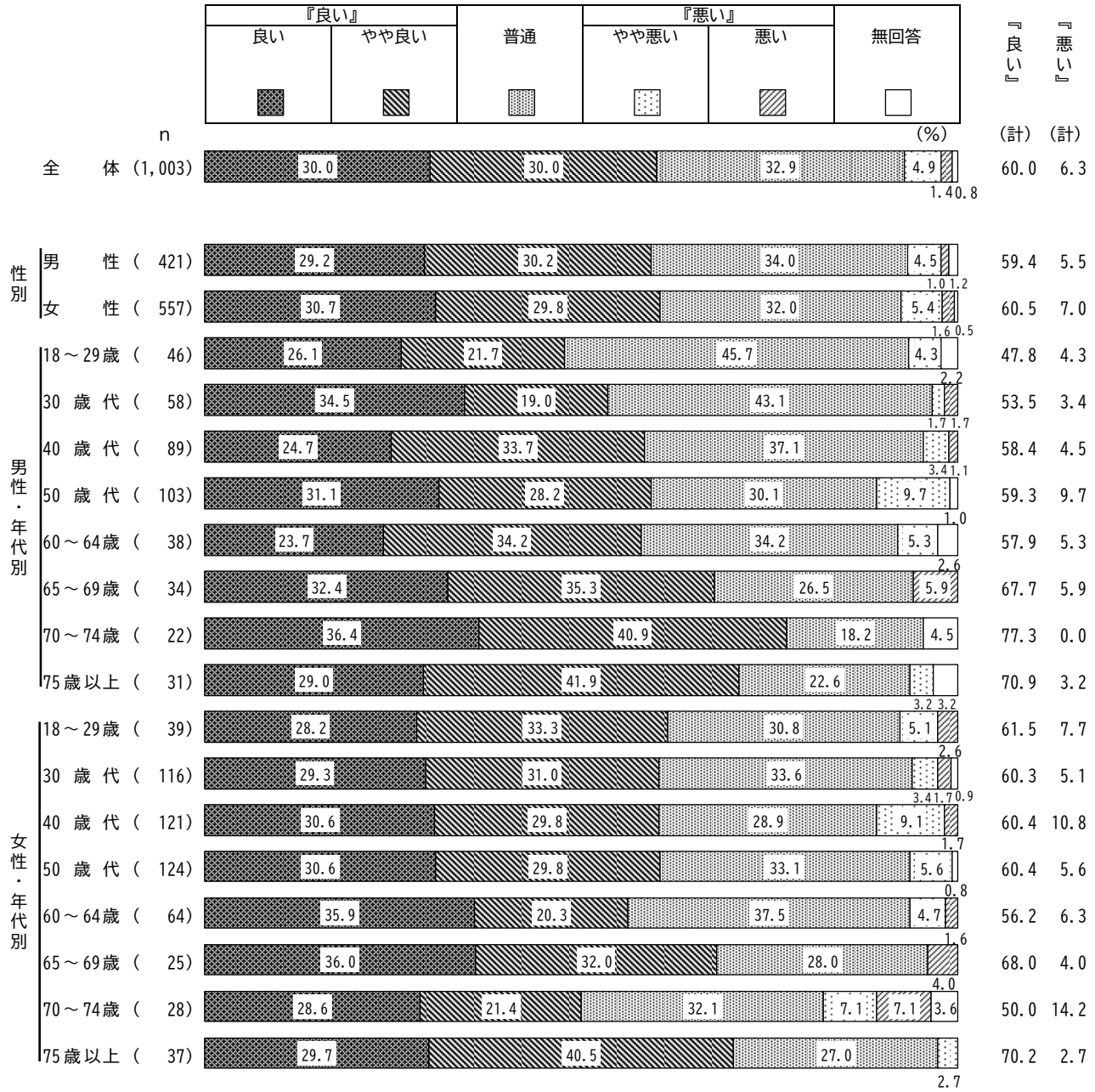
“交通の安全性”について性・年代別にみると、『良い』は男性70～74歳(86.3%)が８割台半ば超えと最も高くなっている。(図２－１－９)

図２－１－９ 周辺の生活環境評価 交通の安全性（性・年代別）



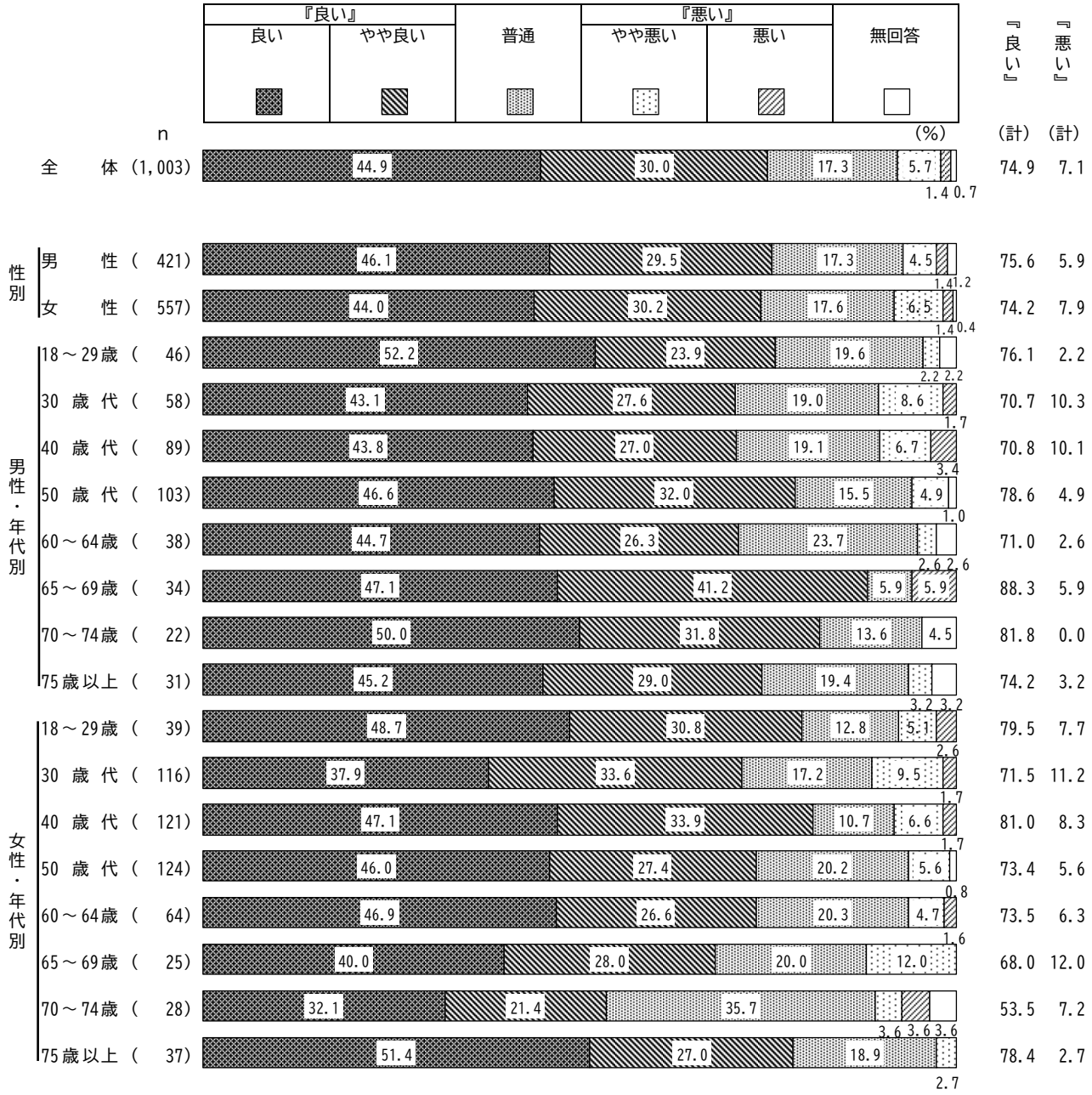
“災害時の安全性”について性・年代別にみると、『良い』は男性75歳以上(70.9%)、女性75歳以上(70.2%)が約７割と高くなっている。(図２－１－10)

図２－１－10 周辺の生活環境評価 災害時の安全性（性・年代別）



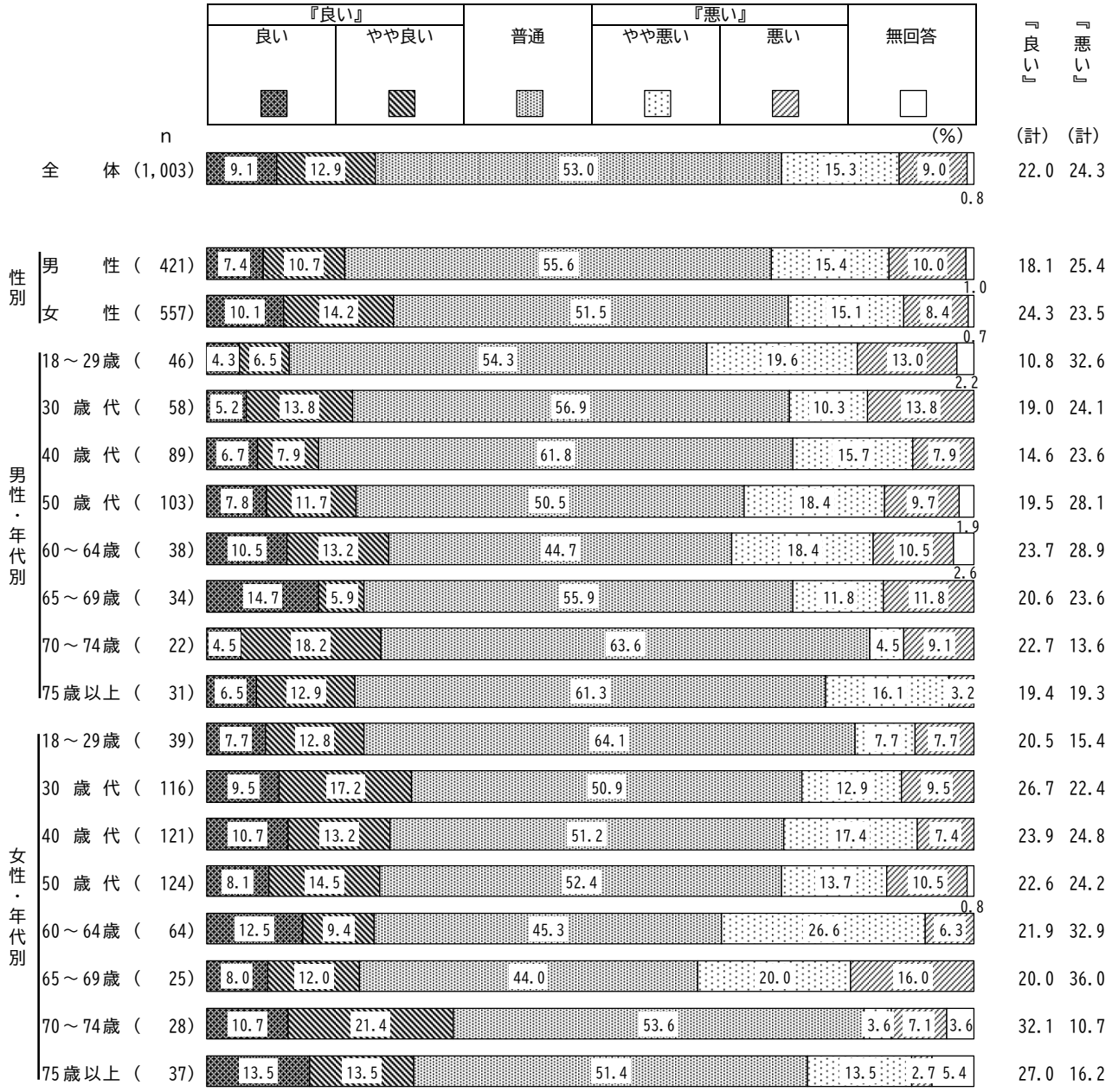
“安全・安心なまち”について性・年代別にみると、『良い』は男性65～69歳(88.3%)が９割近くと高くなっている。(図２－１－11)

図２－１－11 周辺の生活環境評価 安全・安心なまち（性・年代別）



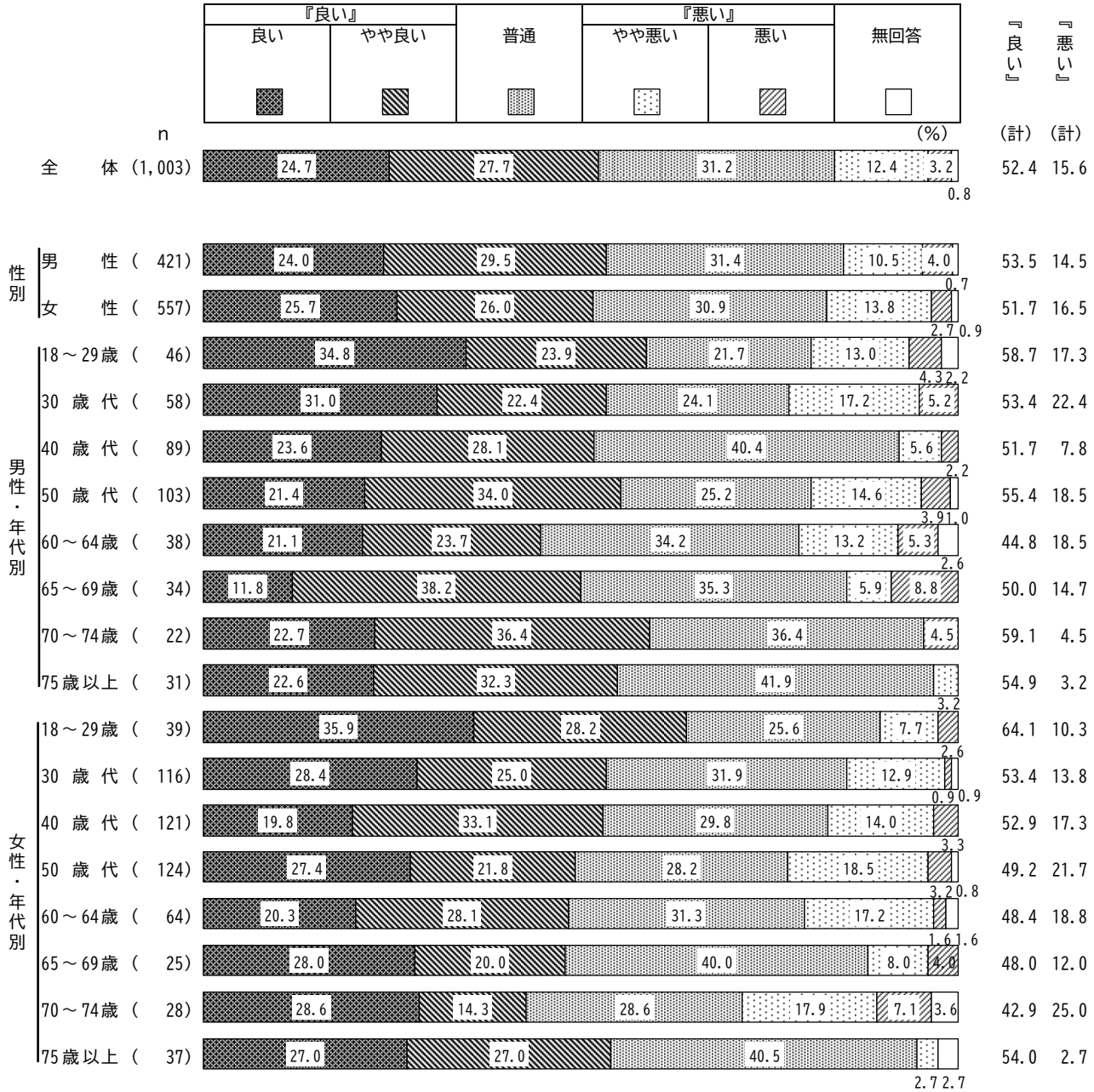
“隣近所の交流”について性・年代別にみると、『良い』は女性70～74歳(32.1%)が３割強と最も高くなっている。一方で、『悪い』は女性65～69歳(36.0%)が３割台半ば超えと最も高くなっている。(図２－１－12)

図２－１－12 周辺の生活環境評価 隣近所の交流（性・年代別）



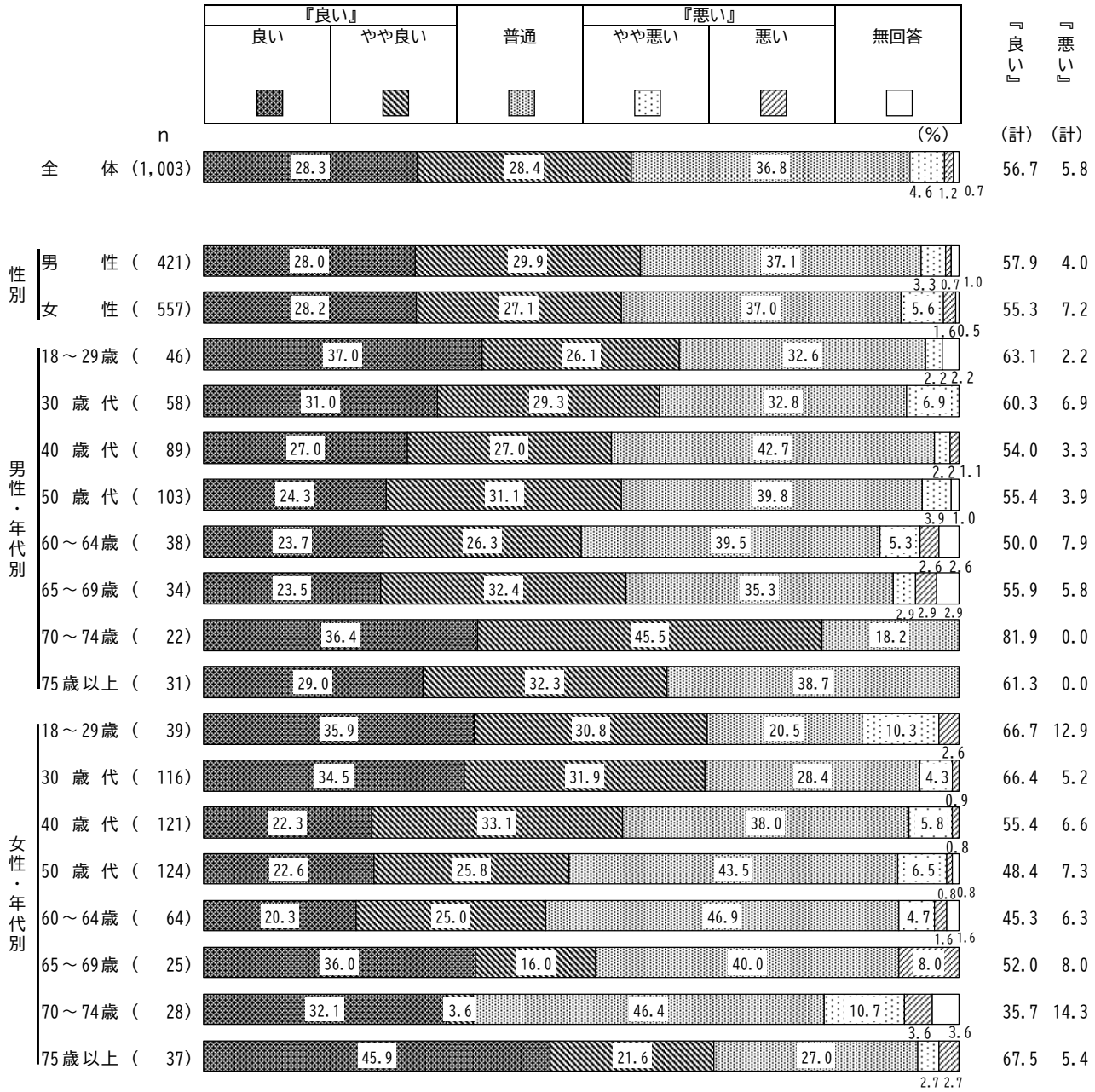
“景観・まちなみ”について性・年代別にみると、『良い』は女性18～29歳(64.1%)が６割台半ば近くと最も高くなっている。(図２－１－13)

図２－１－13 周辺の生活環境評価 景観・まちなみ（性・年代別）



“ごみ出し・リサイクル活動”について性・年代別にみると、『良い』は男性70～74歳(81.9%)が８割強と最も高くなっている。(図２－１－14)

図２－１－14 周辺の生活環境評価 ごみ出し・リサイクル活動（性・年代別）



◇加重平均値

満足度を比率でみるのとは別に、比較をより明確にするため、加重平均による数量化を行った。下記の計算式のように、５段階の各評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出した。「普通」については０点として扱った。

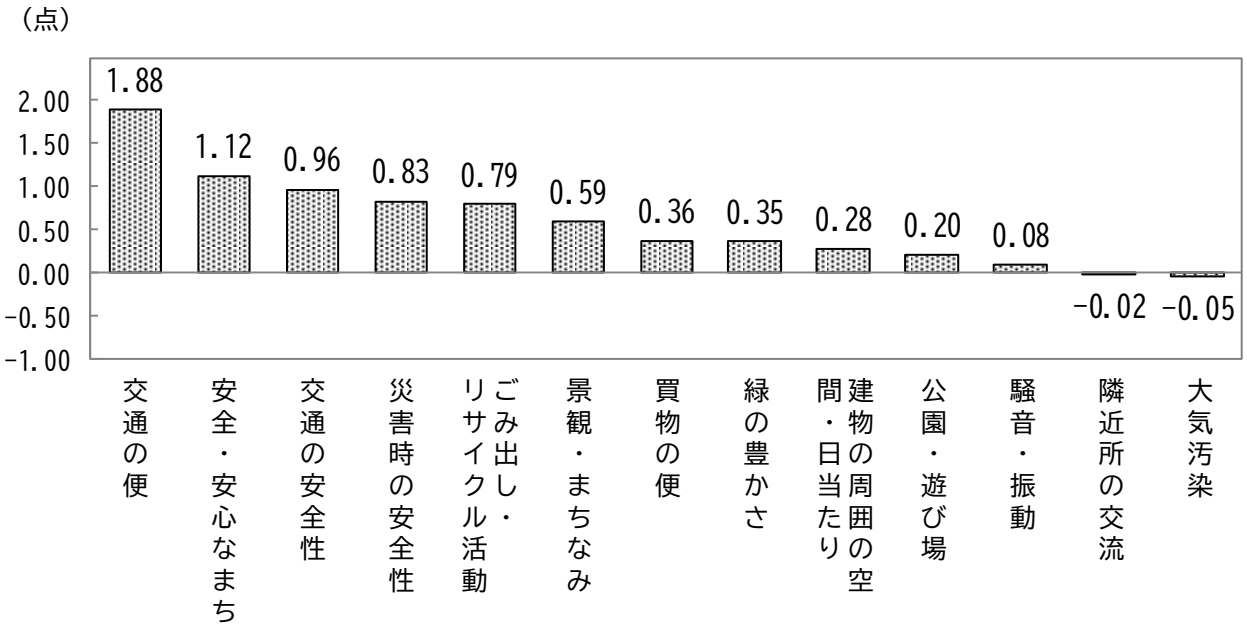
$$\textbf{評価点} = \frac{\text{「良い」の回答者数×２点＋「やや良い」の回答者数×１点＋「やや悪い」の回答者数×－１点＋「悪い」の回答者数×－２点}}{\text{回答者数}}$$

注）回答者数は、無回答を除く。

この算出方法では、評価点はプラス２点からマイナス２点の間に分布し、中点の０点を境に、プラスの値が大きいほど満足度が高くなり、マイナスの値が大きいほど不満度が高くなる。

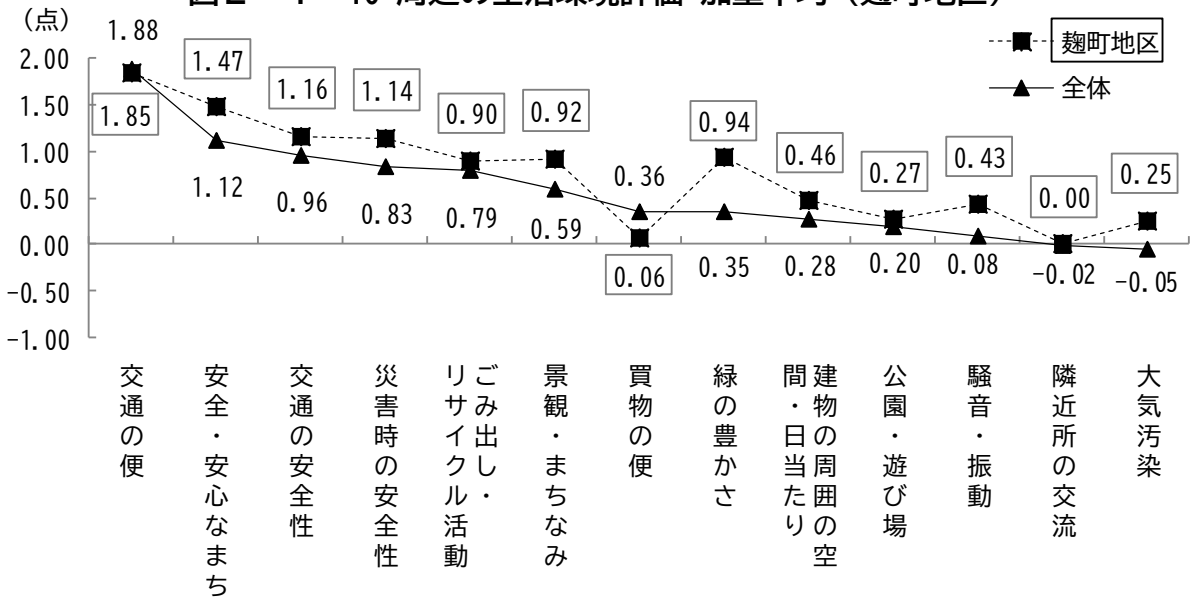
結果をみると、最もプラス評価が高いのは“交通の便”(1.88)で、際立って高くなっている。その他に満足度がプラス評価になっているのは、“安全・安心なまち”(1.12)、“交通の安全性”(0.96)、“災害時の安全性”(0.83)、“ごみ出し・リサイクル活動”(0.79)、“景観・まちなみ”(0.59)、“買物の便”(0.36)、“緑の豊かさ”(0.35)、“建物の周囲の空間・日当たり”(0.28)、“公園・遊び場”(0.20)、“騒音・振動”(0.08)の計11項目である。一方で、マイナス評価となったのは“大気汚染”(-0.05)と“隣近所の交流”(-0.02)の２項目となっている。(図２－１－15)

図２－１－15 周辺の生活環境評価 加重平均



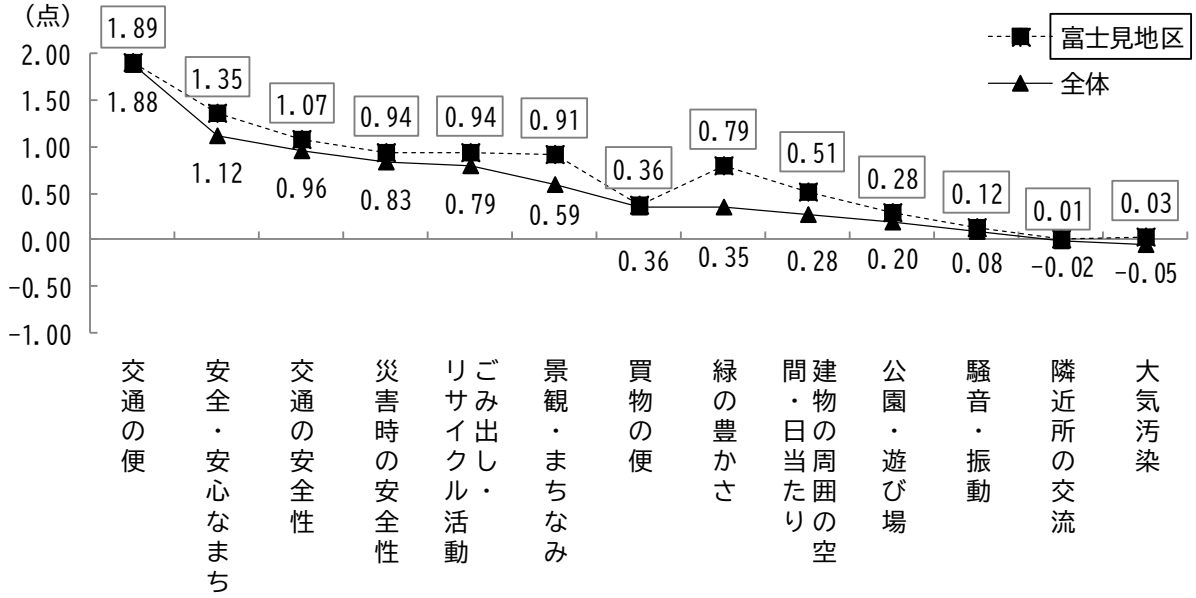
麹町地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は11項目となっており、特に“緑の豊かさ”(0.59点差)、“騒音・振動”(0.35点差)、“安全・安心なまち”(0.35点差)、“景観・まちなみ”(0.33点差)、“災害時の安全性”(0.31点差)、“大気汚染”(0.30点差)、が高くなっている。一方で、全体よりも低い項目は“買物の便”(-0.30点差)、“交通の便”(-0.03点差)の２項目となっている。(図２－１－16)

図２－１－16 周辺の生活環境評価 加重平均（麹町地区）



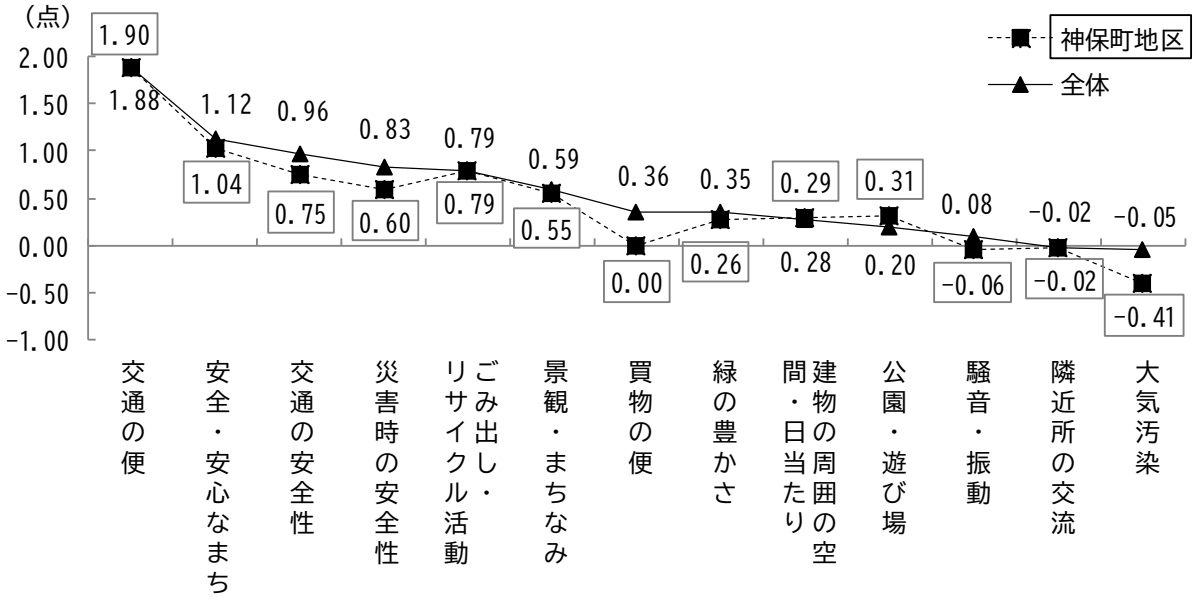
富士見地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は12項目となっており、特に“緑の豊かさ”(0.44点差)、“景観・まちなみ”(0.32点差)が高くなっている。また、“買い物の便”(0.36)は全体と評価が同等となっている。一方で、全体よりも低い項目は０項目となっている。(図２－１－17)

図２－１－17 周辺の生活環境評価 加重平均（富士見地区）



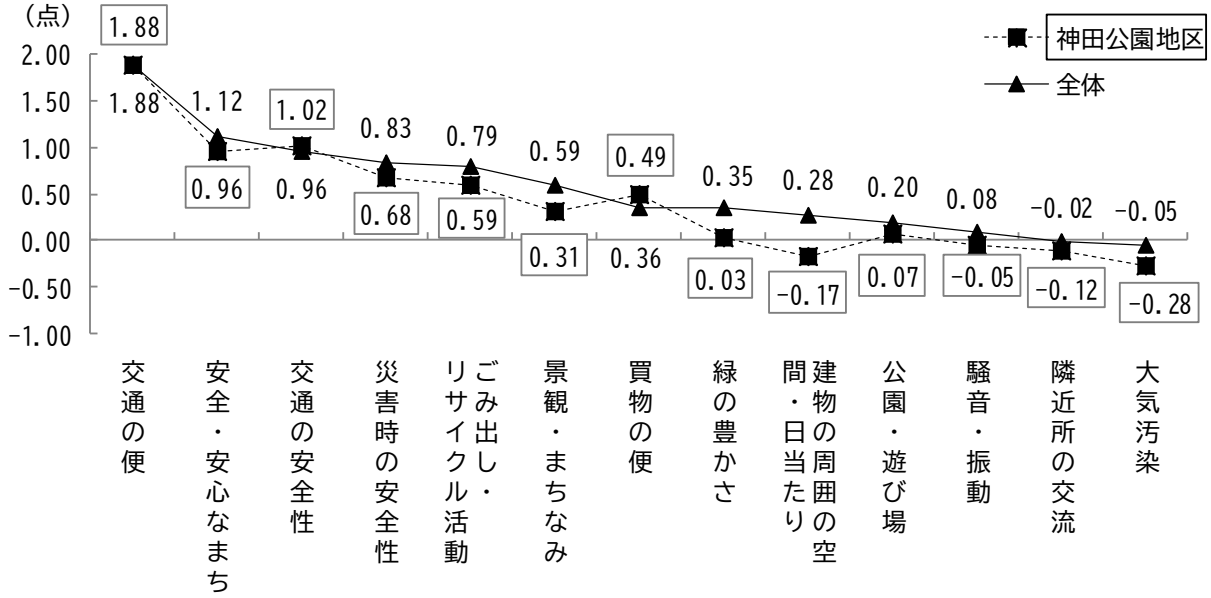
神保町地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は３項目となっている。また、“ごみ出し・リサイクル活動”(0.79)、“隣近所の交流”(-0.02)は全体と評価が同等となっている。一方で、全体よりも低い項目は“買物の便”(-0.36点差)、“大気汚染”(-0.36点差)、“災害時の安全性”(-0.23点差)、“交通の安全性”(-0.21点差)、“騒音・振動”(-0.14点差)、“緑の豊かさ”(-0.09点差)、“安全・安心なまち”(-0.08点差)、“景観・まちなみ”(-0.04点差)の８項目となっている。(図２－１－18)

図２－１－18 周辺の生活環境評価 加重平均（神保町地区）



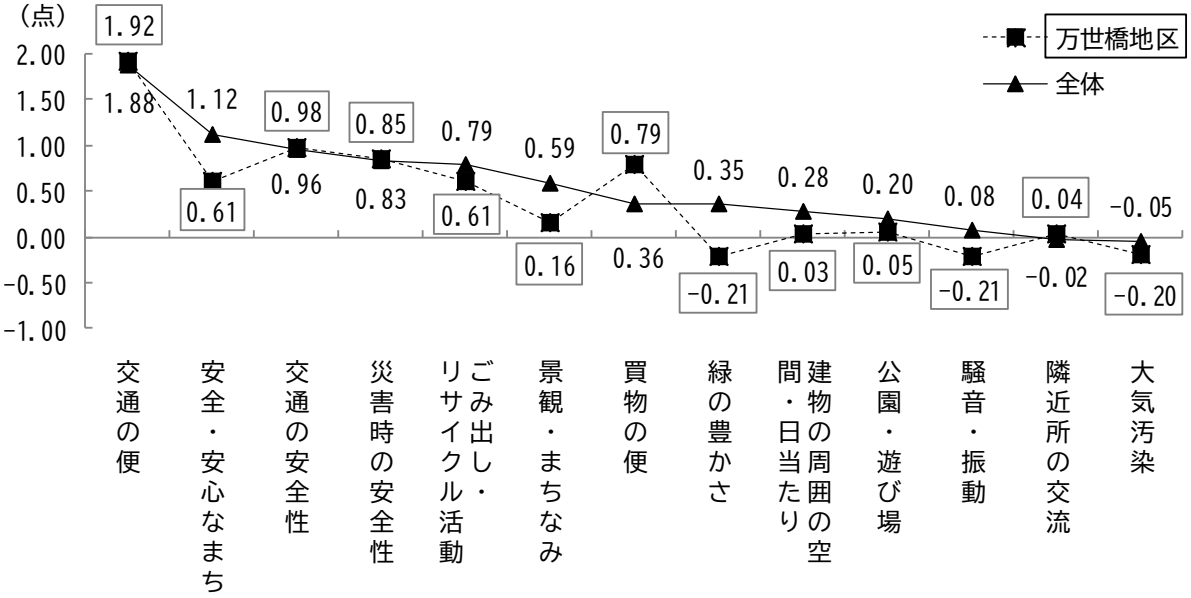
神田公園地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は２項目となっている。また、“交通の便”(1.88)は全体と評価が同等となっている。一方で、全体よりも低い項目は“建物の周囲の空間・日当たり”(-0.45点差)、“緑の豊かさ”(-0.32点差)、“景観・まちなみ”(-0.28点差)、“大気汚染”(-0.23点差)、“ごみ出し・リサイクル活動”(-0.20点差)、“安全・安心なまち”(-0.16点差)、“災害時の安全性”(-0.15点差)、“騒音・振動”(-0.13点差)、“公園・遊び場”(-0.13点差)、“隣近所の交流”(-0.10点差)の10項目となっている。(図２－１－19)

図２－１－19 周辺の生活環境評価 加重平均（神田公園地区）



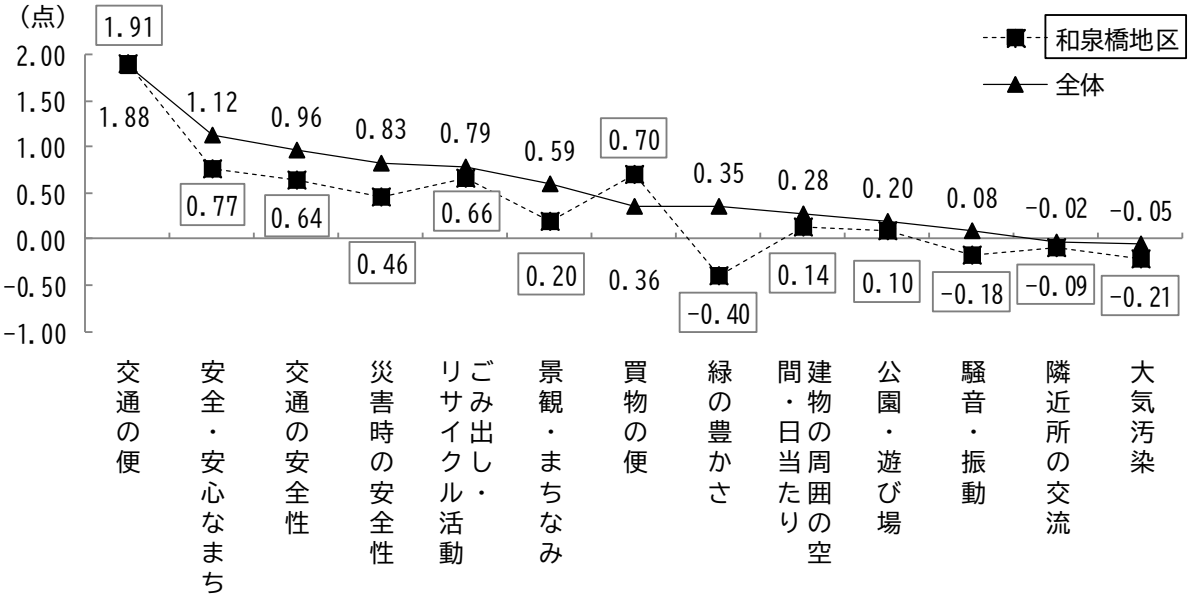
万世橋地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は５項目となっており、特に“買物の便”(0.43点差)が高くなっている。一方で、全体よりも低い項目は“緑の豊かさ”(-0.56点差)、“安全・安心なまち”(-0.51点差)、“景観・まちなみ”(-0.43点差)、“騒音・振動”(-0.29点差)、“建物の周囲の空間・日当たり”(-0.25点差)、“ごみ出し・リサイクル活動”(-0.18点差)、“大気汚染”(-0.15点差)、“公園・遊び場”(-0.15点差)の８項目となっている。(図２－１－20)

図２－１－20 周辺の生活環境評価 加重平均（万世橋地区）



和泉橋地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は２項目となっており、特に“買物の便”(0.34点差)が高くなっている。一方で、全体よりも低い項目は“緑の豊かさ”(-0.75点差)、“景観・まちなみ”(-0.39点差)、“災害時の安全性”(-0.37点差)、“安全・安心なまち”(-0.35点差)、“交通の安全性”(-0.32点差)、“騒音・振動”(-0.26点差)、“大気汚染”(-0.16点差)、“建物の周囲の空間・日当たり”(-0.14点差)、“ごみ出し・リサイクル活動”(-0.13点差)、“公園・遊び場”(-0.10点差)、“隣近所の交流”(-0.07点差)の11項目となっている。(図２－１－21)

図２－１－21 周辺の生活環境評価 加重平均（和泉橋地区）

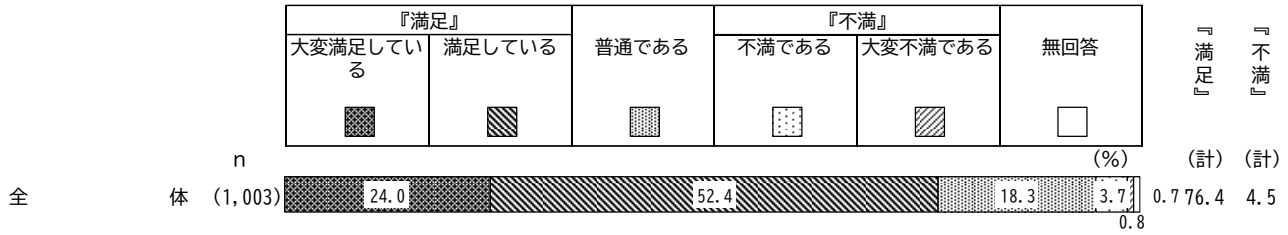


（２）周辺の居住環境の満足度

◇「満足している」が５割強

問４　あなたのお住まいやその居住環境について、当てはまるものを選んでください。
（○は１つ）

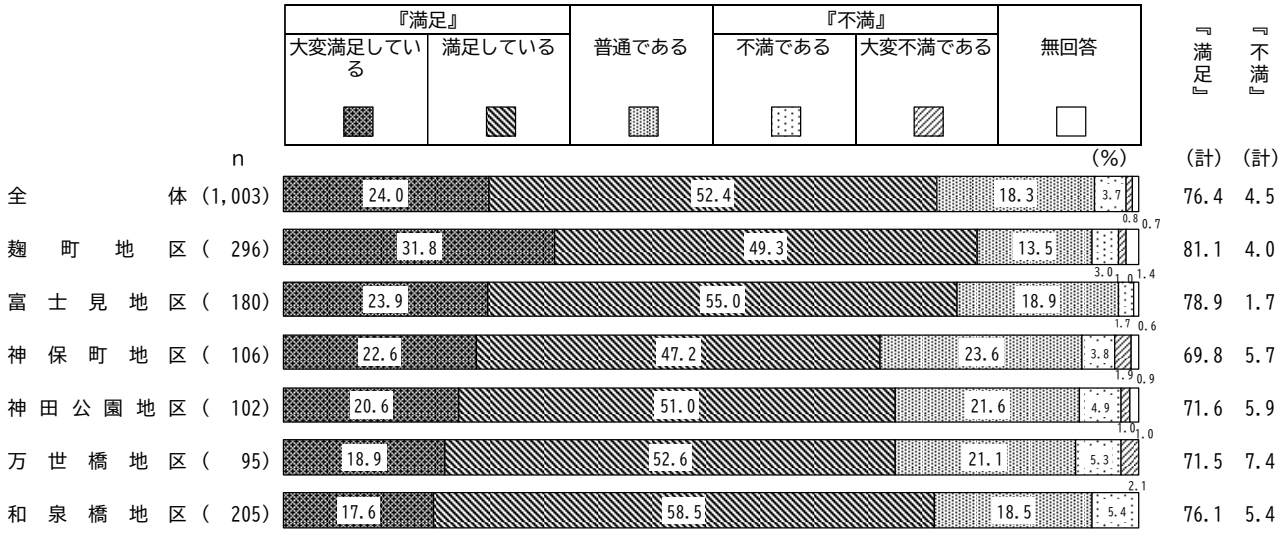
図２－２－１ 周辺の居住環境の満足度



周辺の居住環境の満足度について聞いたところ、「満足している」(52.4%)が５割強と最も高く、これに「大変満足している」(24.0%)を合わせた『満足』(76.4%)が７割台半ば超えとなっている。一方で、「不満である」(3.7%)と「大変不満である」(0.8%)を合わせた『不満』(4.5%)が１割未満となっている。(図２－２－１)

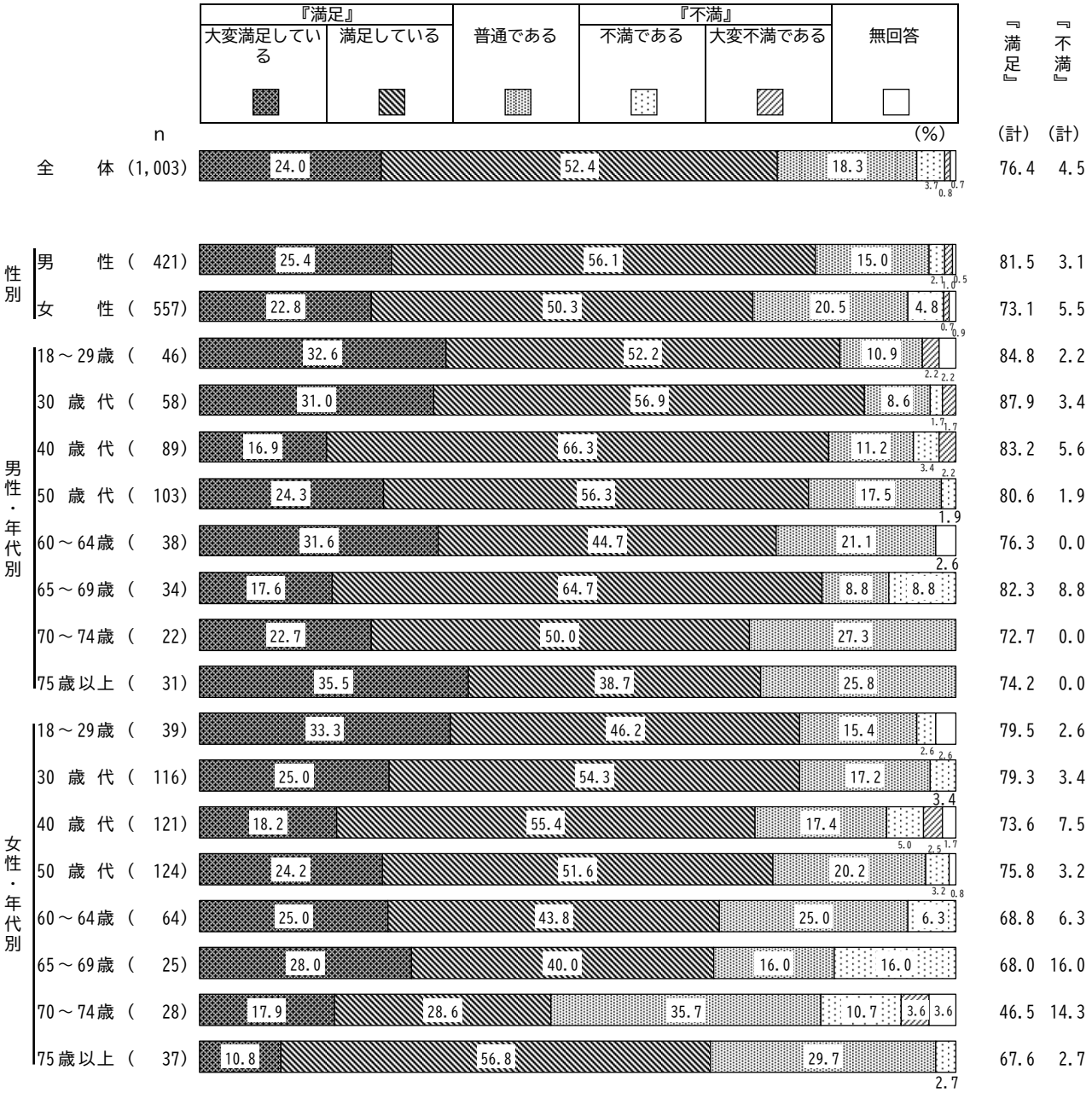
地区別にみると、「大変満足している」は麹町地区(31.8%)が３割強と最も高くなっている。(図２－２－２)

図２－２－２ 周辺の居住環境の満足度（地区別）



性・年代別にみると、「大変満足している」と「満足している」を合わせた『満足』は男性30歳代(87.9%)で８割台半ば超えと最も高くなっている。(図２－２－３)

図２－２－３ 周辺の居住環境の満足度（性・年代別）



（２－１）「周辺の生活環境評価」と「周辺の居住環境の満足度」の相関分析

「（１）周辺の生活環境評価」の各項目と「（２）周辺の居住環境の満足度」から相関係数(r）を算出し、周辺の生活環境評価と居住環境の満足度の関係を分析した。

●相関係数（ｒ）

相関係数(r）とは、２つのデータの関係の強さを数値（係数）で示したもので、－１から＋１の間の数値となる。相関係数(r）の絶対値が１に近づくほど関係が強くなり、関係が低いと０に近くなる。

相関係数（r）	考え方
0≦|r|≦0.2	ほとんど相関がない
0.2＜|r|≦0.4	弱い相関がある
0.4＜|r|≦0.7	中程度の相関がある
0.7＜|r|≦1.0	強い相関がある

●満足度と相関係数（ｒ）

「周辺の生活環境評価」の各項目について、満足度と相関係数(r）を一覧にすると以下のようになった。

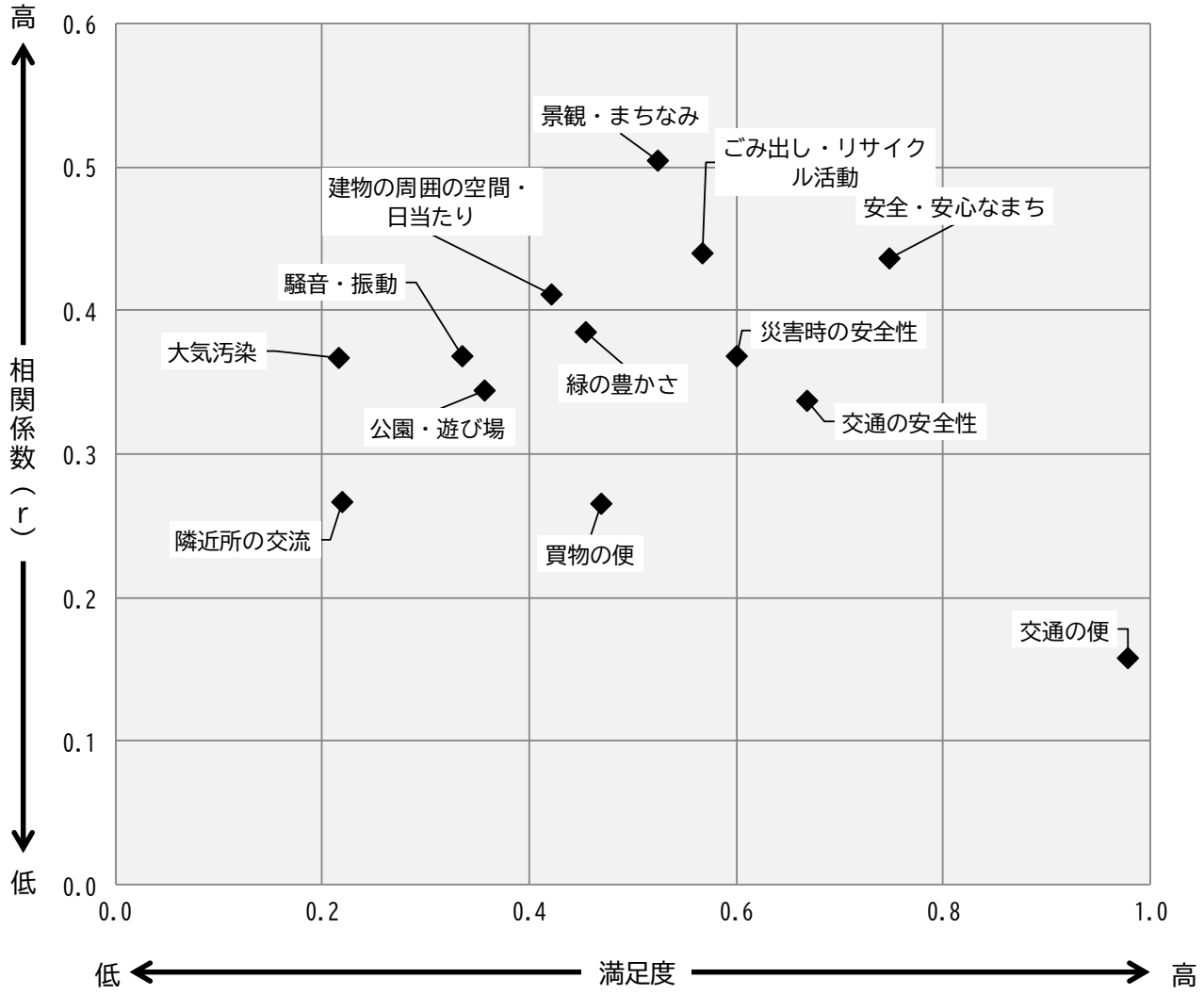
		満足度	相関係数（ｒ）
1	交通の便	0.98	0.16
2	買物の便	0.47	0.27
3	公園・遊び場	0.36	0.34
4	建物の周囲の空間・日当たり	0.42	0.41
5	騒音・振動	0.34	0.37
6	大気汚染	0.22	0.37
7	緑の豊かさ	0.46	0.38
8	交通の安全性	0.67	0.34
9	災害時の安全性	0.60	0.37
10	安全・安心なまち	0.75	0.44
11	隣近所の交流	0.22	0.27
12	景観・まちなみ	0.52	0.50
13	ごみ出し・リサイクル活動	0.57	0.44

注）満足度は、各項目の「良い」・「やや良い」の割合の合計となる。

「周辺の生活環境評価」の各項目について、「周辺の居住環境の満足度」との相関係数（r）、満足度を基に散布図に示した。

“景観・まちなみ”（0.50）、“安全・安心なまち”（0.44）・“ごみ出し・リサイクル活動”（0.44）・“建物の周囲の空間・日当たり”（0.41）の４項目は相関係数（r）が0.4を超えており、居住環境の満足度と中程度の相関がみられた。（図２－２－４）

図２－２－４　「周辺の生活環境評価」と「周辺の居住環境の満足度」の相関分析



3．施策の満足度・重要度

（1）施策の満足度・重要度

◇満足度が最も高いのは“保健・衛生対策”、最も低いのは“住宅対策”
◇重要度が最も高いのは“防災対策”、最も低いのは“地域力の向上”

満足度（重要度）が高い ⇒ 「満足（重要）」と「やや満足（まあ重要）」の合計が高い
満足度（重要度）が低い ⇒ 「不満（重要でない）」と「やや不満（あまり重要でない）」の合計が高い

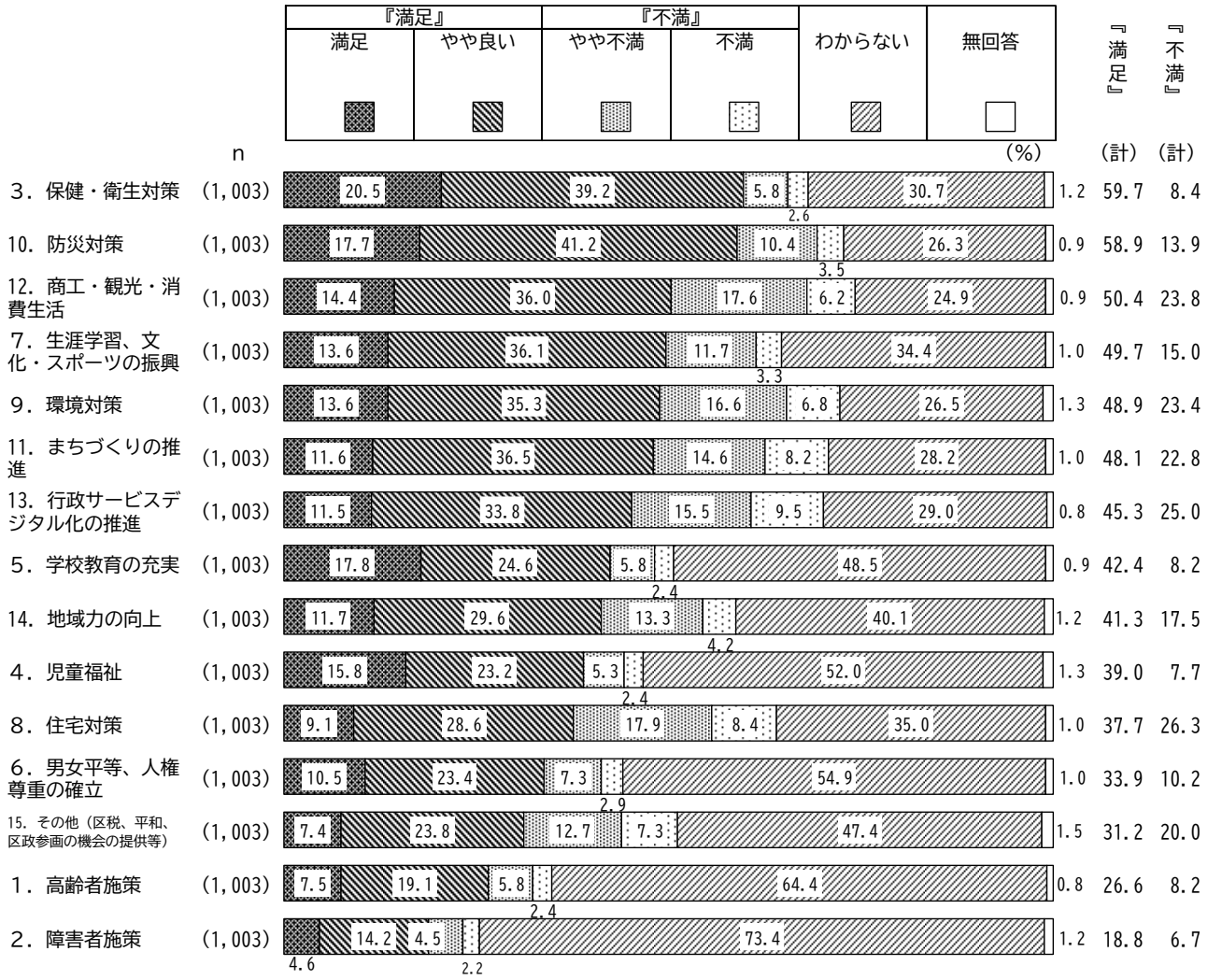
問５　あなたは、区政のそれぞれの分野についてどれくらい満足していますか。また、どのくらい重要(大切)だと思いますか。項目ごとに５段階で評価し、該当する番号に○を付けてください。(15分野すべてにご回答ください。)

表３－１－１ 施策の満足度・重要度

（%）

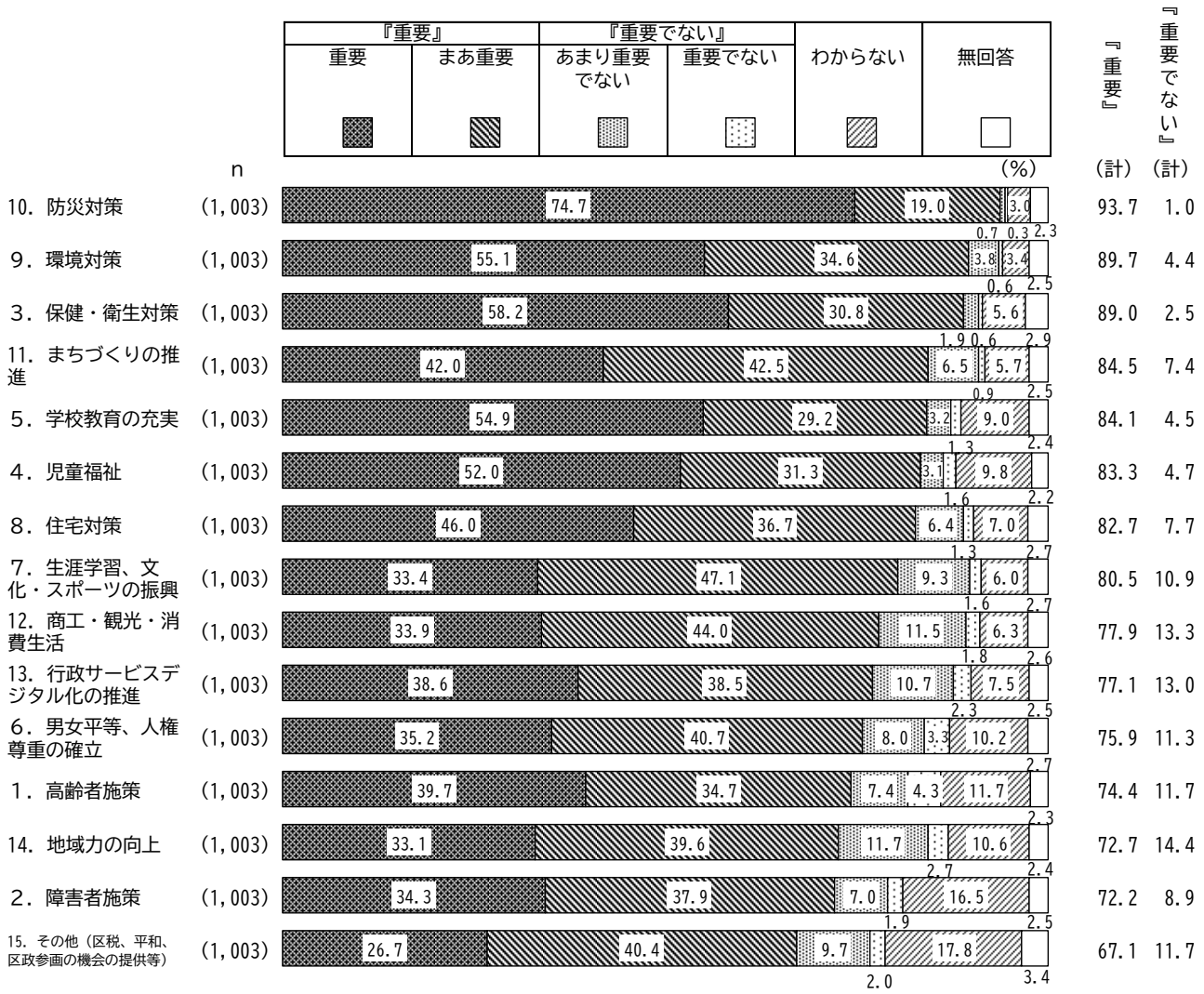
n=1,003	満足度 1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 わからない	無回答	重要度 1 重要	2 まあ重要	3 あまり重要でない	4 重要でない	5 わからない	無回答
1． 高齢者施策	7.5	19.1	5.8	2.4	64.4	0.8	39.7	34.7	7.4	4.3	11.7	2.3
2． 障害者施策	4.6	14.2	4.5	2.2	73.4	1.2	34.3	37.9	7.0	1.9	16.5	2.5
3． 保健・衛生対策	20.5	39.2	5.8	2.6	30.7	1.2	58.2	30.8	1.9	0.6	5.6	2.9
4． 児童福祉	15.8	23.2	5.3	2.4	52.0	1.3	52.0	31.3	3.1	1.6	9.8	2.2
5． 学校教育の充実	17.8	24.6	5.8	2.4	48.5	0.9	54.9	29.2	3.2	1.3	9.0	2.4
6． 男女平等、人権尊重の確立	10.5	23.4	7.3	2.9	54.9	1.0	35.2	40.7	8.0	3.3	10.2	2.7
7． 生涯学習、文化・スポーツの振興	13.6	36.1	11.7	3.3	34.4	1.0	33.4	47.1	9.3	1.6	6.0	2.7
8． 住宅対策	9.1	28.6	17.9	8.4	35.0	1.0	46.0	36.7	6.4	1.3	7.0	2.7
9． 環境対策	13.6	35.3	16.6	6.8	26.5	1.3	55.1	34.6	3.8	0.6	3.4	2.5
10． 防災対策	17.7	41.2	10.4	3.5	26.3	0.9	74.7	19.0	0.7	0.3	3.0	2.3
11． まちづくりの推進	11.6	36.5	14.6	8.2	28.2	1.0	42.0	42.5	6.5	0.9	5.7	2.5
12． 商工・観光・消費生活	14.4	36.0	17.6	6.2	24.9	0.9	33.9	44.0	11.5	1.8	6.3	2.6
13． 行政サービスデジタル化の推進	11.5	33.8	15.5	9.5	29.0	0.8	38.6	38.5	10.7	2.3	7.5	2.5
14． 地域力の向上	11.7	29.6	13.3	4.2	40.1	1.2	33.1	39.6	11.7	2.7	10.6	2.4
15． その他(区税、平和、区政参画の機会の提供等)	7.4	23.8	12.7	7.3	47.4	1.5	26.7	40.4	9.7	2.0	17.8	3.4

図３－１－２ 施策の満足度



施策の満足度について聞いたところ、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は“保健・衛生対策”(59.7%)が６割弱と最も高くなっている。一方で、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は“住宅対策”(26.3%)が２割台半ば超えと最も高くなっている。(図３－１－２)

図３－１－３ 施策の重要度



「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』は“防災対策”(93.7%)が９割台半ば近くと最も高くなっている。一方で、「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた『重要でない』は“地域力の向上”(14.4%)、“商工・観光・消費生活”(13.3%)が１割台半ば近くと高くなっている。(図３－１－３)

●加重平均値

満足度・重要度を比率でみるのとは別に、比較をより明確にするため、加重平均による数量化を行った。下記の計算式のように、５段階の各評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出した。「わからない」については０点として扱った。

$$\textbf{満足度評価点} = \frac{\text{「満足」の回答者数}\times 2\text{点}+\text{「やや満足」の回答者数}\times 1\text{点}+\text{「やや不満」の回答者数}\times -1\text{点}+\text{「不満」の回答者数}\times -2\text{点}+}{\text{回答者数}}$$

$$\textbf{重要度評価点} = \frac{\text{「重要」の回答者数}\times 2\text{点}+\text{「やや重要」の回答者数}\times 1\text{点}+\text{「あまり重要でない」の回答者数}\times -1\text{点}+\text{「重要でない」の回答者数}\times -2\text{点}+}{\text{回答者数}}$$

注）回答者数は、無回答を除く。

この算出方法では、満足度評価点はプラス２点からマイナス２点の間に分布し、中点の０点を境に、プラスの値が大きいほど満足度が高くなり、マイナスの値が大きいほど不満度が高くなる。

また、重要度評価点はプラス２点からマイナス２点の間に分布し、中点の０点を境に、プラスの値が大きいほど重要度が高くなり、マイナスの値が大きいほど重要度が低くなる。

地区別に満足度をみると、麹町地区では、「防災対策」(0.83)、「保健・衛生対策」(0.81)、「学校教育の充実」(0.73)が高くなっている。
富士見地区では、”保健・衛生対策”(0.87)が高くなっている。
神保町地区では、”保健・衛生対策”(0.76)が高くなっている。
神田公園地区では、”住宅対策”(-0.04)が低くなっている。
万世橋地区では、”保健・衛生対策”(0.60)が高くなっている。
和泉橋地区では、”保健・衛生対策”(0.48)が高くなっている。（表３－１－４）

地区別に重要度をみると、全ての地区で“防災対策”が最も高くなっており、地区別では富士見地区(1.75)、麹町地区(1.73)、神田公園地区(1.72)、神保町地区(1.71)、和泉橋地区(1.69)、万世橋地区(1.65)の順となっている。

また、富士見地区では“環境対策”(1.50)が、神田公園地区では“保健・衛生対策”(1.51)が、万世橋地区では“保健・衛生対策”(1.58)が高くなっている。

（表３－１－４）

表３－１－４ 施策の満足度評価点・重要度評価点（地区別）

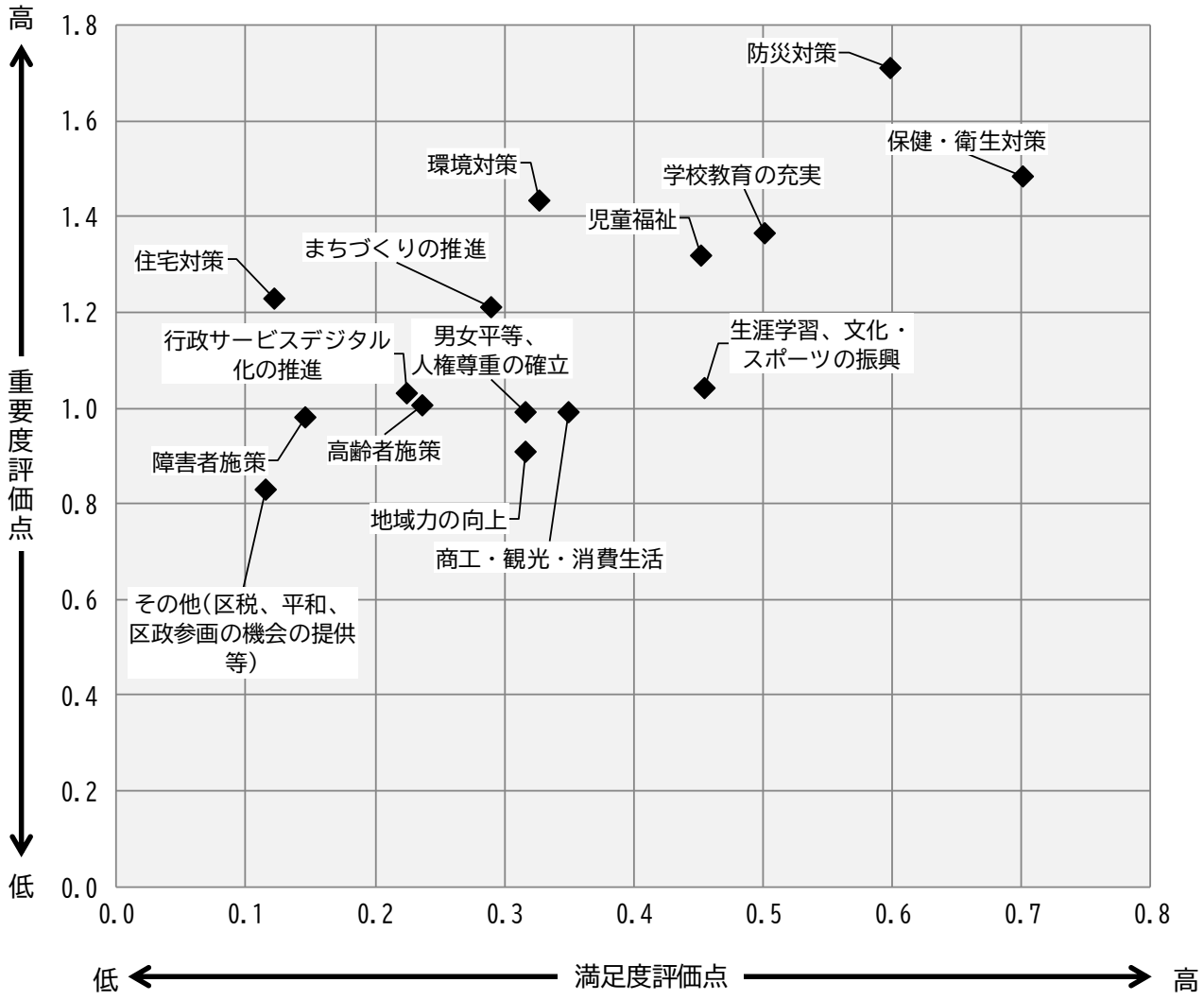
（点）

	満足度							重要度						
	全体	麹町地区	富士見地区	神保町地区	神田公園地区	万世橋地区	和泉橋地区	全体	麹町地区	富士見地区	神保町地区	神田公園地区	万世橋地区	和泉橋地区
1. 高齢者施策	0.24	0.31	0.27	0.18	0.14	0.20	0.17	1.00	1.04	0.99	1.20	0.94	0.96	0.88
2. 障害者施策	0.15	0.16	0.22	0.07	0.13	0.10	0.12	0.98	0.95	1.02	1.12	0.83	1.04	0.97
3. 保健・衛生対策	0.70	0.81	0.87	0.76	0.55	0.60	0.48	1.48	1.47	1.49	1.45	1.51	1.58	1.44
4. 児童福祉	0.45	0.61	0.54	0.40	0.25	0.49	0.27	1.32	1.37	1.39	1.20	1.16	1.37	1.35
5. 学校教育の充実	0.50	0.73	0.56	0.41	0.37	0.53	0.23	1.37	1.47	1.45	1.22	1.24	1.39	1.31
6. 男女平等、人権尊重の確立	0.32	0.37	0.39	0.26	0.28	0.20	0.30	0.99	1.04	1.05	1.04	0.97	0.87	0.91
7. 生涯学習、文化・スポーツの振興	0.45	0.50	0.40	0.58	0.42	0.44	0.39	1.04	1.09	1.05	1.01	1.04	1.03	0.99
8. 住宅対策	0.12	0.21	0.16	0.03	-0.04	0.18	0.07	1.23	1.32	1.13	1.11	1.43	1.14	1.21
9. 環境対策	0.33	0.54	0.43	0.34	0.10	0.08	0.15	1.43	1.52	1.50	1.35	1.44	1.28	1.40
10. 防災対策	0.60	0.83	0.61	0.51	0.36	0.58	0.45	1.71	1.73	1.75	1.71	1.72	1.65	1.69
11. まちづくりの推進	0.29	0.30	0.31	0.36	0.28	0.31	0.24	1.21	1.25	1.28	1.11	1.19	1.19	1.20
12. 商工・観光・消費生活	0.35	0.26	0.42	0.39	0.49	0.47	0.32	0.99	0.90	1.04	0.88	1.11	1.09	1.06
13. 行政サービスデジタル化の推進	0.23	0.26	0.26	0.25	0.02	0.23	0.25	1.03	1.02	0.92	0.89	1.02	1.14	1.20
14. 地域力の向上	0.32	0.38	0.34	0.31	0.25	0.41	0.19	0.91	0.93	0.94	0.82	1.03	0.89	0.84
15. その他(区税、平和、区政参画の機会の提供等)	0.12	0.16	0.16	0.13	0.05	0.11	0.02	0.83	0.84	0.84	0.77	0.96	0.82	0.77

次の図は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。

右に位置するほど満足度が高く、上に位置するほど重要度が高いと言える。満足度評価点が低く、重要度評価点が高い領域（左上方）にある項目が、住民ニーズの高いものと考えられる。（図３－１－４）

図３－１－４ 施策の満足度評価点・重要度評価点の相関



４．区の施策への要望

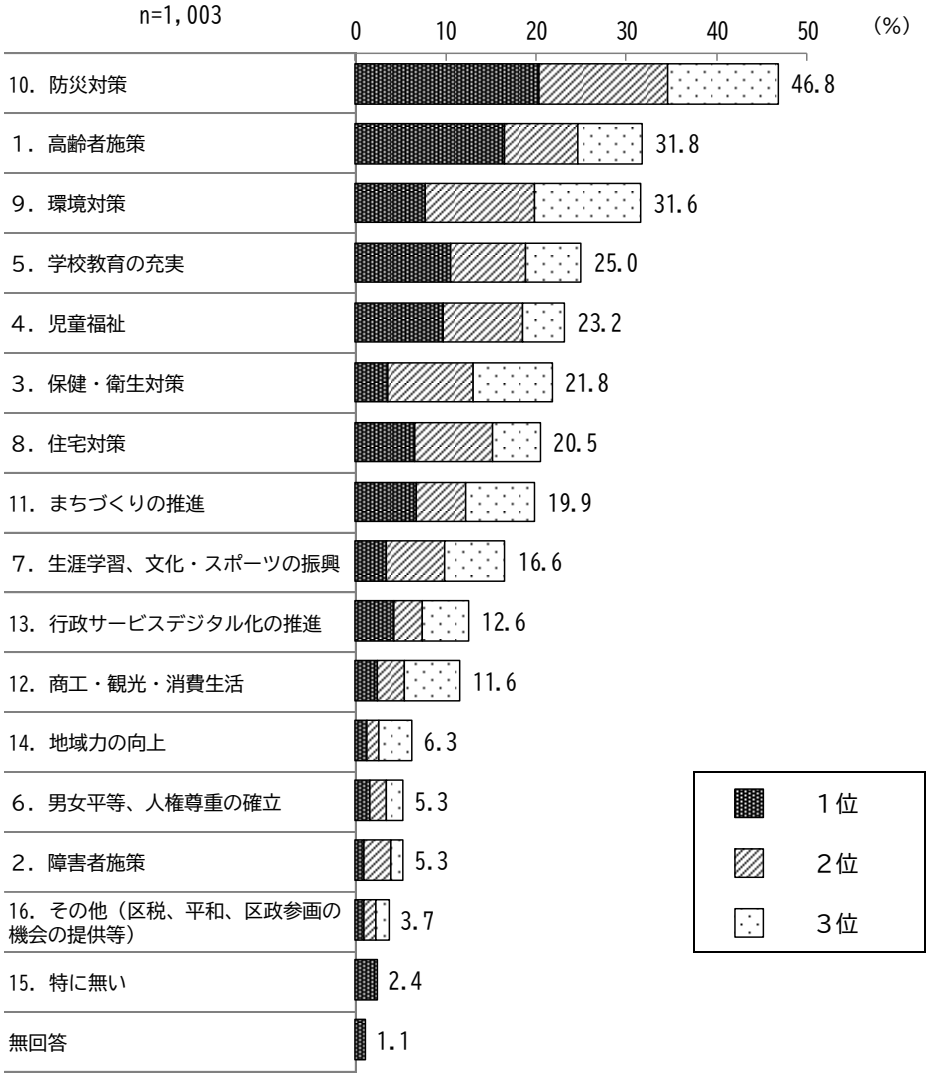
（１）力を入れてほしい施策

◇「防災対策」が４割台半ば超え

問６　これからの区政全体について、あなたは、どの分野に力を入れてもらいたいと思いますか。特に力を入れて取り組んでほしい分野について、下記１～16の中から優先順位の高い順に３つ選んで番号を記入してください。

問６－１　問６で選んだ分野の中の「具体的な要望」で優先度の高い項目を３つ選んで○をつけてください。

図４－１－１　力を入れてほしい施策



力を入れてほしい施策について聞いたところ、「防災対策」(46.8%)が４割台半ば超えと最も高く、次いで「高齢者施策」(31.8%)、「環境対策」(31.6%)、「学校教育の充実」(25.0%)と続いている。(図４－１－１)

性・年代別にみると、「高齢者施策」は男性75歳以上(64.5%)が６割台半ば近くと最も高く、次いで女性75歳以上(62.1%)が６割強と高くなっている。また、「児童福祉」は女性30歳代(53.5%)が５割台半ば近くと最も高くなっている。(図４－１－２)

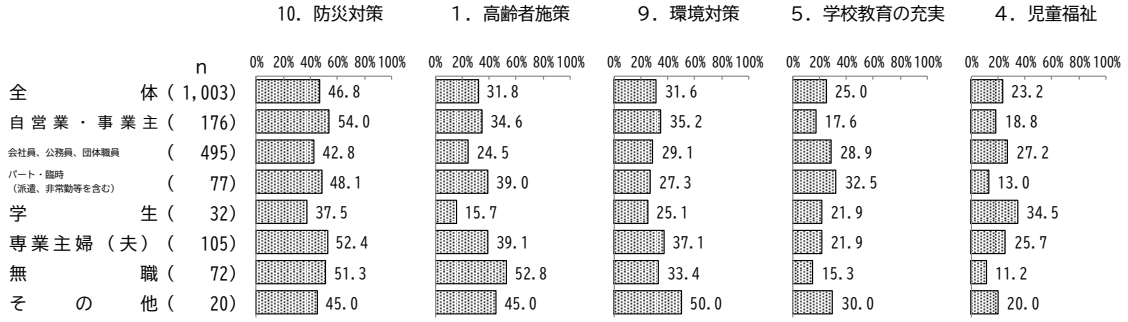
図４－１－２ 力を入れてほしい施策（性・年代別）－上位10分野－

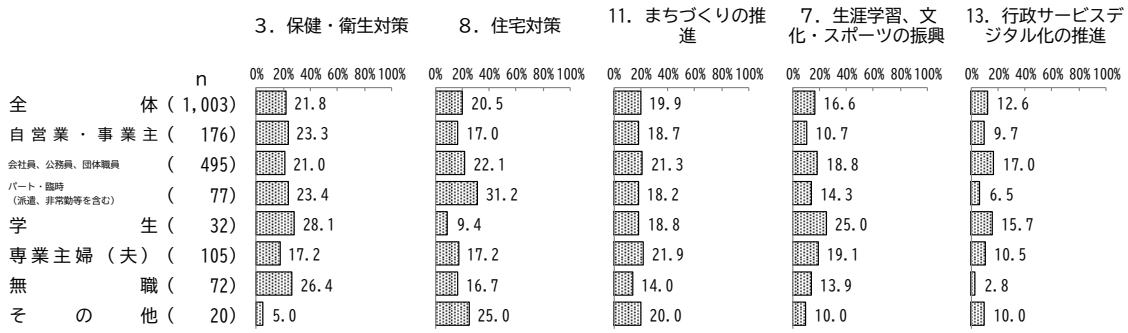
		n	10. 防災対策	1. 高齢者施策	9. 環境対策	5. 学校教育の充実	4. 児童福祉
	全体	(1,003)	46.8	31.8	31.6	25.0	23.2
性別	男性	(421)	41.8	29.7	30.2	25.4	22.6
	女性	(557)	51.2	32.1	33.0	24.5	23.4
男性・年代別	18～29歳	(46)	36.9	4.4	28.3	24.0	39.1
	30歳代	(58)	19.0	6.8	25.9	41.3	46.6
	40歳代	(89)	38.2	19.0	30.3	38.2	24.7
	50歳代	(103)	46.7	32.1	25.3	21.3	18.4
	60～64歳	(38)	52.6	55.3	18.5	23.8	7.9
	65～69歳	(34)	50.0	50.0	44.2	5.9	8.8
	70～74歳	(22)	45.4	50.0	36.3	9.0	4.5
	75歳以上	(31)	61.3	64.5	51.6	9.7	6.5
女性・年代別	18～29歳	(39)	56.4	10.2	30.7	23.1	28.3
	30歳代	(116)	38.8	9.4	25.9	37.1	53.5
	40歳代	(121)	45.4	19.0	32.2	42.2	24.7
	50歳代	(124)	59.7	40.3	36.3	12.0	7.2
	60～64歳	(64)	64.1	57.8	43.8	11.0	3.2
	65～69歳	(25)	48.0	52.0	28.0	12.0	16.0
	70～74歳	(28)	60.8	60.7	39.2	14.3	10.7
	75歳以上	(37)	51.3	62.1	32.4	8.1	18.9

		n	3. 保健・衛生対策	8. 住宅対策	11. まちづくりの推進	7. 生涯学習、文化・スポーツの振興	13. 行政サービスデジタル化の推進
	全体	(1,003)	21.8	20.5	19.9	16.6	12.6
性別	男性	(421)	22.3	20.5	22.6	16.9	15.5
	女性	(557)	21.0	20.9	18.3	16.3	10.8
男性・年代別	18～29歳	(46)	17.4	21.7	17.4	23.9	24.0
	30歳代	(58)	17.2	25.9	31.0	10.3	25.8
	40歳代	(89)	20.2	23.6	28.1	20.2	17.9
	50歳代	(103)	30.1	15.6	22.3	16.5	10.7
	60～64歳	(38)	21.0	23.7	18.4	18.5	15.8
	65～69歳	(34)	23.5	20.6	8.7	11.7	11.7
	70～74歳	(22)	31.8	27.2	27.2	22.6	9.0
	75歳以上	(31)	12.9	6.4	16.2	9.7	0.0
女性・年代別	18～29歳	(39)	28.2	10.3	15.3	5.2	28.2
	30歳代	(116)	17.3	26.7	22.4	13.8	12.9
	40歳代	(121)	14.9	23.1	19.9	20.7	12.4
	50歳代	(124)	24.2	17.0	23.5	22.6	8.0
	60～64歳	(64)	26.6	18.8	11.0	9.4	9.4
	65～69歳	(25)	32.0	36.0	16.0	12.0	0.0
	70～74歳	(28)	21.4	14.2	7.2	14.3	3.6
	75歳以上	(37)	16.2	18.9	10.8	18.9	2.7

職業別にみると、「高齢者施策」は無職(52.8%)が５割強と最も高くなっている。
（図４－１－３）

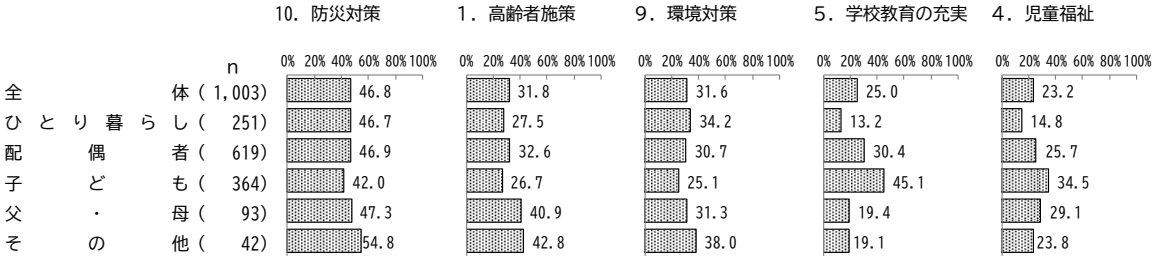
図４－１－３ 力を入れてほしい施策（職業別）－上位10分野－





世帯構成別にみると、「学校教育の充実」は子どもがいる世帯(45.1%)が４割台半ばと最も高くなっている。（図４－１－４）

図４－１－４ 力を入れてほしい施策（世帯構成別）－上位10分野－



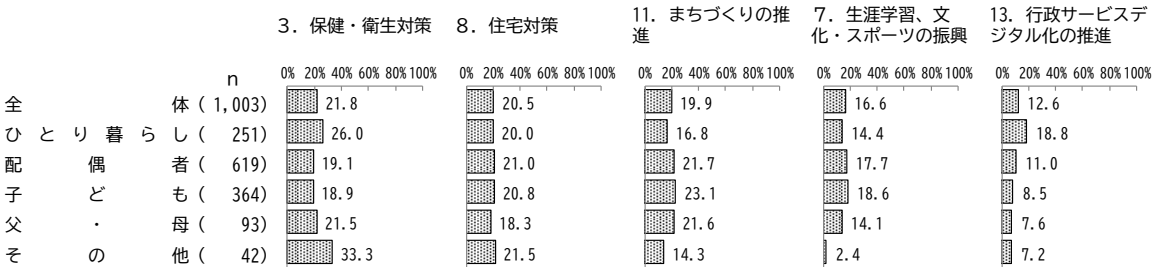
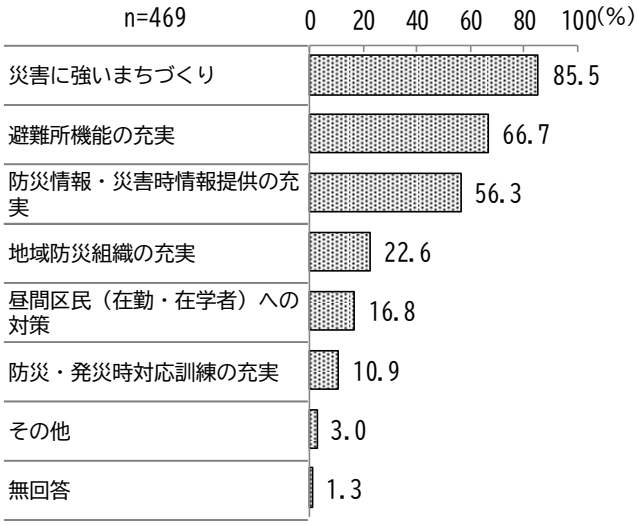
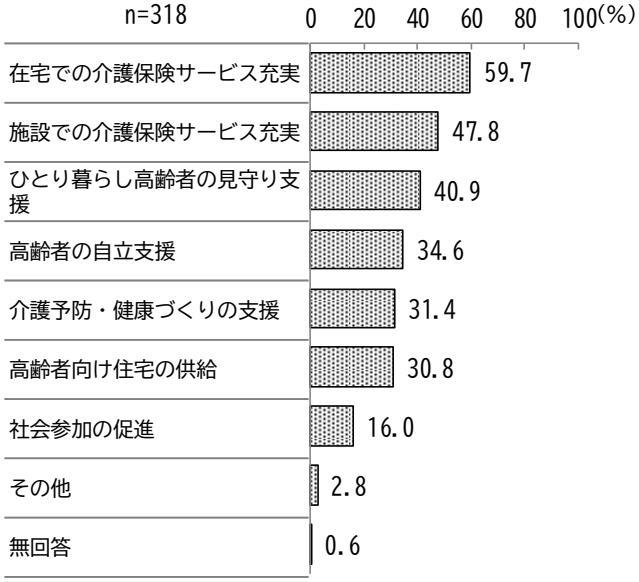


図４－１－５ 力を入れてほしい施策－分野別要望－（問６－１）

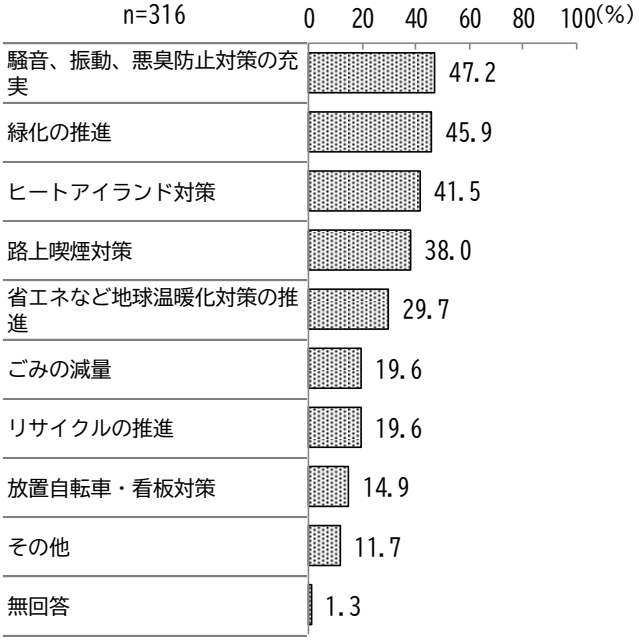
【１位】 10．防災対策



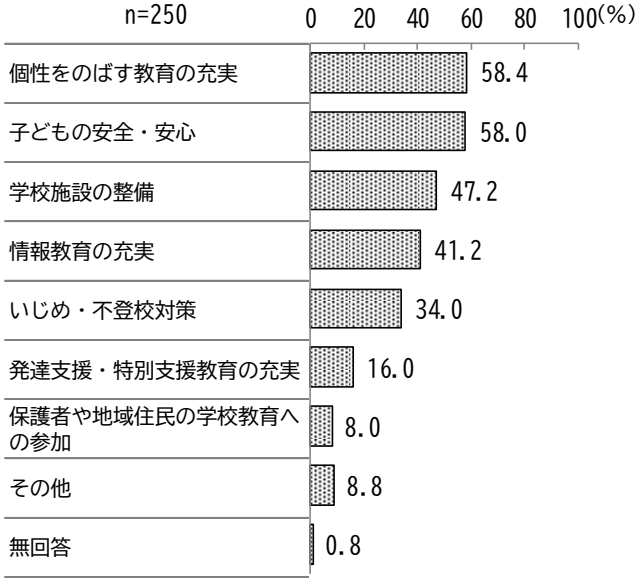
【２位】 １．高齢者施策



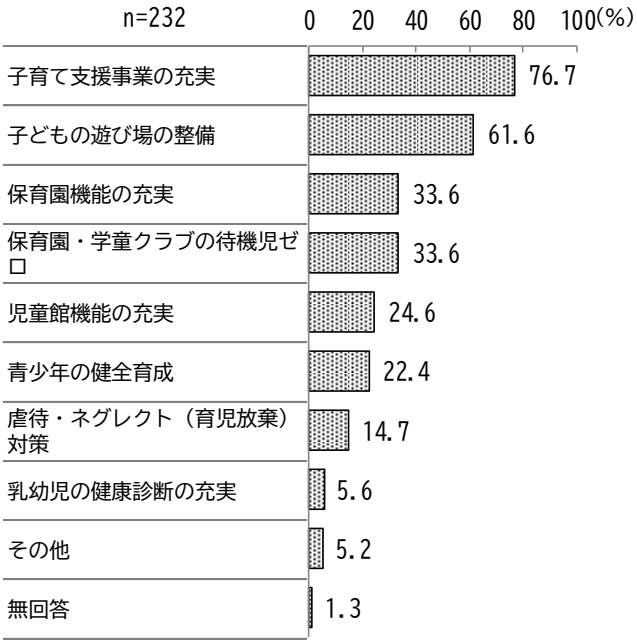
【３位】 ９．環境対策



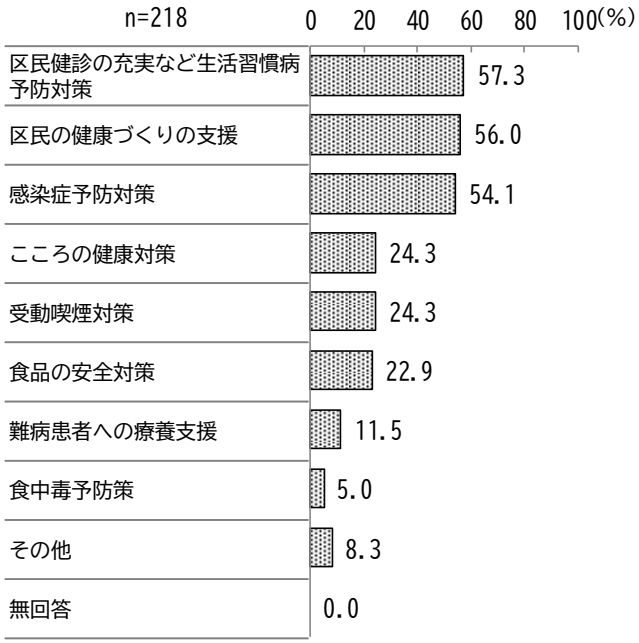
【４位】 ５．学校教育の充実



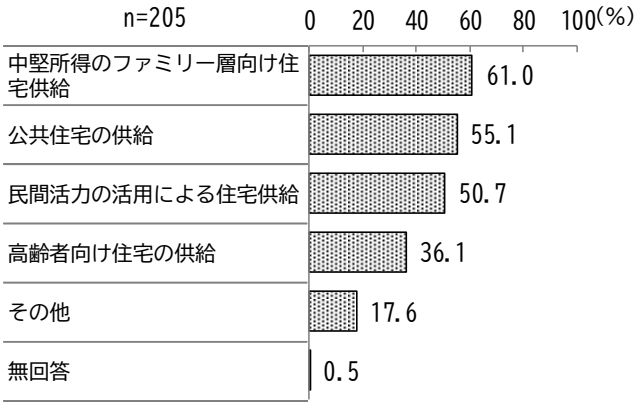
【５位】 ４．児童福祉



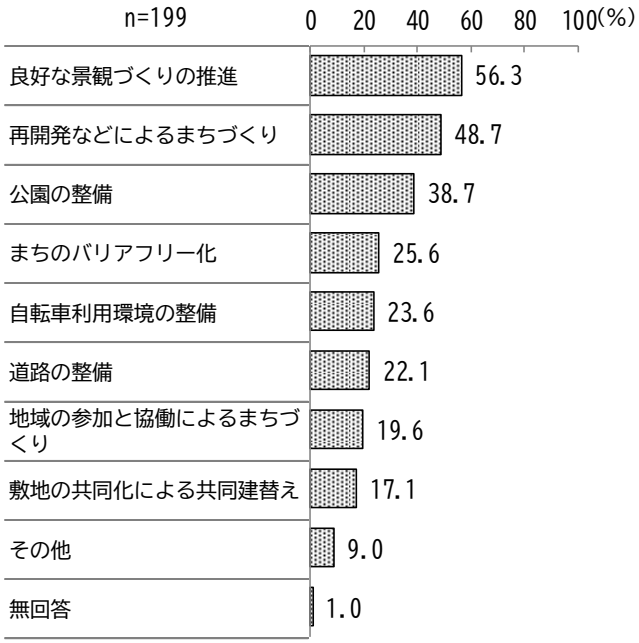
【６位】 ３．保健・衛生対策



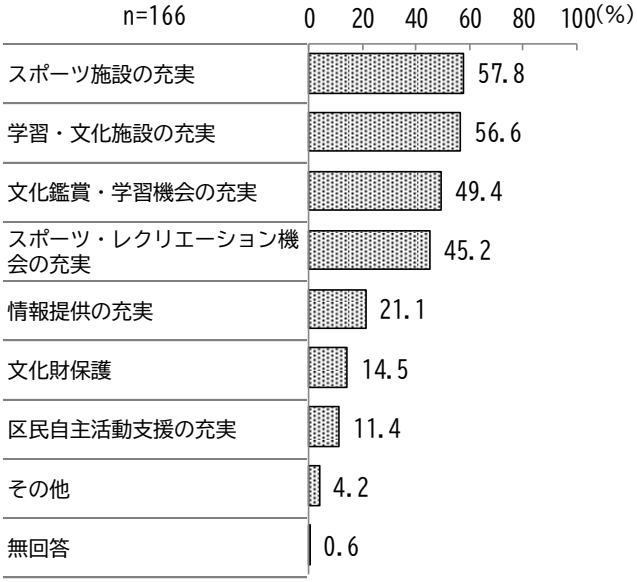
【７位】 ８．住宅対策



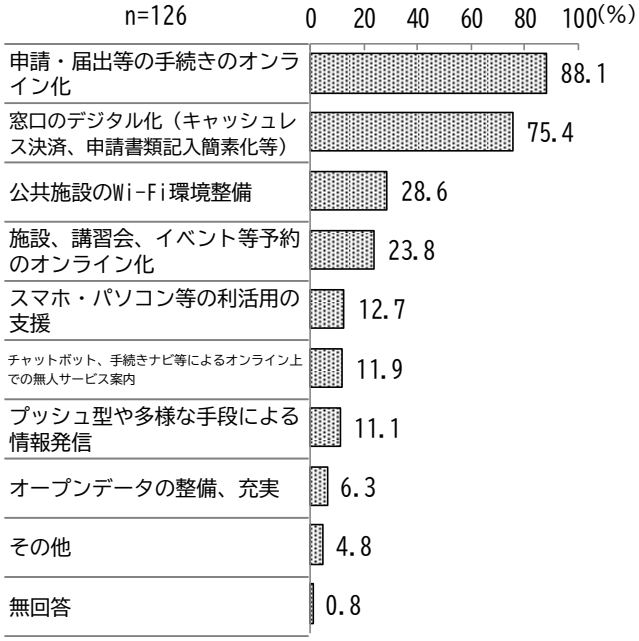
【８位】 11．まちづくりの推進



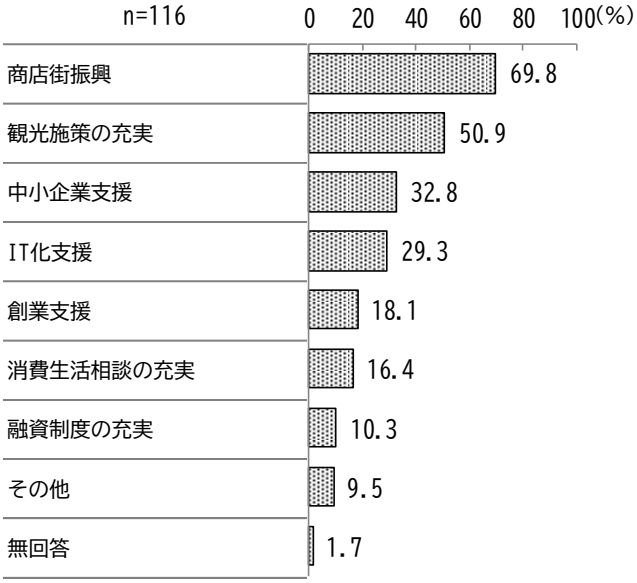
【９位】 ７．生涯学習、文化・スポーツの振興



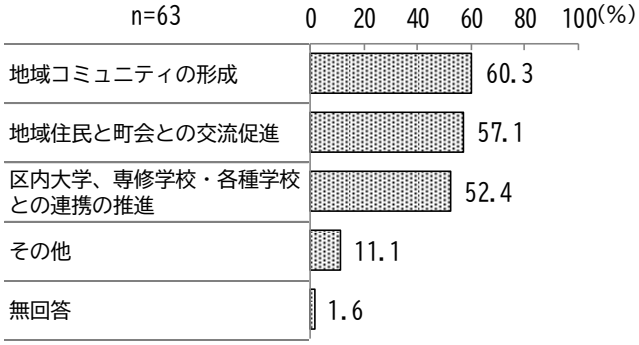
【10位】 13．行政サービスデジタル化の推進



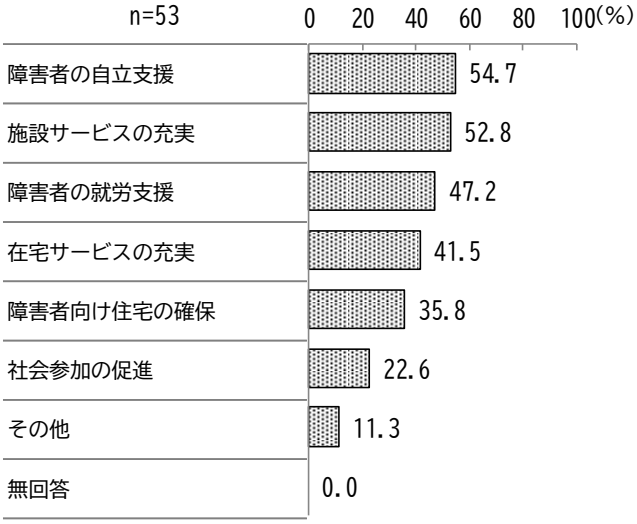
【11位】 12．商工・観光・消費生活



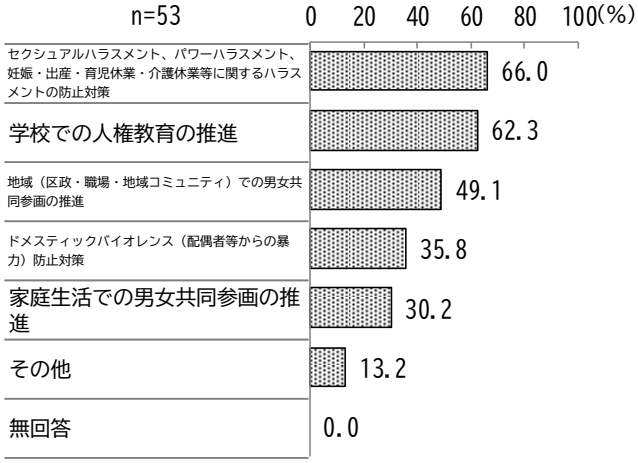
【12位】 14．地域力の向上



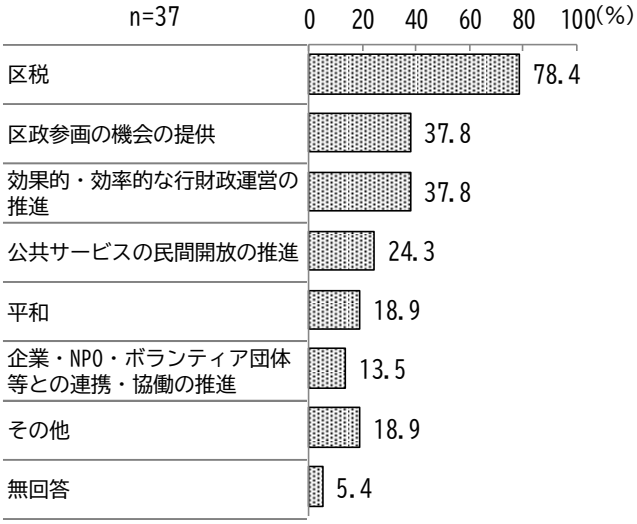
【13位】 2．障害者施策



【14位】 6．男女平等、人権尊重の確立



【15位】 16．その他（区税、平和、区政参画の機会の提供等）



「その他」を具体的に記述した方の人数と意見の概要は以下の通り

1．高齢者施策：６件

・介護人材の確保、給与向上
・介護サービスの利用しやすさの向上（介護者の事情への配慮）
・回復期リハビリテーション病棟（病院）の増加
・高齢者向け学習塾
・高齢者への減税

2．障害者施策：５件

・バリアフリーのまちづくり
・学習障害・発達障害児へのサポート、療育と支援の専門家の充実
・障害福祉人材の給与向上
・経済的支援

3．保健・衛生対策：10件

・区内の禁煙問題
・害獣・害鳥・害虫対策
・ゴミのポイ捨て対策
・夜間、休日診療の充実
・千代田区休日応急診療の電話対応の接遇向上
・メーカーによる大気・水質汚染製品の公立の場からの排除

4．児童福祉：５件

・病児保育・学童の早期預かり等の充実
・子育てに関する金銭的な補助
・子どもの居場所での女性専用設備
・児童館で働く非専門職（警備員等）の児童館の役割に関する知識の向上
・次世代型の教育の充実

5．学校教育の充実：13件

・ダイバーシティ＆インクルージョン教育の充実
・教育現場や実情に合わせたＩＣＴ教育
・金融教育・経済教育
・受験を尊重した授業内容
・正しい日本語会話の教育の充実
・ブリッジルームの円滑な活用
・教員の負担軽減
・教育プログラムの充実
・教師の質と量の向上
・学校の衛生向上
・開かれたＰＴＡ

6．男女平等、人権尊重の確立：４件

・専業主婦を前提とした社会設計の改善
・同性婚、パートナーシップでも扶養に入れる取組
・「男尊女卑」文化からの卒業

7．生涯学習、文化・スポーツの振興：３件

・ボルダリング施設、普通のジム、子供のキャッチボールの場の充実
・図書本の充実

8．住宅対策：22件

・障害者・高齢者・母子家庭・子育て世帯等への安価で衛生的な住宅の供給
・集合住宅の拡充
・老きゅう化建物に対するたて替えの法整備など
・民間業者による開発やマンションへの規制・建築時の騒音対策
・街並みと調和した住宅開発の推進
・マイホーム助成金等

9．環境対策：21件

・環境に良い商品の推進
・環境美化（ごみ捨て、外堀土手・道路わきの管理・ビル風対策等）
・受動喫煙・路上喫煙対策
・電柱の地中化・蓄電対策・防犯カメラ設置
・害獣・害鳥対策
・風紀マナーの悪い店への対策
・夜間工事等の騒音対策
・路上駐車・危険運転等の交通安全対策
・１～２時間無料駐輪所等の設置

10．防災対策：10件

・備蓄品の充実
・非常食等の流通運用
・大雨・豪雨対策
・津浪発生時の避難ビル等周知
・マンション在宅避難者への支援・耐震化支援
・透析治療者の災害時の対応の周知

11．まちづくりの推進：13件

・自動車の法令順守
・特定小型原動機付自転車の廃止・法整備
・既存駅の整備（通路拡張・衛生向上）
・駐輪場の整備
・秋葉原地区の防犯・環境整備
・建築物の高層化による居住環境悪化対策
・公衆衛生の向上

12. 商工・観光・消費生活：８件

・スーパー・ショッピングモール・大型店舗の誘致
・定期的なマルシェなどの開催
・経済特区化
・秋葉原文化のお店等、古くからある企業を守る対策

13. 行政サービスデジタル化の推進：３件

・紙削減
・キャッシュレス決済のみのサービスはやめてほしい

14. 地域力の向上：４件

・神田の地名度アップ
・留学生／高校生が輝いて働き学べる街作り
・他の地域から見て幸福そうだネと見られる社会へ
・昼夜人口流入の為、地域向上意識乏しい

15. その他（区税、平和、区政参画の機会の提供等）：３件

・開かれた区政
・女性議員率の向上

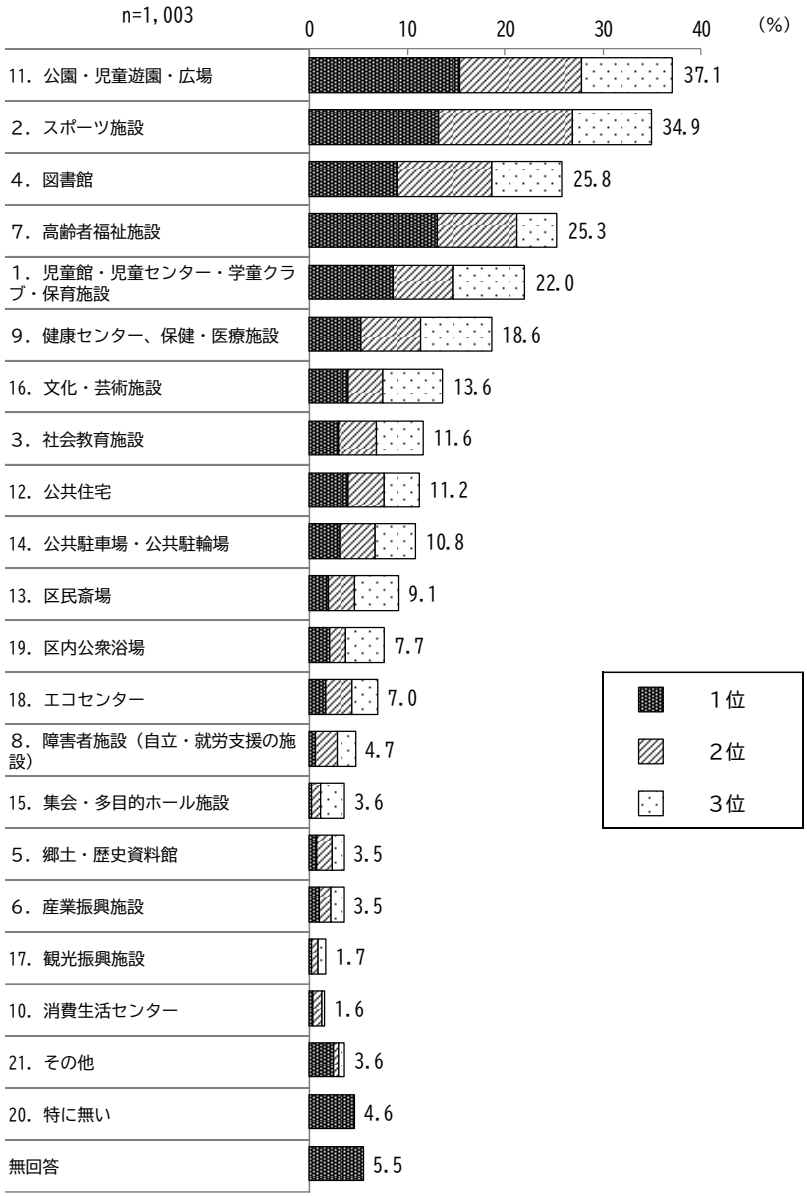
５．区の施設への要望

（１）整備・充実すべき施設

◇「公園・児童遊園・広場」が３割台半ば超え

問７　あなたは、区内にどのような施設を整備・充実すべきだと思いますか。下記１～21の施設から優先順位の高い順に３つを選んで番号を記入してください。ただし、「20．特に無い」を選んだ方は１位の欄に記入してください。

図５－１－１　整備・充実すべき施設



整備・充実すべき施設について聞いたところ、「公園・児童遊園・広場」(37.1%)が３割台半ば超えと最も高く、次いで「スポーツ施設」(34.9%)、「図書館」(25.8%)、「高齢者福祉施設」(25.3%)、「児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設」(22.0%)と続いている。(図５－１－１)

令和５年度で３位だった「スポーツ施設」が令和６年度で２位、令和５年度で２位だった「高齢者福祉施設」が令和６年度で３位になっている。また、平成29年以降上位５つの施設は変わっていない。（表５－１－２）

表５－１－２ 整備・充実すべき施設（経年比較）

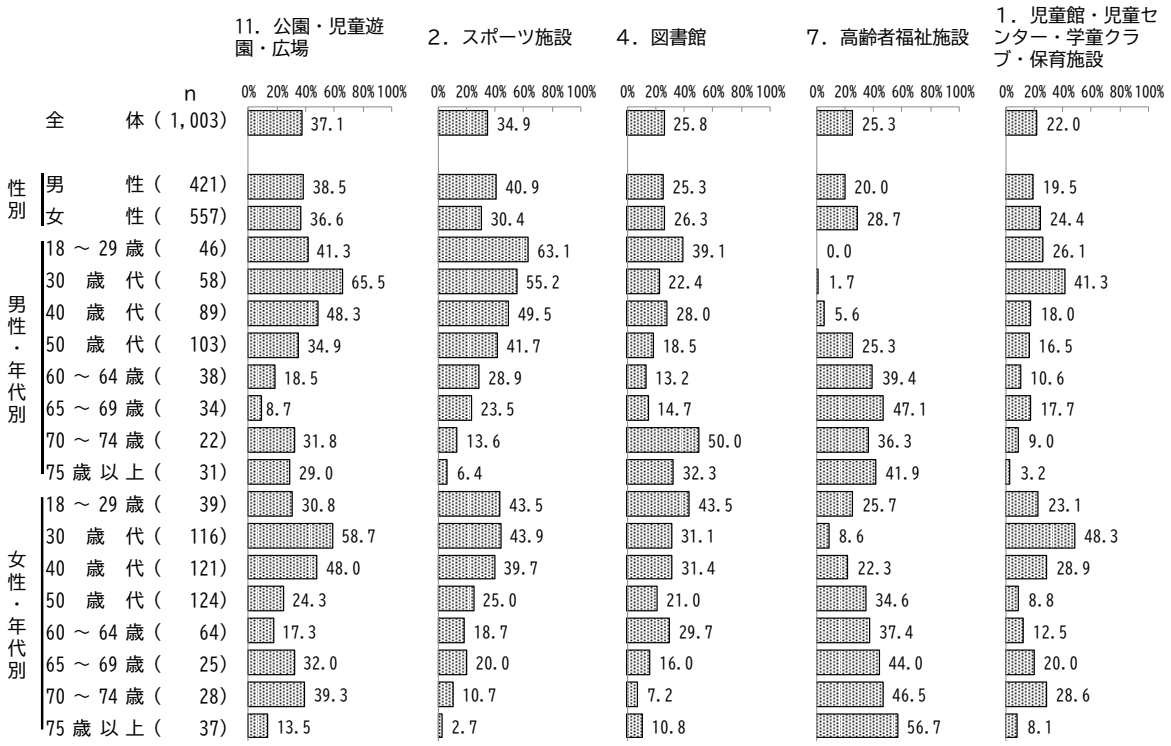
（単位：％）

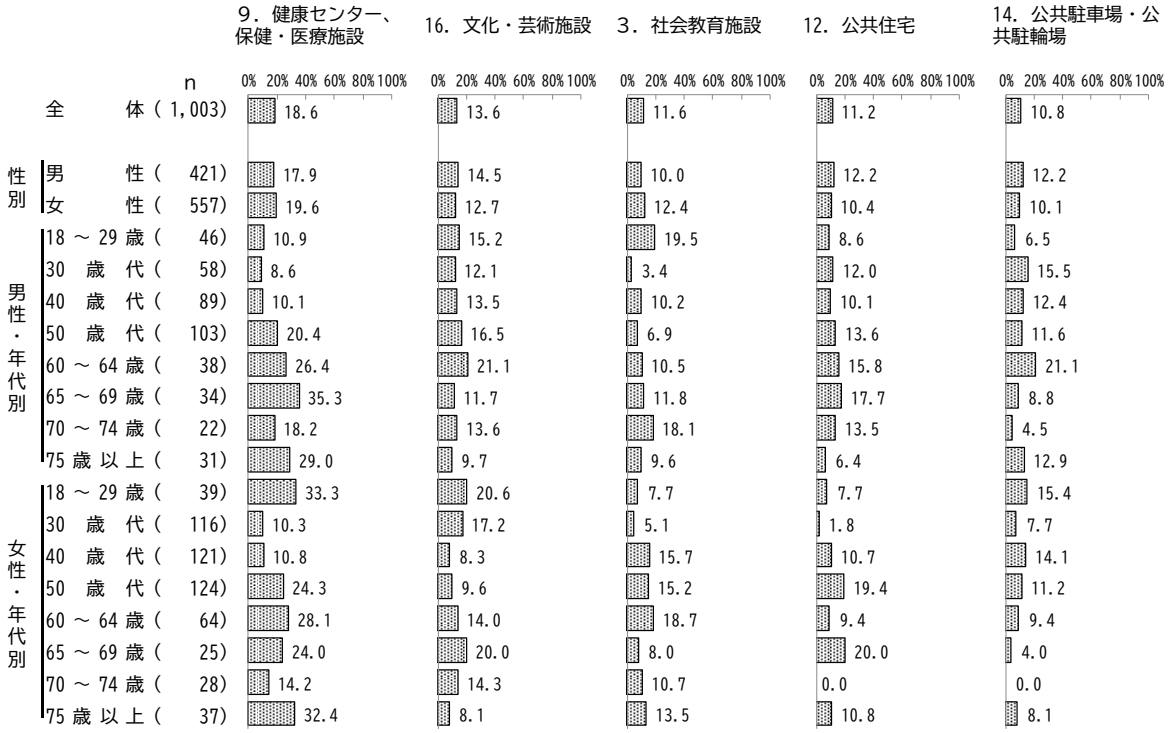
	1位	2位	3位	4位	5位
令和6年	公園・児童遊園・広場 (15.4)	スポーツ施設 (13.2)	高齢者福祉施設 (13.1)	図書館 (9.0)	児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設 (8.6)
令和5年	公園・児童遊園・広場 (14.3)	高齢者福祉施設 (14.2)	スポーツ施設 (11.4)	児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設 (10.1)	図書館 (9.4)
令和4年	公園・児童遊園・広場 (13.3)	スポーツ施設 (13.2)	高齢者福祉施設 (12.4)	児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設 (11.6)	図書館 (7.9)
令和3年	公園・児童遊園・広場 (17.3)	高齢者福祉施設 (13.9)	スポーツ施設 (12.3)	児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設 (8.0)	図書館 (7.1)
令和2年	高齢者福祉施設 (15.0)	公園・児童遊園・広場 (13.7)	スポーツ施設 (13.3)	図書館 (10.2)	児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設 (9.9)
令和元年	高齢者福祉施設 (17.2)	スポーツ施設 (12.8)	公園・児童遊園・広場 (11.6)	児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設 (11.3)	図書館 (6.8)
平成30年	高齢者福祉施設 (18.2)	スポーツ施設 (13.0)	公園・児童遊園・広場 (12.2)	児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設 (10.9)	図書館 (8.7)
平成29年	高齢者福祉施設 (16.6)	児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設 (13.3)	スポーツ施設 (12.4)	公園・児童遊園・広場 (11.1)	図書館 (8.3)
平成28年	高齢者福祉施設 (17.9)	児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設 (12.6)	公園・児童遊園・広場 (11.3)	スポーツ施設 (9.7)	公共住宅 (7.1)
平成27年	高齢者福祉施設 (23.3)	スポーツ施設 (11.5)	児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設 (10.5)	公園・児童遊園・広場 (9.2)	図書館 (7.3)
平成26年	高齢者福祉施設 (20.2)	スポーツ施設 (11.3)	児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設 (10.8)	公園・児童遊園・広場 (10.5)	図書館 (7.4)
平成25年	スポーツ施設 (14.2)	高齢者福祉施設 (13.6)	公園・児童遊園 (10.1)	健康センター・保健施設・医療施設、公共住宅 (各7.9)	
平成24年	高齢者福祉施設 (13.8)	スポーツ施設 (11.5)	健康センター・保健施設・医療施設、公園・児童遊園 (各9.6)		児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設 (9.5)
平成23年	スポーツ施設 (23.7)	図書館 (16.0)	公園・児童遊園 (8.6)	高齢者福祉施設 (7.6)	区営住宅 (4.6)
平成22年	スポーツ施設 (22.5)	図書館 (17.2)	高齢者福祉施設 (8.3)	公園・児童遊園 (6.6)	健康センター (4.3)
平成21年	スポーツ施設 (23.2)	図書館 (16.3)	高齢者福祉施設 (8.1)	公園・児童遊園 (7.7)	区営駐車場 (4.6)
平成20年	スポーツ施設 (22.6)	図書館 (17.3)	高齢者福祉施設 (9.1)	公園・児童遊園 (8.0)	健康センター、区営駐車場 (各4.9)
平成19年	スポーツ施設 (22.7)	図書館 (16.0)	公園・児童遊園 (8.5)	高齢者福祉施設 (8.0)	区営駐車場 (6.6)
平成18年	スポーツ施設 (27.0)	図書館 (16.3)	公園・児童遊園 (8.1)	区営駐車場 (7.8)	高齢者福祉施設 (7.2)
平成17年	スポーツ施設 (26.1)	図書館 (15.8)	健康センター (6.9)	区営駐車場 (6.9)	公園・児童遊園 (6.4)
平成16年	スポーツ施設 (21.5)	図書館 (15.7)	高齢者福祉施設 (8.7)	健康センター (7.0)	公園・児童遊園 (7.0)
平成15年	スポーツ施設 (20.8)	図書館 (13.9)	高齢者福祉施設 (11.5)	公園・児童遊園 (8.6)	区営駐車場 (6.9)
平成14年	スポーツ施設 (19.8)	図書館 (13.2)	高齢者福祉施設 (10.6)	区営駐車場 (8.4)	健康センター (5.9)
平成13年	スポーツ施設 (24.8)	図書館 (13.4)	高齢者福祉施設 (12.8)	区営駐車場 (12.4)	健康センター (11.1)
平成12年	スポーツ施設 (30.7)	図書館 (18.2)	文化会館 (13.3)	区営駐車場 (13.0)	高齢者福祉施設 (12.5)
平成11年	スポーツ施設 (26.1)	図書館 (16.3)	高齢者福祉施設 (14.7)	区営駐車場 (13.7)	健康センター (12.3)
平成10年	スポーツ施設 (31.2)	図書館 (16.0)	文化会館 (13.1)	健康センター (12.8)	区営駐車場 (11.8)
平成9年	スポーツ施設 (29.6)	図書館 (17.0)	区営駐車場 (14.6)	健康センター (12.9)	公園・児童遊園 (11.1)

注）平成 13 年以前の調査では「近くにあればよいと思う施設を最大２つまで」答えたものの割合を、平成 14 年～平成 23 年の調査では「もっとも近くにあればよい(第１位)」と答えた施設の割合を、平成 24 年からは「整備・充実すべき(第１位)」と答えた施設の割合をまとめたものである。

性・年代別にみると、「公園・児童遊園・広場」は男性30歳代(65.5%)が６割台半ばと最も高く、次いで女性30歳代(58.7%)が６割近くと高くなっている。「スポーツ施設」は男性18～29歳(63.1%)が６割台半ば近くと高くなっている。「高齢者福祉施設」は女性75歳以上(56.7%)が５割台半ば超えと最も高くなっている。「児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設」は女性30歳代(48.3%)が５割近くと最も高くなっている。「公共駐車場・公共駐輪場」は男性60～64歳(21.1%)が２割強と最も高くなっている。(図５－１－３)

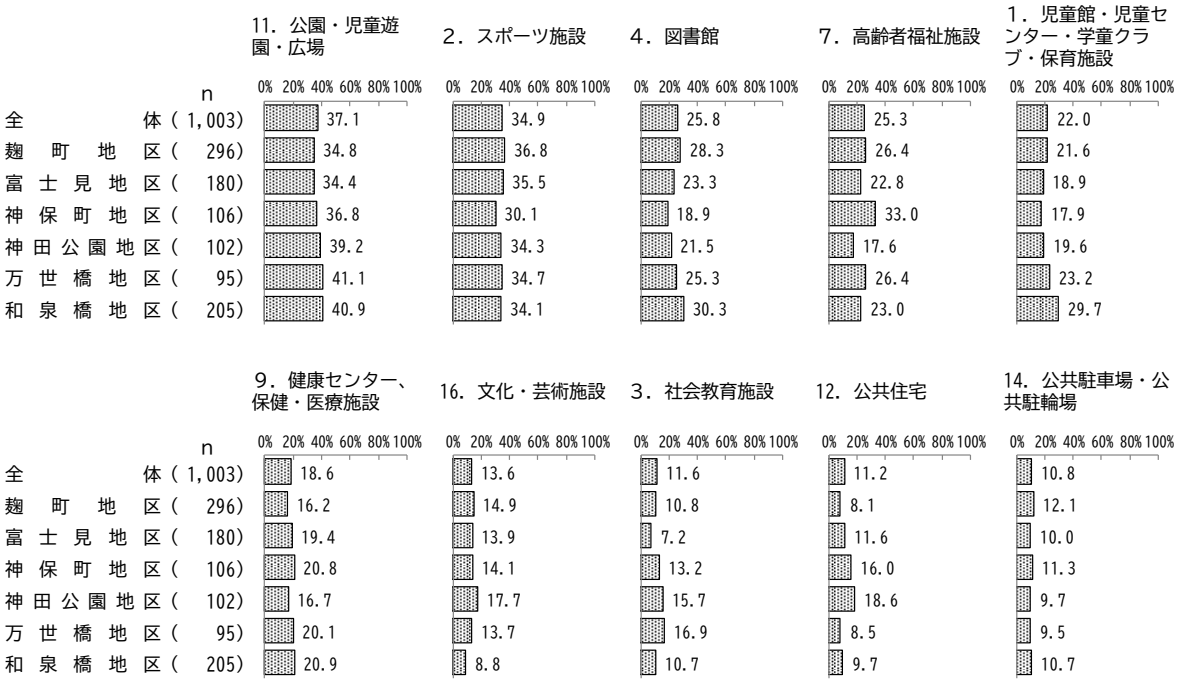
図５－１－３ 整備・充実すべき施設（性・年代別）－上位10施設－





地区別にみると、「高齢者福祉施設」は神保町地区(33.0%)が３割台半ば近くと最も高くなっている。また、「児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設」は和泉橋地区(29.7%)で３割弱、「社会教育施設」では、万世橋地区(16.9%)が１割台半ば超え、「公共住宅」では、神田公園地区(18.6%)が２割近くと最も高くなっている。(図５－１－４)

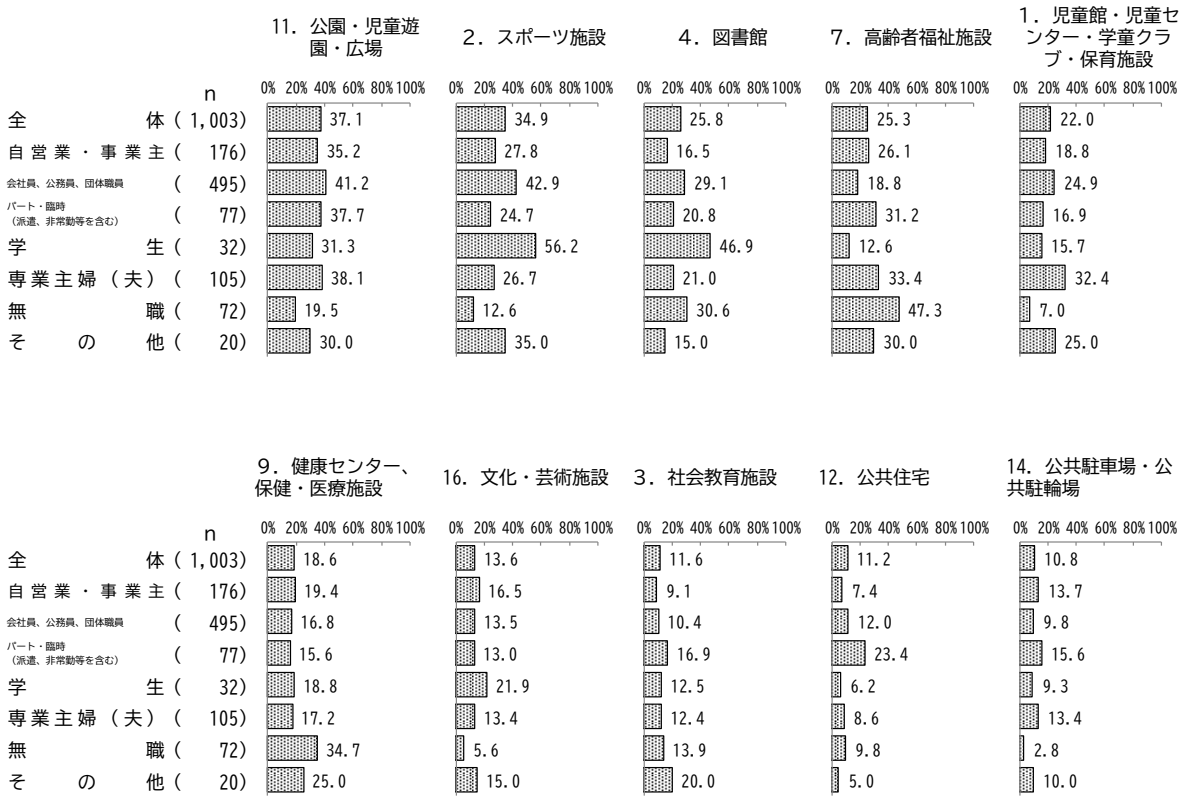
図５－１－４ 整備・充実すべき施設（地区別）－上位10施設－



職業別にみると、「スポーツ施設」は学生(56.2%)が５割台半ば超えと最も高くなっている。また、「図書館」は学生(46.9%)が４割台半ば超えと最も高くなっている。

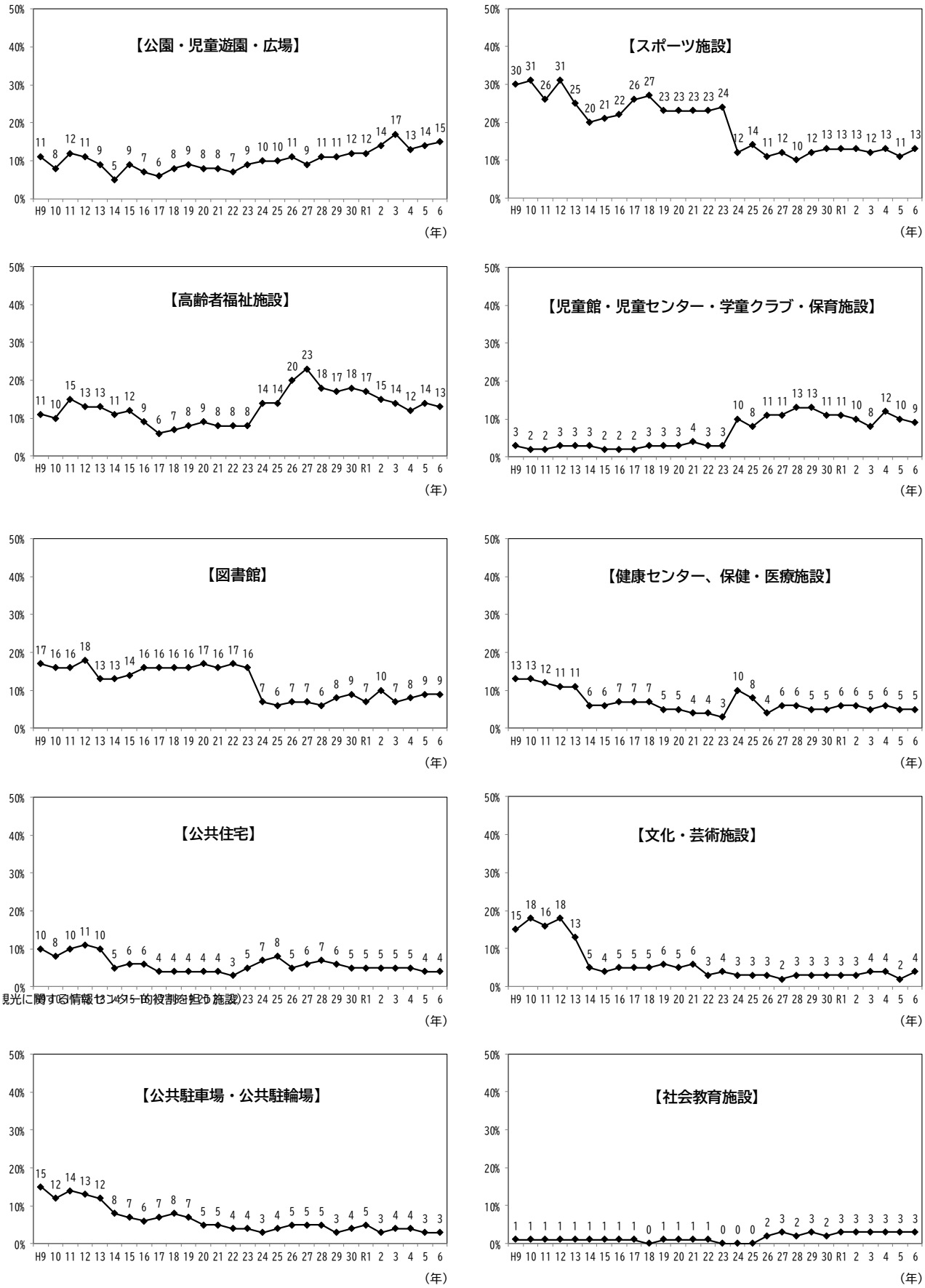
（図５－１－５）

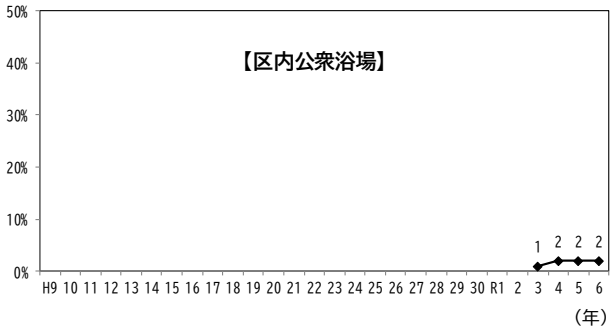
図５－１－５ 整備・充実すべき施設（職業別）－上位10施設－

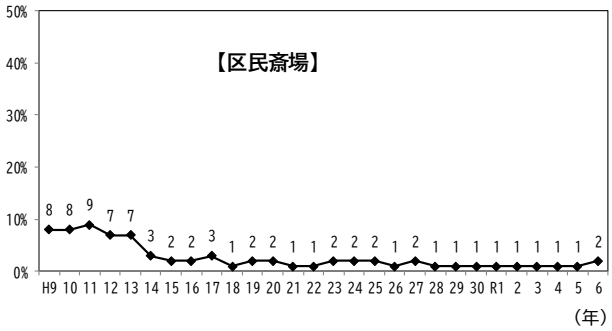


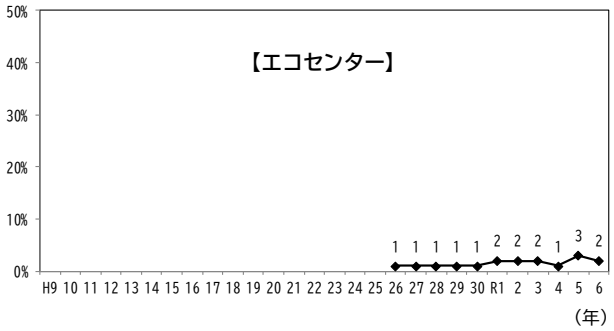
施設別に経年比較をみると、「図書館」は令和３年以降増加傾向がみられ、「公園・児童遊園・広場」は令和４年度以降、増加傾向がみられる。（図５－１－６）

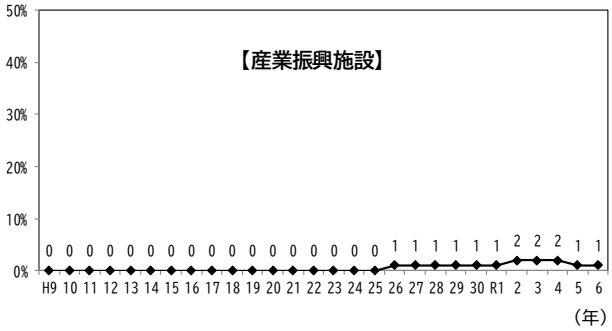
図５－１－６ 整備・充実すべき施設（第１位）－施設別経年比較－

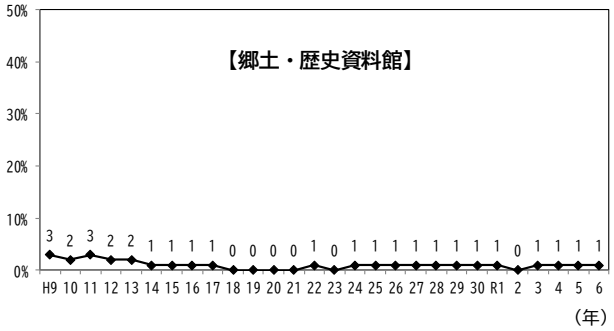


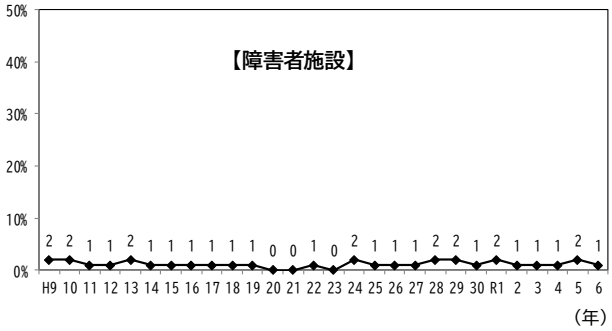


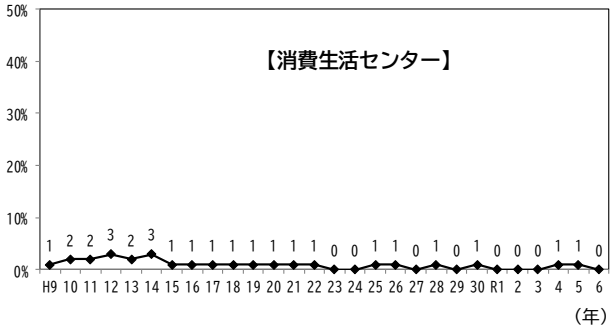


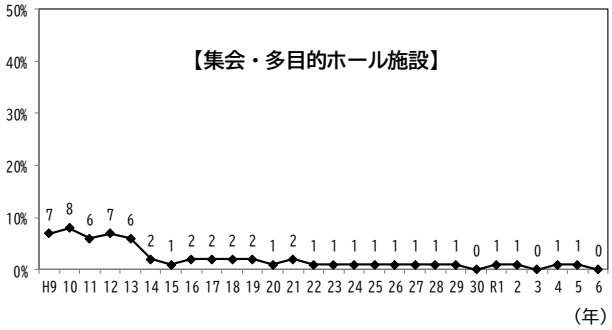


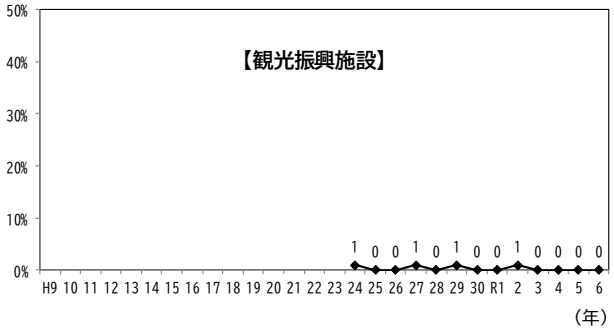












注）比率は四捨五入している。「０」は[0.4%以下]であることを示す。選択肢の文言は年度により異なる場合がある。

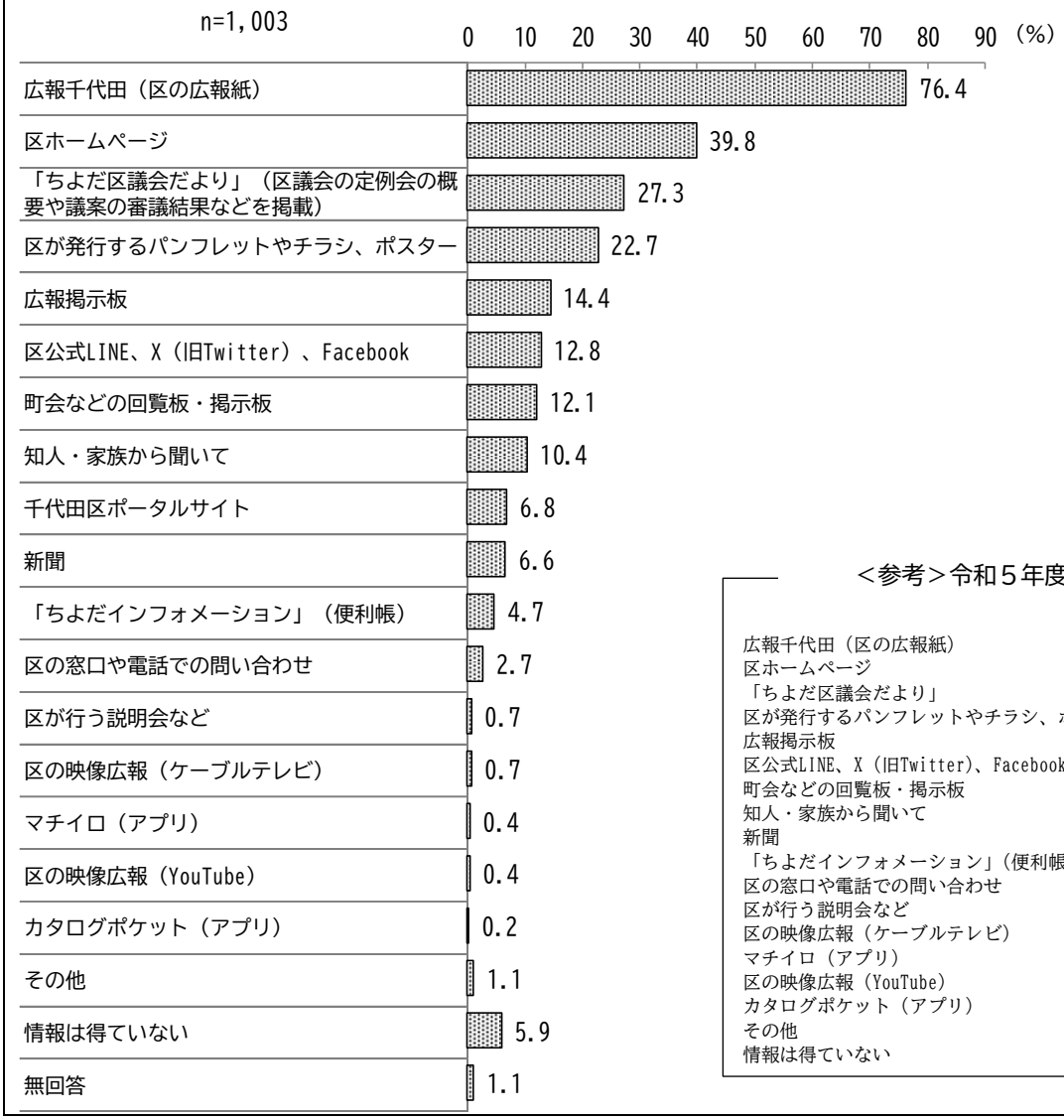
６．広報活動

（１）区政情報の取得媒体

◇「広報千代田（区の広報紙）」が７割台半ば超え

問８　あなたは区に関する情報をどこから得ていますか。次の中から当てはまるものを選んでください。（○はいくつでも）

図６－１－１　区政情報の取得媒体



＜参考＞令和５年度結果

広報千代田（区の広報紙）	77.9%
区ホームページ	41.1%
「ちよだ区議会だより」	27.3%
区が発行するパンフレットやチラシ、ポスター	20.0%
広報掲示板	14.4%
区公式LINE、X（旧Twitter）、Facebook	15.0%
町会などの回覧板・掲示板	12.8%
知人・家族から聞いて	14.9%
新聞	6.8%
「ちよだインフォメーション」（便利帳）	5.6%
区の窓口や電話での問い合わせ	4.9%
区が行う説明会など	0.1%
区の映像広報（ケーブルテレビ）	1.5%
マチイロ（アプリ）	0.3%
区の映像広報（YouTube）	0.9%
カタログポケット（アプリ）	0.1%
その他	1.6%
情報は得ていない	2.3%

区政情報の取得媒体について聞いたところ、「広報千代田（区の広報紙）」(76.4%)が７割台半ば超えと最も高く、次いで「区ホームページ」(39.8%)が４割弱、「ちよだ区議会だより」(区議会の定例会の概要や議案の審議結果などを掲載)」(27.3%)が２割台半ば超え、「区が発行するパンフレットやチラシ、ポスター」(22.7%)が２割強と高くなっている。(図６－１－１)

図６－１－２ 広報千代田・区ＨＰ・区ＳＮＳからの情報取得状況の分布イメージ

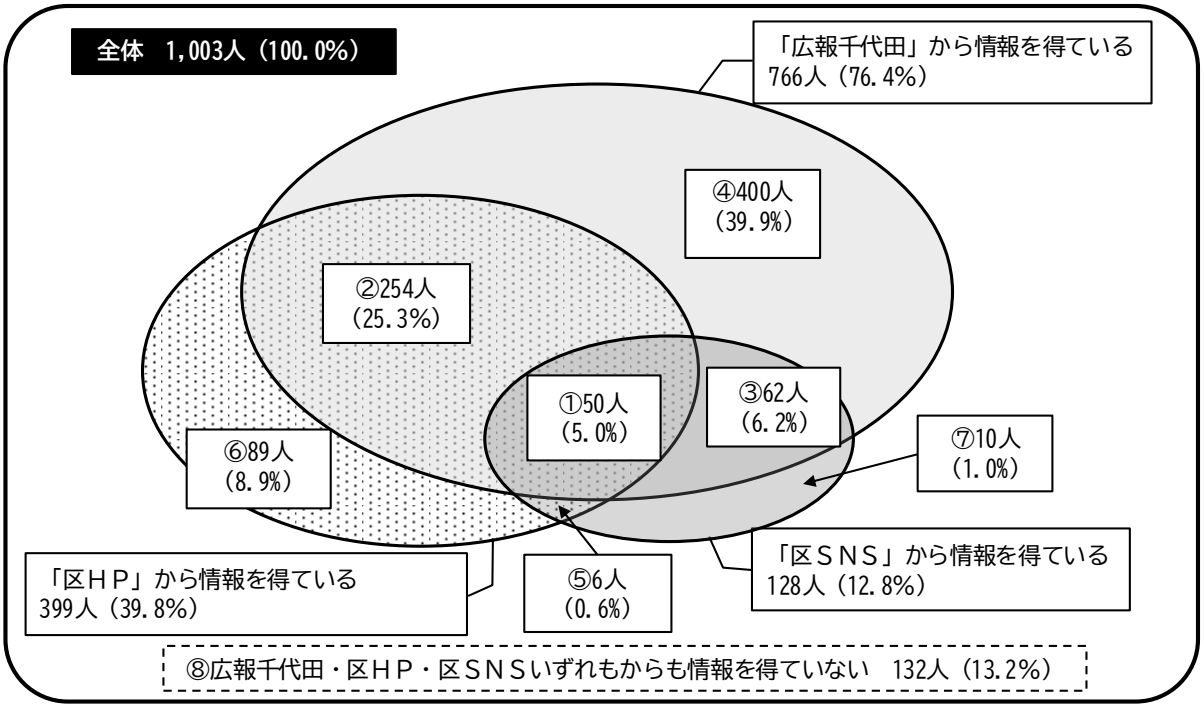


図６－１－３ 広報千代田・区ＨＰ・区ＳＮＳからの情報取得状況の分布表（図６－１－２ 凡例）

	広報千代田	区ＨＰ	区ＳＮＳ	人数	割合
広報千代田から情報を得ている（他から情報を得ることもある）	情報を得ている	－	－	766人	76.4%
区ＨＰから情報を得ている（他から情報を得ることもある）	－	情報を得ている	－	399人	39.8%
区ＳＮＳから情報を得ている（他から情報を得ることもある）	－	－	情報を得ている	128人	12.8%
① 広報千代田・区ＨＰ・区ＳＮＳから情報を得ている	情報を得ている	情報を得ている	情報を得ている	50人	5.0%
② 広報千代田・区ＨＰから情報を得ている	情報を得ている	情報を得ている	情報を得ていない	254人	25.3%
③ 広報千代田・区ＳＮＳから情報を得ている	情報を得ている	情報を得ていない	情報を得ている	62人	6.2%
④ 広報千代田のみから情報を得ている	情報を得ている	情報を得ていない	情報を得ていない	400人	39.9%
⑤ 区ＨＰ・区ＳＮＳから情報を得ている	情報を得ていない	情報を得ている	情報を得ている	6人	0.6%
⑥ 区ＨＰのみから情報を得ている	情報を得ていない	情報を得ている	情報を得ていない	89人	8.9%
⑦ 区ＳＮＳのみから情報を得ている	情報を得ていない	情報を得ていない	情報を得ている	10人	1.0%
⑧ 広報千代田・区ＨＰ・区ＳＮＳいずれからも情報を得ていない	情報を得ていない	情報を得ていない	情報を得ていない	132人	13.2%
合　計				1,003人	100.0%

問８で選択肢「広報千代田（区の広報紙)」、「区ホームページ」、「区公式LINE、X（旧Twitter)、Facebook」の３つの広報メディアからの情報取得の有無によって分類し、ベン図（図６－１－２）と表（図６－１－３）に示した。

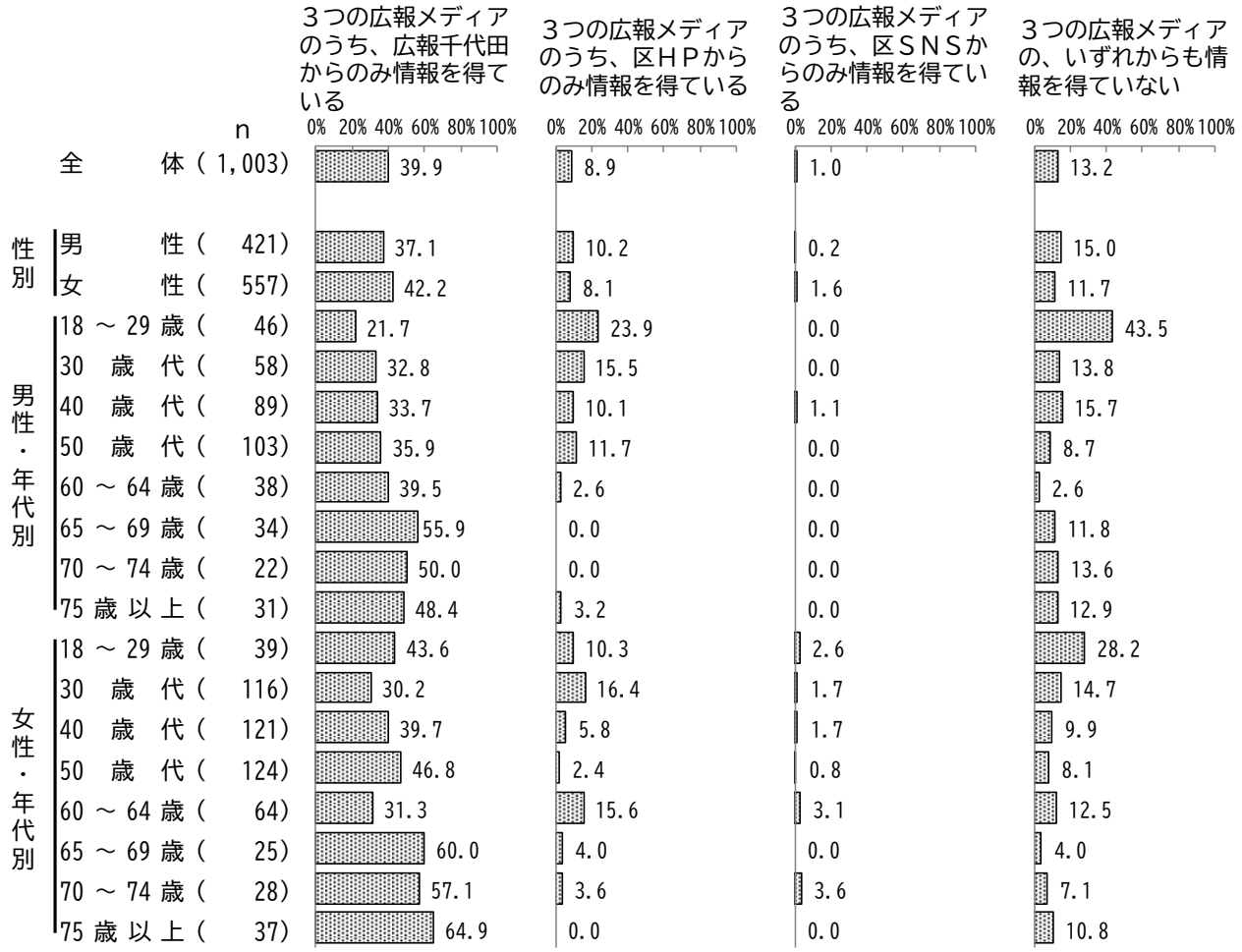
なお、ベン図で表現する際の略称として「広報千代田（区の広報紙)」を“広報千代田”、「区ホームページ」を“区ＨＰ”、「区公式LINE、X（旧Twitter)、Facebook」を“区ＳＮＳ”と記載している。

３つの広報メディアすべてから区政情報を取得している方は5.0%(50人)で、「広報千代田」のみを利用している方は39.9%(400人)と最も多くなっている。「広報千代田」と「区ホームページ」の２つを利用している方は25.3%(254人)となっている。一方で、３つの広報メディアいずれからも情報を取得していない方は13.2%(132人)となっている。

（図６－１－２、図６－１－３）

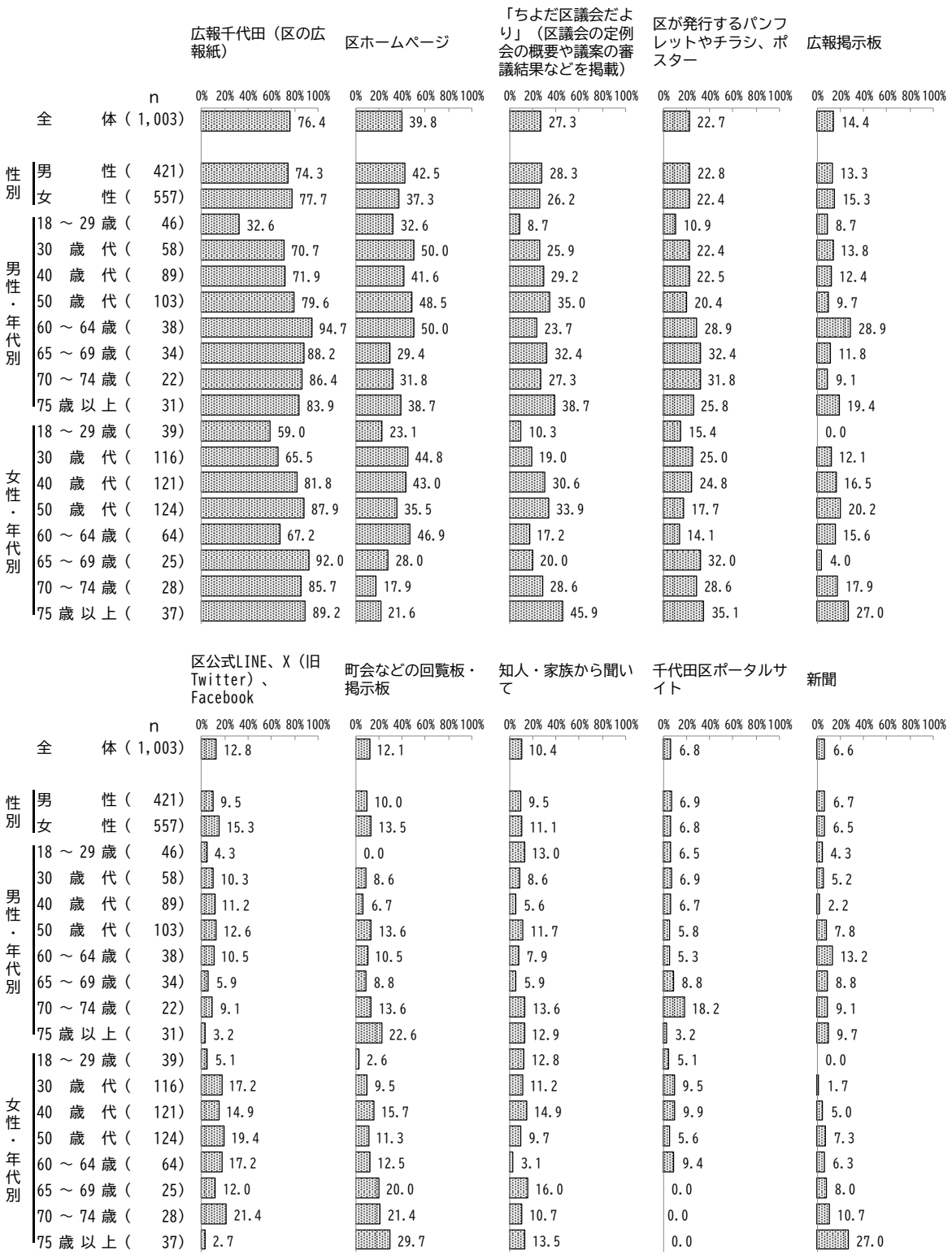
性・年代別にみると、「３つの広報メディアのうち、広報千代田からのみ情報を得ている」は女性75歳以上(64.9%)が６割台半ば近くと高くなっている。また、「３つの広報メディアのうち、区のホームページからのみ情報を得ている」は男性18～29歳(23.9%)が２割台半ば近くと高くなっている。一方で、「３つの広報メディアの、いずれからも情報を得ていない」は男性18～29歳(43.5%)が４割台半ば近くと高くなっている。(図６－１－４)

図６－１－４ 広報千代田・区ＨＰ・区ＳＮＳからの情報取得状況（性・年代別）



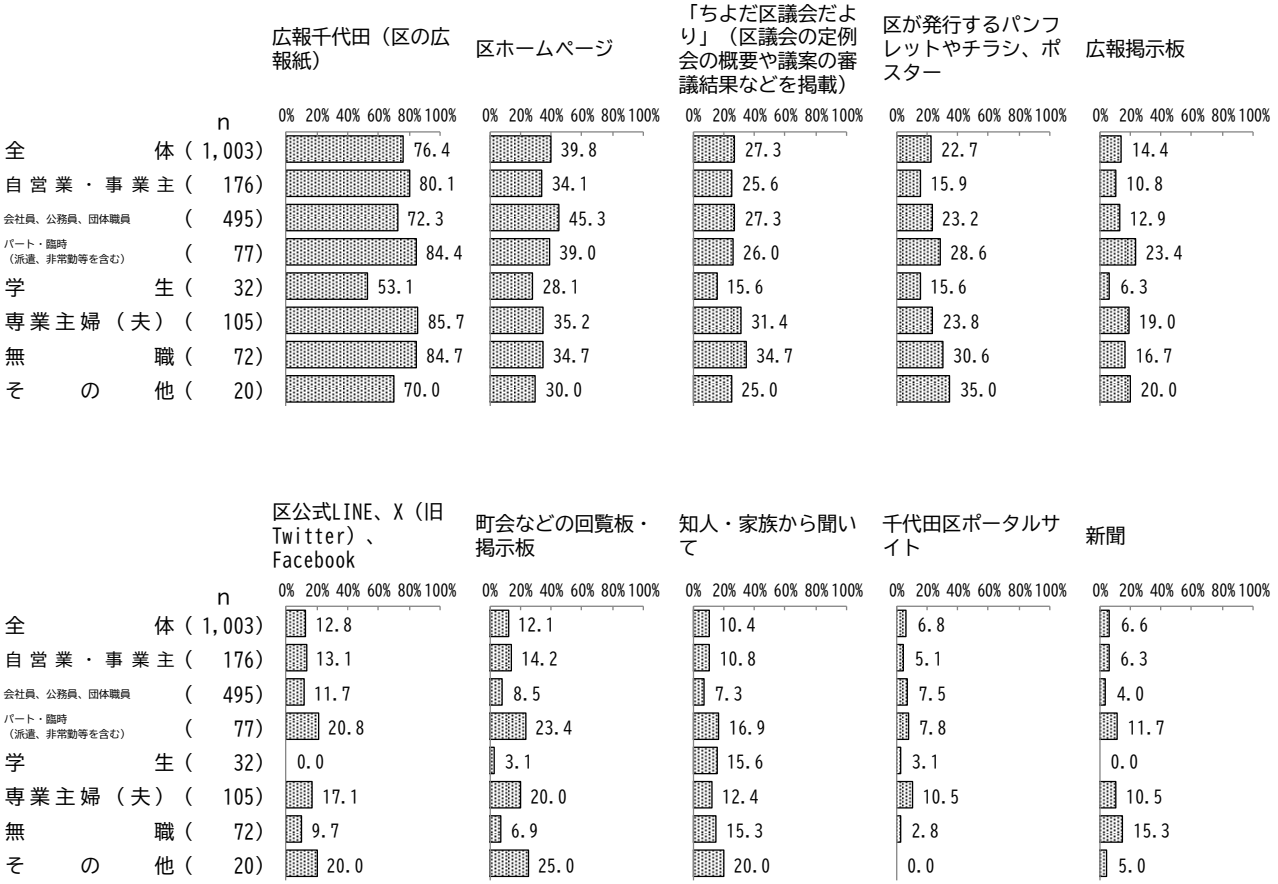
性・年代別にみると、「広報千代田（区の広報誌）」は男性60～64歳(94.7%)が９割台半ば近くと最も高くなっている。「ちよだ区議会だより（区議会の定例会の概要や議案の審議結果などを掲載）」は女性75歳以上(45.9%)が４割台半ばと最も高くなっている。「新聞」は女性75歳以上(27.0%)が２割台半ば超えと最も高くなっている。（図６－１－５）

図６－１－５ 区政情報の取得媒体（性・年代別）―上位10回答―



職業別にみると、「広報千代田」は専業主婦（夫）(85.7%)が８割台半ばと最も高く、次いで無職(84.7%)、パート・臨時（派遣、非常勤等を含む）(84.4%)が８割台半ば近くと高くなっている。また、「区が発行するパンフレットやチラシ、ポスター」は無職(30.6%)が約３割、「広報掲示板」はパート・臨時（派遣、非常勤等を含む）(23.4%)が２割台半ば近く、「区公式LINE、X（旧Twitter)、Facebook」はパート・臨時（派遣、非常勤等を含む）(20.8%)が約２割、「町会などの回覧板・掲示板」はパート・臨時（派遣、非常勤等を含む）(23.4%)が２割台半ば近くと最も高くなっている。(図６－１－６)

図６－１－６ 区政情報の取得媒体（職業別）―上位10回答―

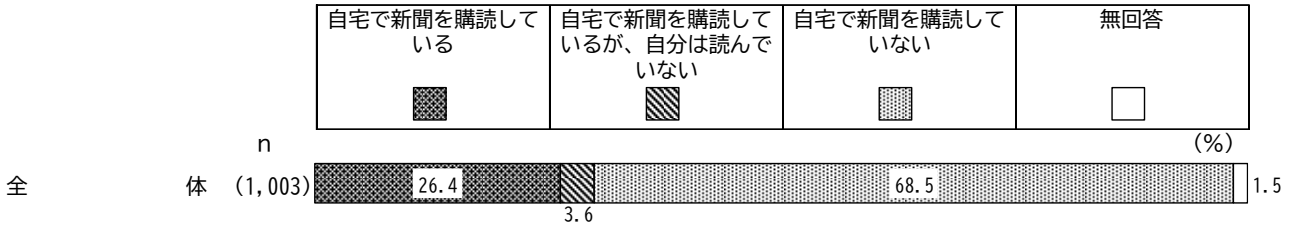


（２）新聞購読の有無

◇「自宅で新聞を購読していない」が７割近く

問９　あなたは自宅で新聞購読していますか（電子版を除く）。（○は１つ）

図６－２－１　新聞購読の有無

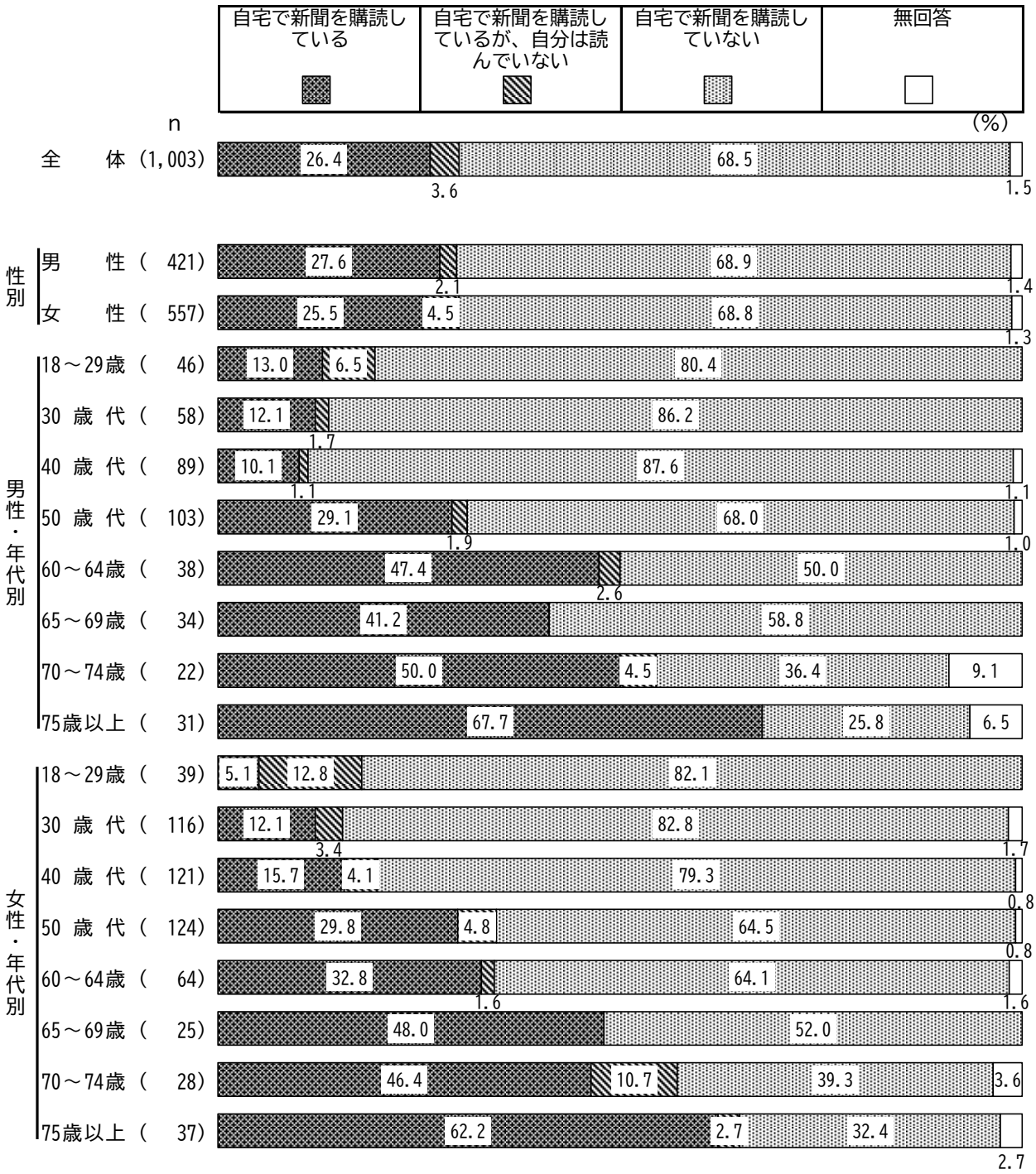


新聞購読の有無について聞いたところ、「自宅で新聞を購読していない」(68.5%)が７割近くと最も高く、次いで「自宅で新聞を購読している」(26.4%)が２割台半ば超えと高くなっている。（図６－２－１）

性・年代別にみると、「自宅で新聞を購読している」は男性75歳以上(67.7%)が６割台半ば超えと最も高くなっており、次いで女性75歳以上(62.2%)が６割強で５割、女性65～69歳(48.0%)が５割近く、男性60～64歳(47.4%)が４割台半ば超えと高くなっている。

（図６－２－２）

図６－２－２ 新聞購読の有無（性・年代別）

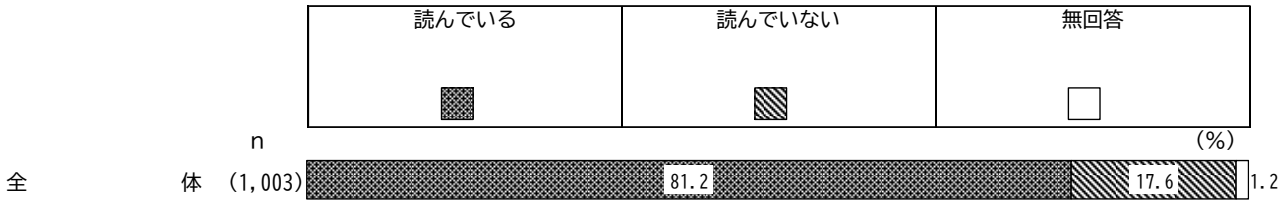


（３）広報千代田の閲読の有無

◇「読んでいる」が８割強

問10　あなたは「広報千代田」を読んでいますか。（○は１つ）

図６－３－１ 広報千代田の閲読の有無

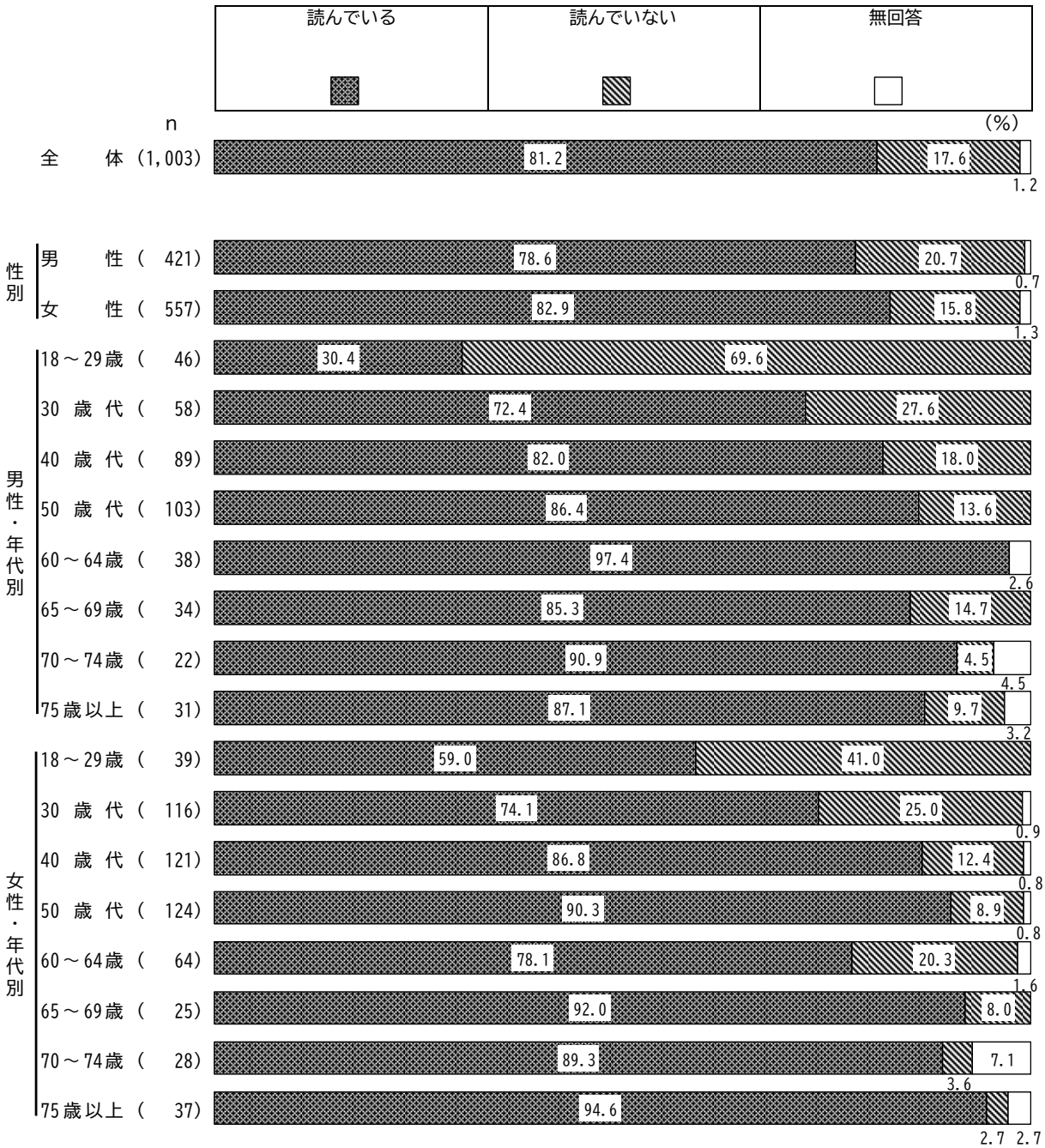


広報千代田の閲読の有無について聞いたところ、「読んでいる」(81.2%)が８割強と高くなっている。一方で、「読んでいない」(17.6%)が１割台半ば超えとなっている。

（図６－３－１）

性・年代別にみると、「読んでいない」は男性18～29歳(69.6%)が７割弱と最も高くなっており、女性18～29歳(41.0%)が４割強と高くなっている。一方で、「読んでいる」は男性60～64歳(97.4%)が９割台半ば超えと最も高く、次いで、女性75歳以上(94.6%)が９割台半ば近く、女性65～69歳(92.0%)が９割強と高くなっている。(図６－３－２)

図６－３－２ 広報千代田の閲読の有無（性・年代別）



〈参考〉令和５年度結果（「読んでいる」と回答した人の割合）

男性18～29歳	・・・ 56.1%	女性18～29歳	・・・ 52.9%
男性30歳代	・・・ 68.4%	女性30歳代	・・・ 76.9%
男性40歳代	・・・ 81.2%	女性40歳代	・・・ 89.5%
男性50歳代	・・・ 90.0%	女性50歳代	・・・ 88.0%
男性60～64歳	・・・ 93.1%	女性60～64歳	・・・ 93.1%
男性65～69歳	・・・ 94.1%	女性65～69歳	・・・ 100.0%
男性70～74歳	・・・ 94.1%	女性70～74歳	・・・ 97.0%
男性75歳以上	・・・ 93.8%	女性75歳以上	・・・ 90.0%

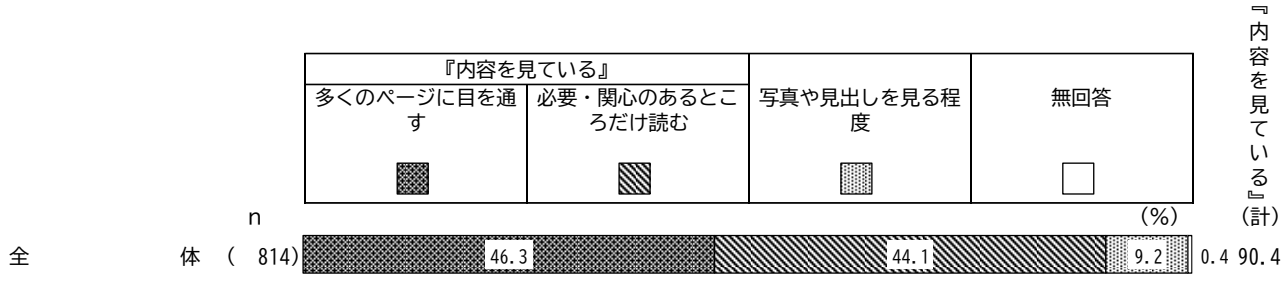
（３－１）広報千代田の閲読状況

◇「多くのページに目を通す」が４割台半ば超え

（問10で「１.読んでいる」とお答えの方に）

問10－１　あなたは「広報千代田」をどの程度読んでいますか。（○は１つ）

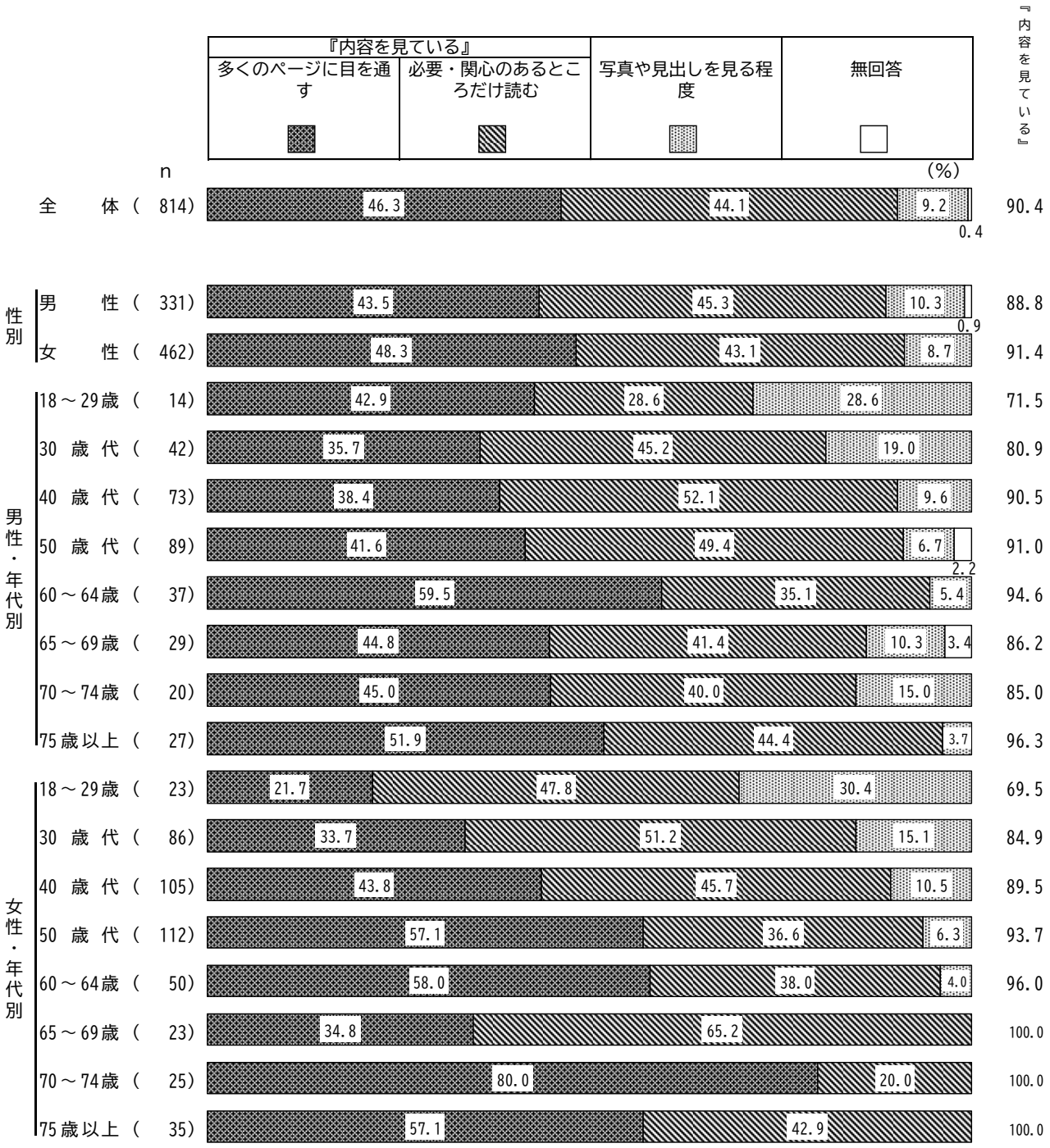
図６－３－３ 広報千代田の閲読状況



広報千代田の閲読状況について聞いたところ、「多くのページに目を通す」(46.3%)が４割台半ば超えと最も高く、「必要・関心のあるところだけ読む」(44.1%)を合わせた『内容を見ている』(90.4%)が約９割となっている。（図６－３－３）

性・年代別にみると、「多くのページに目を通す」は女性70～74歳(80.0%)で８割と最も高くなっている。「必要・関心のあるところだけ読む」は女性65～69歳(65.2%)が６割台半ばと最も高くなっている。「写真や見出しを見る程度」は女性18～29歳(30.4%)で約３割と最も高くなっている。(図６－３－４)

図６－３－４ 広報千代田の閲読状況（性・年代別）



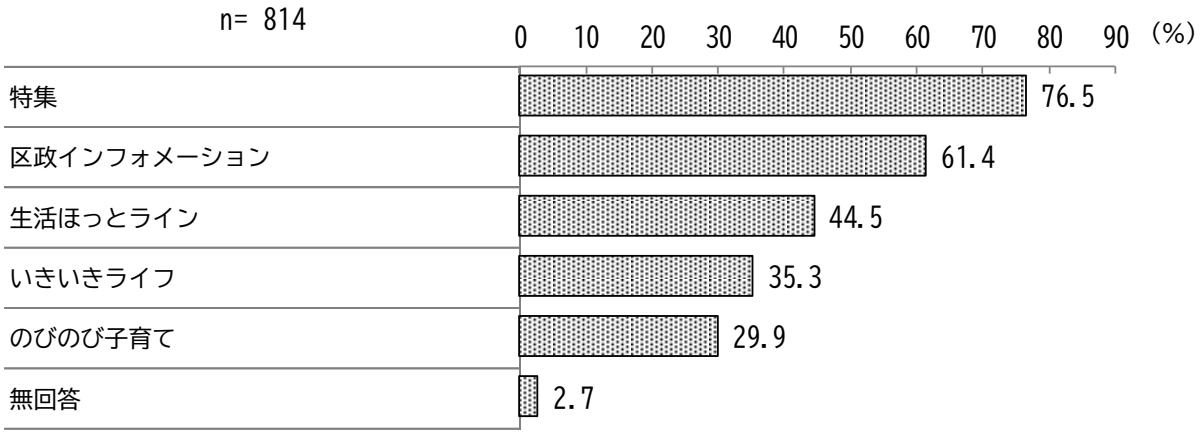
（３－２）広報千代田の閲読内容

◇「特集」が７割台半ば超え

（問10で「１.読んでいる」とお答えの方に）

問10－２　あなたは「広報千代田」でどのコーナーを読んでいますか。（○はいくつでも）

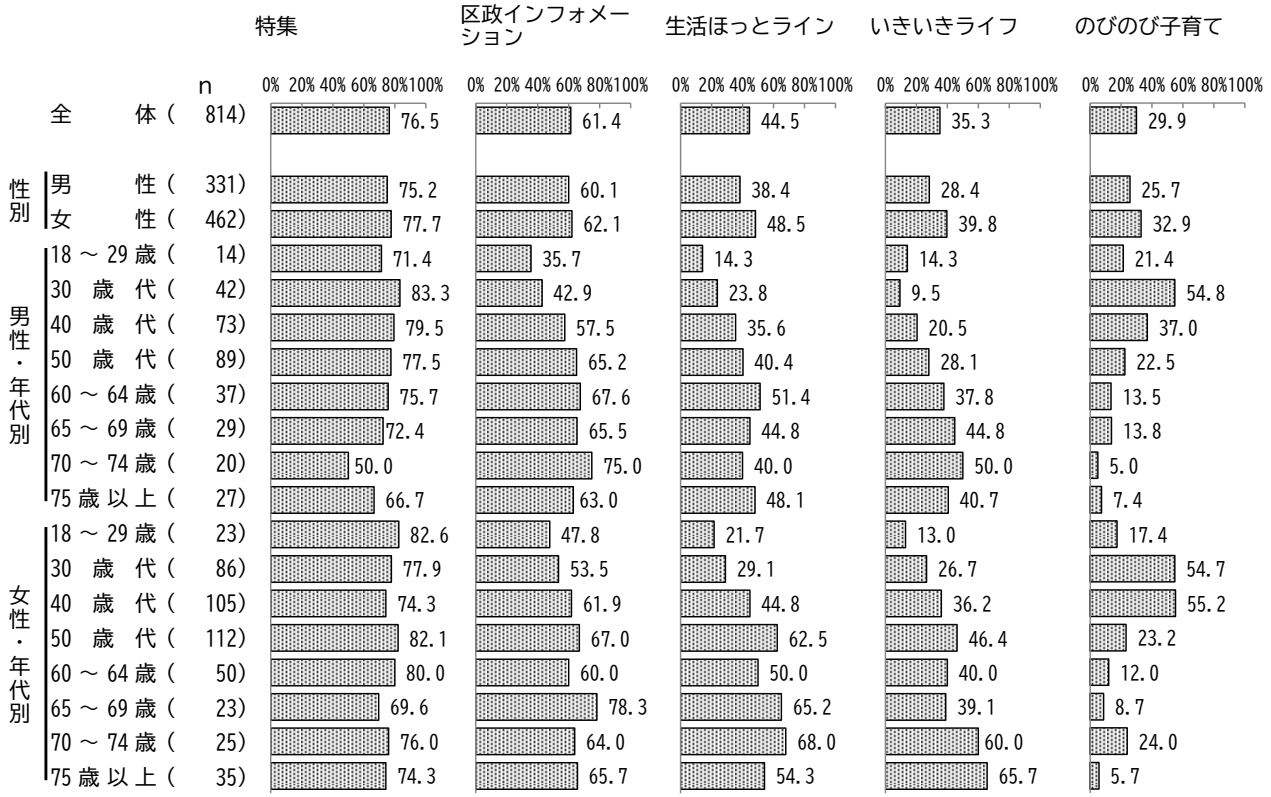
図６－４－１　広報千代田の閲読内容



広報千代田の閲読内容について聞いたところ、「特集」(76.5%)が７割台半ば超えと最も高く、次いで「区政インフォメーション」(61.4%)が６割強、「生活ほっとライン」(44.5%)が４割台半ば近く、「いきいきライフ」(35.3%)が３割台半ば、「のびのび子育て」(29.9%)が３割弱となっている。(図６－４－１)

性・年代別にみると、「いきいきライフ」は女性75歳以上(65.7%)が６割台半ばと最も高くなっており、次いで女性70～74歳(60.0%)で６割と高くなっている。「のびのび子育て」は女性40歳代(55.2%)が５割台半ばと最も高くなっており、男性30歳代(54.8%)が５割台半ば近く、女性30歳代(54.7%)が５割台半ば近くと高くなっている。「生活ほっとライン」は女性70～74歳(68.0%)が７割近くと最も高くなっている。(図６－４－２)

図６－４－２ 広報千代田の閲読内容（性・年代別）

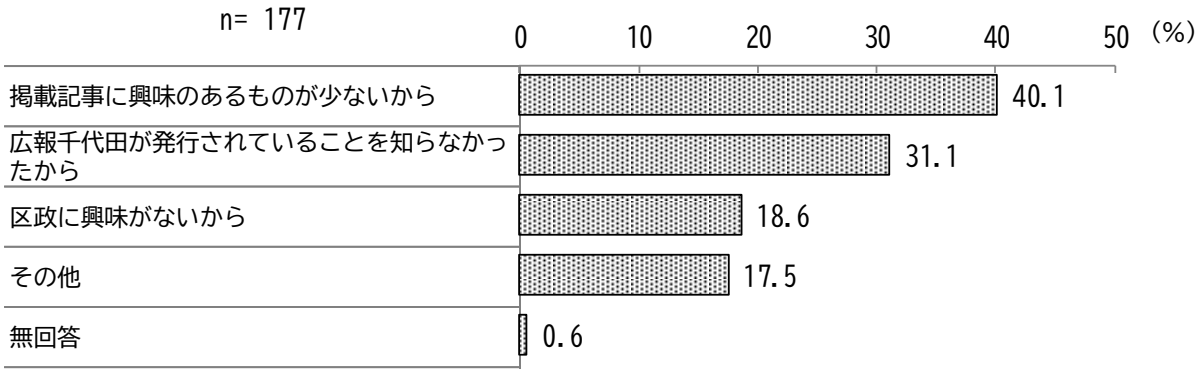


（３－３）広報千代田を読んでいない理由

◇「掲載記事に興味のあるものが少ないから」が約４割

（問10で「２．読んでいない」とお答えの方に）
問10－３　読んでいない理由は何ですか。（○はいくつでも）

図６－５－１ 広報千代田を読んでいない理由



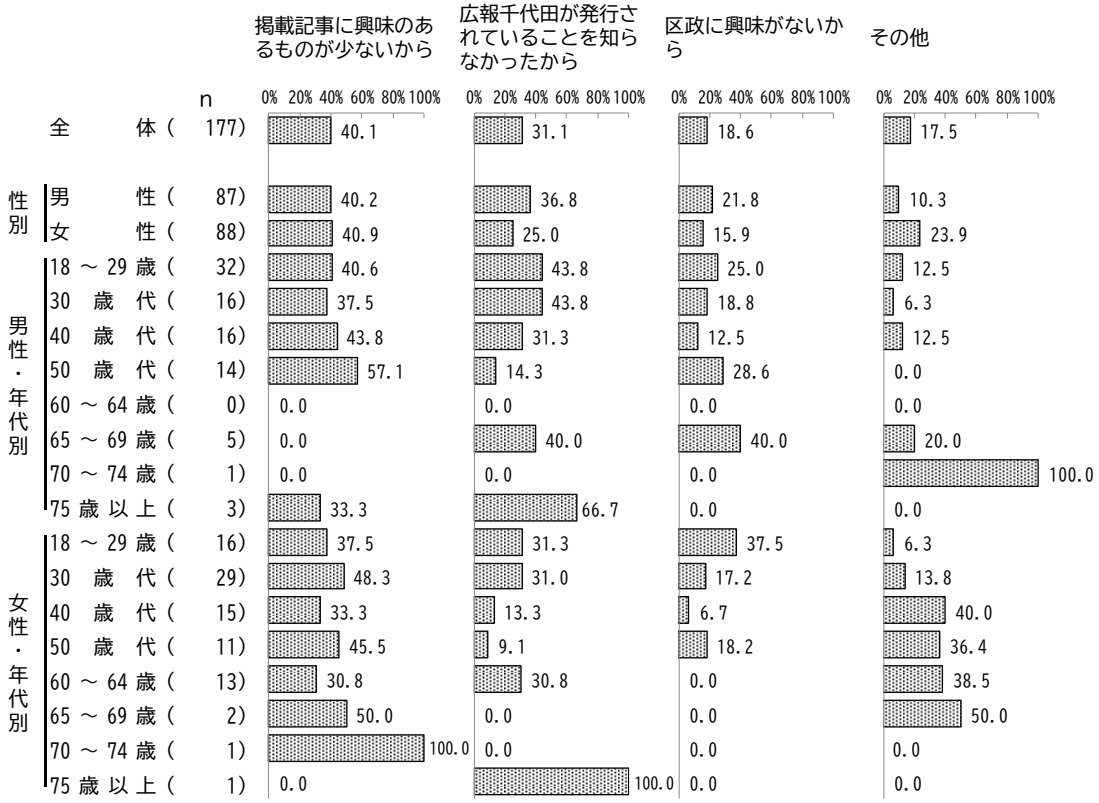
広報千代田を読んでいない理由について聞いたところ、「掲載記事に興味のあるものが少ないから」(40.1%)が約４割と最も高く、次いで「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」(31.1%)が３割強と高くなっている。

「その他」(17.5%)の具体的な理由として、「気付いたときには捨てられている」、「何が掲載されているかを知らない」といった意見がみられた。また、理由以外に「デジタル化して検索可とすること」への要望も見られた。（図６－５－１）

性・年代別にみると、「掲載記事に興味のあるものが少ないから」は男性50歳代(57.1%)が５割台半ば超えと高くなっている。「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」は男性18～30歳代(43.8%)が４割台半ば近くと高くなっている。また、「区政に興味がないから」は女性18～29歳(37.5%)が３割台半ば超えと高くなっている。

（図６－５－２）

図６－５－２ 広報千代田を読んでいない理由（性・年代別）



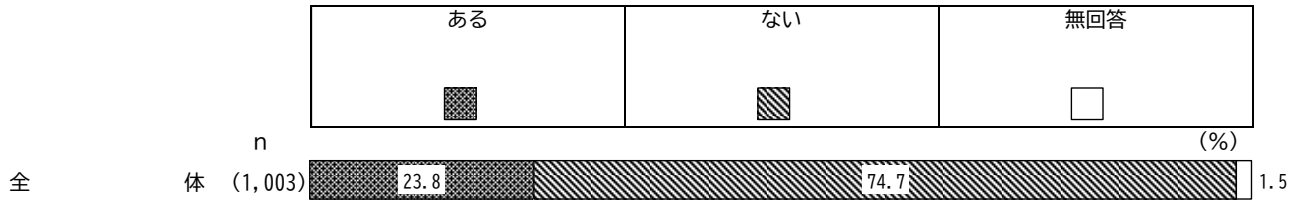
７．区政情報の把握

（１）東京ケーブルネットワークの視聴環境の有無

◇「ない」が７割台半ば近く

問11　区では東京ケーブルネットワークの「ちよだ11チャンネル」で番組を放送しています。あなたは現在自宅で東京ケーブルネットワークの番組を見られる環境にありますか。（○は１つ）

図７－１－１　東京ケーブルネットワークの視聴環境の有無

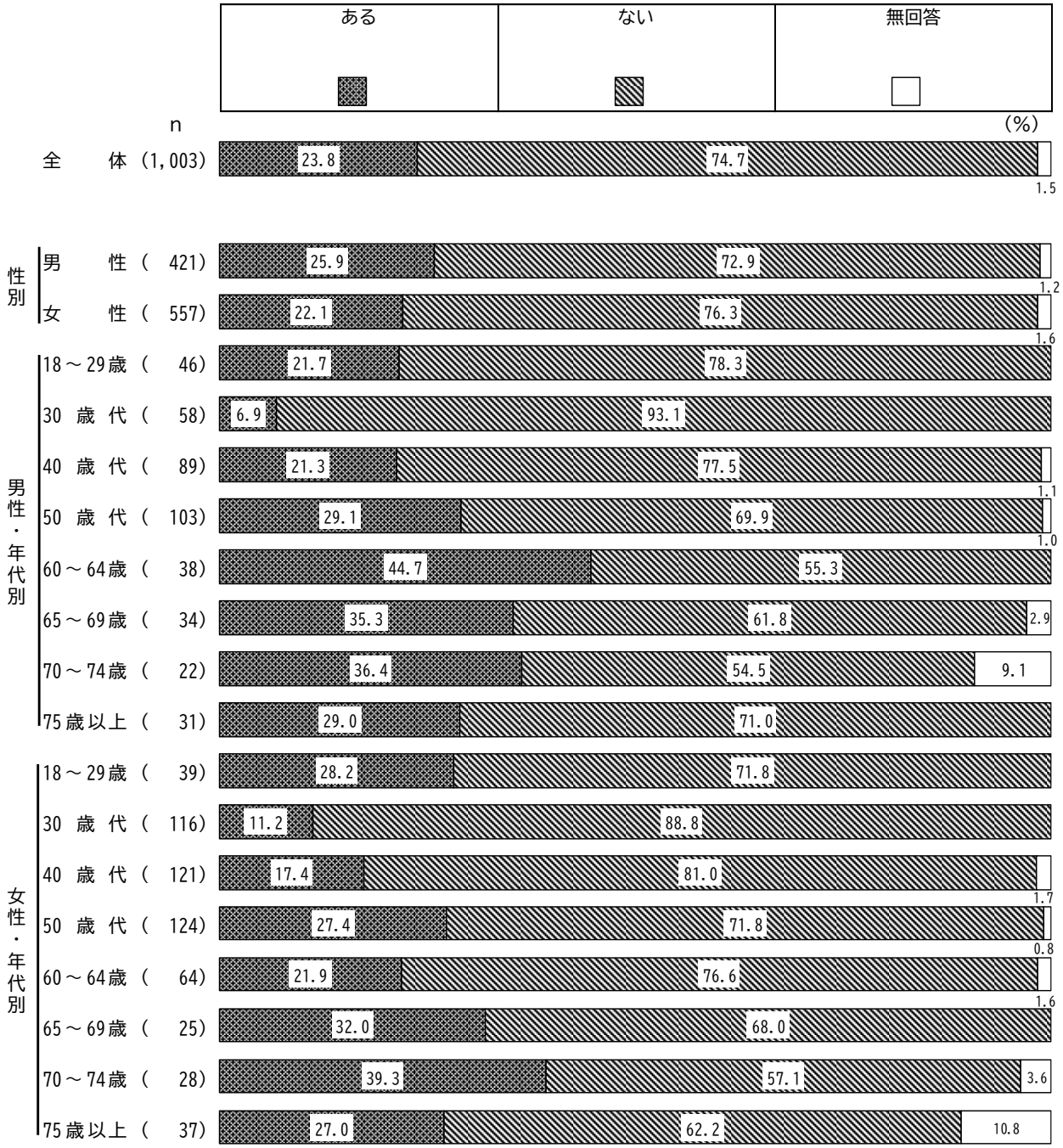


東京ケーブルネットワークの視聴環境の有無について聞いたところ、「ない」(74.7%)が７割台半ば近くと高く、一方で、「ある」(23.8%)が２割台半ば近くとなっている。

（図７－１－１）

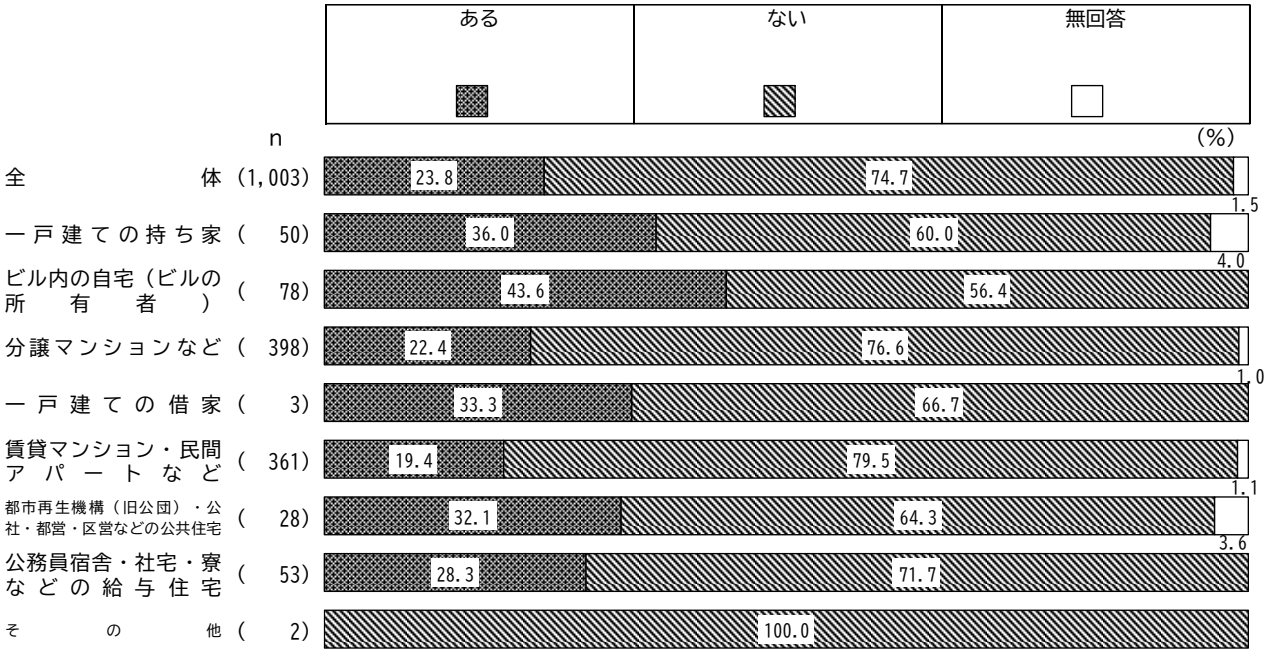
性・年代別にみると、「ある」は男性60～64歳(44.7%)が４割台半ば近くと最も高くなっている。(図７－１－２)

図７－１－２ 東京ケーブルネットワークの視聴環境の有無（性・年代別）



住居形態別にみると、「ある」はビル内の自宅（ビルの所有者）(43.6%)が４割台半ば近くと最も高くなっている。(図７－１－３)

図７－１－３ 東京ケーブルネットワークの視聴環境の有無（住居形態別）

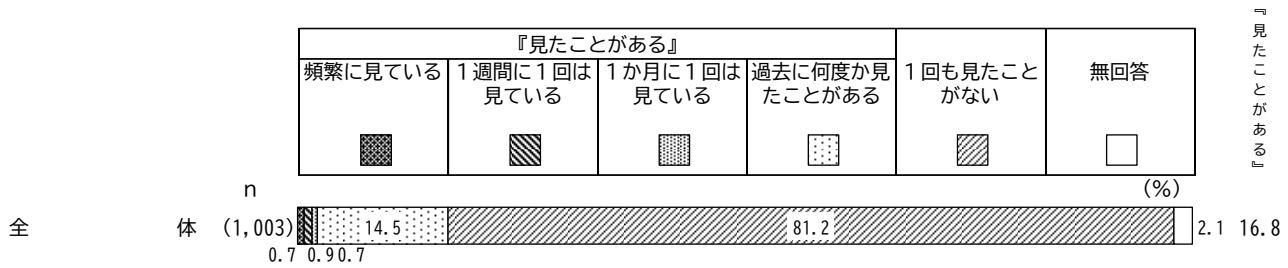


（２）区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験

◇「１回も見たことがない」が８割強

問12　あなたはこれまで、東京ケーブルネットワークの「ちよだ11チャンネル」で区が制作した番組を自宅で見たことがありますか。（○は１つ）

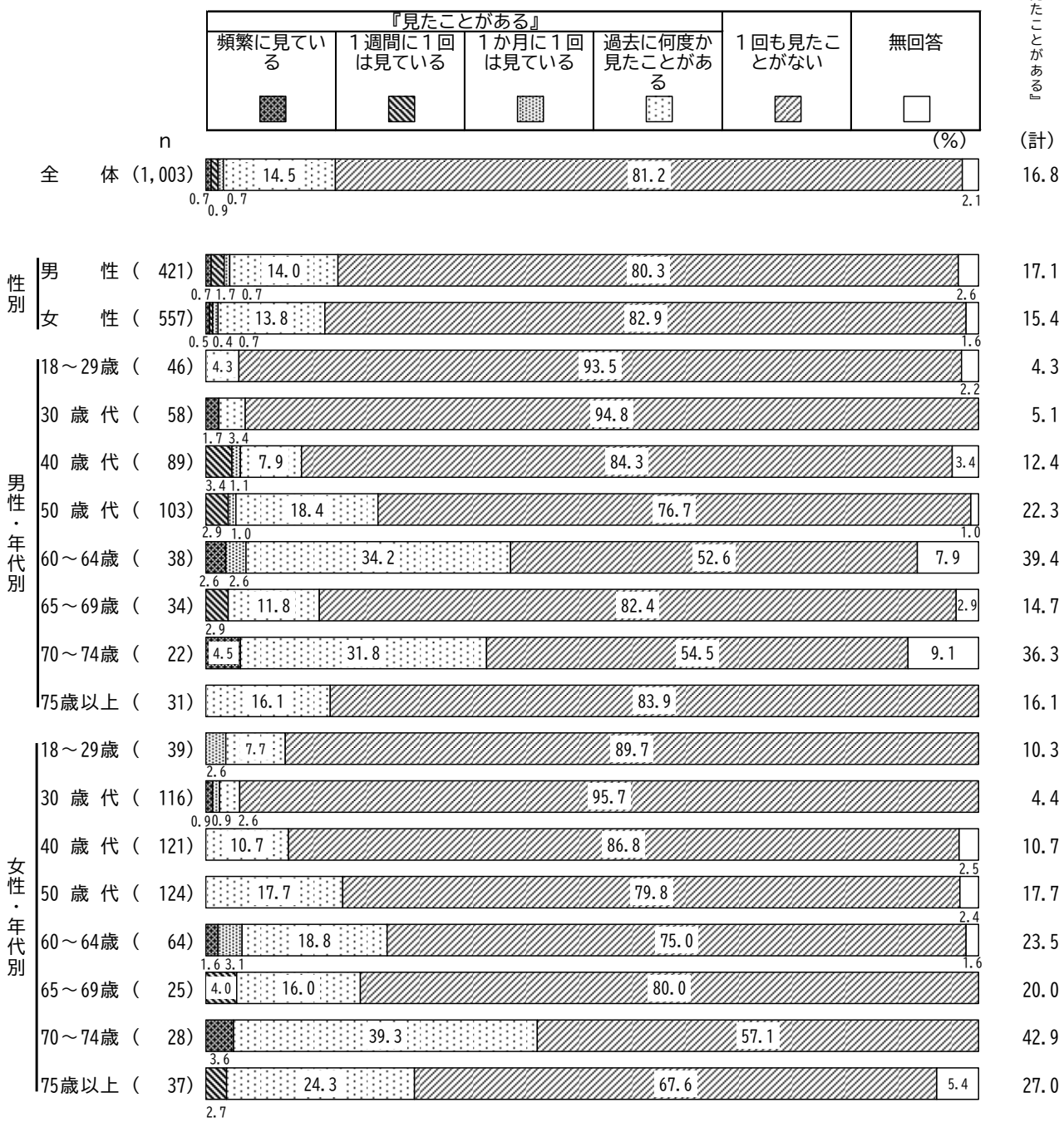
図７－２－１　区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験



区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験について聞いたところ、「１回も見たことがない」(81.2%)が８割強と最も高くなっている。（図７－２－１）

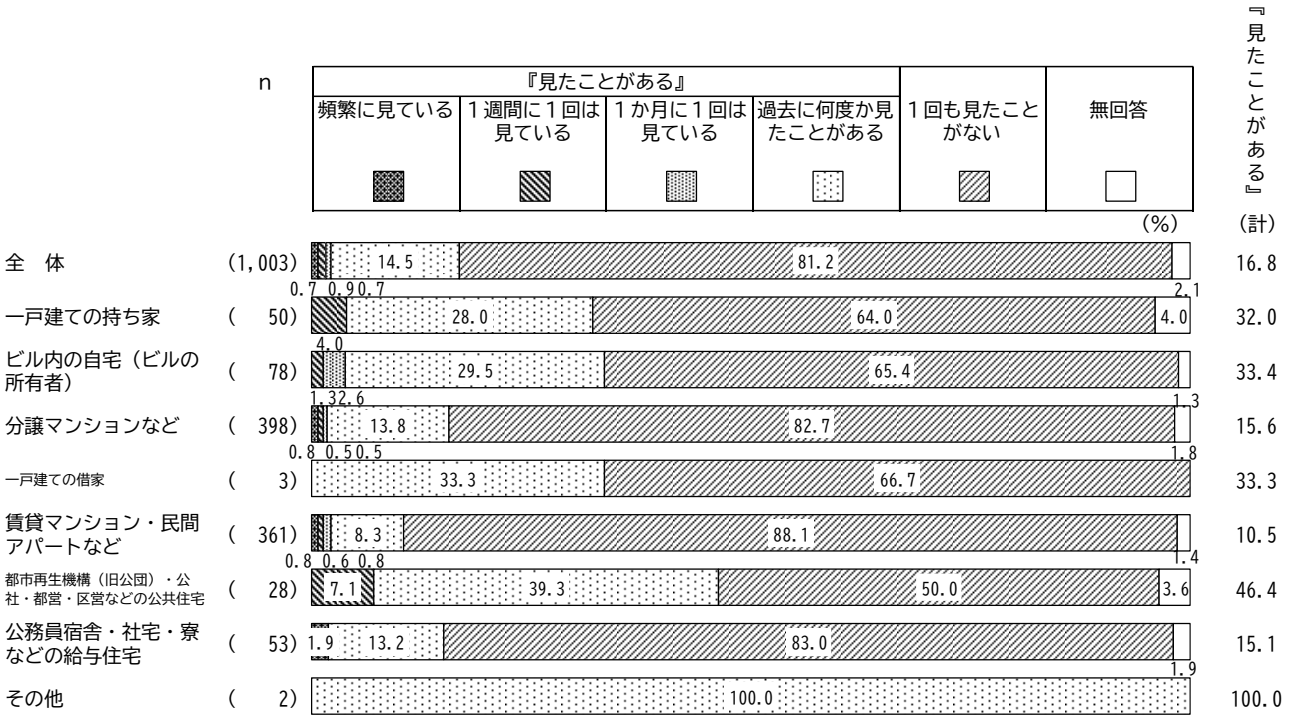
性・年代別にみると、「過去に何度か見たことがある」は女性70～74歳(39.3%)が４割弱と最も高くなっている。『見たことがある』は女性70～74歳(42.9%)が４割強と最も高くなっており、男性60～64歳(39.4%)が４割弱と高くなっている。(図７－２－２)

図７－２－２ 区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験（性・年代別）



住居形態別にみると、「頻繁に見ている」、「１週間に１回は見ている」、「１か月に１回は見ている」、「過去に何度か見たことがある」を合わせた『見たことがある』は都市再生機構（旧公団）・公社・都営・区営などの公共住宅(46.4%)が４割台半ば超えと高くなっている。（図７－２－３）

図７－２－３ 区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験（住居形態別）

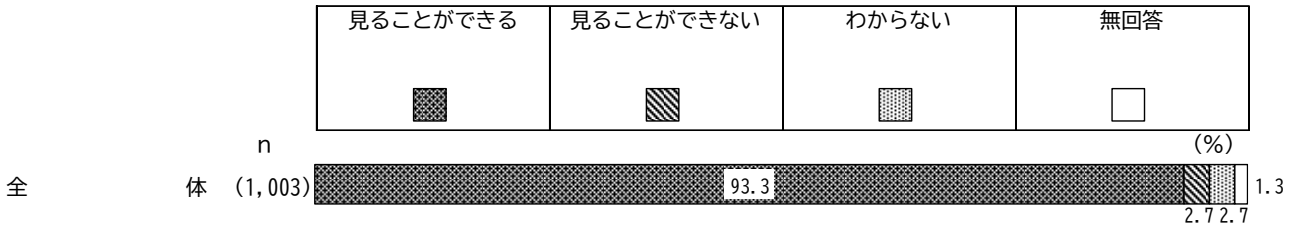


（３）YouTubeの視聴環境の有無

◇「見ることができる」が９割台半ば近く

問13　あなたは現在お持ちのパソコン、スマートフォン、タブレット等でYouTubeを見られる環境にありますか。（○は１つ）

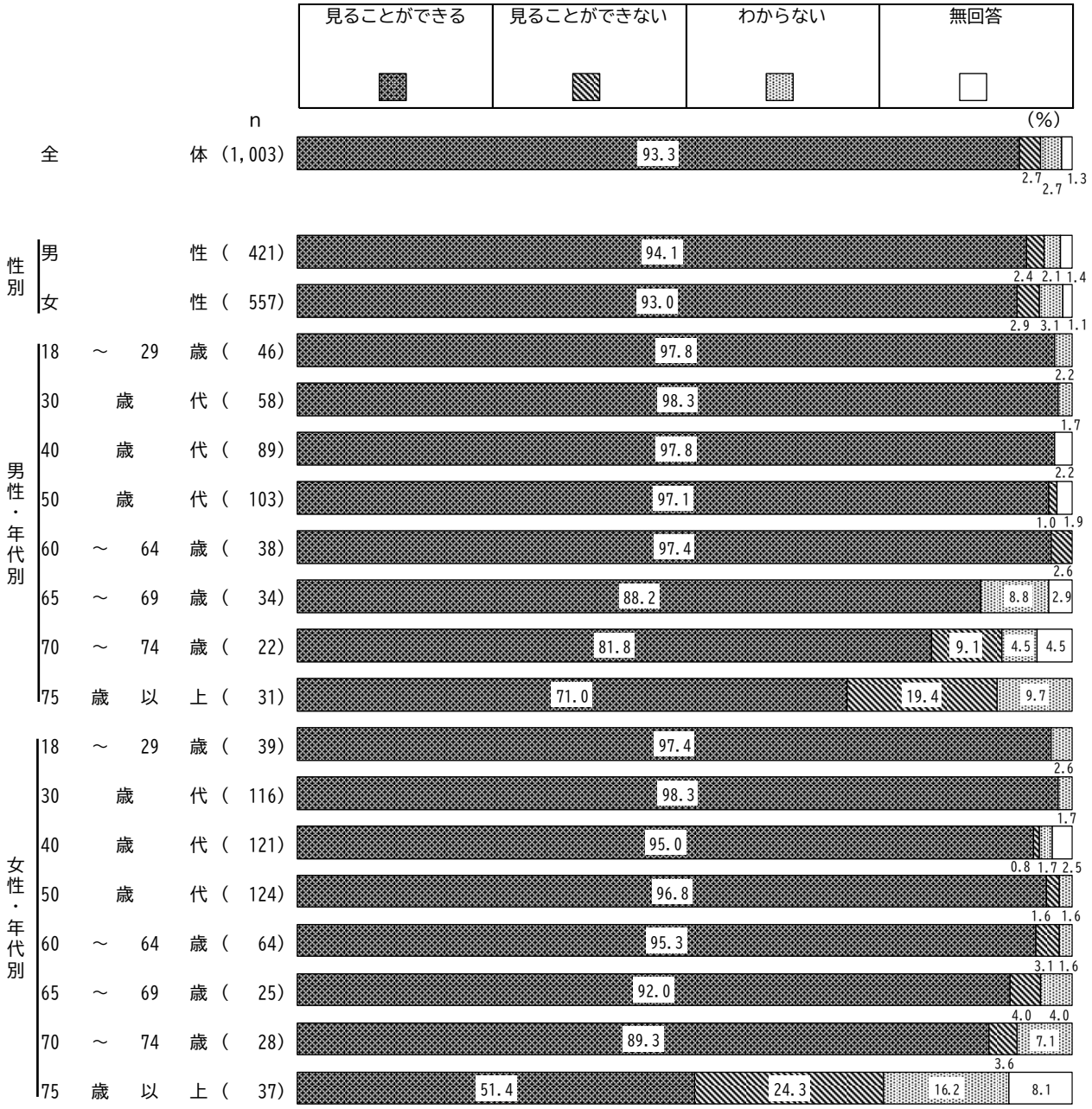
図７－３－１　YouTubeの視聴環境の有無



YouTubeの視聴環境の有無について聞いたところ、「見ることができる」(93.3%)が９割台半ば近くと最も高くなっている。（図７－３－１）

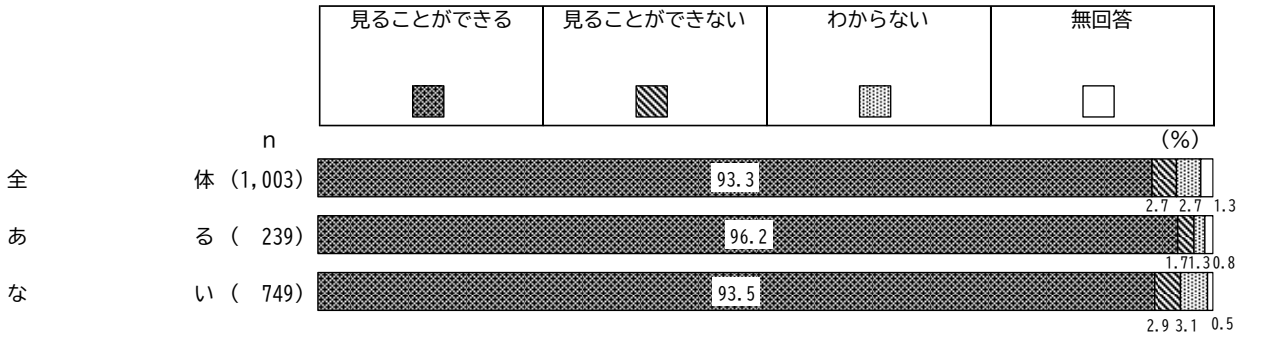
性・年代別にみると、「見ることができない」は女性75歳以上(24.3%)が２割台半ば近くと最も高く、次いで男性75歳以上(19.4%)が２割弱と高くなっている。(図７－３－２)

図７－３－２ YouTubeの視聴環境の有無（性・年代別）



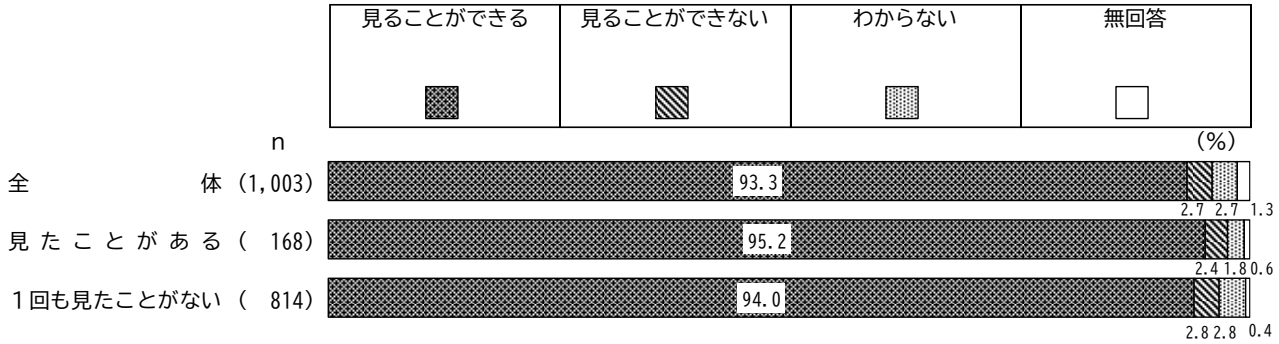
区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴環境の有無別にみると、大きな差はみられない。（図７－３－３）

図７－３－３ YouTubeの視聴環境の有無
（区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴環境の有無別）



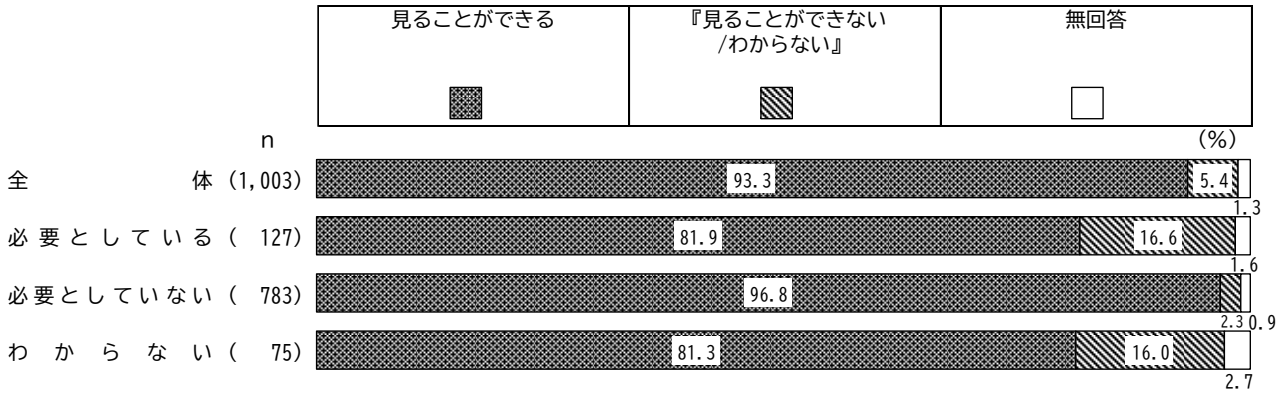
東京ケーブルネットワークの視聴経験別にみると、大きな差はみられない。
（図７－３－４）

図７－３－４ YouTubeの視聴環境の有無（東京ケーブルネットワークの視聴経験別）



デジタル機器の利活用への支援の必要性別にみると、「見ることができない」と「わからない」を合わせた『見ることができない/わからない』は必要としている(16.6%)、わからない(16.0%)が１割台半ば超えと全体と比較して高くなっている。（図７－３－５）

図７－３－５ YouTubeの視聴環境の有無（デジタル機器の利活用への支援の必要性別）

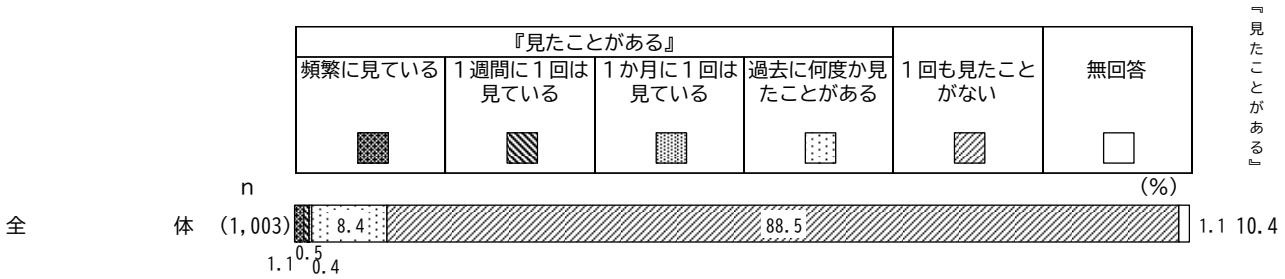


（４）区公式YouTubeチャンネルの視聴経験

◇「１回も見たことがない」が９割近く

問14　あなたはこれまで、区公式YouTubeチャンネルを見たことがありますか。
（○は１つ）

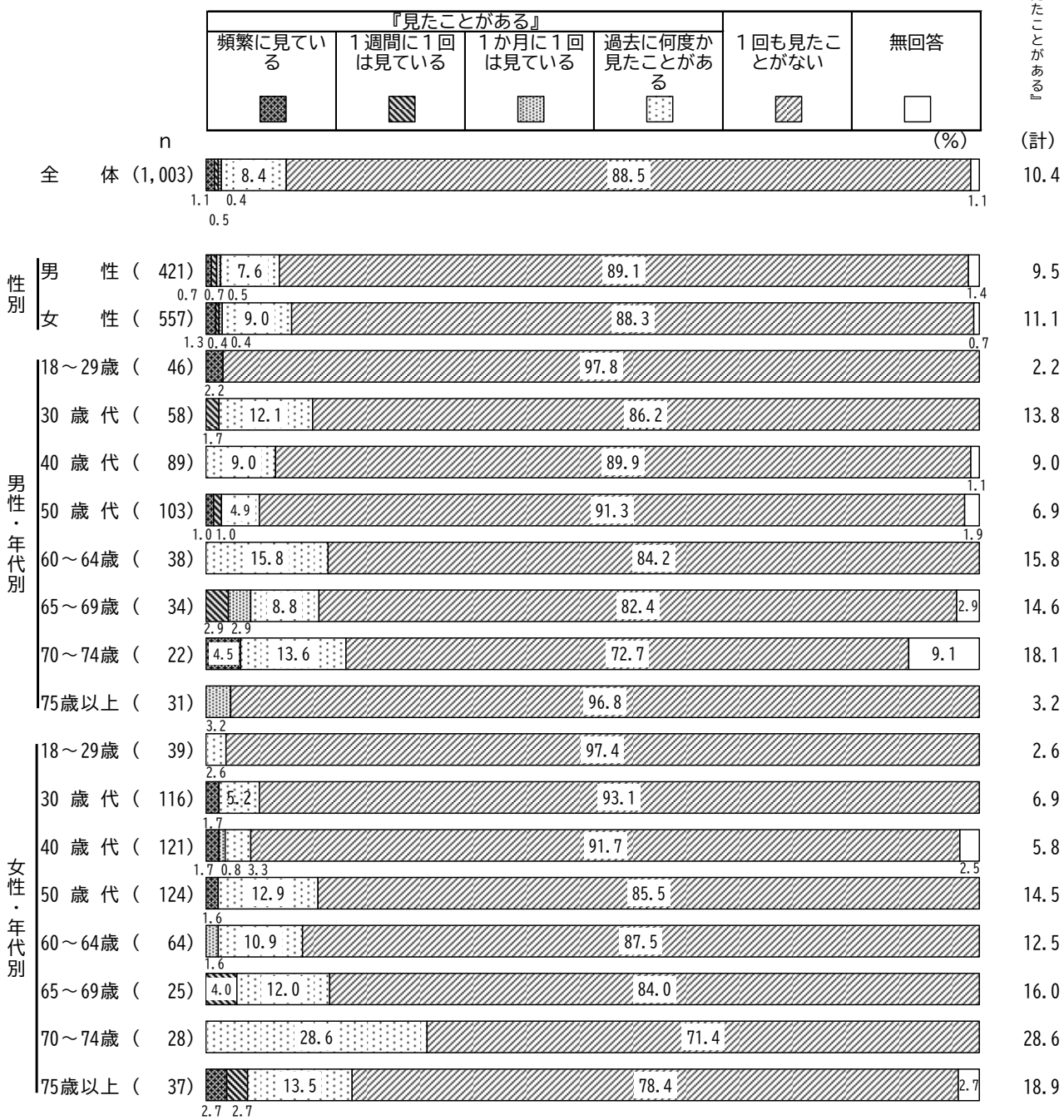
図７－４－１　区公式YouTubeチャンネルの視聴経験



区公式YouTubeチャンネルの視聴経験について聞いたところ、「１回も見たことがない」(88.5%)が９割近くと最も高くなっている。(図７－４－１)

性・年代別にみると、「過去に何度か見たことがある」は女性70～74歳(28.6%)が３割近くと最も高くなっている。(図７－４－２)

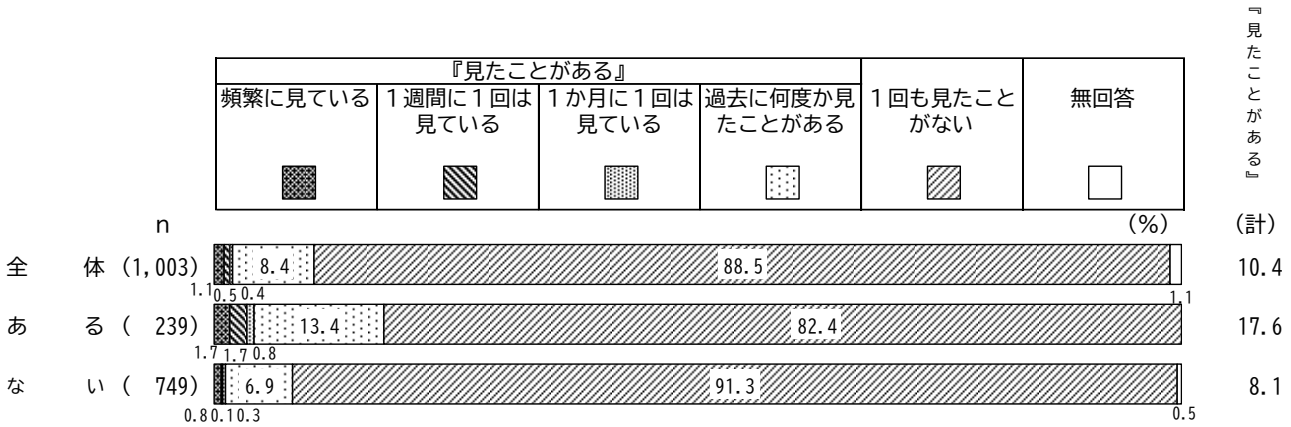
図７－４－２ 区公式YouTubeチャンネルの視聴経験（性・年代別）



区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴環境の有無別にみると、「１回も見たことがない」はない(91.3%)が９割強と高くなっている。一方で、『見たことがある』はある(17.6%)が１割台半ばを超え高くなっている。(図７－４－３)

図７－４－３ 区公式YouTubeチャンネルの視聴経験

（区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴環境の有無別）

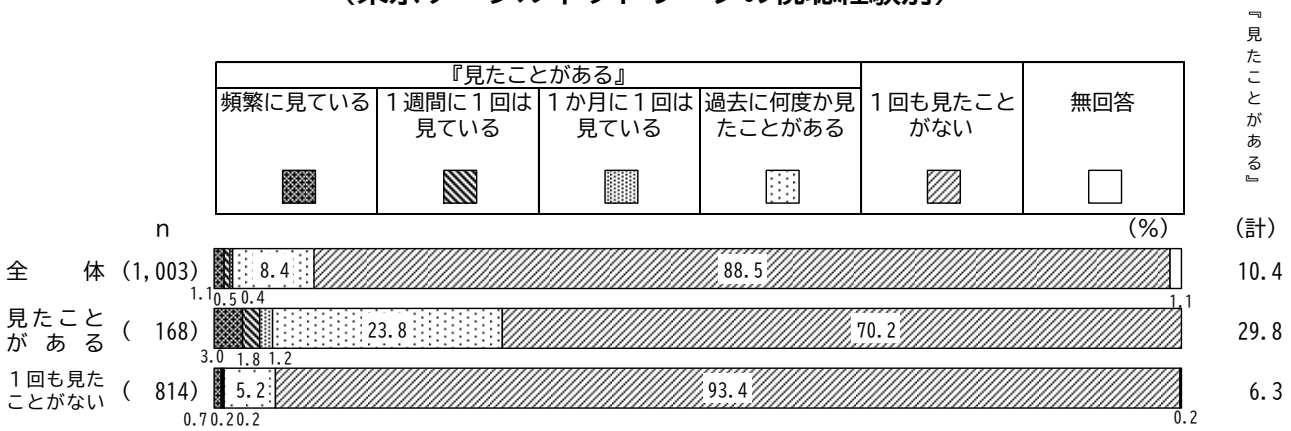


区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験別にみると、「１回も見たことがない」は１回も見たことがない(93.4%)が９割台半ば近くと高くなっている。一方で、『見たことがある』は見たことがある(29.8%)が３割弱と高くなっている。

(図７－４－４)

図７－４－４ 区公式YouTubeチャンネルの視聴経験

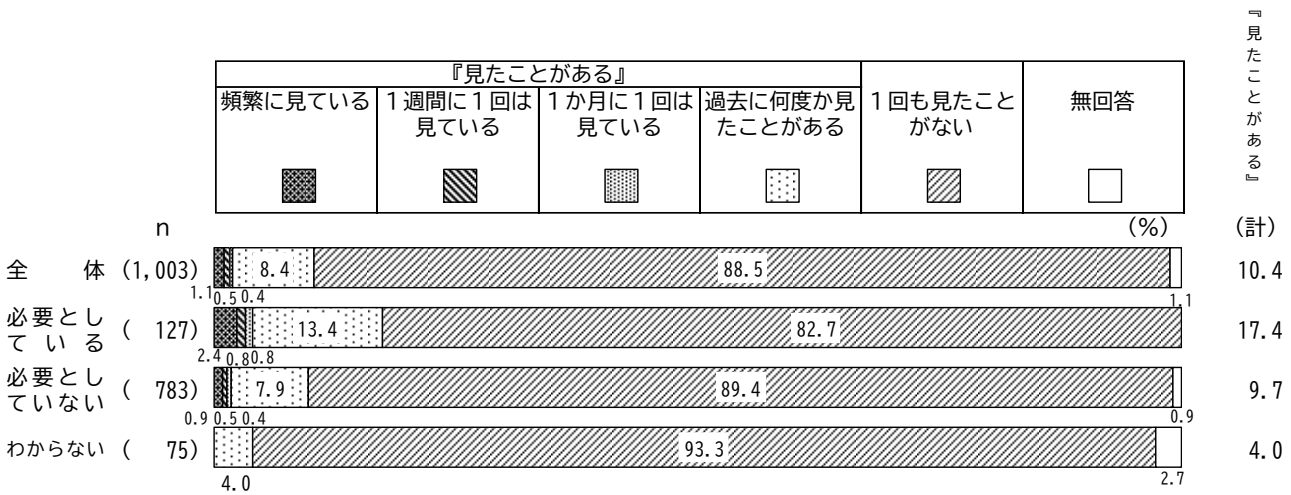
（東京ケーブルネットワークの視聴経験別）



デジタル機器の利活用への支援の必要性別にみると、「１回も見たことがない」はわからない(93.3%)が９割台半ば近くと最も高くなっている。一方で、『見たことがある』は必要としている(17.4%)が１割台半ば超えと最も高くなっている。(図７－３－５)

図７－３－５ 公式YouTubeチャンネルの視聴経験

（デジタル機器の利活用への支援の必要性別）



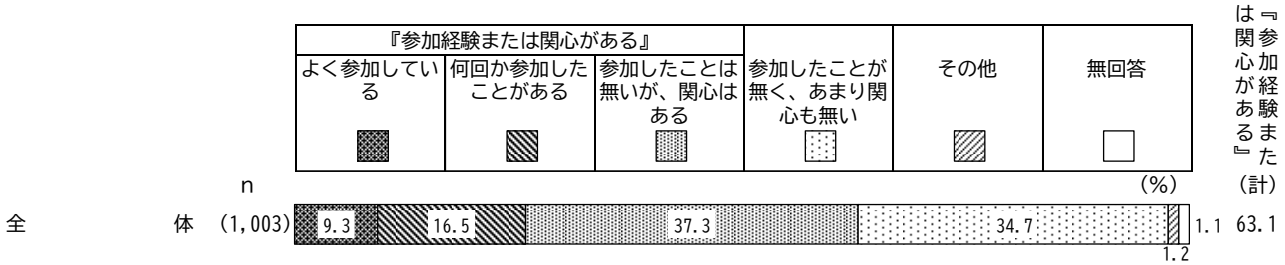
８．町会・ボランティア

（１）地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況

◇「参加したことは無いが、関心はある」が３割台半ば超え

問15　あなたは地域の活動（町会やボランティア活動など）に参加したことがありますか。（○は１つ）

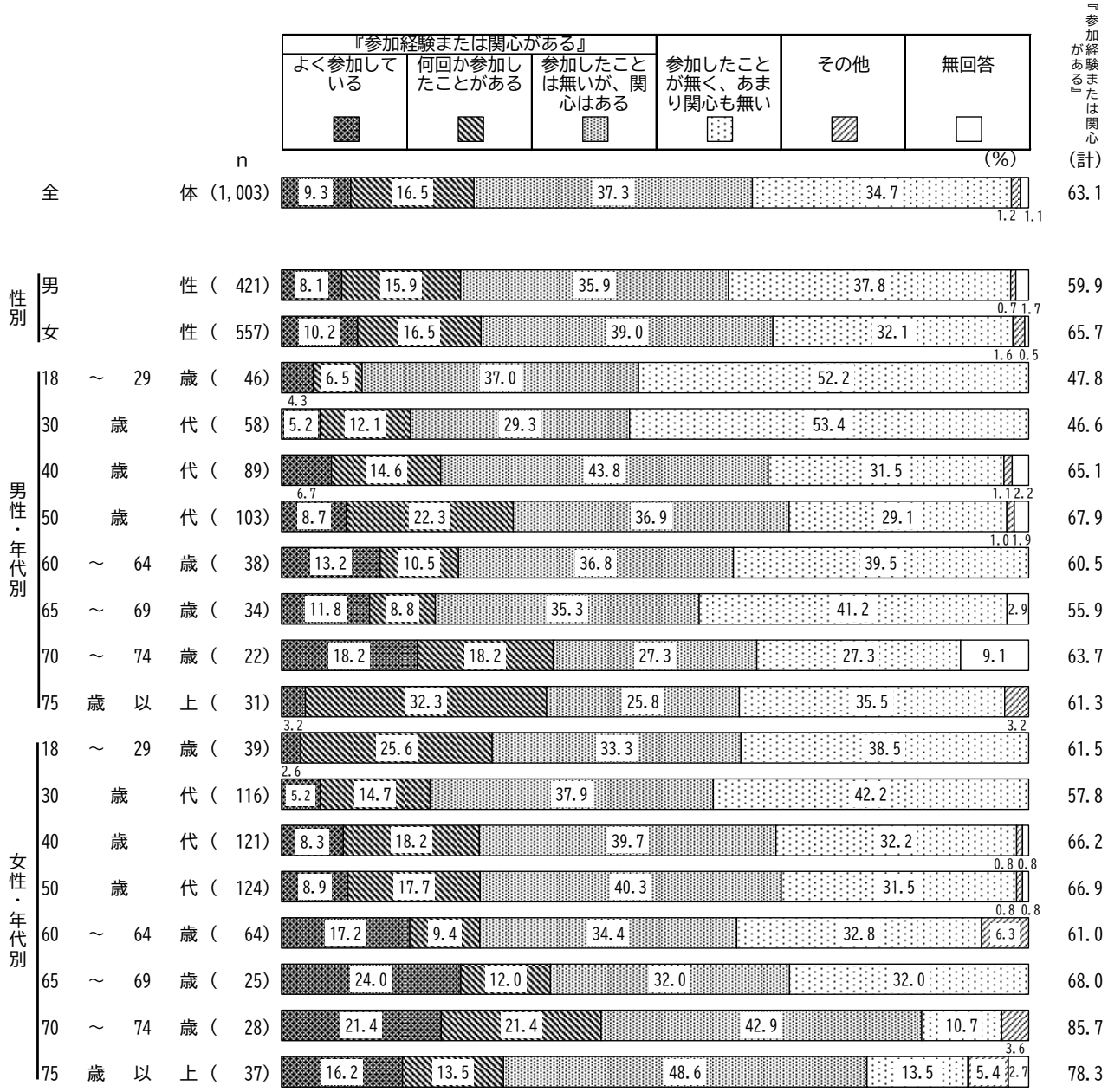
図８－１－１　地域の活動への参加状況



地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況について聞いたところ、「よく参加している」(9.3%)、「何回か参加したことがある」(16.5%)、「参加したことは無いが、関心はある」(37.3%)を合わせた『参加経験または関心がある』(63.1%)は６割台半ば近くとなっている。一方で、「参加したことが無く、あまり関心も無い」(34.7%)が３割台半ば近くと最も高くなっている。（図８－１－１）

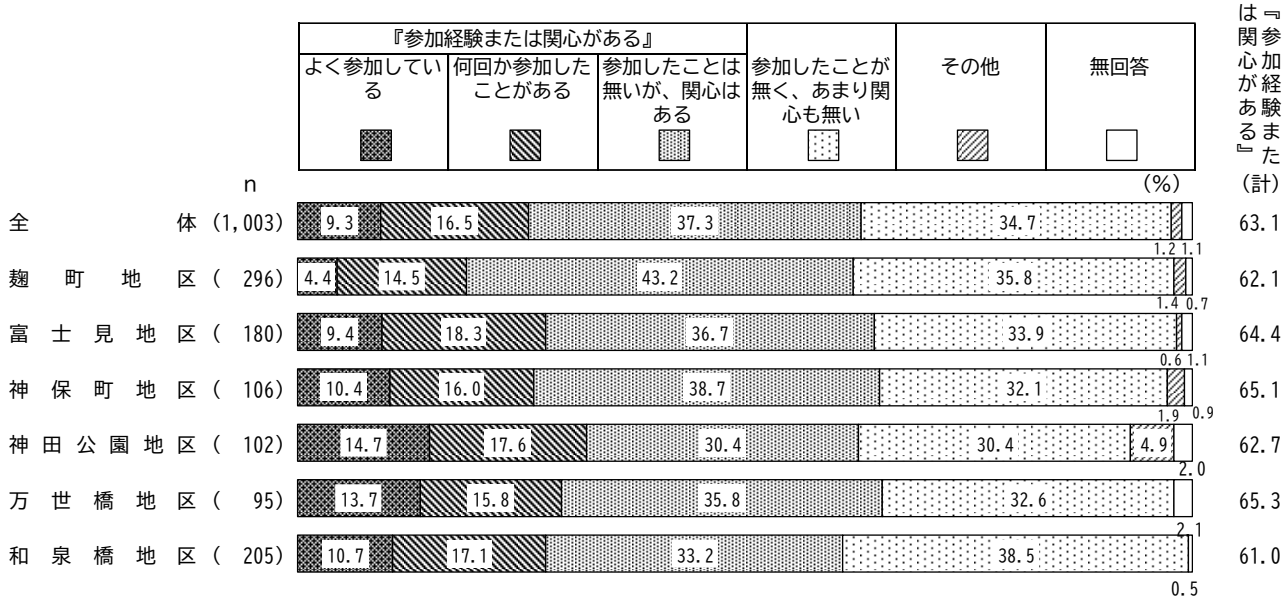
性・年代別にみると、『参加経験または関心がある』は女性70～74歳(85.7%)が８割台半ばと最も高くなっている。(図８－１－２)

図８－１－２ 地域の活動への参加状況（性・年代別）



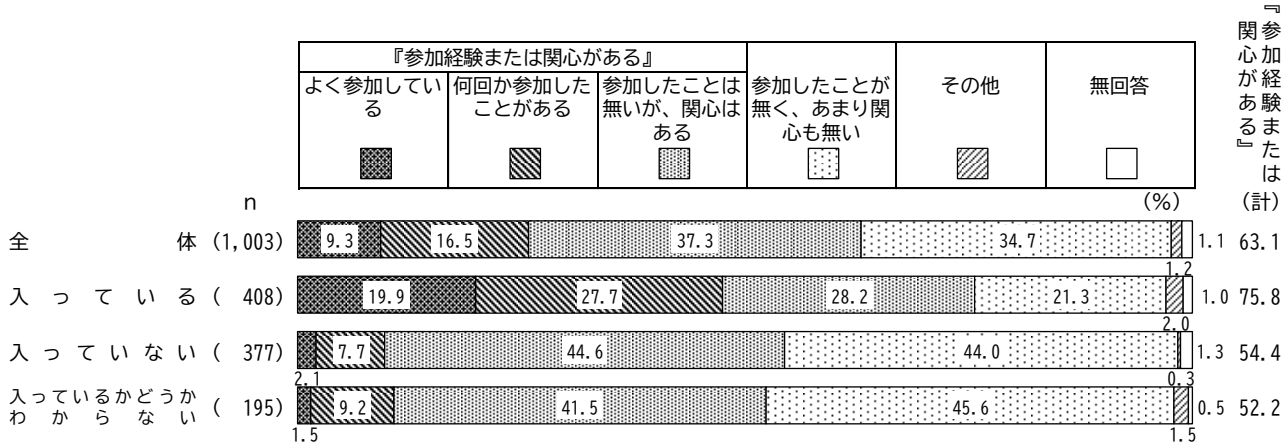
地区別にみると、『参加経験または関心がある』は万世橋地区(65.3%)が６割台半ばと最も高くなっている。(図８－１－３)

図８－１－３ 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況（地区別）



町会加入状況別にみると、『参加経験または関心がある』は入っている(75.8%)が７割台半ばと最も高くなっている。(図８－１－４)

図８－１－４ 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況（町会加入状況別）

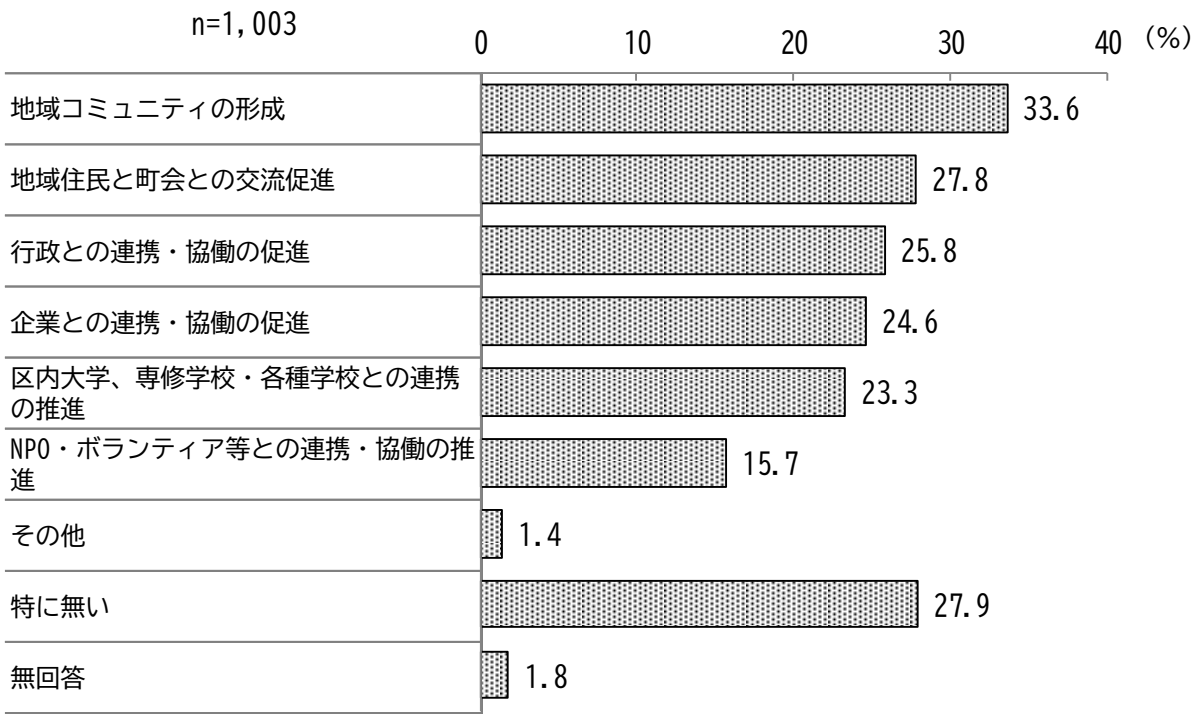


（２）町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野

◇「地域コミュニティの形成」が３割台半ば近く

問16　町会・ボランティア活動に関して、あなたが「力を入れて欲しい分野」は何ですか。（○はいくつでも）

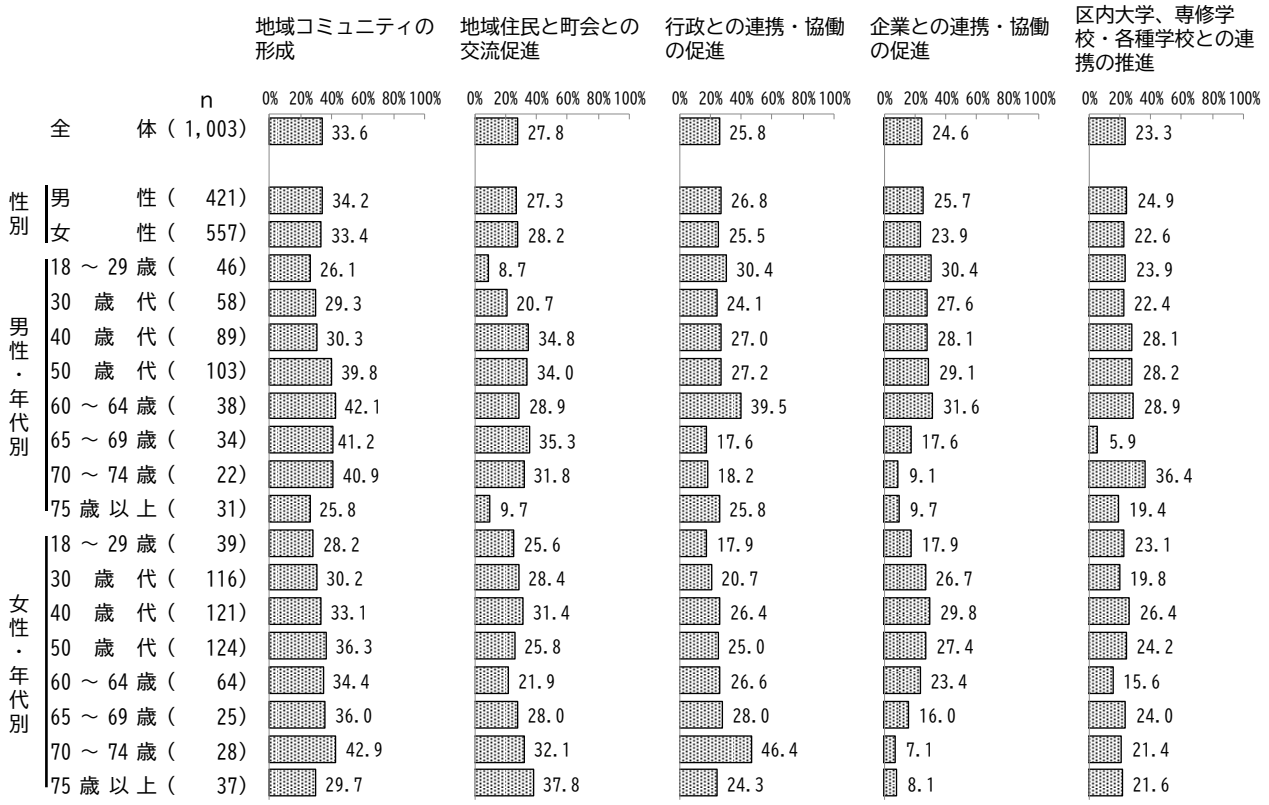
図８－２－１ 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野



町会・ボランティア活動で力を入れてほしい分野について聞いたところ、「地域コミュニティの形成」(33.6%)が３割台半ば近くと最も高く、次いで「特に無い」(27.9%)が２割台半ば超え、「地域住民と町会との交流促進」(27.8%)が２割台半ば超え、「行政との連携・協働の促進」(25.8%)が２割台半ば、「企業との連携・協働の促進」(24.6%)が２割台半ば近く、「区内大学、専修学校・各種学校との連携の推進」(23.3%)が２割台半ば近くと高くなっている。（図８－２－１）

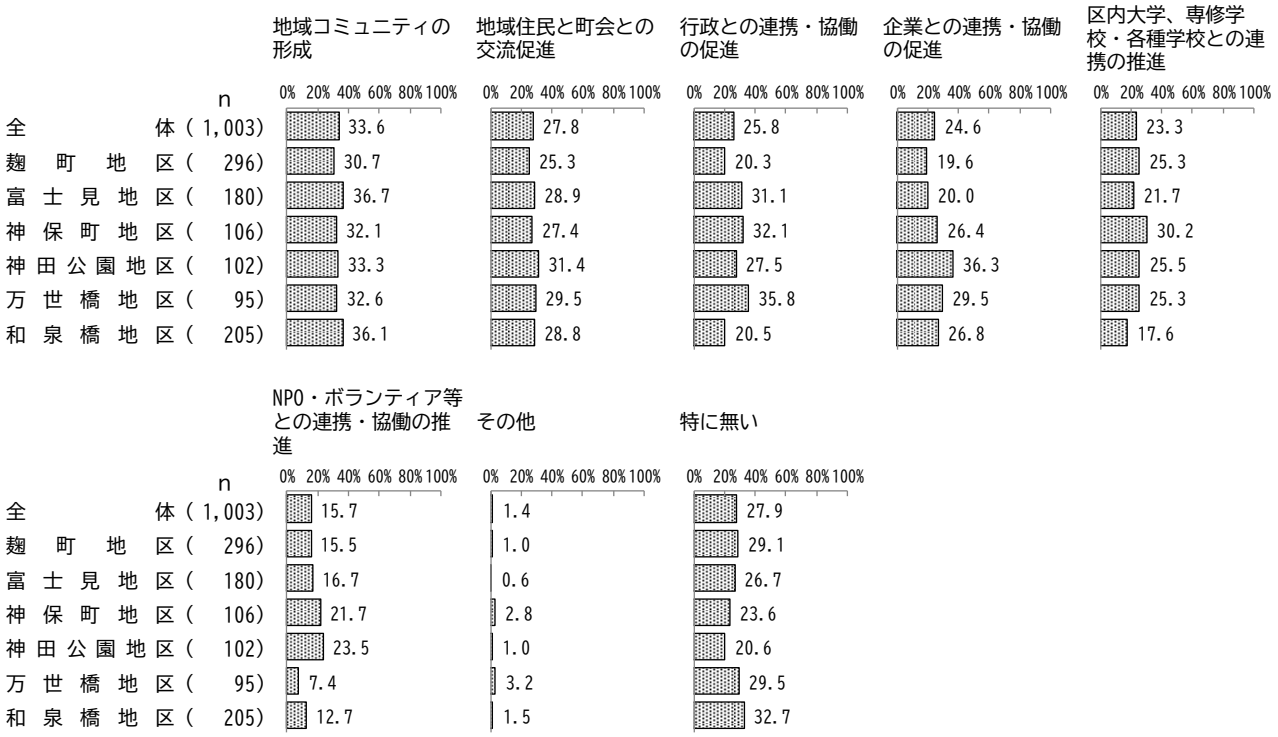
性・年代別にみると、「行政との連携・協働の促進」は女性70～74歳(46.4%)が４割台半ば超えと最も高くなっている。(図８－２－２)

図８－２－２ 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野（性・年代別）



地区別にみると、「行政との連携・協働の促進」は万世橋地区(35.8%)が３割台半ばと最も高くなっている。また、「企業との連携・協働の促進」は神田公園地区(36.3%)が３割台半ば超えと最も高くなっている。(図８－２－３)

図８－２－３ 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野（地区別）



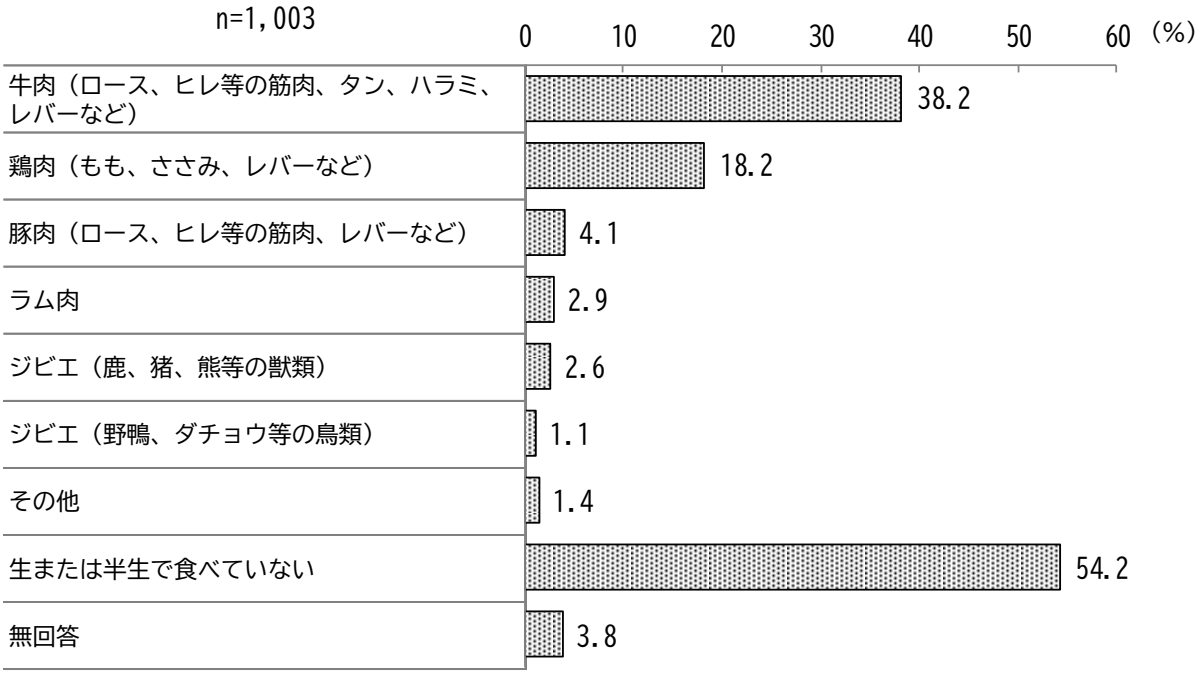
９．食中毒予防などの食品衛生

（１）飲食店での肉料理の生食

◇「生または半生で食べていない」が５割台半ば近く

問17　飲食店で提供される肉料理で生又は半生で食べたことがある肉はありますか。
（○はいくつでも）

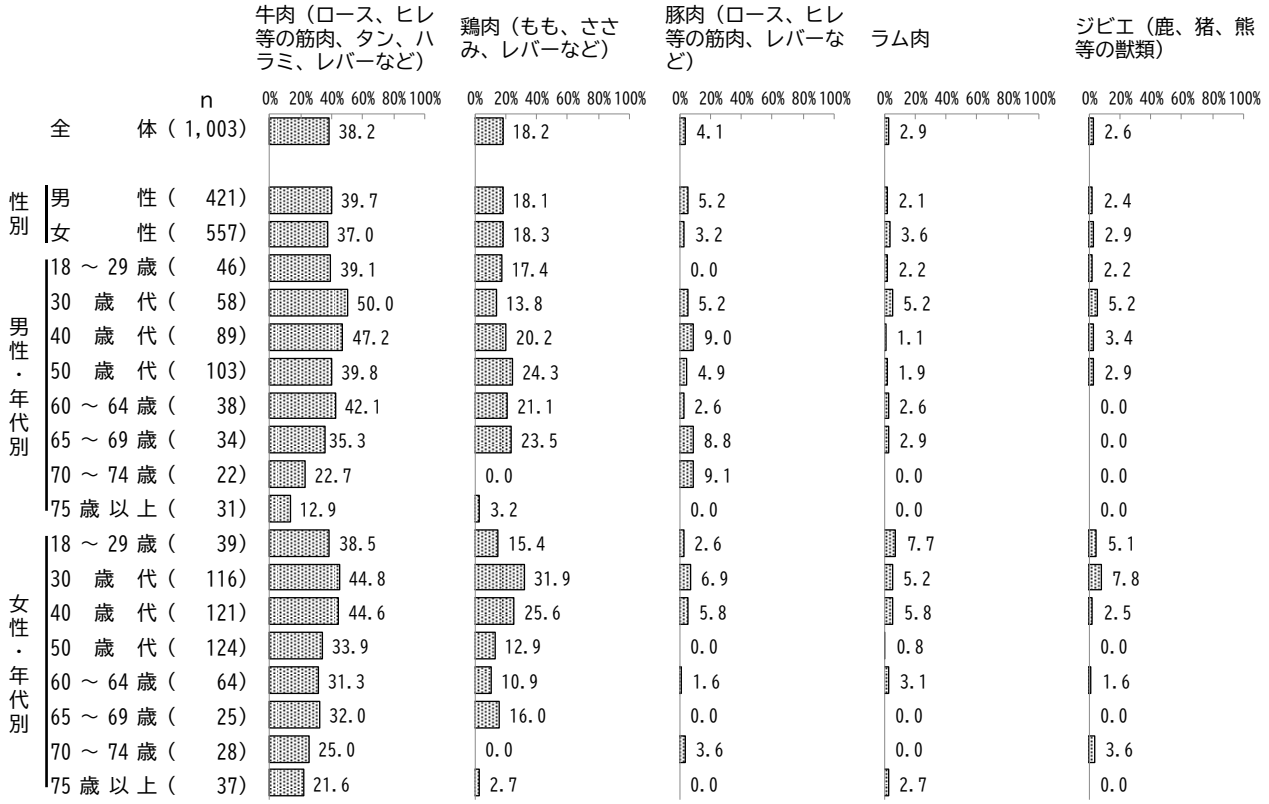
図９－１－１　飲食店での肉料理の生肉



飲食店での肉料理の生食について聞いたところ、「生または半生で食べていない」(54.2%)が５割台半ば近くと最も高く、次いで「牛肉（ロース、ヒレ等の筋肉、タン、ハラミ、レバーなど)」(38.2%)が４割近くと高くなっている。(図９－１－１)

性・年代別にみると、「生または半生で食べていない」は男性75歳以上(77.4%)が７割台半ば超えと最も高くなっている。(図９－１－２)

図９－１－２ 飲食店での肉料理の生肉（性・年代別）

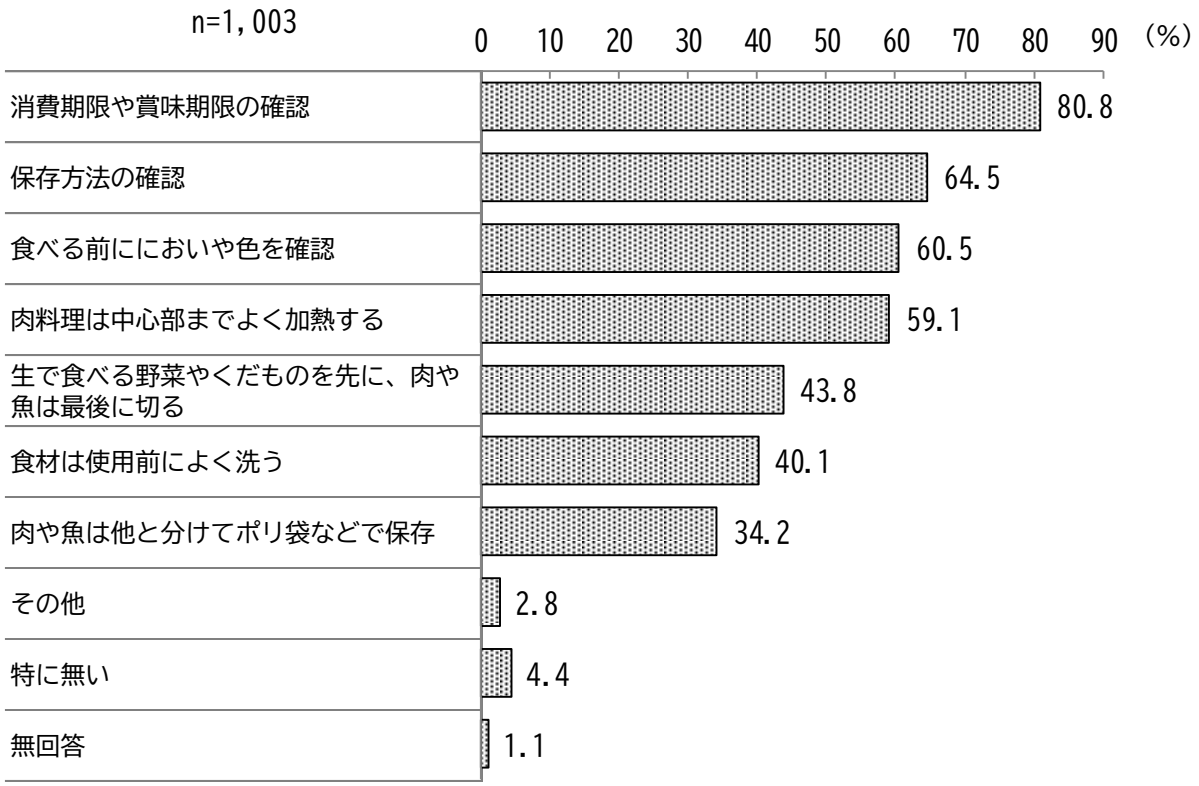


（２）家庭での食中毒予防

◇「消費期限や賞味期限の確認」が約８割

問18　家庭の食中毒予防で取り組んでいることはありますか。（○はいくつでも）

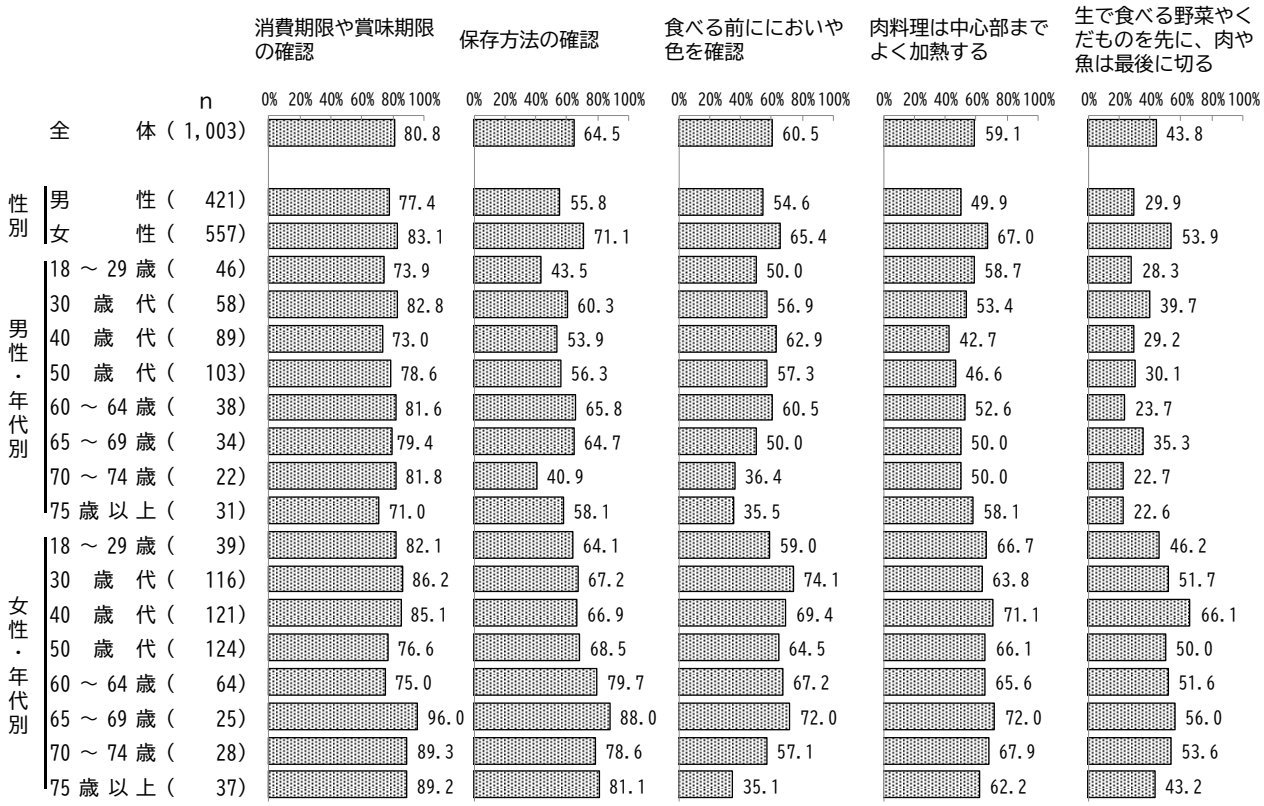
図９－２－１　家庭での食中毒予防

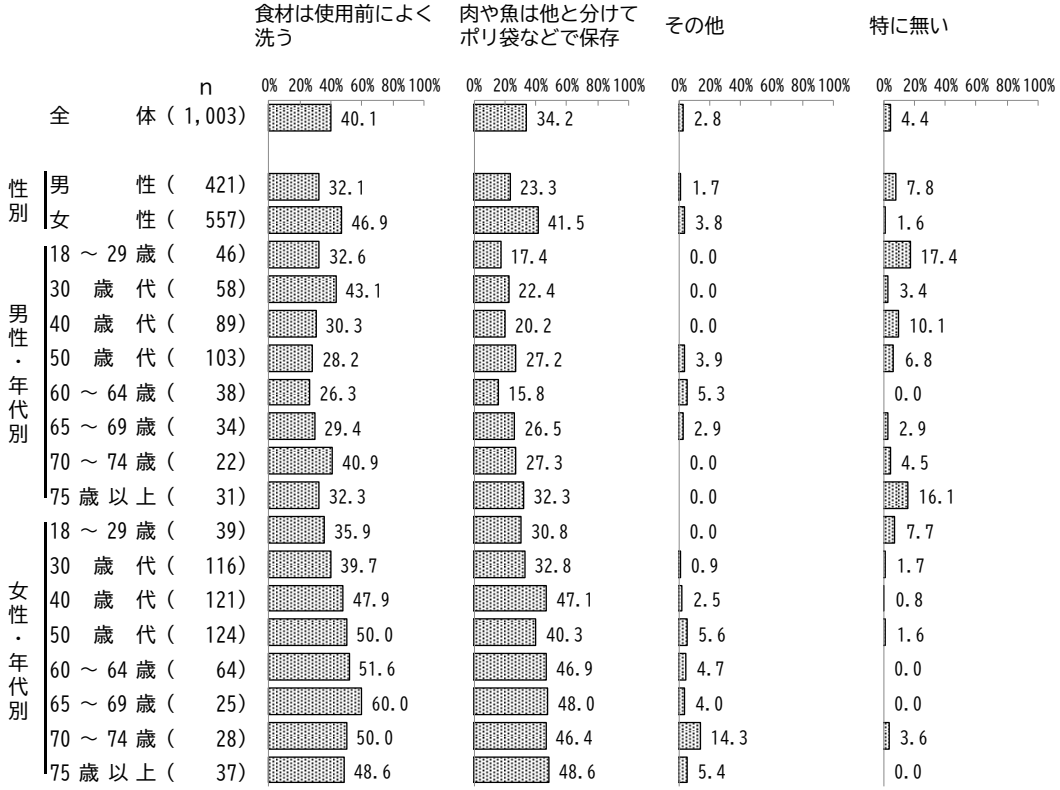


家庭での食中毒予防について聞いたところ、「消費期限や賞味期限の確認」(80.8%)が約８割と最も高く、次いで「保存方法の確認」(64.5%)が６割台半ば近く、「食べる前ににおいや色を確認」(60.5%)が約６割、「肉料理は中心部までよく加熱する」(59.1%)が６割弱、「生で食べる野菜やくだものを先に、肉や魚は最後に切る」(43.8%)が４割台半ば近く、「食材は使用前によく洗う」(40.1%)が約４割、「肉や魚は他と分けてポリ袋などで保存」(34.2%)が３割台半ば近くと高くなっている。（図９－２－１）

性・年代別にみると、「保存方法の確認」は女性65～69歳(88.0%)が９割近くと最も高くなっている。また、「生で食べる野菜やくだものを先に、肉や魚は最後に切る」は女性40歳代(66.1%)が６割台半ば超えと最も高くなっている。(図９－２－２)

図９－２－２ 家庭での食中毒予防（性・年代別）





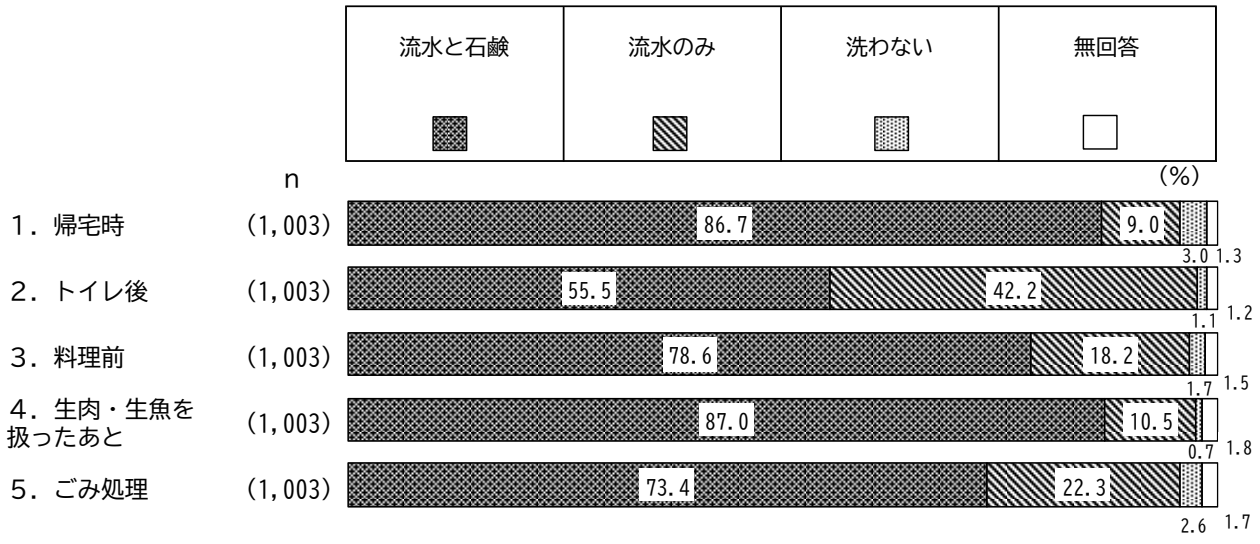
10. 感染症、疾病予防対策

（１）手洗いの方法

◇「流水と石鹸」で洗うことが多いのは“生肉・生魚を扱ったあと”、最も低いのは“トイレ後”

問19　どのようなときにどのような方法で手を洗っていますか。（○はそれぞれに１つ）

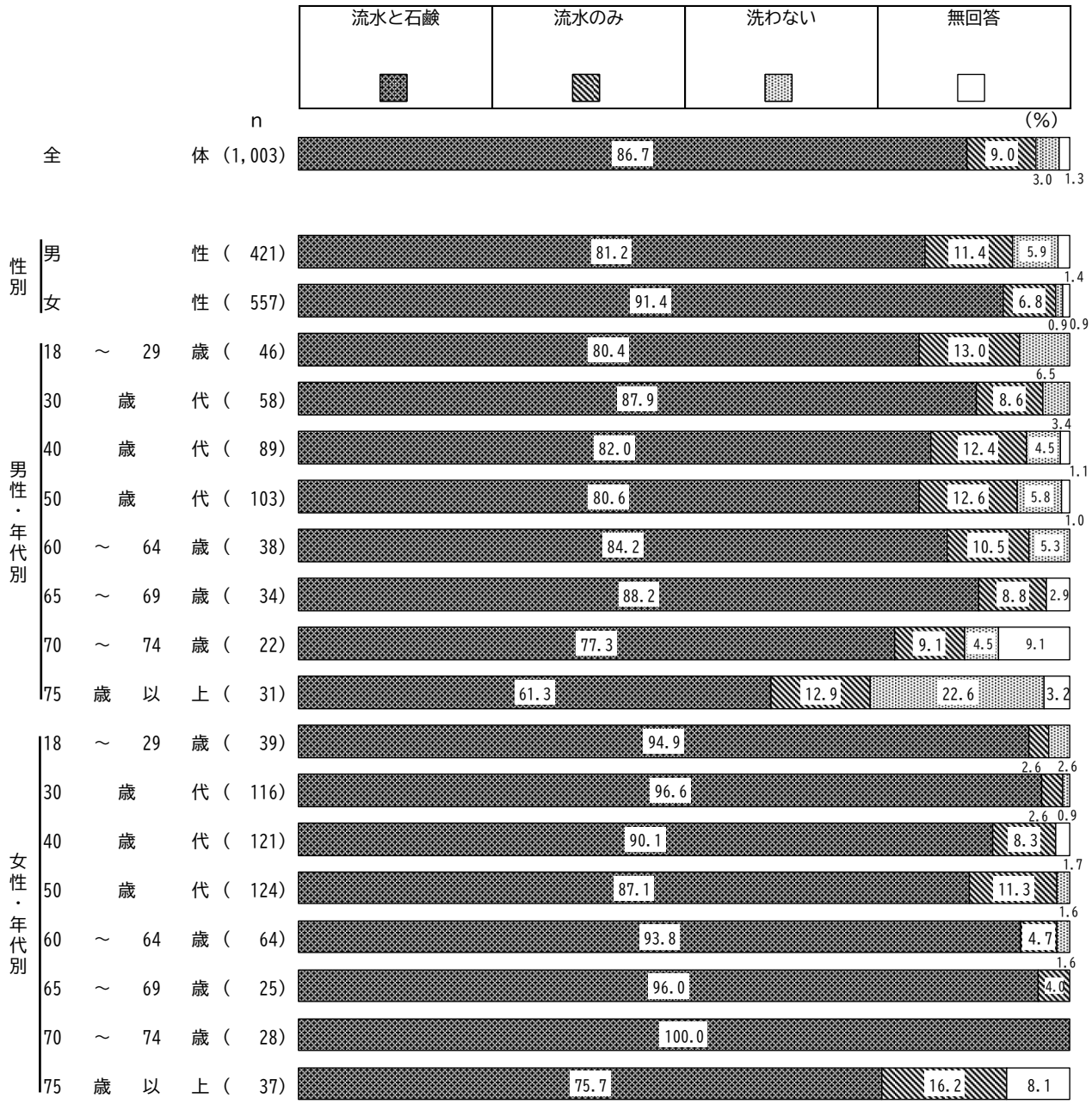
図10－１－１ 手洗いの方法



手洗いの方法について聞いたところ、「流水と石鹸」と回答しているのは、“生肉・生魚を扱ったあと”(87.0%)と最も高く８割台半ば超えとなっており、次いで“帰宅時”(86.7%)が８割台半ば超えと高くなっている。（図10－１－１）

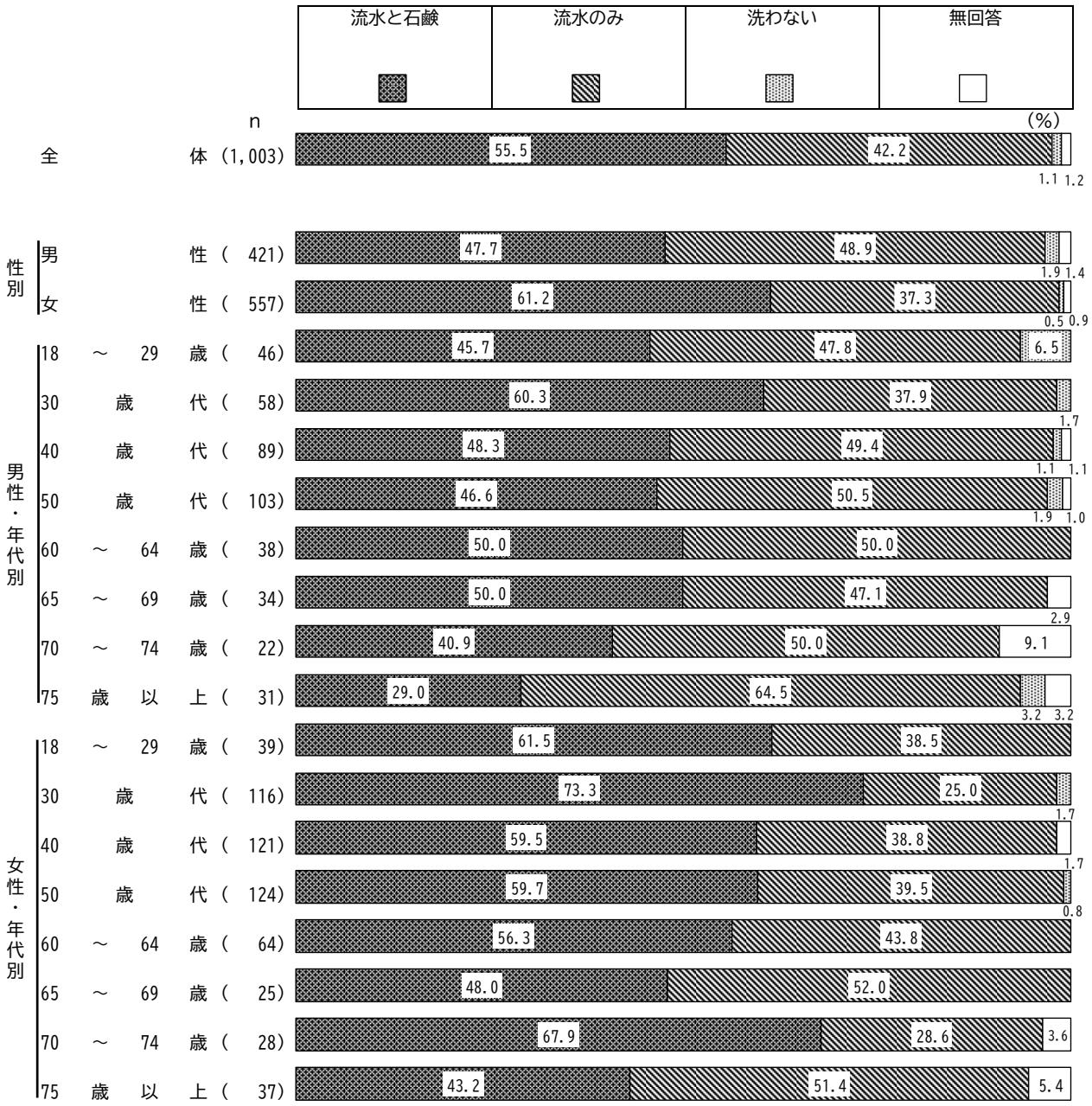
性・年代別に“帰宅時”の手洗いの方法をみると、「洗わない」は男性75歳以上(22.6%)が２割強と最も高くなっている。(図10－１－２)

図10－１－２　１．帰宅時の手洗いの方法（性・年代別）



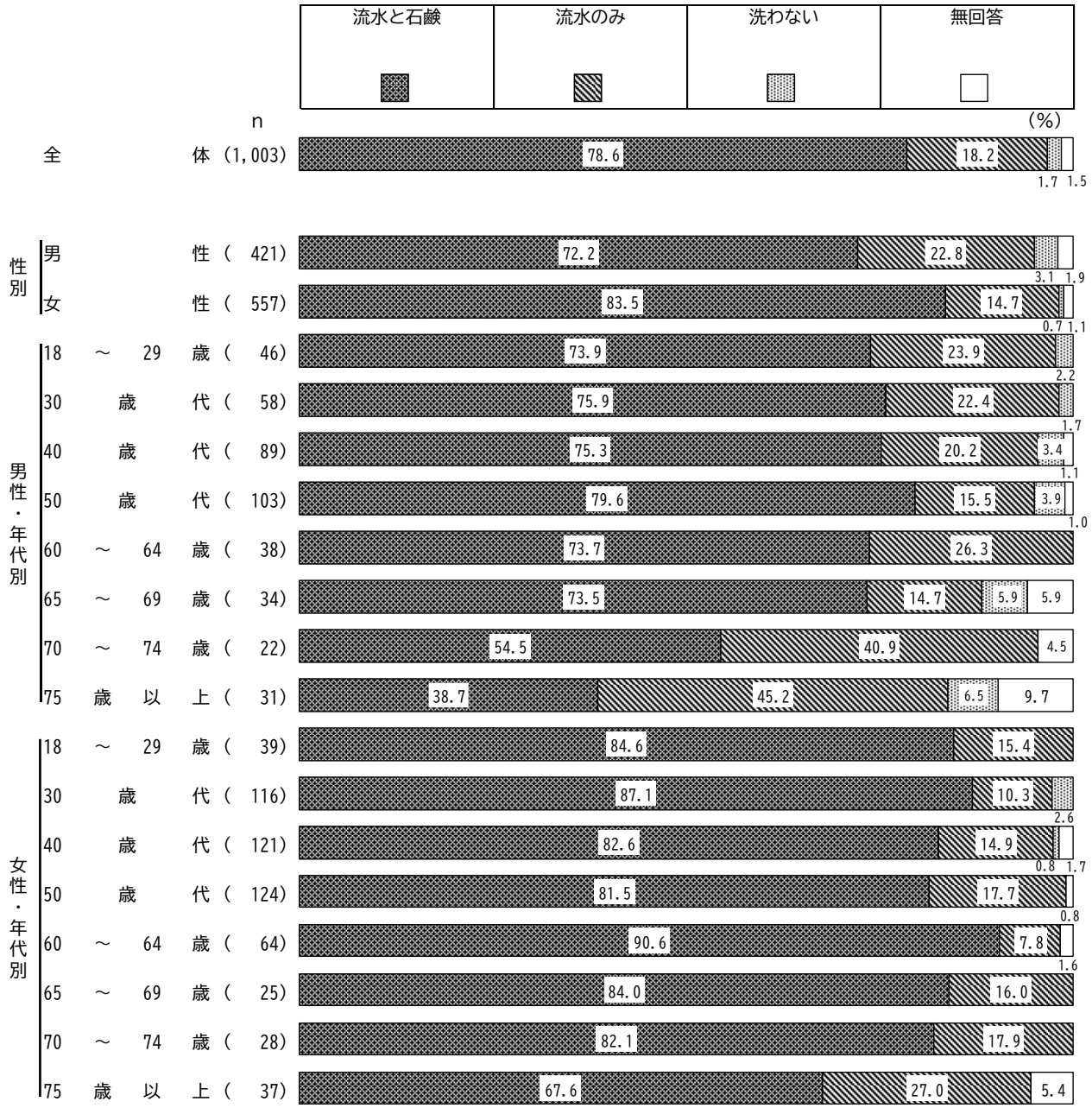
性・年代別に“トイレ後”の手洗いの方法をみると、「流水のみ」は男性75歳以上(64.5%)が６割台半ば近くと最も高くなっている。(図10－１－３)

図10－１－３ ２．トイレ後の手洗いの方法（性・年代別）



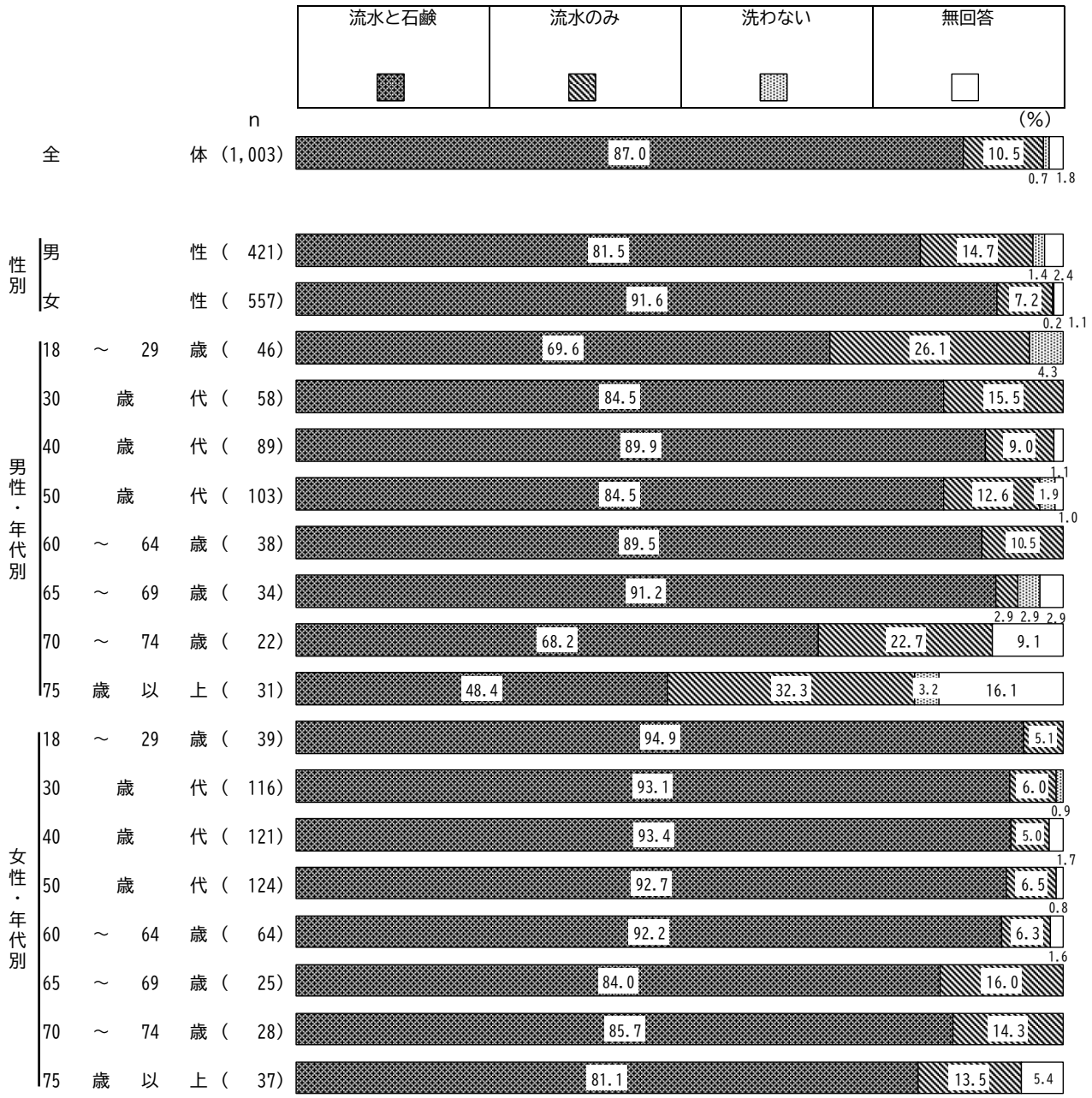
性・年代別に“料理前”の手洗いの方法をみると、「流水のみ」は男性75歳以上(45.2%)が４割台半ばと最も高くなっている。(図10－１－４)

図10－１－４　３．料理前の手洗いの方法（性・年代別）



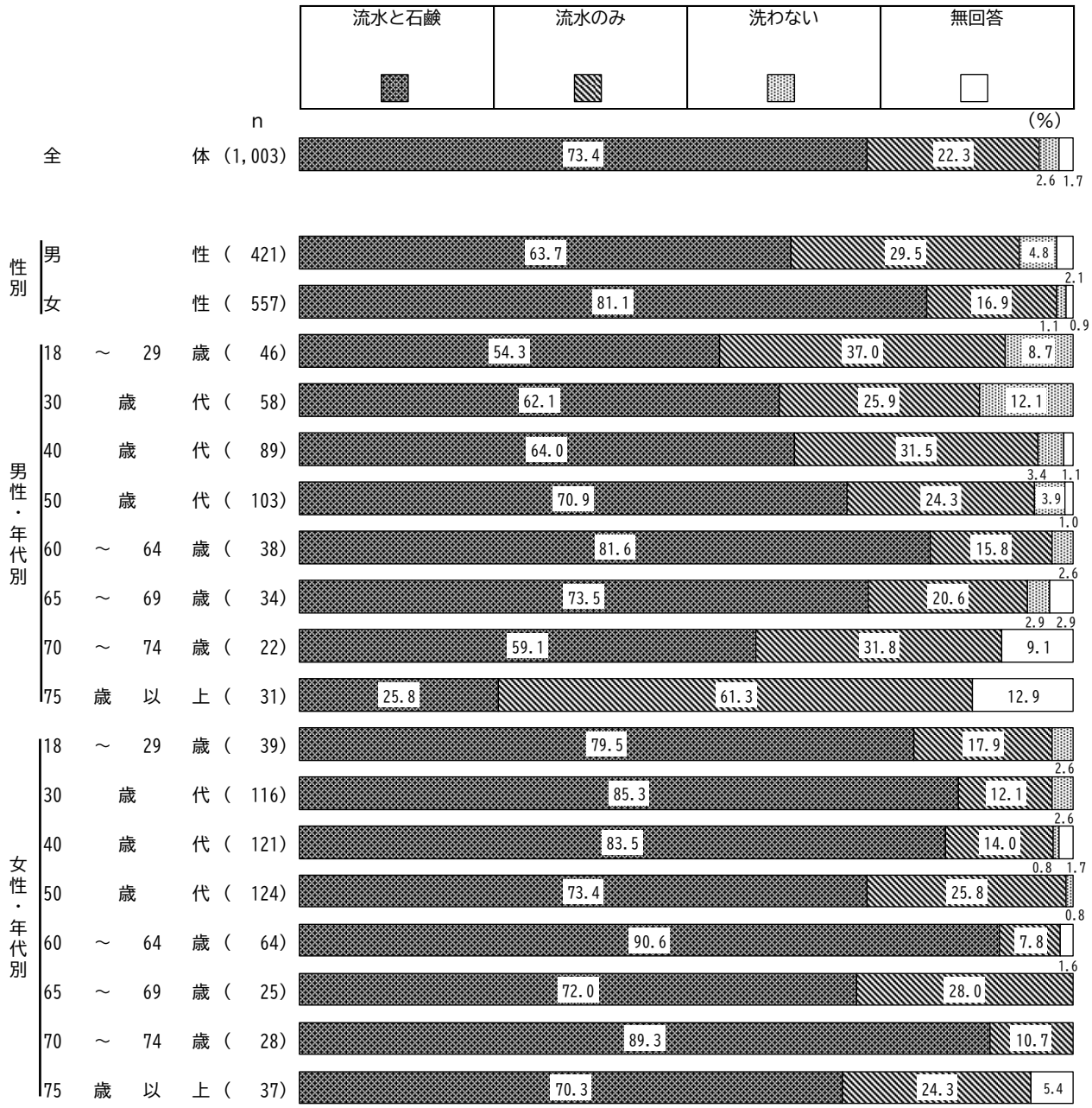
性・年代別に“生肉・鮮魚を扱ったあと”の手洗いの方法をみると、「流水のみ」は男性75歳以上(32.3%)が３割強と最も高くなっている。(図10－１－５)

図10－１－５ ４．生肉・鮮魚を扱ったあとの手洗いの方法（性・年代別）



性・年代別に“ごみ処理”の手洗いの方法をみると、「流水と石鹸」は女性60～64歳(90.6%)が約９割と最も高く、また、「流水のみ」は男性75歳以上(61.3%)が６割強と最も高くなっている。(図10－１－６)

図10－１－６　５．ごみ処理の手洗いの方法（性・年代別）



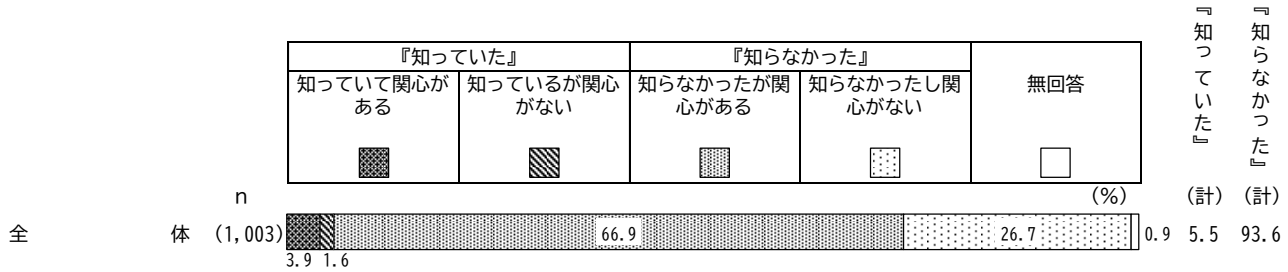
11. 自殺対策

（１）千代田区自殺対策計画の認知度

◇「知らなかったが関心がある」が６割台半ば超え

問20　区では、誰も自殺に追い込まれることのない社会を目指すため、平成31年３月に千代田区自殺対策計画を策定しましたが、ご存知ですか。（○は１つ）

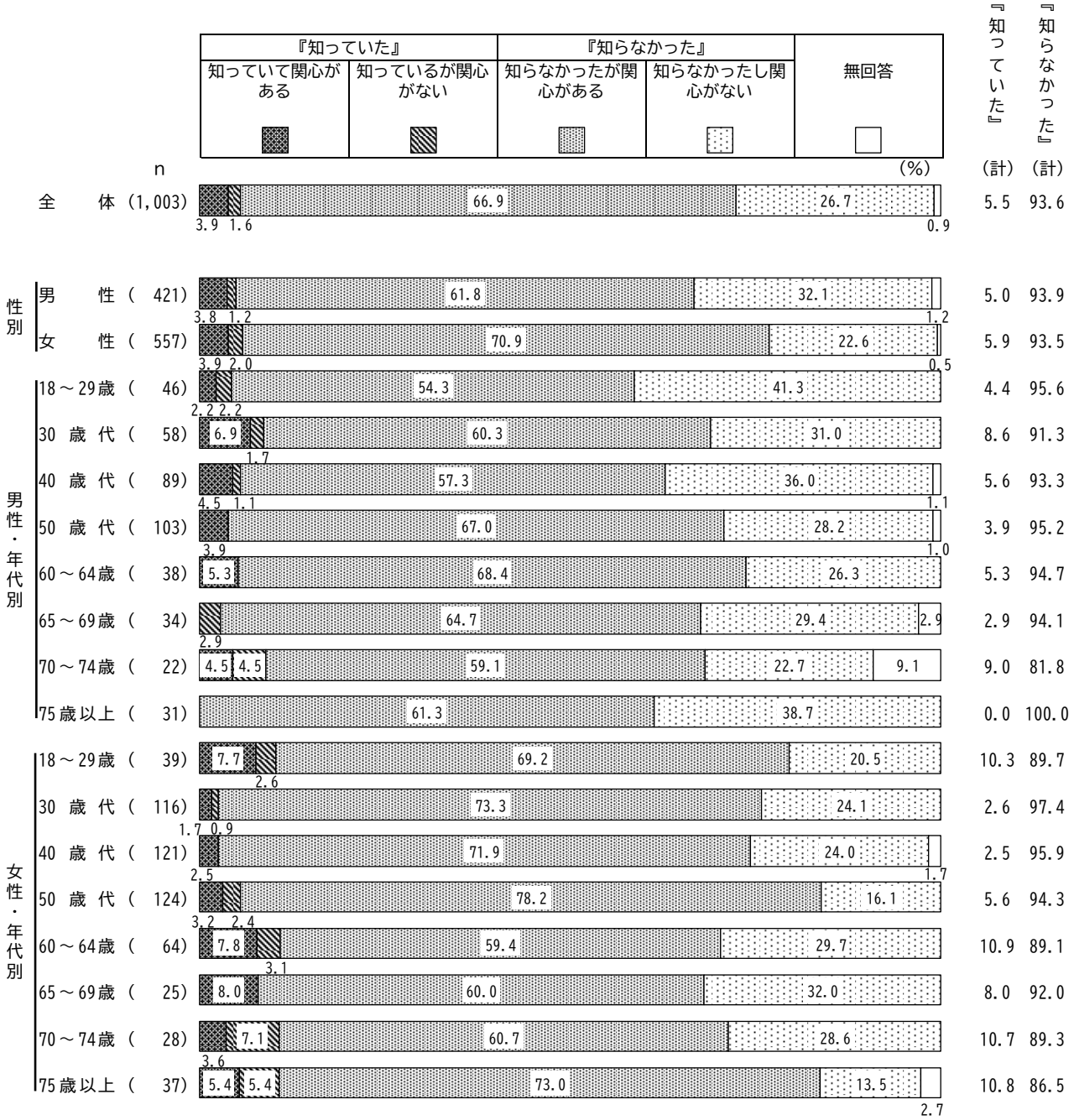
図11－１－１　千代田区自殺対策計画の認知度



千代田区自殺対策計画の認知度について聞いたところ、「知らなかったが関心がある」(66.9%)が６割台半ば超えと最も高く、「知らなかったし関心がない」(26.7%)を合わせた『知らなかった』(93.6%)が９割台半ば近くとなっている。一方で、「知っていて関心がある」(3.9%)、「知っているが関心がない」(1.6%)を合わせた『知っていた』(5.5%)は１割未満となっている。(図11－１－１)

性・年代別にみると「知らなかったが関心がある」は女性50歳代(78.2%)が８割近くと最も高くなっている。「知らなかったし関心がない」は男性18～29歳(41.3%)が４割強と最も高く、次いで、男性75歳以上(38.7%)が４割近くと高くなっている。(図11－１－２)

図11－１－２ 千代田区自殺対策計画の認知度（性・年代別）

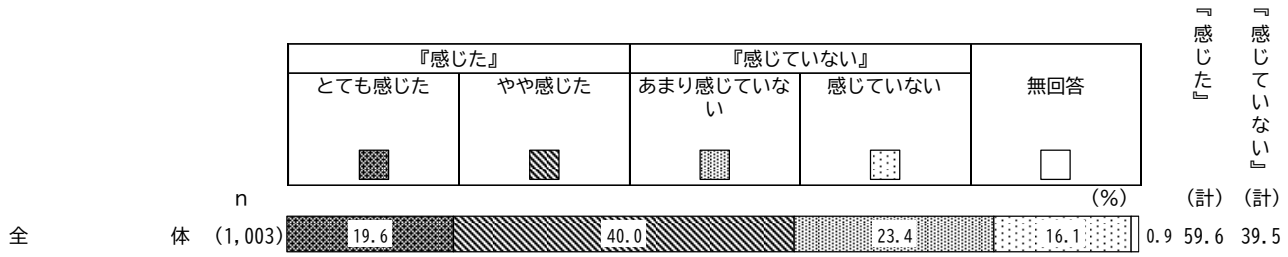


（２）ストレス等の有無

◇「やや感じた」が４割

問21　あなたは最近１ヶ月間に日常生活で不満、悩み、苦労、ストレスを感じましたか。
（○は１つ）

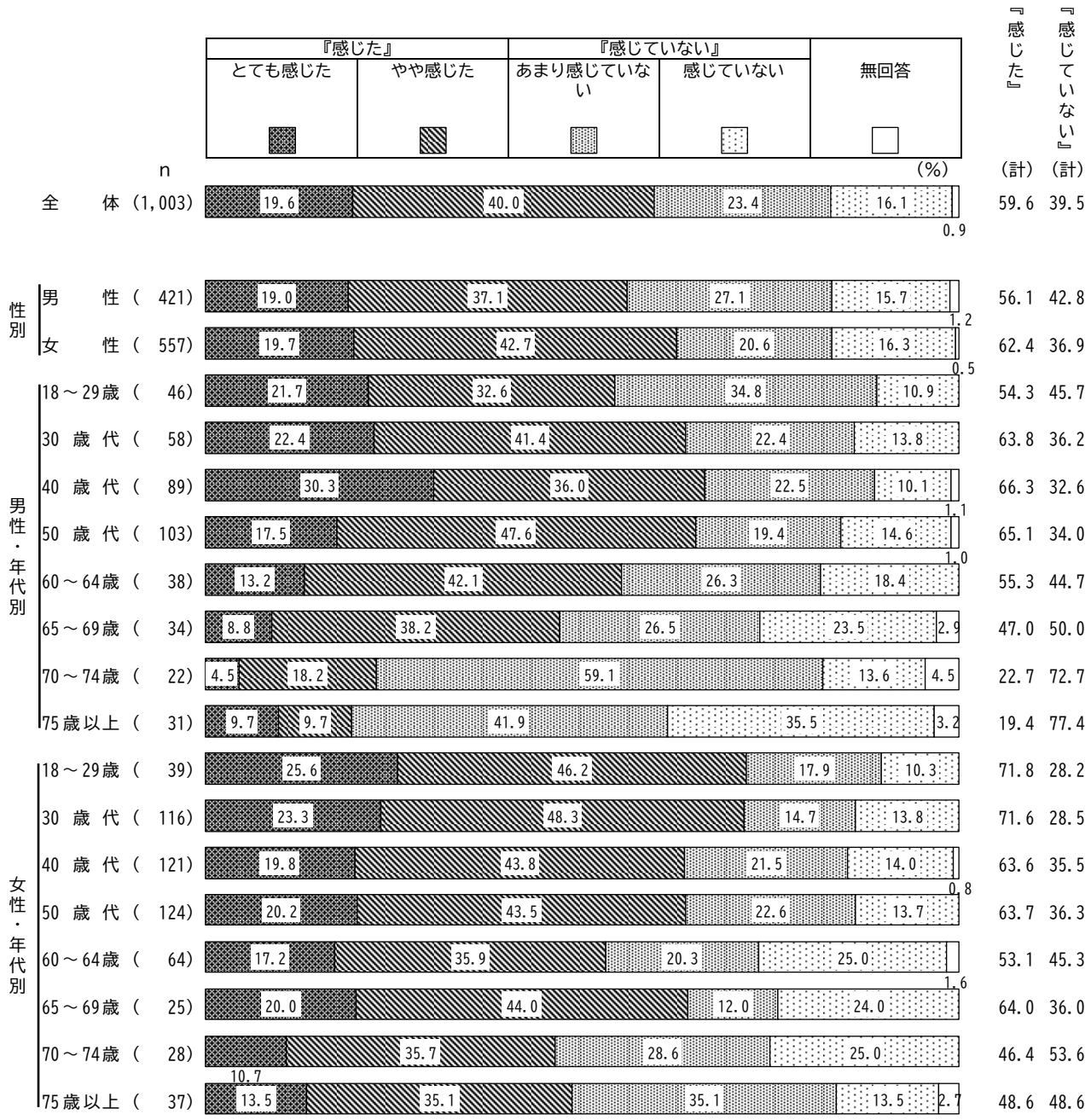
図11－２－１　ストレス等の有無



ストレス等の有無について聞いたところ、「やや感じた」(40.0%)が４割と最も高く、「とても感じた」(19.6%)を合わせた『感じた』(59.6%)は６割弱となっている。一方で、「あまり感じていない」(23.4%)と「感じていない」(16.1%)を合わせた『感じていない』(39.5%)が４割弱となっている。(図11－２－１)

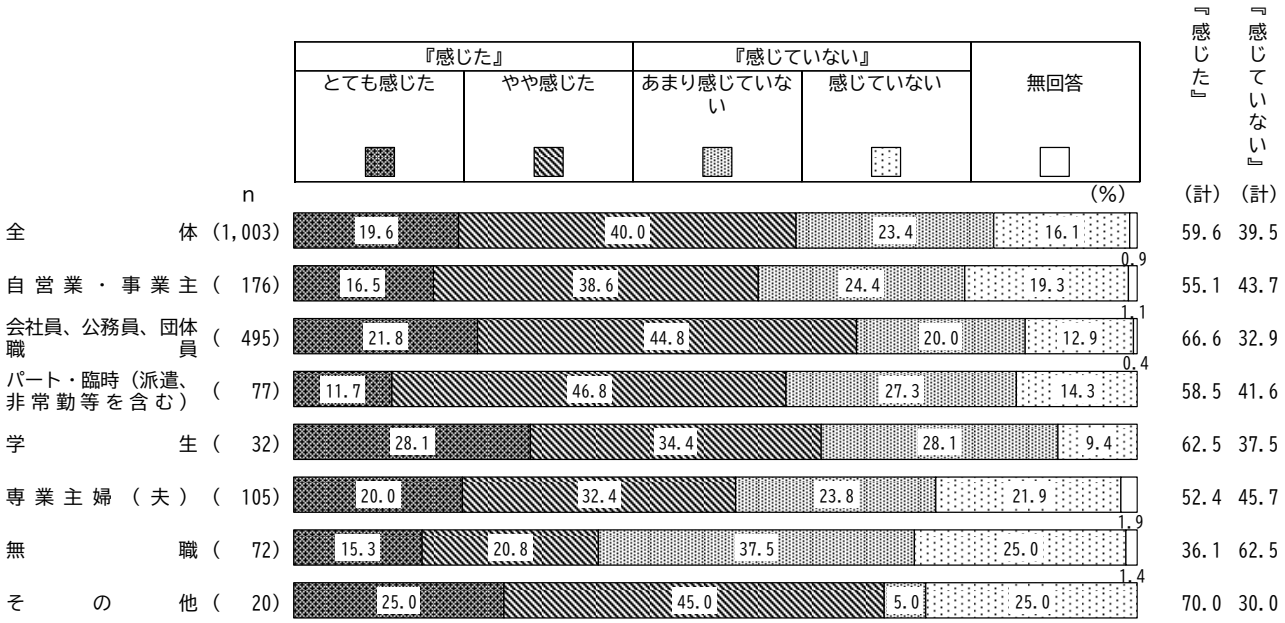
性・年代別にみると、『感じていない』は男性75歳以上(77.4%)が７割台半ば超えと最も高くなっている。(図11－２－２)

図11－２－２ ストレス等の有無（性・年代別）



職業別にみると、『感じていない』は無職(62.5%)が６割強と最も高くなっている。
（図11－２－３）

図11－２－３ ストレス等の有無（職業別）

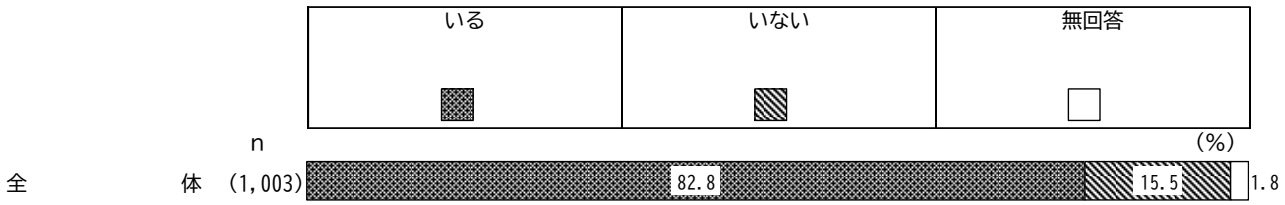


（３）悩みを相談できる人の有無

◇「いる」が８割強

問22　あなたは、悩みやストレスを感じたときに、相談できる人がいますか。
（○は１つ）

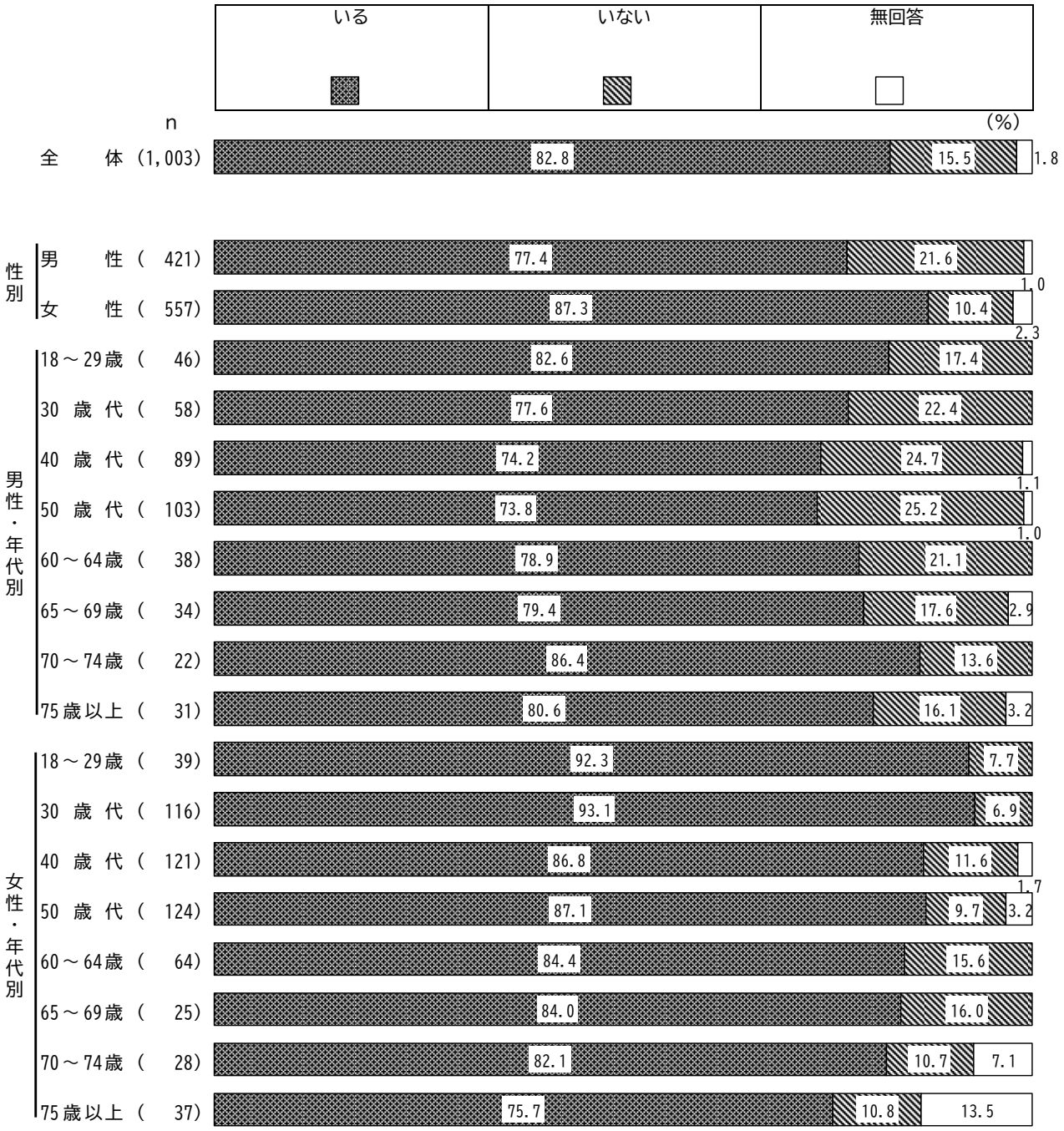
図11－３－１　悩みを相談できる人の有無



悩みを相談できる人の有無について聞いたところ、「いる」(82.8%)が８割強と高くなっている。(図11－３－１)

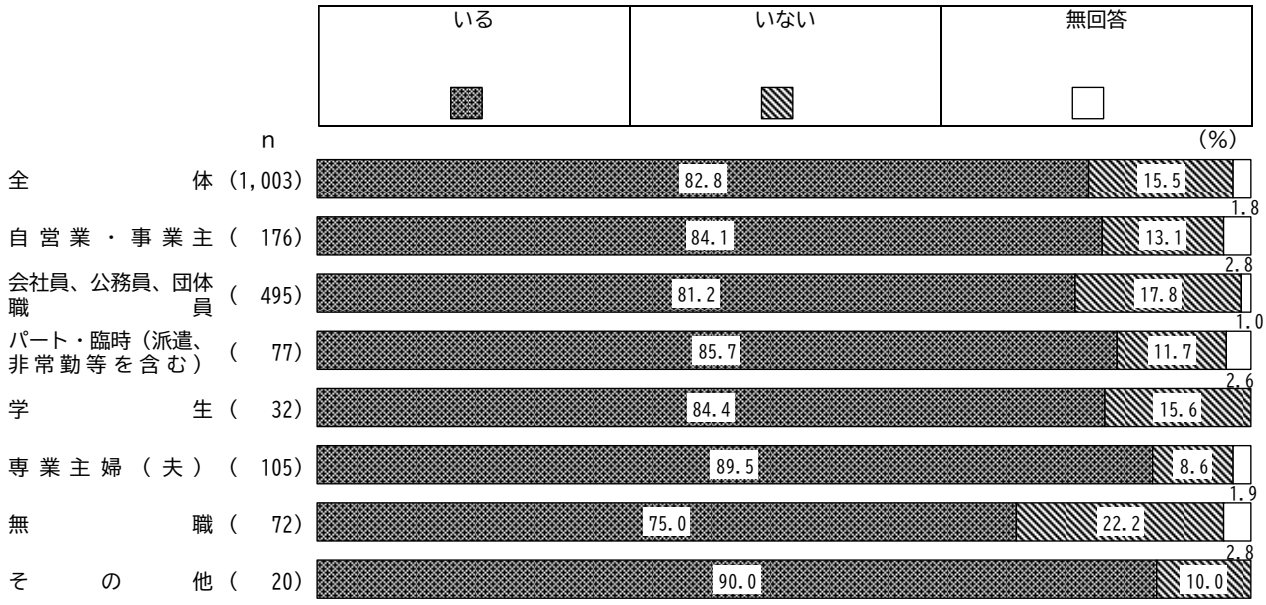
性・年代別にみると、「いる」は女性30歳代(93.1%)が９割台半ば近くと最も高くなっている。(図11－３－２)

図11－３－２ 悩みを相談できる人の有無（性・年代別）



職業別にみると、「いる」は専業主婦（夫）(89.5%)が９割弱、「いない」は無職(22.2%)が２割強とわずかに他よりも高くなっている。(図11－３－３)

図11－３－３ 悩みを相談できる人の有無（職業別）

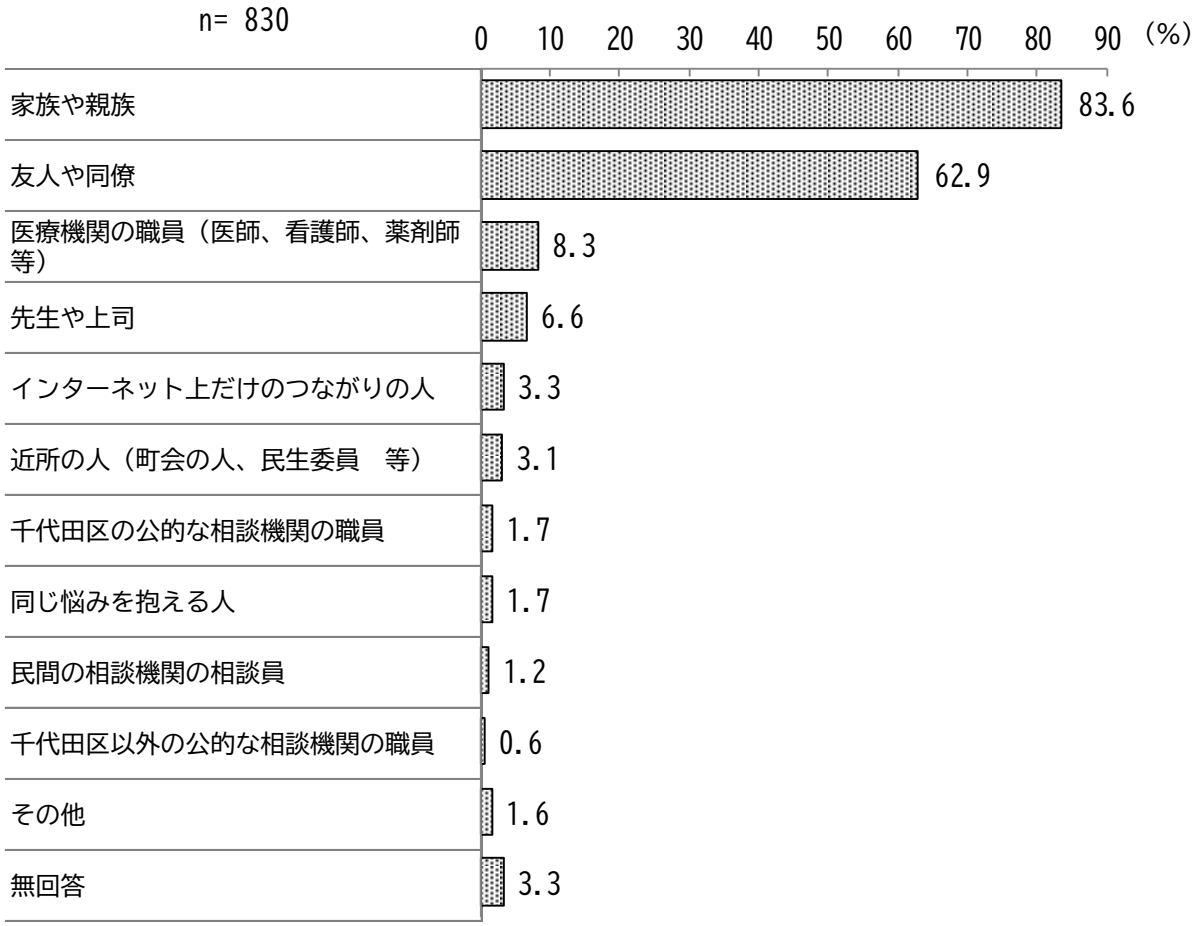


（３－１）悩みを相談する相手

◇「家族や親族」が８割台半ば近く

（問22で、「１.いる」とお答えの方に）
問22－１　悩みはどのような方に相談しますか。（○はいくつでも）

図11－３－４ 悩みを相談する相手



悩みを相談する相手について聞いたところ、「家族や親族」(83.6%)が８割台半ば近くと最も高く、次いで「友人や同僚」(62.9%)が６割強と高くなっている。(図11－３－４)

性・年代別にみると、「友人や同僚」は男性18～29歳(76.3%)が７割台半ば超えと最も高くなっている。また、「先生や上司」は男性18～29歳(23.7%)が２割台半ば近くと最も高く、次いで男性30歳(22.2%)が２割強と高くなっている。(図11－３－５)

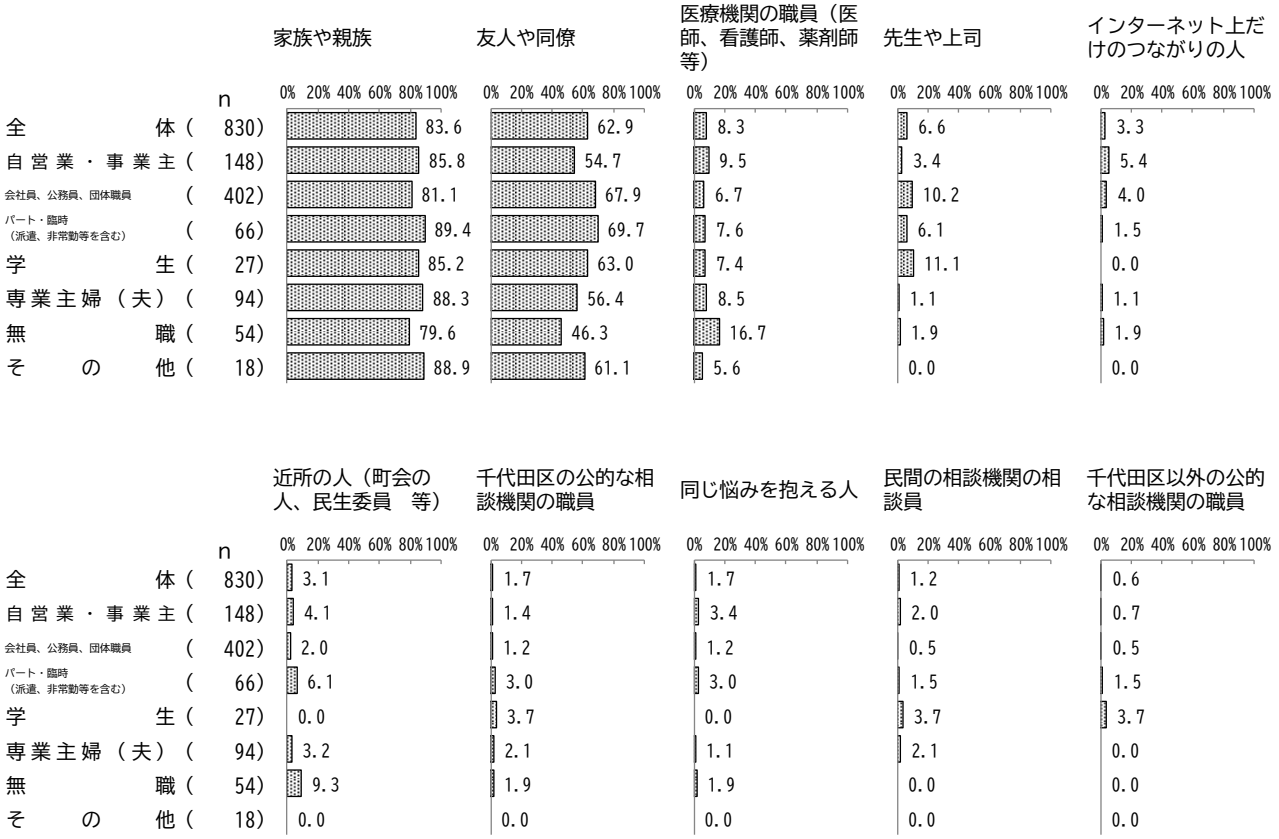
図11－３－５ 悩みを相談する相手（性・年代別）－上位10分野－

		n	家族や親族	友人や同僚	医療機関の職員（医師、看護師、薬剤師等）	先生や上司	インターネット上だけのつながりの人
	全体	830	83.6	62.9	8.3	6.6	3.3
性別	男性	326	84.4	57.4	6.7	9.8	3.4
	女性	486	83.5	66.3	9.1	4.5	3.3
男性・年代別	18～29歳	38	73.7	76.3	2.6	23.7	5.3
	30歳代	45	82.2	64.4	2.2	22.2	8.9
	40歳代	66	90.9	56.1	0.0	13.6	4.5
	50歳代	76	89.5	56.6	9.2	3.9	1.3
	60～64歳	30	83.3	50.0	10.0	3.3	0.0
	65～69歳	27	77.8	44.4	11.1	0.0	0.0
	70～74歳	19	78.9	57.9	21.1	0.0	5.3
	75歳以上	25	84.0	44.0	12.0	0.0	0.0
女性・年代別	18～29歳	36	83.3	66.7	5.6	8.3	2.8
	30歳代	108	91.7	65.7	5.6	5.6	5.6
	40歳代	105	80.0	71.4	9.5	9.5	4.8
	50歳代	108	85.2	66.7	9.3	1.9	2.8
	60～64歳	54	72.2	72.2	7.4	1.9	0.0
	65～69歳	21	81.0	61.9	9.5	0.0	0.0
	70～74歳	23	87.0	56.5	26.1	0.0	4.3
	75歳以上	28	85.7	50.0	14.3	0.0	0.0

		n	近所の人（町会の人、民生委員　等）	千代田区の公的な相談機関の職員	同じ悩みを抱える人	民間の相談機関の相談員	千代田区以外の公的な相談機関の職員
	全体	830	3.1	1.7	1.7	1.2	0.6
性別	男性	326	2.1	0.6	1.8	0.6	0.6
	女性	486	3.9	2.5	1.6	1.6	0.6
男性・年代別	18～29歳	38	2.6	2.6	5.3	2.6	2.6
	30歳代	45	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	66	1.5	0.0	3.0	0.0	1.5
	50歳代	76	3.9	0.0	1.3	1.3	0.0
	60～64歳	30	3.3	3.3	0.0	0.0	0.0
	65～69歳	27	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	70～74歳	19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	75歳以上	25	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0
女性・年代別	18～29歳	36	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0
	30歳代	108	4.6	1.9	0.9	1.9	0.0
	40歳代	105	2.9	5.7	4.8	2.9	1.9
	50歳代	108	1.9	1.9	0.0	1.9	0.9
	60～64歳	54	5.6	0.0	0.0	1.9	0.0
	65～69歳	21	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	70～74歳	23	8.7	8.7	0.0	0.0	0.0
	75歳以上	28	7.1	0.0	3.6	0.0	0.0

職業別にみると、「医療機関の職員」は無職(16.7%)が１割台半ば超えと最も高くなっている。(図11－３－６)

図11－３－６ 悩みを相談する相手（職業別） －上位10分野－

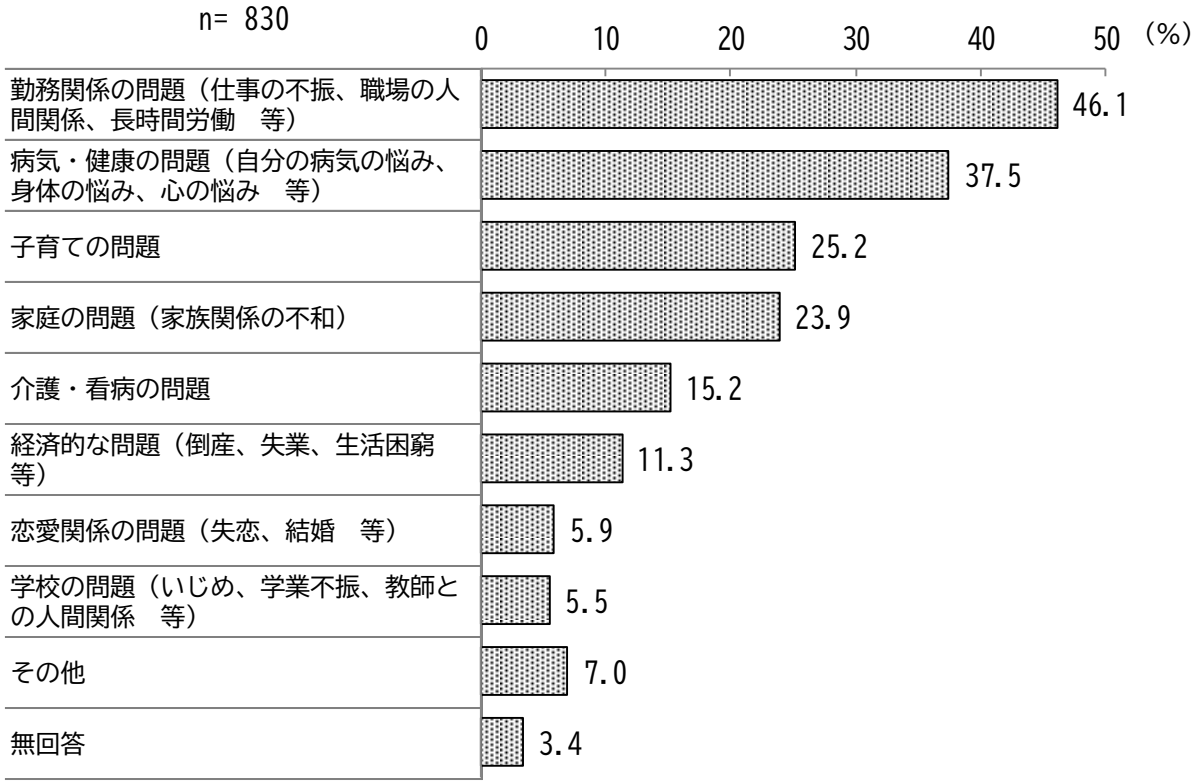


（３－２）相談内容

◇「勤務関係の問題（仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働　等）」が４割台半ば超え

（問22で、「１.いる」とお答えの方に）
問22－２　相談内容はどのようなことですか。（○はいくつでも）

図11－３－６ 相談内容



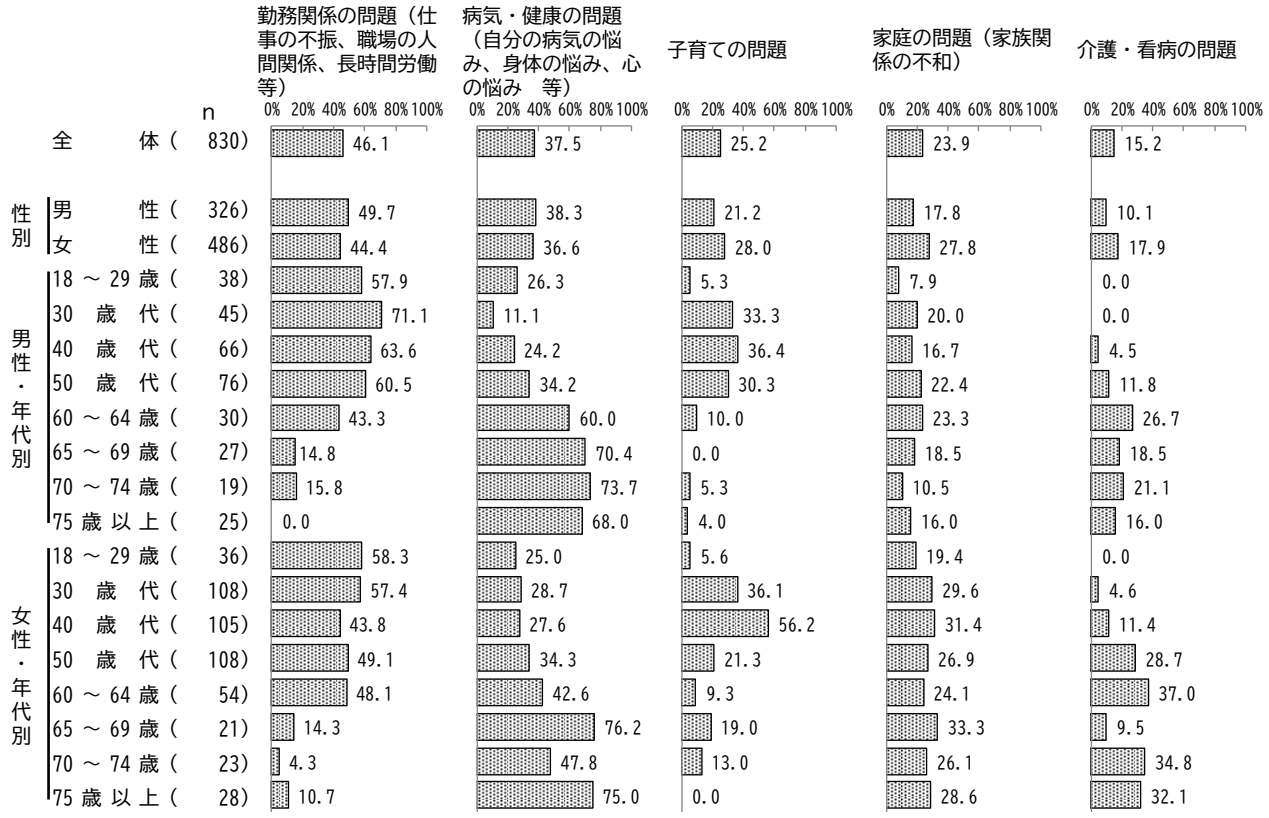
相談内容について聞いたところ、「勤務関係の問題（仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働　等）」(46.1%)が４割台半ば超えと最も高く、次いで「病気・健康の問題（自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み　等）」(37.5%)が３割台半ば超え、「子育ての問題」(25.2%)が２割台半ば、「家庭の問題（家族関係の不和）」(23.9%)が２割台半ば近くと高くなっている。

その他に具体的な記載をした人は20名おり、主な意見として「相続」、「夜間の騒音、住環境が悪化していることについて」、「上記悩みはなし。食べたいものの悩み程度。ストレスは文句がほとんど」、「色々含め人生観」などが挙げられている。（図11－３－６）

性・年代別にみると、「勤務関係の問題（仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等）」は男性30歳代(71.1%)が７割強と最も高くなっている。「病気・健康の問題（自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み　等）」は女性65～69歳(76.2%)が７割台半ば超えと最も高くなっており、次いで女性75歳以上(75.0%)が７割台半ば、男性65～69歳(70.4%)で約７割、男性75歳以上(68.0%)が７割近く、男性60～64歳(60.0%)で６割と高くなっている。「子育ての問題」は女性40歳代(56.2%)が５割台半ば超えと最も高くなっている。「介護・看病の問題」は女性60～64歳(37.0%)が３割台半ば超えと最も高くなっている。

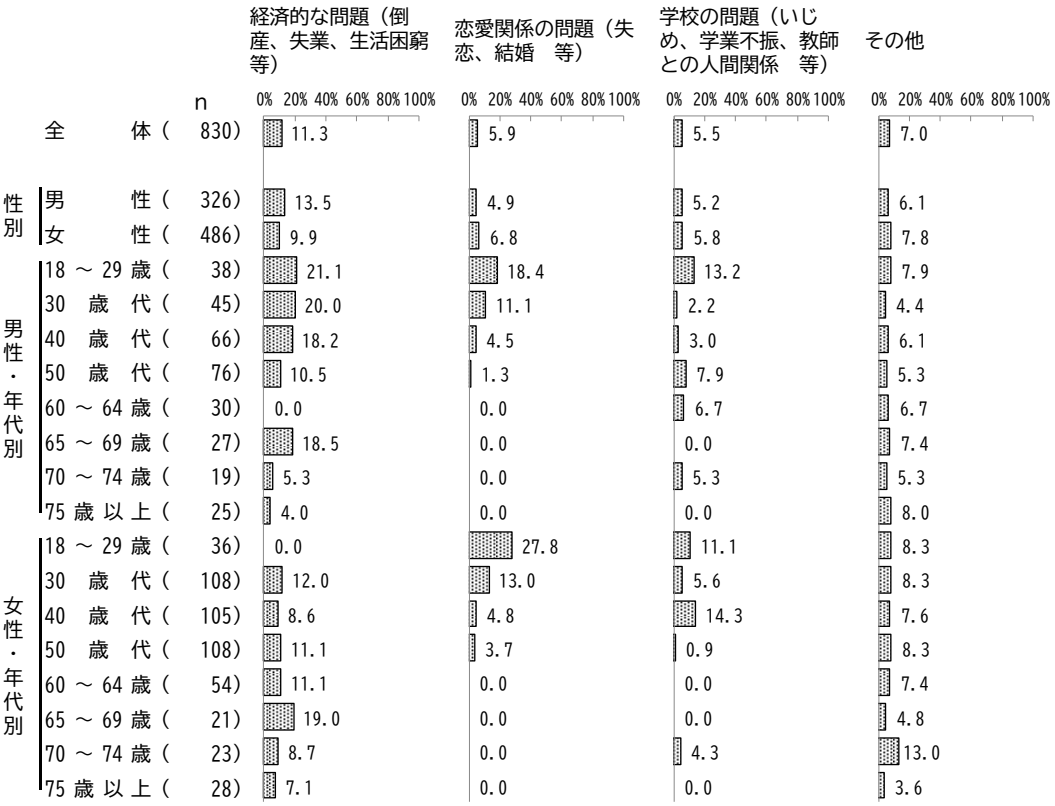
（図11－３－７－１）

図11－３－７－１ 相談内容（性・年代別）（１）



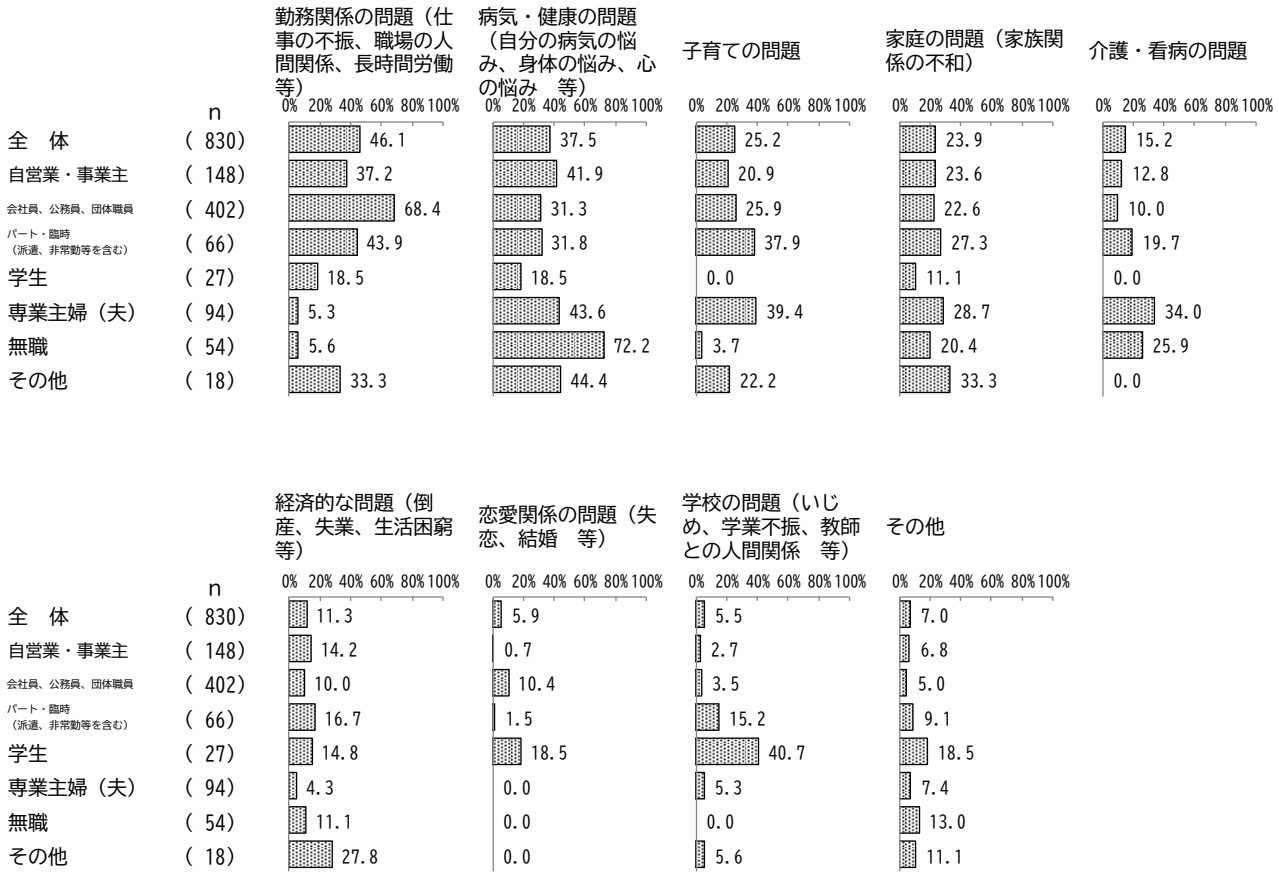
性・年代別にみると、「恋愛関係の問題（失恋、結婚　等）」は女性18～29歳(27.8%)が２割台半ば超えと最も高くなっている。（図11－３－７－２）

図11－３－７－２ 相談内容（性・年代別）（２）



職業別にみると、「勤務関係の問題（仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働　等）」は会社員、公務員、団体職員(68.4%)が７割近くと最も高くなっている。「病気・健康の問題（自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み　等）」は無職(72.2%)が７割強と最も高くなっている。(図11－３－８)

図11－３－８ 相談内容（職業別）

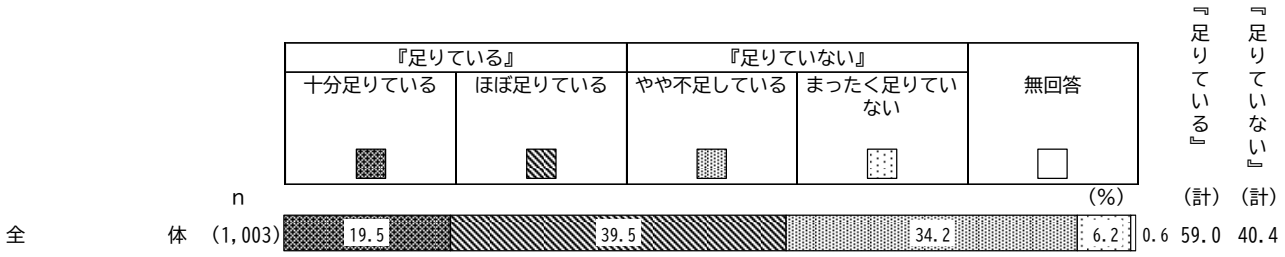


（４）睡眠時間

◇「ほぼ足りている」が４割弱

問23　あなたは普段の睡眠時間は足りていますか。（○は１つ）

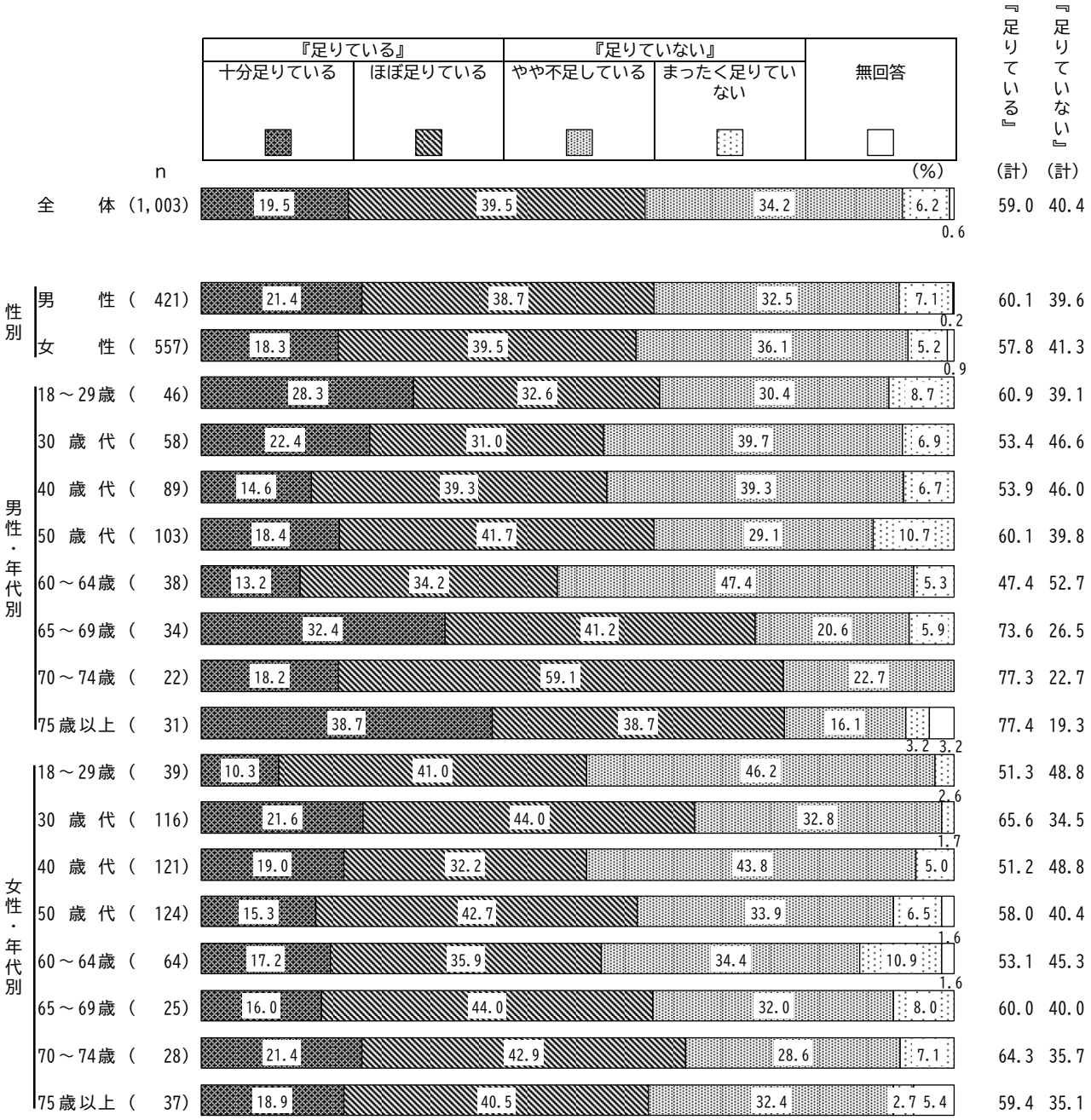
図11－４－１　睡眠時間



睡眠時間について聞いたところ、「ほぼ足りている」(39.5%)が４割弱と最も高く、「十分足りている」(19.5%)と合わせた『足りている』(59.0%)は６割弱となっている。一方で、「やや不足している」(34.2%)と「まったく足りていない」(6.2%)を合わせた『足りていない』(40.4%)は約４割となっている。（図11－４－１）

性・年代別にみると、『足りている』は男性75歳以上(77.4%)が７割台半ば超えと最も高く、男性65～69歳(73.6%)が７割台半ば近くと高くなっている。(図11－４－２)

図11－４－２ 睡眠時間（性・年代別）

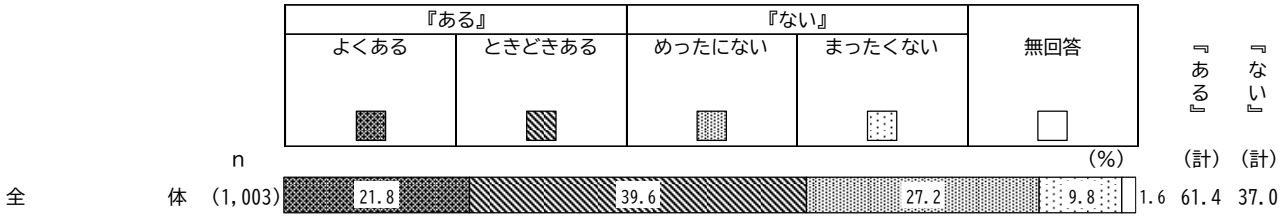


（５）熟睡できないことの有無

◇「ときどきある」が４割弱

問24　あなたはこの１ヶ月間に、寝床に入っても寝つきが悪い、途中で目が覚める、朝早く目が覚める、熟睡できないなど、眠れないことがありましたか。（○は１つ）

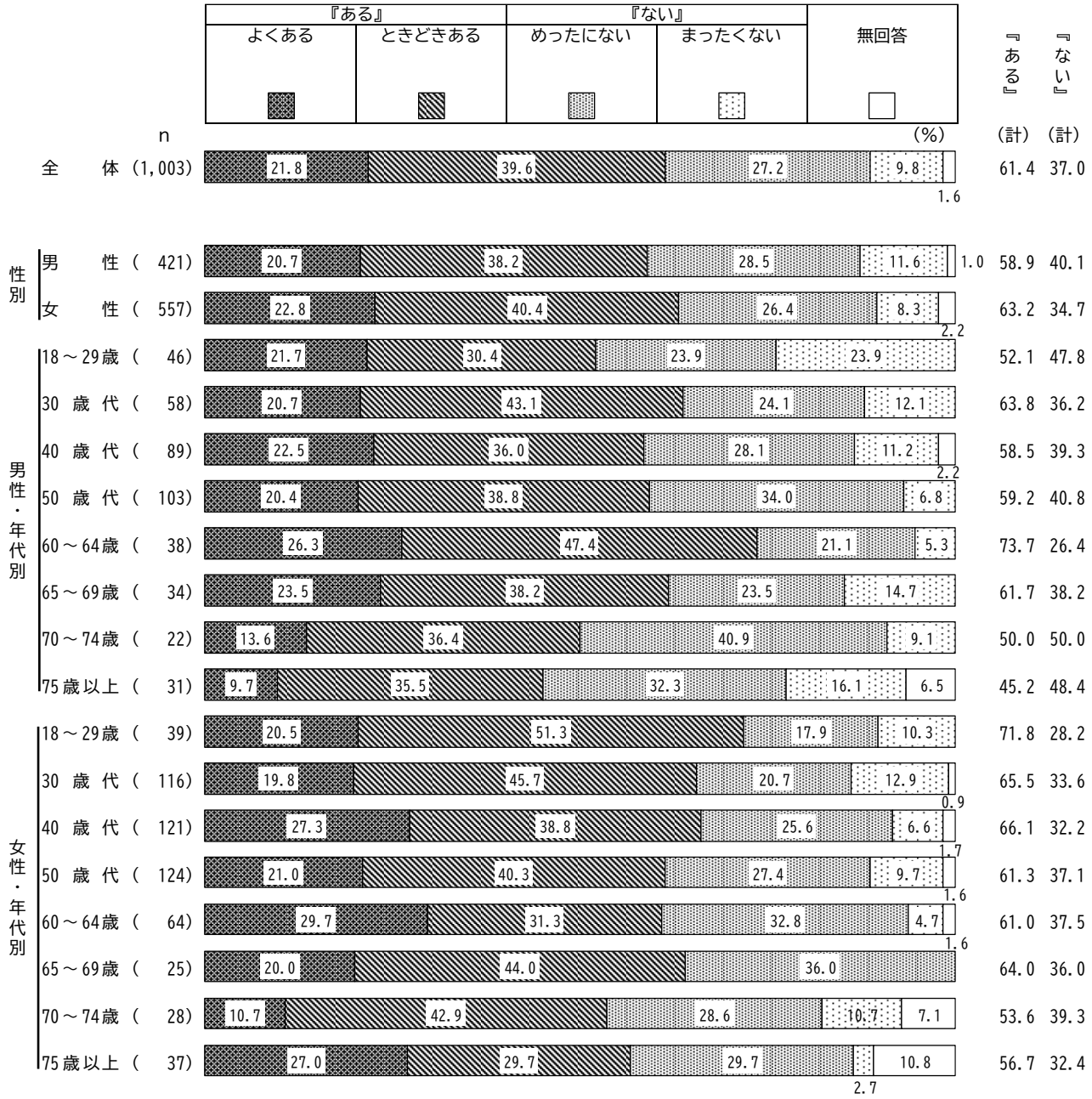
図11－５－１　熟睡できないことの有無



熟睡できないことの有無について聞いたところ、「ときどきある」(39.6%)が４割弱と最も高く、「よくある」(21.8%)と合わせた『ある』(61.4%)が６割強となっている。一方で、「めったにない」(27.2%)と「まったくない」(9.8%)を合わせた『ない』(37.0%)が３割台半ば超えとなっている。(図11－５－１)

性・年代別にみると、『ない』は男性75歳以上(48.4%)が５割近く、男性18～29歳(47.8%)が４割台半ば超えと高くなっている。(図11－５－２)

図11－５－２ 熟睡できないことの有無（性・年代別）



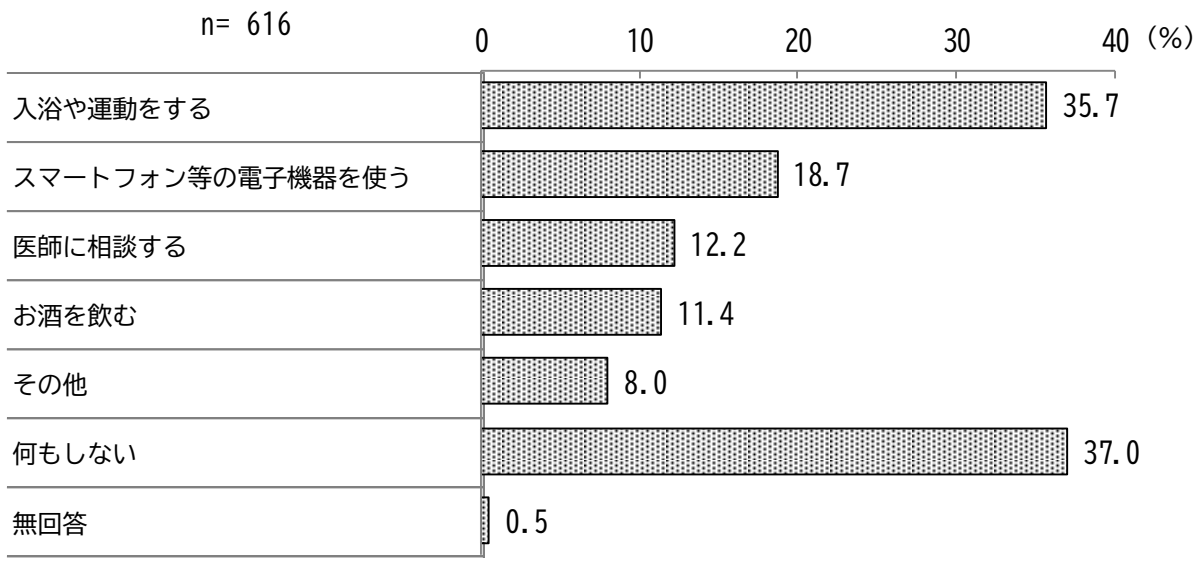
（５－１）眠れない日が続いた時の対応

◇「入浴や運動をする」が３割台半ば

（問24で「１.よくある」か「２.ときどきある」とお答えの方に）

問24－１　眠れない日が続いた際はどのように対応していますか。（○はいくつでも）

図11－５－３ 眠れない日が続いた時の対応

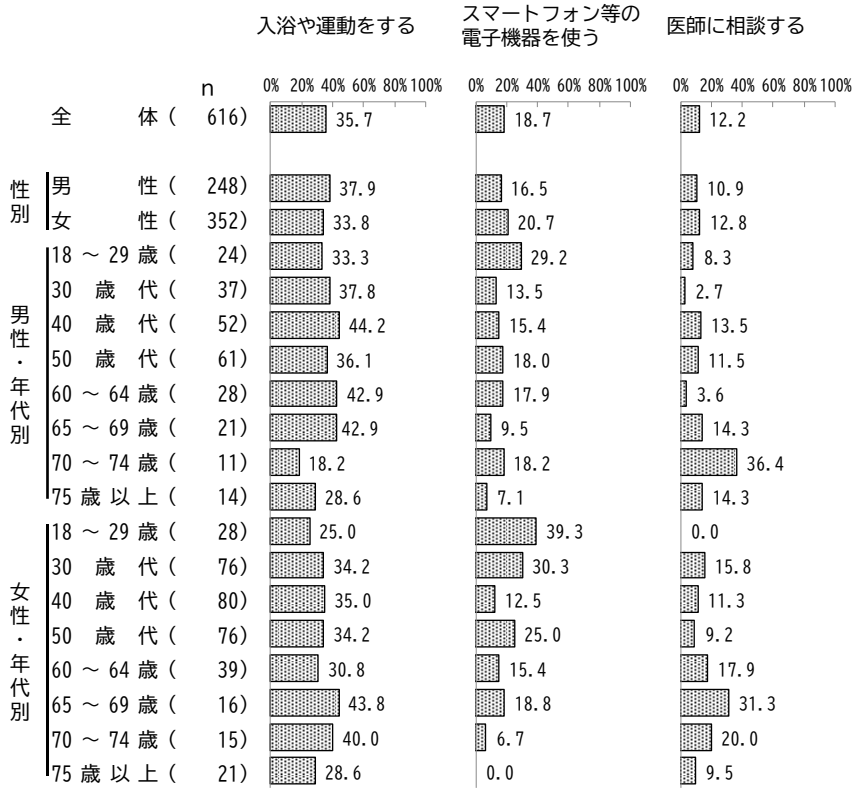


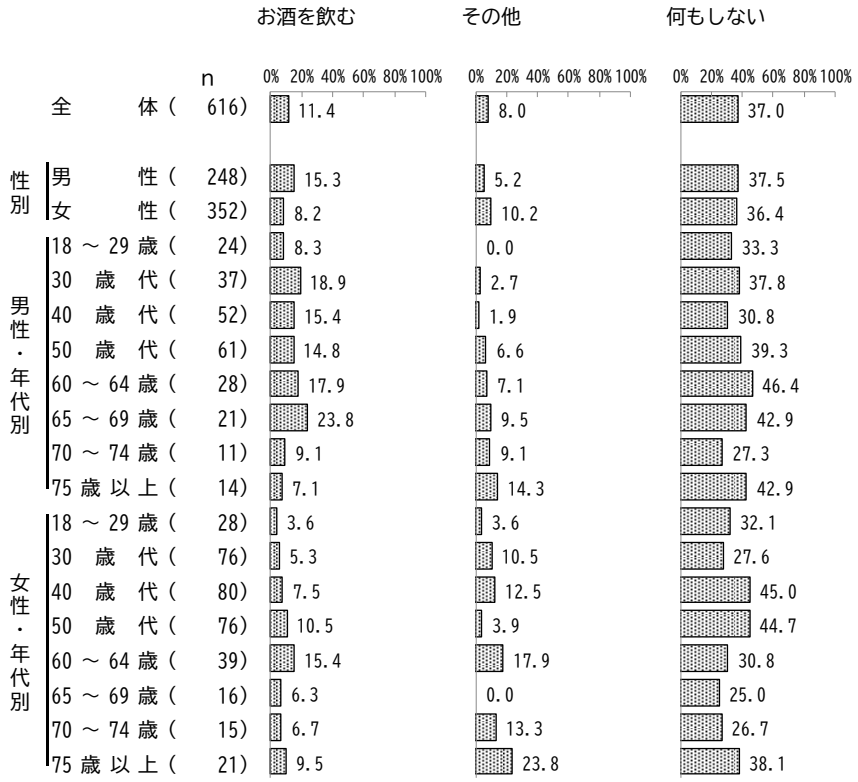
眠れない日が続いた時の対応について聞いたところ、「入浴や運動をする」(35.7%)が３割台半ばと最も高くなっている。

また、具体的な行動ではないが、「何もしない」(37.0%)も３割台半ば超えと高くなっている。（図11－５－３）

性・年代別にみると、「スマートフォン等の電子機器を使う」は女性18～29歳(39.3%)が４割弱と最も高くなっている。(図11－５－４)

図11－５－４ 眠れない日が続いた時の対応（性・年代別）



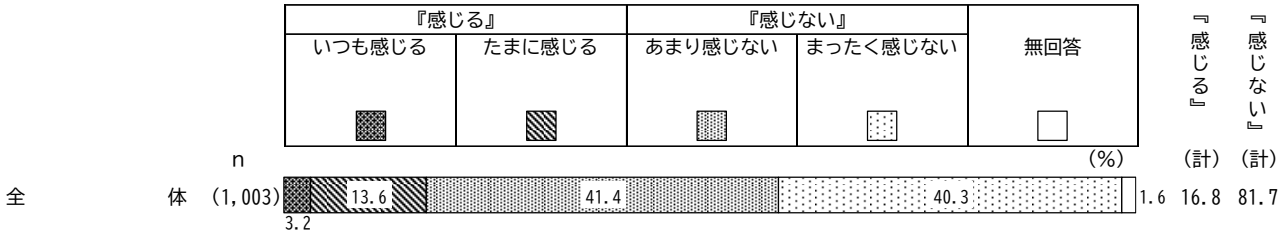


（６）自分の居場所がないと感じることの有無

◇「あまり感じない」が４割強

問25　あなたは普段の生活の中で「自分の居場所がない」と感じることがありますか。
（○は１つ）

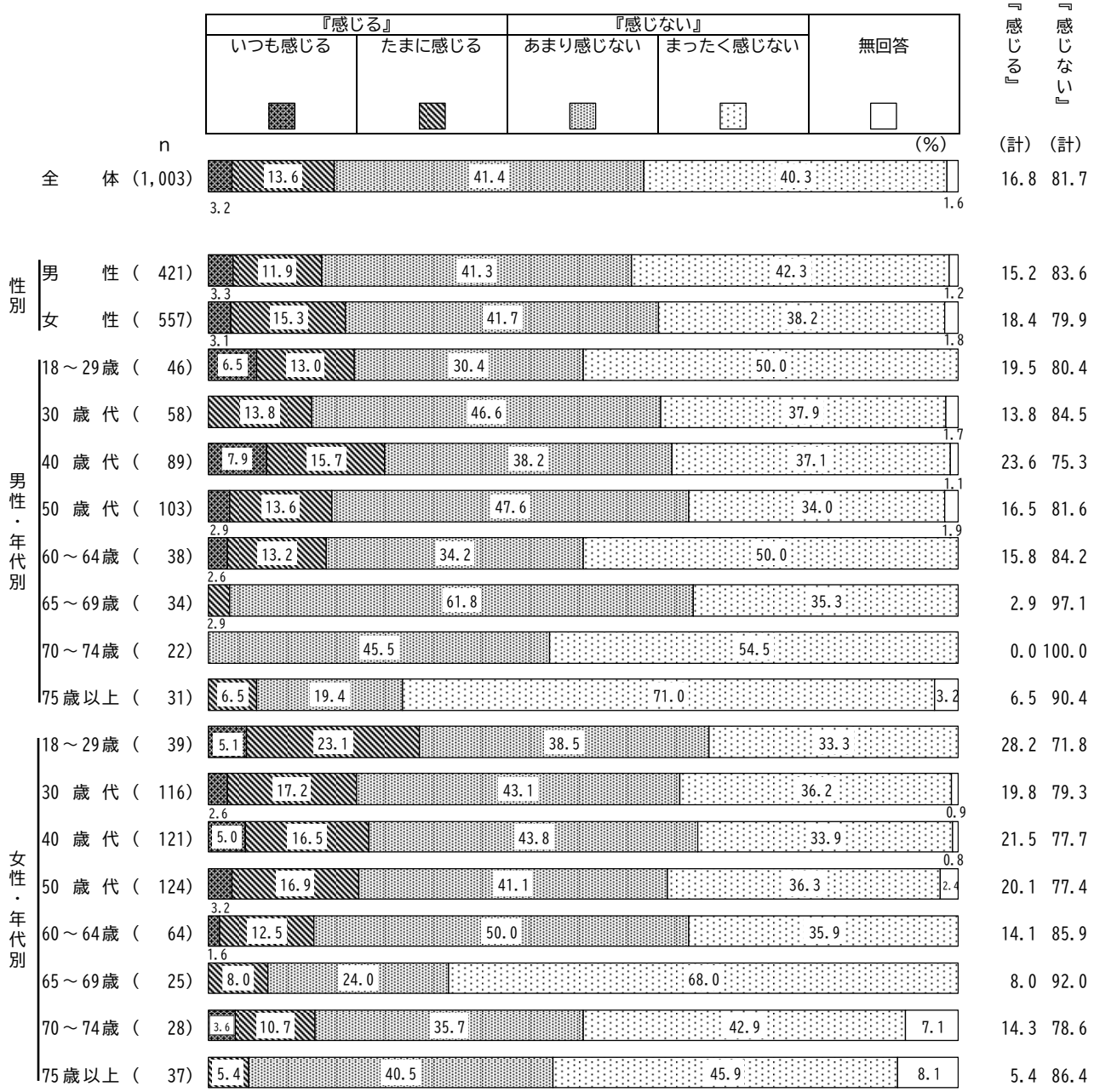
図11－６－１　自分の居場所がないと感じることの有無



自分の居場所がないと感じることの有無について聞いたところ、「あまり感じない」(41.4%)が４割強と最も高く、「まったく感じない」(40.3%)と合わせた『感じない』(81.7%)が８割強となっている。一方で、「いつも感じる」(3.2%)、「たまに感じる」(13.6%)と合わせた『感じる』(16.8%)が１割台半ば超えとなっている。(図11－６－１)

性・年代別にみると、「あまり感じない」は男性65～69歳(61.8%)が６割強と最も高くなっている。「まったく感じない」は男性75歳以上(71.0%)が７割強と最も高くなっており、次いで女性65～69歳(68.0%)が７割近くと高くなっている。(図11－６－２)

図11－６－２ 自分の居場所がないと感じることの有無（性・年代別）

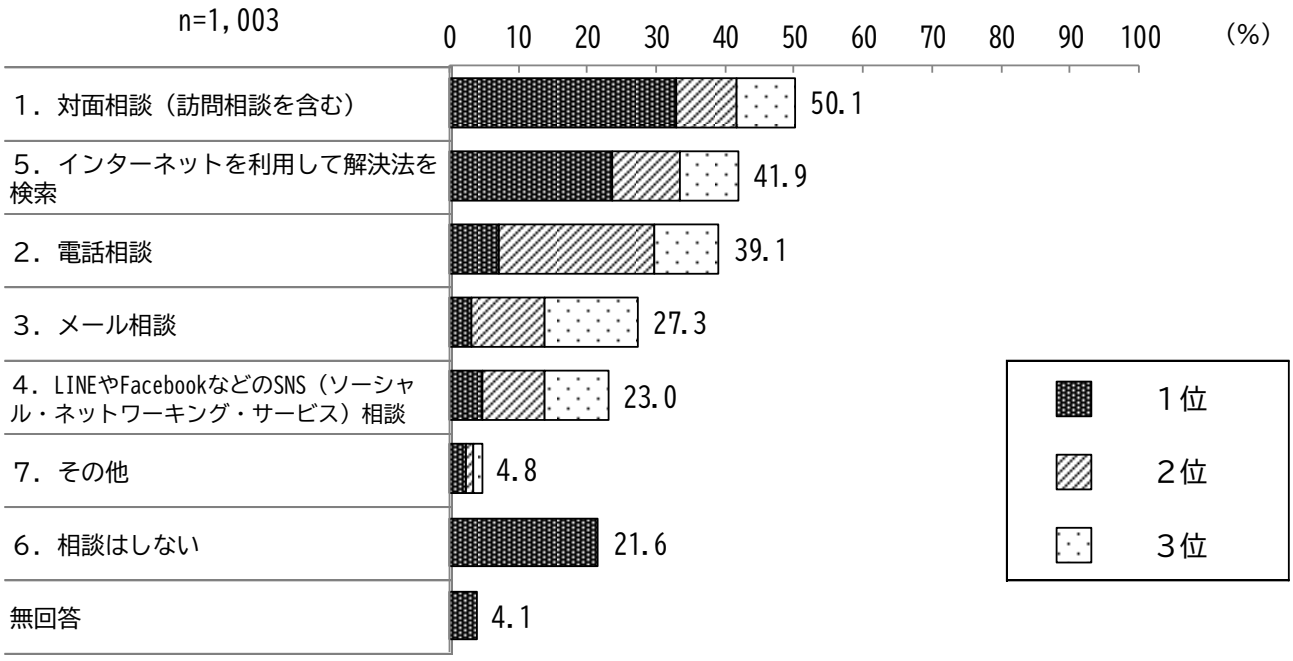


（７）悩みを相談する手段

◇「対面相談（訪問相談を含む）」が約５割

問26　あなたは悩みやストレスを感じた時に、どのような方法を利用して相談したいと思いますか。（優先順位の高い順に３つ番号を記入してください。）

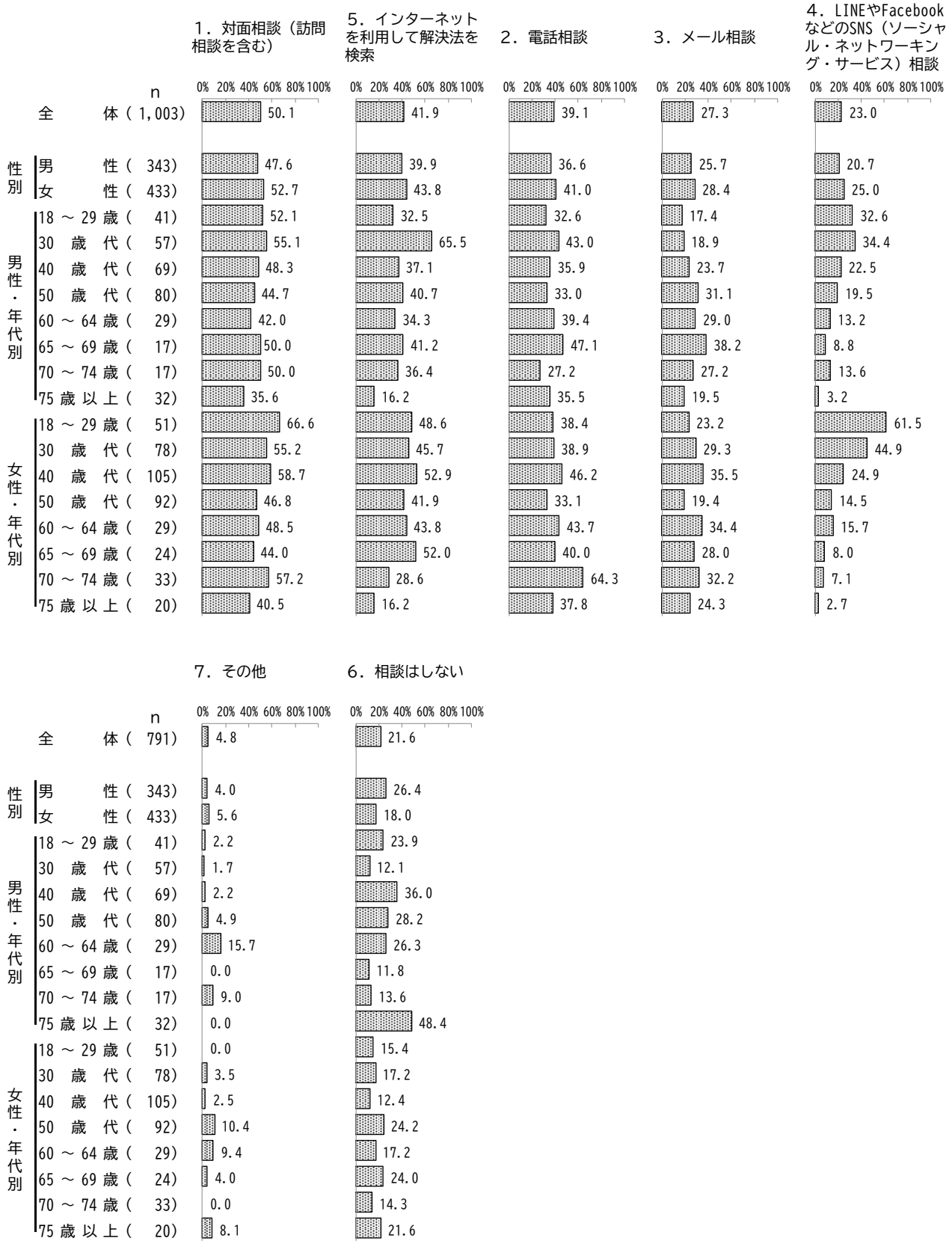
図11－７－１　悩みを相談する手段



悩みを相談する手段について聞いたところ、「対面相談（訪問相談を含む）」(50.1%)が約５割と最も高く、次いで「インターネットを利用して解決法を検索」(41.9%)が４割強と高くなっている。（図11－７－１）

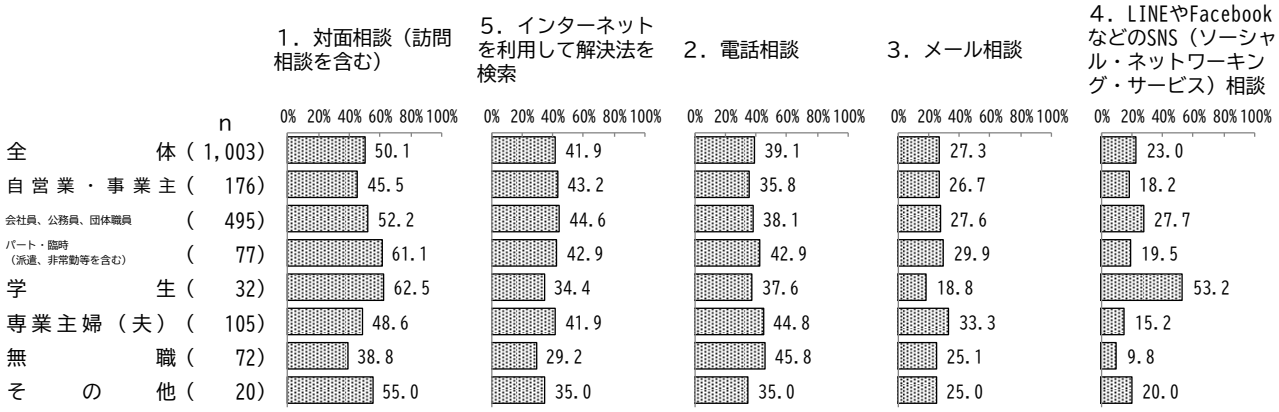
性・年代別にみると、「電話相談」は女性70～74歳(64.3%)が６割台半ば近くと最も高くなっている。「LINEやFacebookなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）相談」は女性18～29歳(61.5%)が６割強と最も高くなっており、次いで女性30歳代(44.9%)が４割台半ば近くと高くなっている。(図11－７－２)

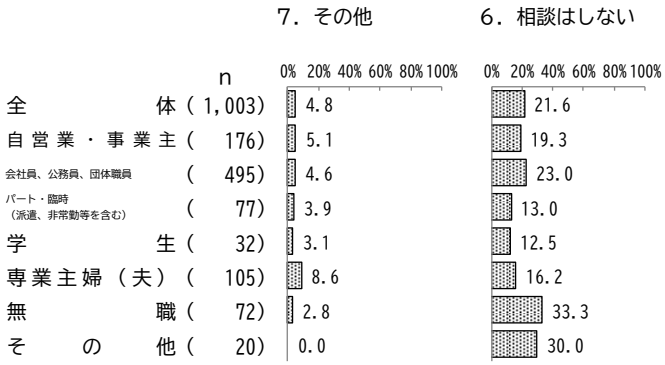
図11－７－２ 悩みを相談する手段（性・年代別）



職業別にみると、「対面相談（訪問相談を含む）」は学生(62.5%)が６割強と最も高く、次いで、パート・臨時（派遣、非常勤等を含む）(61.1%)が６割強となっている。「電話相談」は無職(45.8%)が４割台半ばと最も高くなっている。「LINEやFacebookなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）相談」は学生(53.2%)が５割台半ば近くと最も高くなっている。また、「相談はしない」は無職(33.3%)が３割台半ば近くと最も高くなっている。(図11－７－３)

図11－７－３ 悩みを相談する手段（職業別）



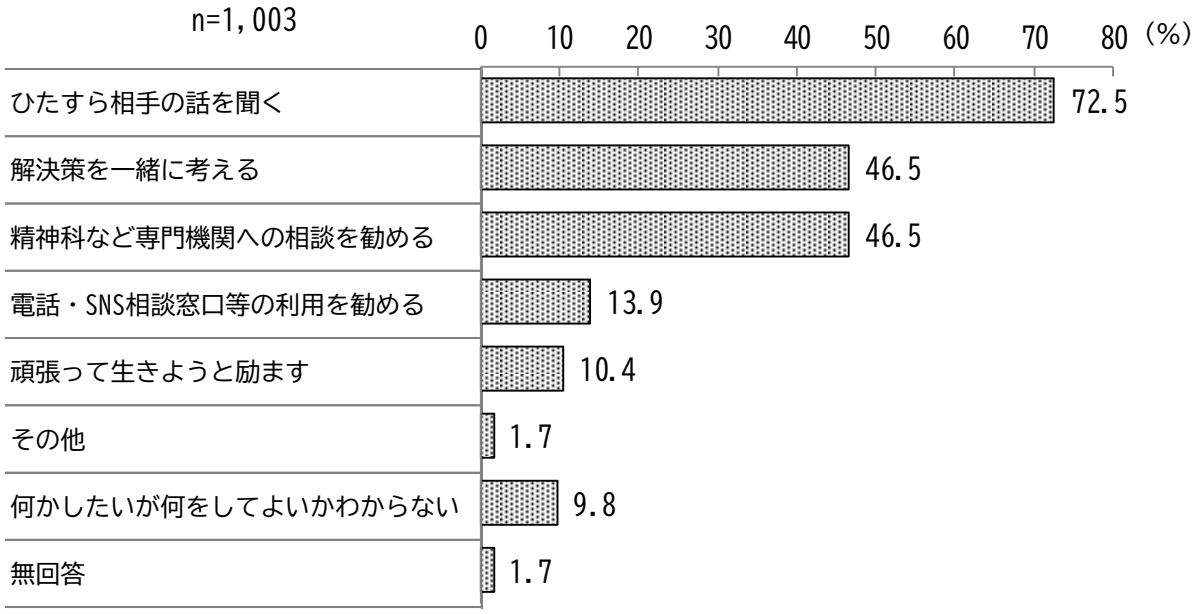


（８）「死にたい」と打ち明けられた時の対応

◇「ひたすら相手の話を聞く」が７割強

問27　あなたはもし身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、どのように対応しますか。（○はいくつでも）

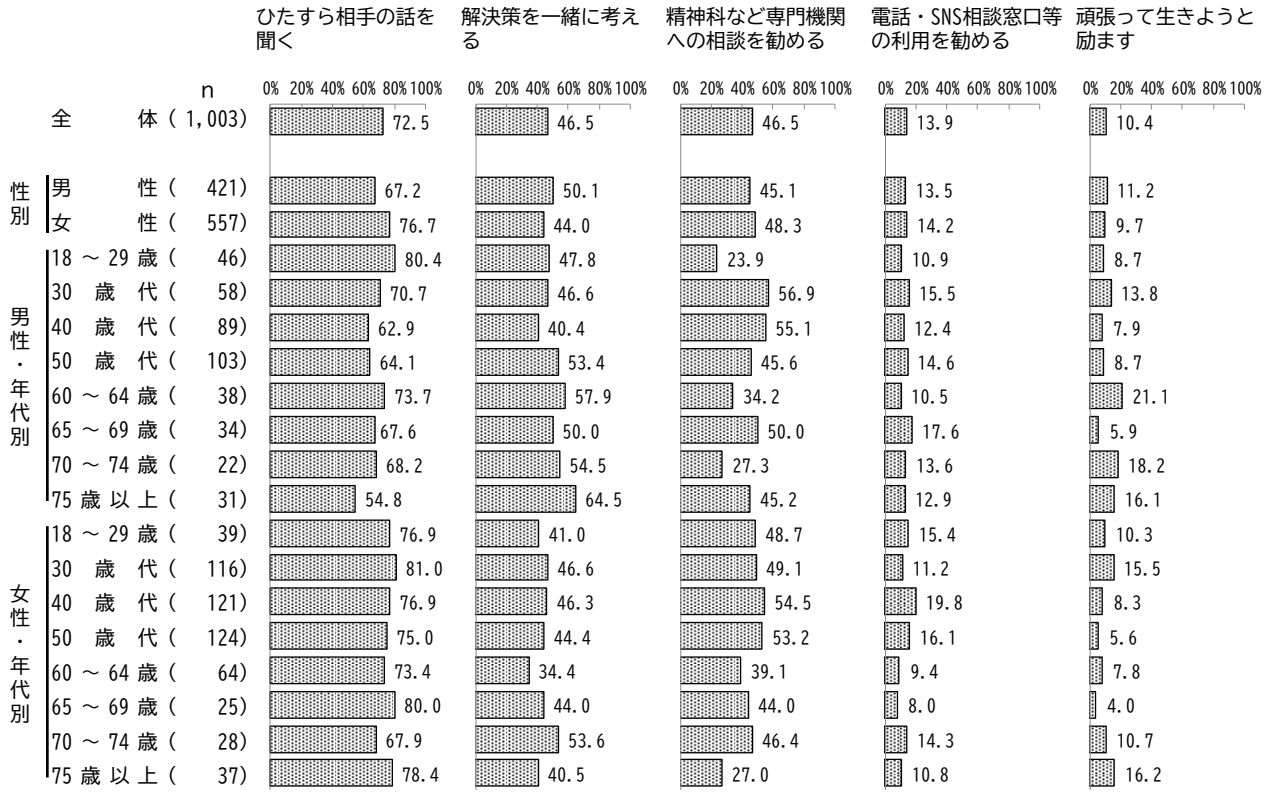
図11－８－１　「死にたい」と打ち明けられた時の対応

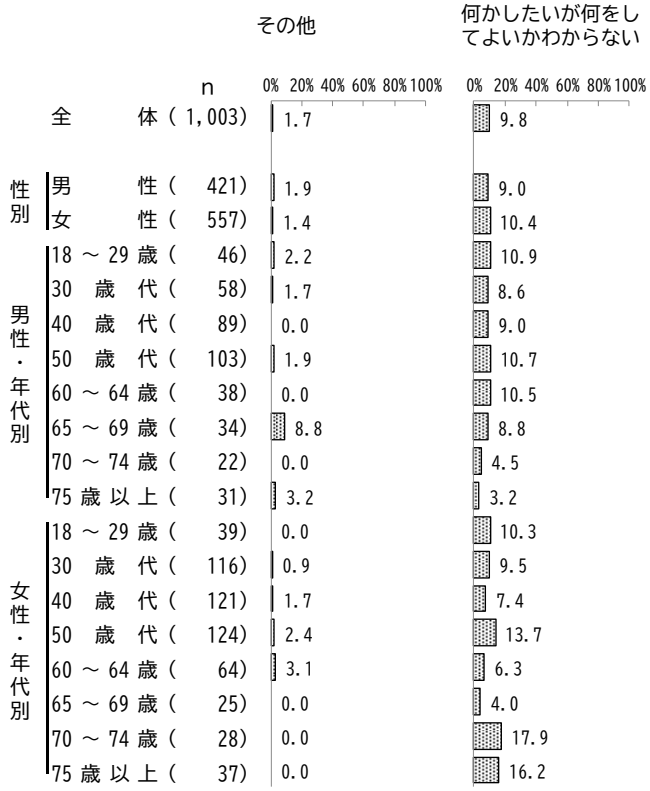


「死にたい」と打ち明けられた時の対応について聞いたところ、「ひたすら相手の話を聞く」(72.5%)が７割強と最も高く、次いで「解決策を一緒に考える」・「精神科など専門機関への相談を勧める」(46.5%)が４割台半ば超えと高くなっている。（図11－８－１）

性・年代別にみると、「解決策を一緒に考える」は男性75歳以上(64.5%)が６割台半ば近くと最も高く、次いで男性60～64歳(57.9%)が５割台半ば超えと高くなっている。また、「精神科など専門機関への相談を勧める」は男性30歳代(56.9%)が５割台半ば超えと最も高くなっている。(図11－８－２)

図11－８－２　「死にたい」と打ち明けられた時の対応（性・年代別）



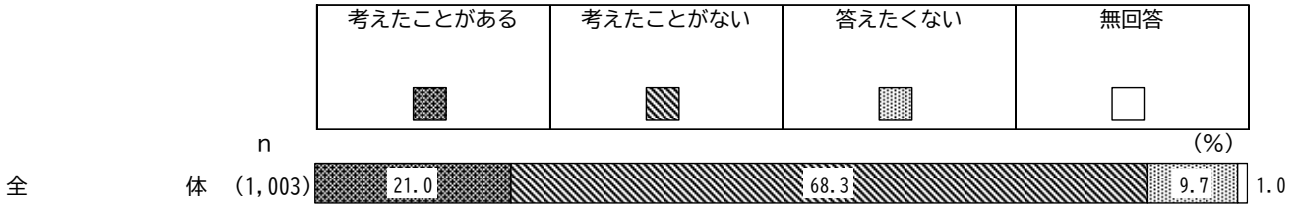


（９）自殺を考えたことの有無

◇「考えたことがない」が７割近く

問28　あなたはこれまでに、「自殺」をしたいと考えたことはありますか。（○は１つ）

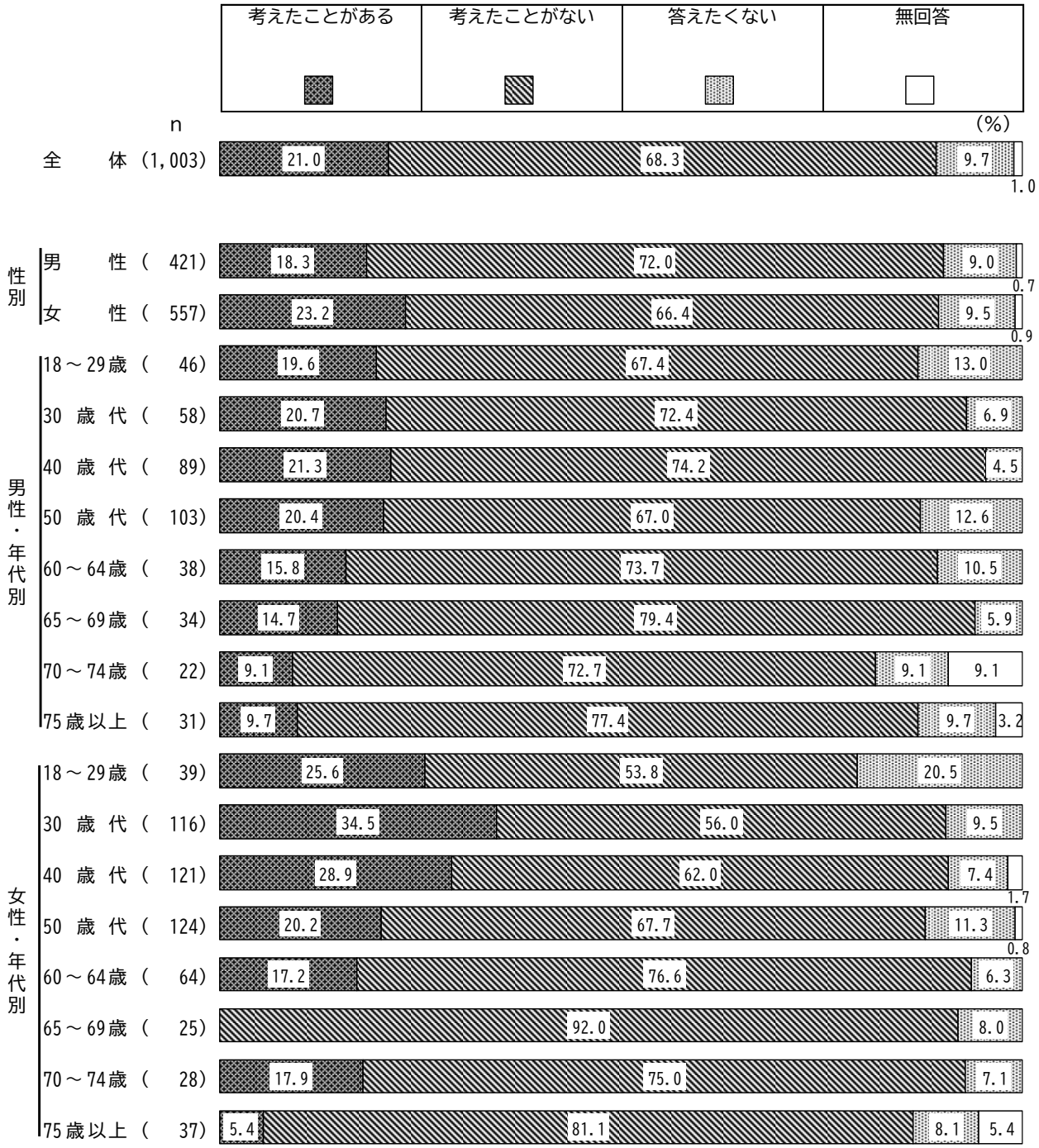
図11－９－１　自殺を考えたことの有無



自殺を考えたことの有無について聞いたところ、「考えたことがない」(68.3%)が７割近くと最も高く、次いで「考えたことがある」(21.0%)が２割強と高くなっている。
（図11－９－１）

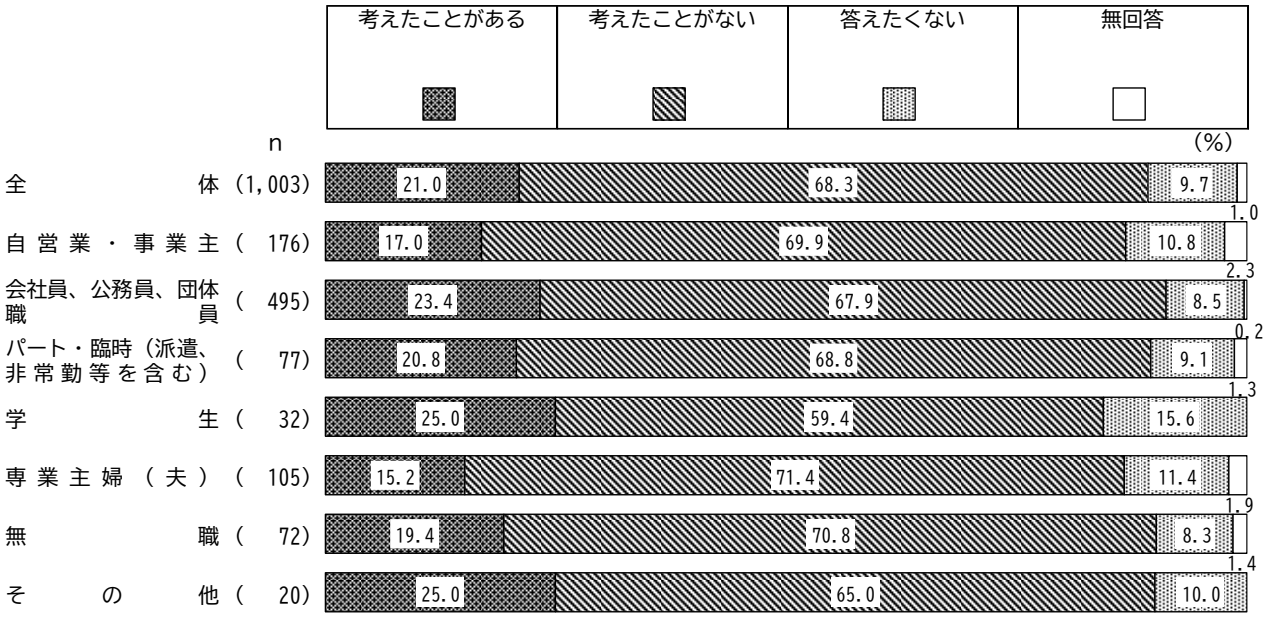
性・年代別にみると、「考えたことがない」は女性65～69歳(92.0%)が９割強と最も高くなっている。(図11－９－２)

図11－９－２ 自殺を考えたことの有無（性・年代別）



職業別にみると、大きな差はみられない。（図11－９－３）

図11－９－３ 自殺を考えたことの有無（職業別）



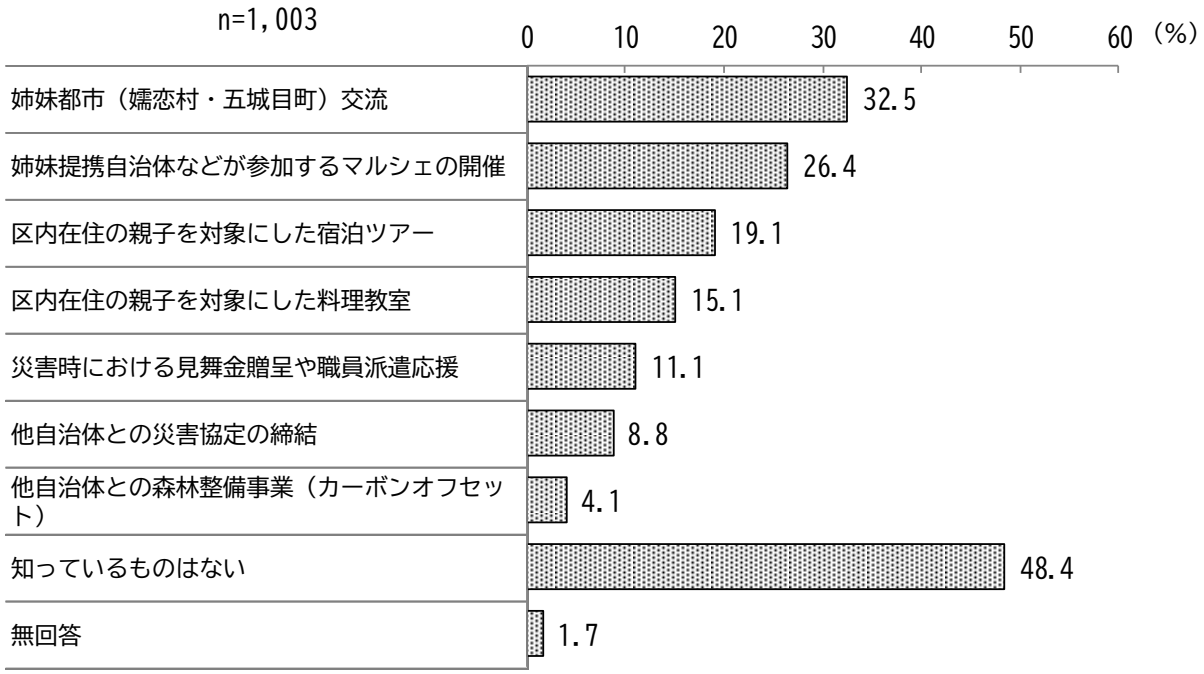
12. 地方との連携支援事業の区民認知度

（１）連携支援事業の認知度

◇「姉妹都市（嬬恋村・五城目町）交流」が３割強

問29　区や関係団体が実施する取り組みでご存じのものを全て選んでください。
（○はいくつでも）

図12－１－１　連携支援事業の認知度

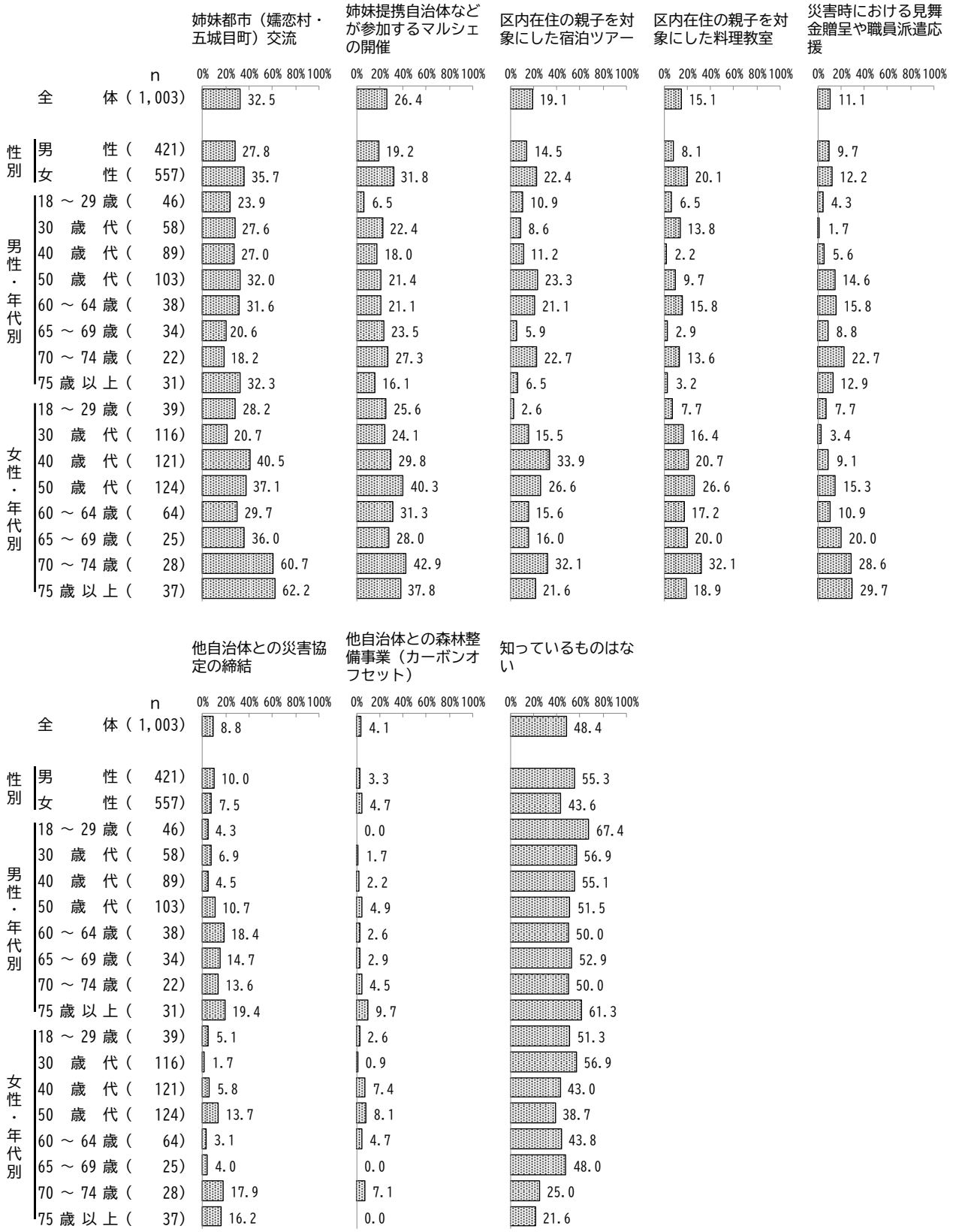


連携支援事業の認知度について聞いたところ、「知っているものはない」(48.4%)が５割近くと最も高く、次いで「姉妹都市（嬬恋村・五城目町）交流」(32.5%)が３割強、「姉妹提携自治体などが参加するマルシェの開催」(26.4%)が２割台半ば超えと高くなっている。(図12－１－１)

性・年代別にみると、「姉妹都市（嬬恋村・五城目町）交流」は女性75歳以上(62.2%)が６割強と最も高くなっており、次いで女性70～74歳(60.7%)で約６割と高くなっている。

（図12－１－２）

図12－１－２ 連携支援事業の認知度（性・年代別）



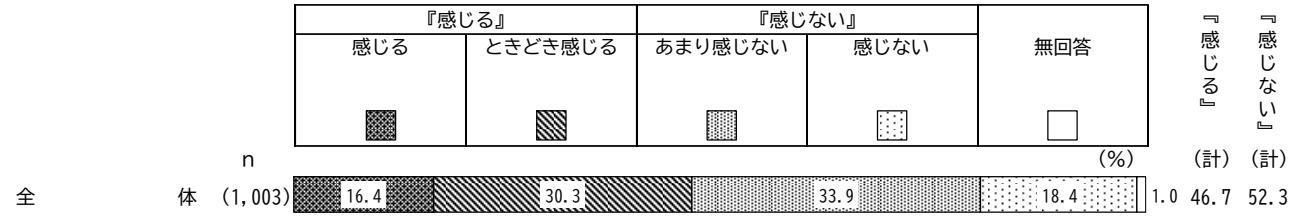
13. 男女平等、人権

（１）性別による不平等を感じることがあるか

◇「あまり感じない」が３割台半ば近く

問30　あなたは、日常生活において、「性別によって不平等がある」と感じることはありますか。（○は１つ）

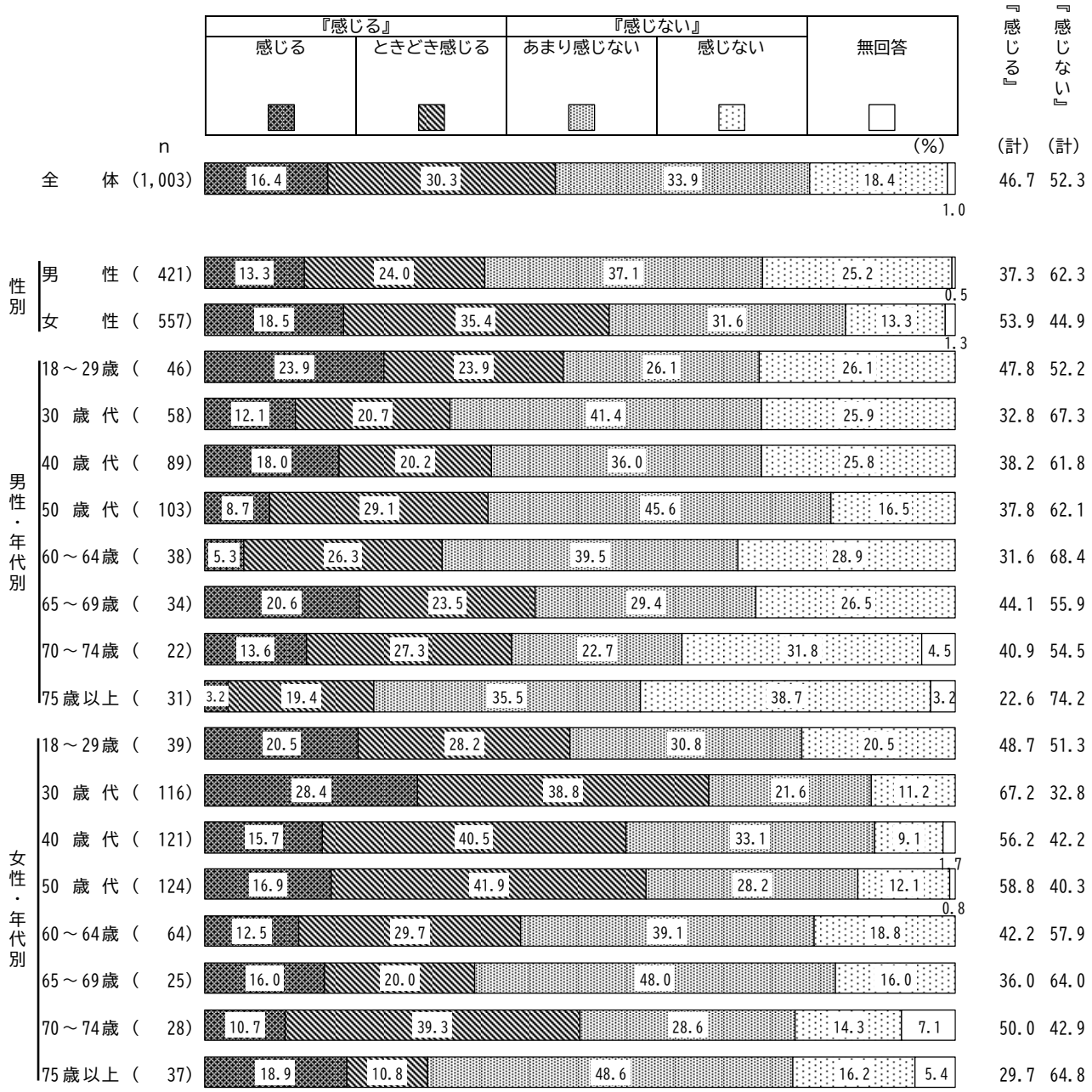
図13－１－１　性別による不平等を感じることがあるか



性別による不平等を感じることがあるかについて聞いたところ、「あまり感じない」(33.9%)が３割台半ば近くと最も高く、「感じない」(18.4%)と合わせた『感じない』(52.3%)が５割強となっている。一方で、「感じる」(16.4%)と「ときどき感じる」(30.3%)を合わせた『感じる』(46.7%)が４割台半ば超えとなっている。(図13－１－１)

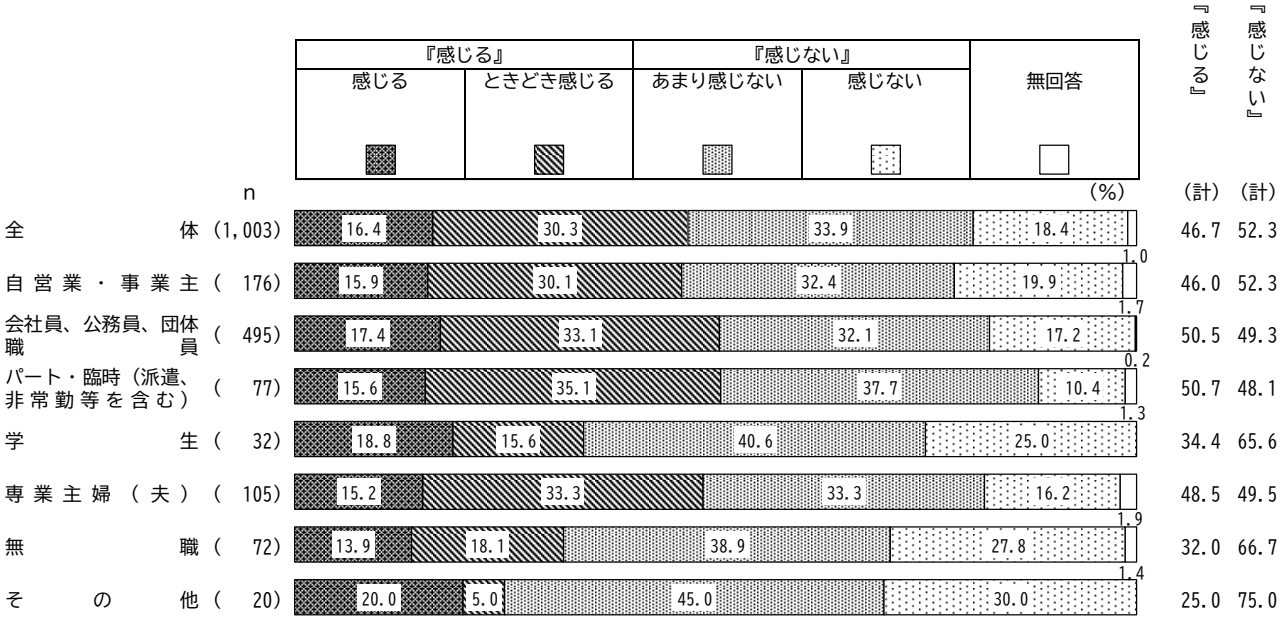
性・年代別にみると、『感じる』は女性30歳代(67.2%)が６割台半ば超えと最も高くなっている。一方で、『感じない』は男性75歳以上(74.2%)が７割台半ば近くと最も高くなっている。(図13－１－２)

図13－１－２ 性別による不平等を感じることがあるか（性・年代別）



職業別にみると、『感じない』は無職(66.7%)が６割台半ば超え、学生(65.6%)が６割台半ばとなっている。(図13－１－３)

図13－１－３ 性別による不平等を感じることがあるか（職業別）

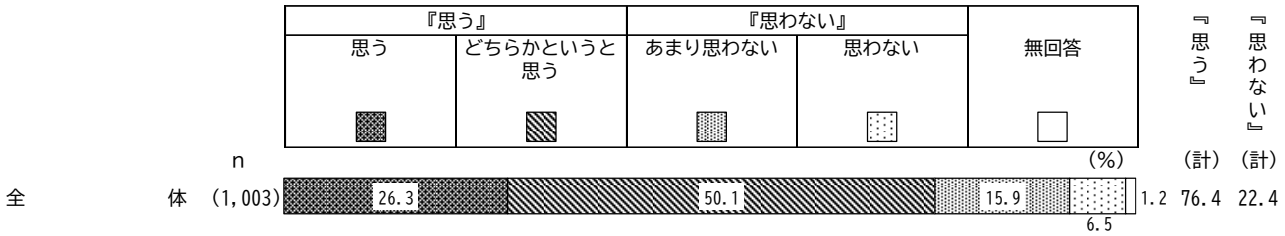


（２）人権が尊重されている社会だと思うか

◇「どちらかというと思う」が約５割

問31　ＤＶ（配偶者や親密な間柄での暴力）被害や児童・高齢者虐待、いじめなどのない人権を侵害する行為が社会問題となっています。あなたのまわりでは、人権が尊重されている社会であると思いますか。（○は１つ）

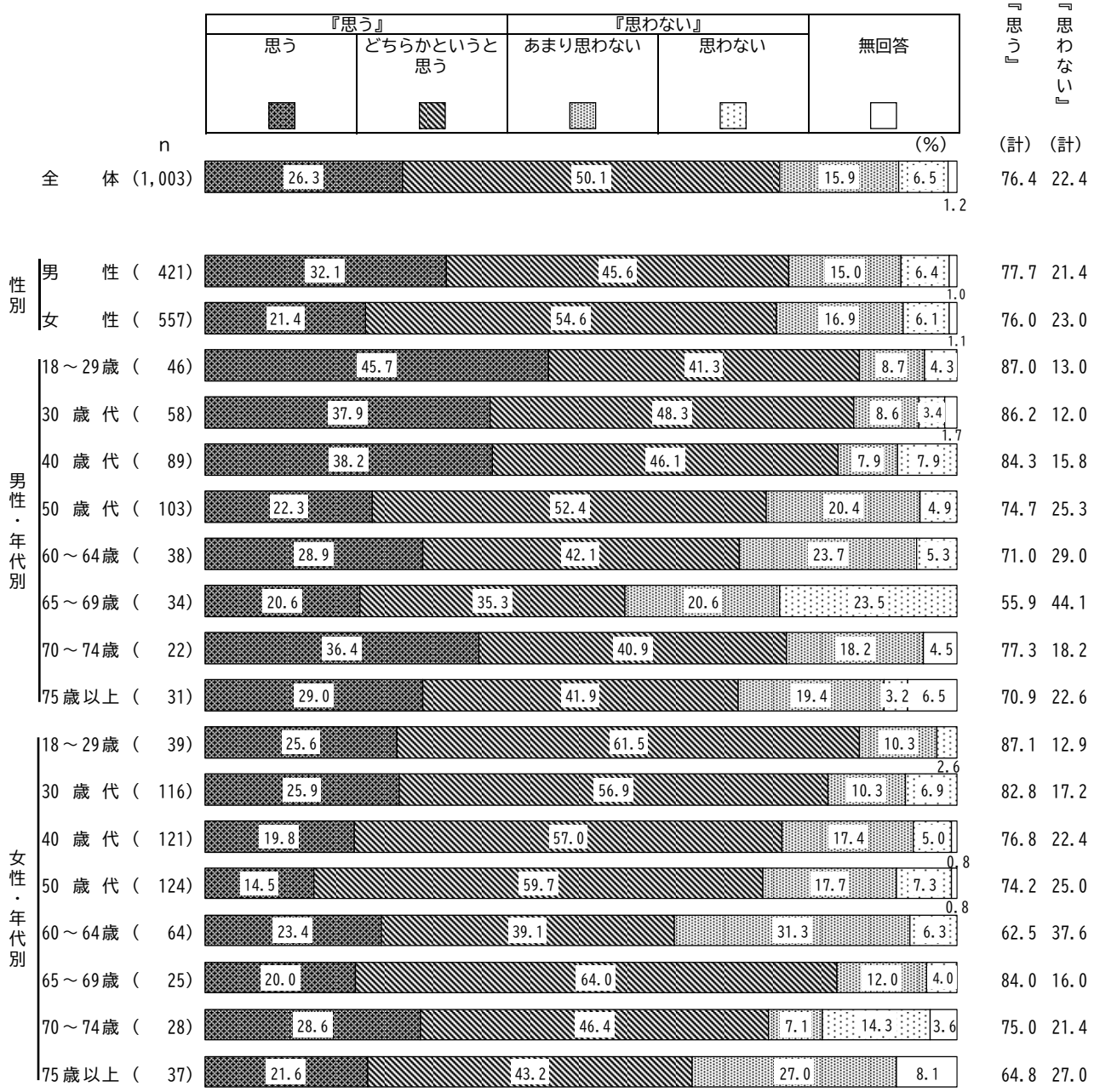
図13－２－１　人権が尊重されている社会だと思うか



人権が尊重されている社会だと感じるかについて聞いたところ、「どちらかというと思う」(50.1%)が約５割と最も高く、「思う」(26.3%)と合わせた『思う』(76.4%)は７割台半ば超えとなっている。一方で、「あまり思わない」(15.9%)、「思わない」(6.5%)を合わせた『思わない』(22.4%)は２割強となっている。(図13－２－１)

性・年代別にみると、『思わない』は男性65～69歳(44.1%)が４割台半ば近くと最も高くなっている。(図13－２－２)

図13－２－２ 人権が尊重されている社会だと思うか（性・年代別）

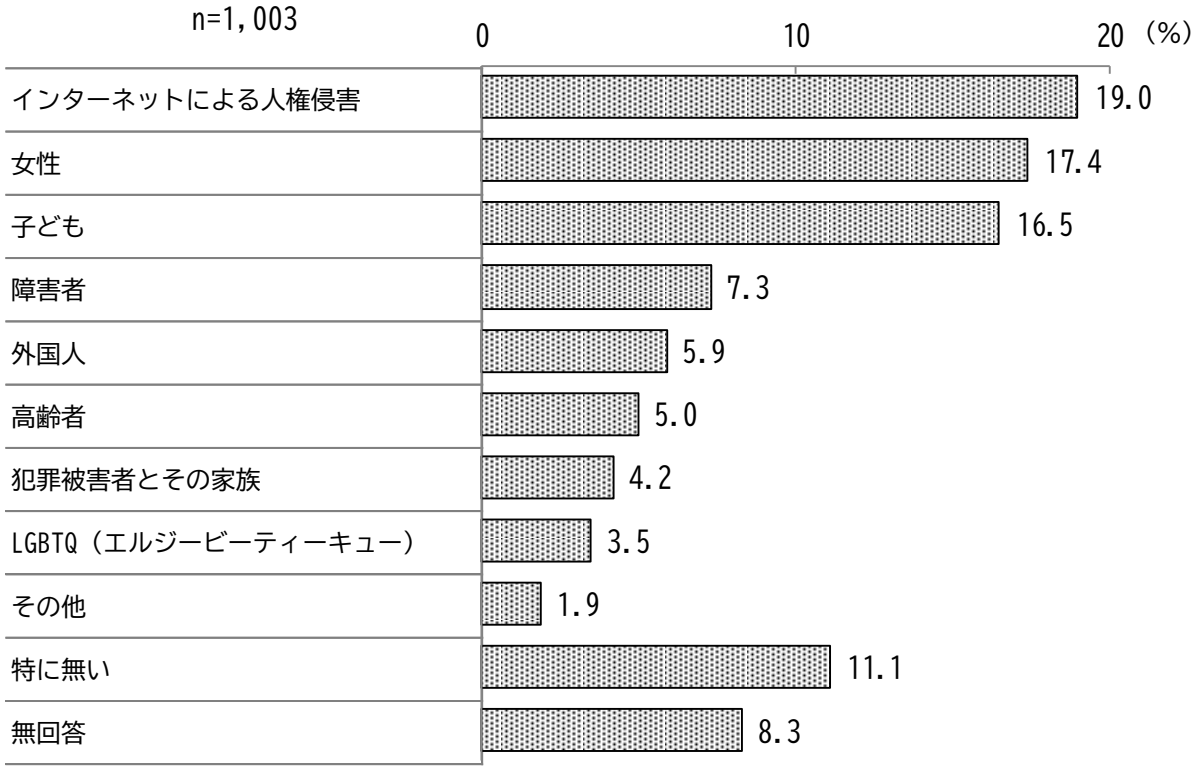


（３）最も関心のある人権問題

◇「インターネットによる人権侵害」が２割弱

問32　人権問題で最も関心のあるものは次のうちのどれですか。（○は１つ）

図13－３－１　最も関心のある人権問題

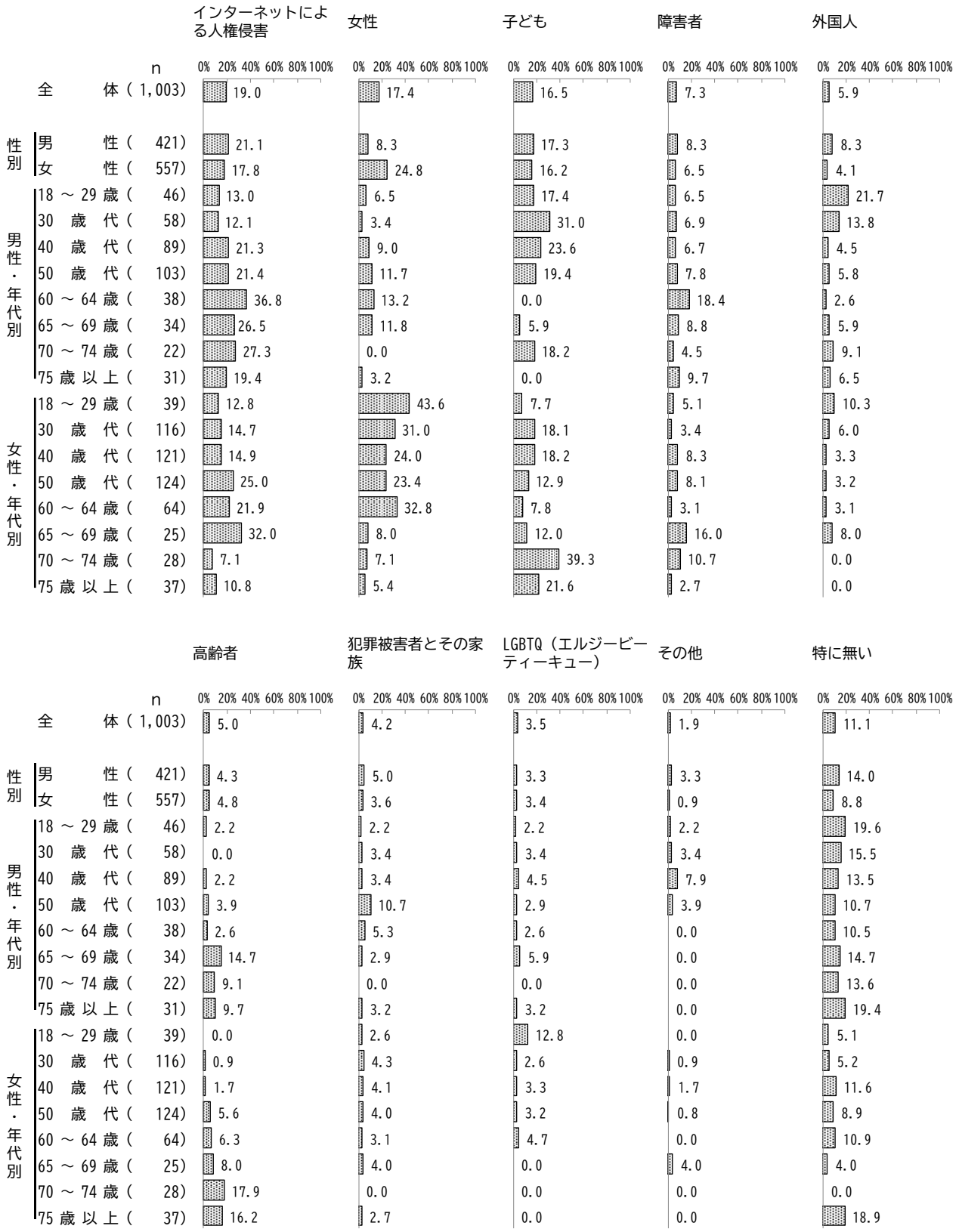


最も関心のある人権問題について聞いたところ、「インターネットによる人権侵害」(19.0%)が２割弱と最も高く、次いで「女性」(17.4%)、「子ども」(16.5%)と続いている。（図13－３－１）

性・年代別にみると、「女性」は女性18～29歳(43.6%)が４割台半ば近くと最も高くなっている。「子ども」は女性70～74歳(39.3%)が４割弱と最も高くなっている。

（図13－３－２）

図13－３－２ 最も関心のある人権問題（性・年代別）

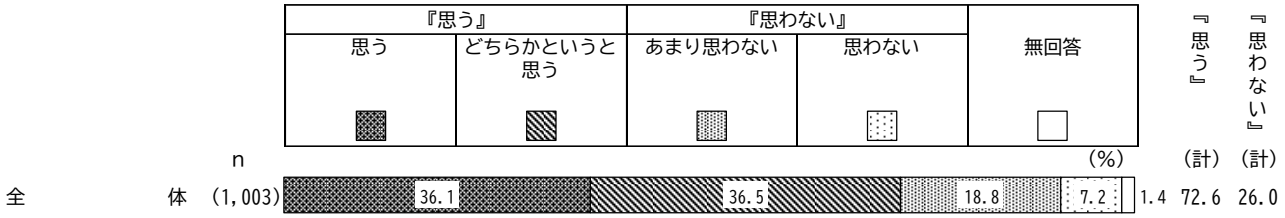


（４）ＬＧＢＴＱについて正しく理解したいと思うか

◇「どちらかというと思う」が３割台半ば超え

問33　誰もが自分らしく生きるために、あなたはLGBTQについて正しく理解したいと思いますか。（○は１つ）

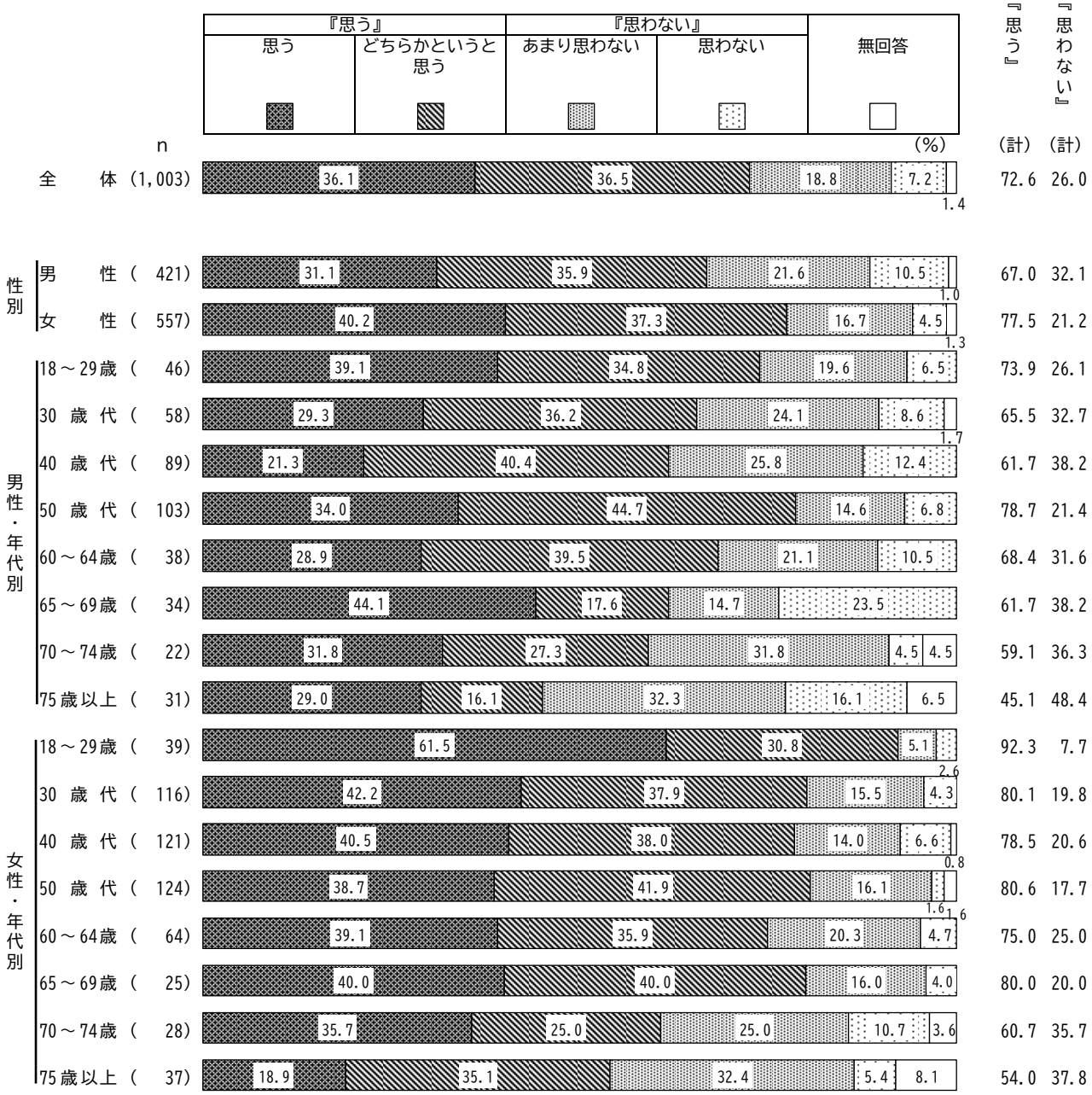
図13－４－１　ＬＧＢＴＱについて正しく理解したいと思うか



ＬＧＢＴＱについて正しく理解したいと思うかについて聞いたところ、「どちらかというと思う」(36.5%)が３割台半ば超えと最も高く、「思う」(36.1%)と合わせた『思う』(72.6%)が７割強となっている。一方で、「あまり思わない」(18.8%)と「思わない」(7.2%)を合わせた『思わない』(26.0%)が２割台半ば超えとなっている。(図13－４－１)

性・年代別にみると、『思わない』は男性75歳以上(48.4%)が５割近くと最も高くなっている。(図13－４－２)

図13－４－２　ＬＧＢＴＱについて正しく理解したいと思うか（性・年代別）

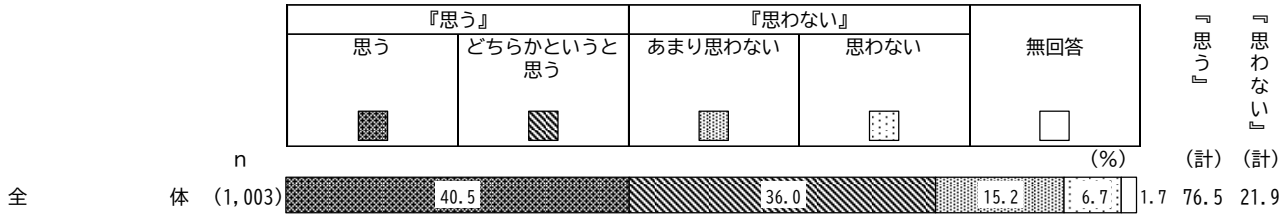


（５）同性のパートナーの権利について

◇「思う」が約４割

問34　同性パートナーにも異性のパートナーと同等の権利が認められるべきだと思いますか。（○は１つ）

図13－５－１　同性のパートナーの権利について

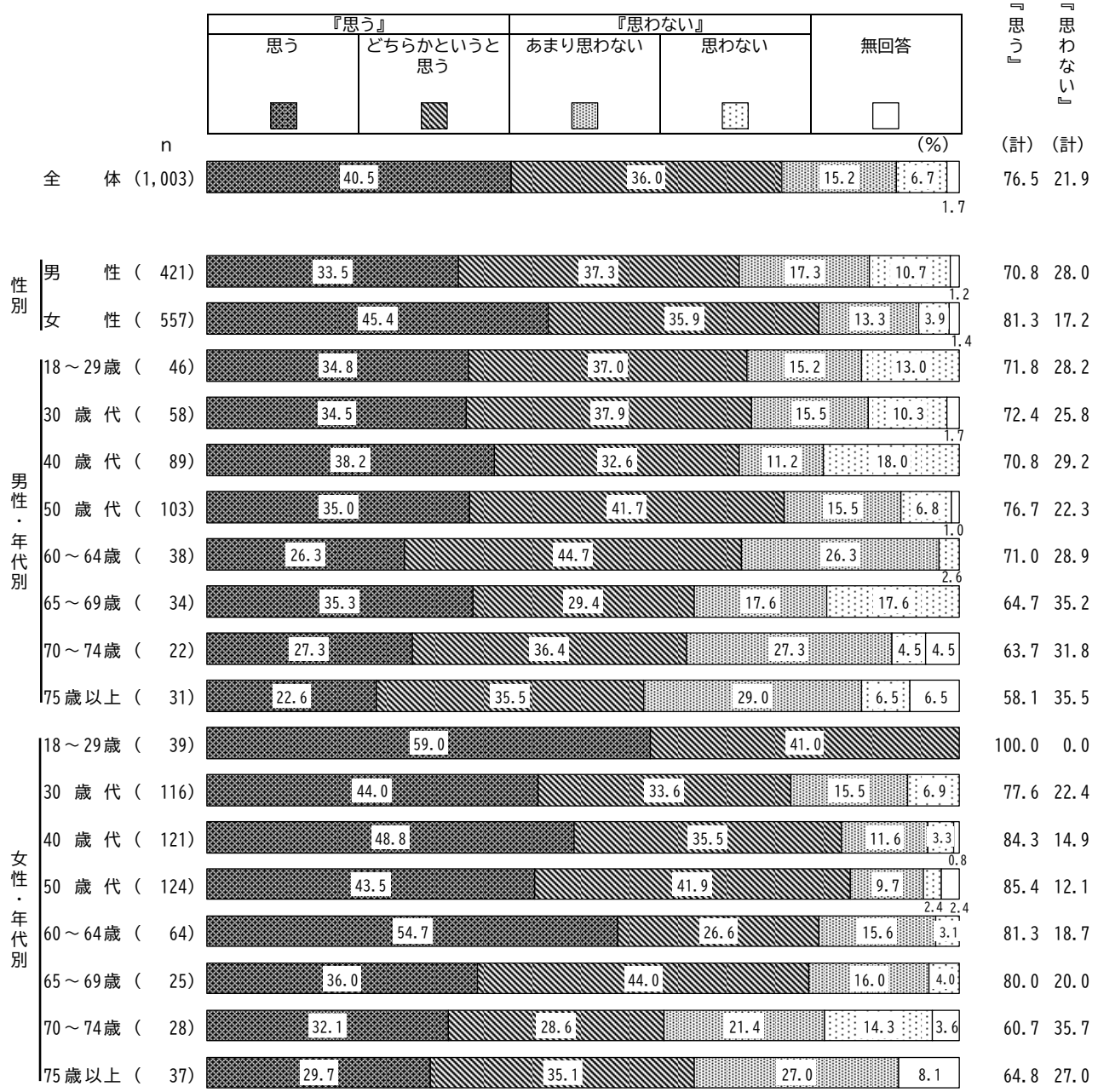


同性のパートナーの権利について聞いたところ、「思う」(40.5%)が約４割と最も高く、「どちらかというと思う」(36.0%)を合わせた『思う』(76.5%)が７割台半ば超えとなっている。一方で、「あまり思わない」(15.2%)、「思わない」(6.7%)を合わせた『思わない』(21.9%)が２割強となっている。(図13－５－１)

性・年代別にみると、『思う』は女性18～29歳(100.0%)と最も高くなっている。

（図13－５－２）

図13－５－２ 同性のパートナーの権利について（性・年代別）



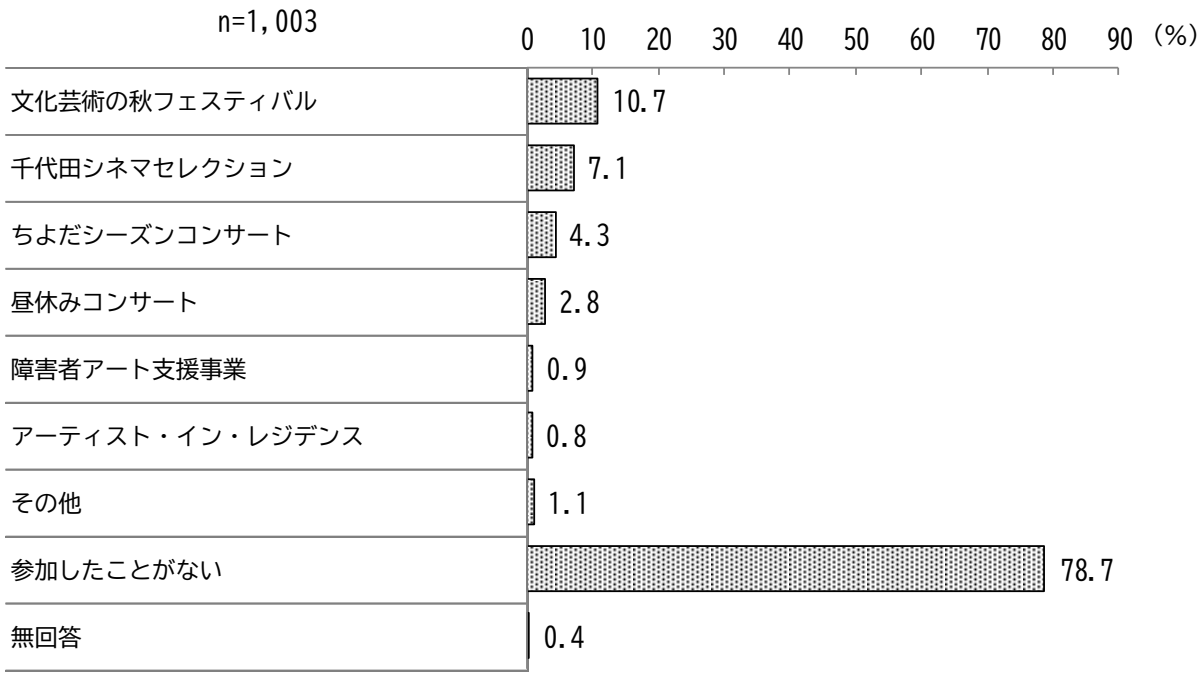
14. 文化芸術

（１）文化芸術イベントへの参加状況

◇「文化芸術の秋フェスティバル」が約１割

問35　あなたは今までに区の文化芸術にかかるイベントに参加したことがありますか。
（○はいくつでも）

図14－１－１　文化芸術イベントへの参加状況

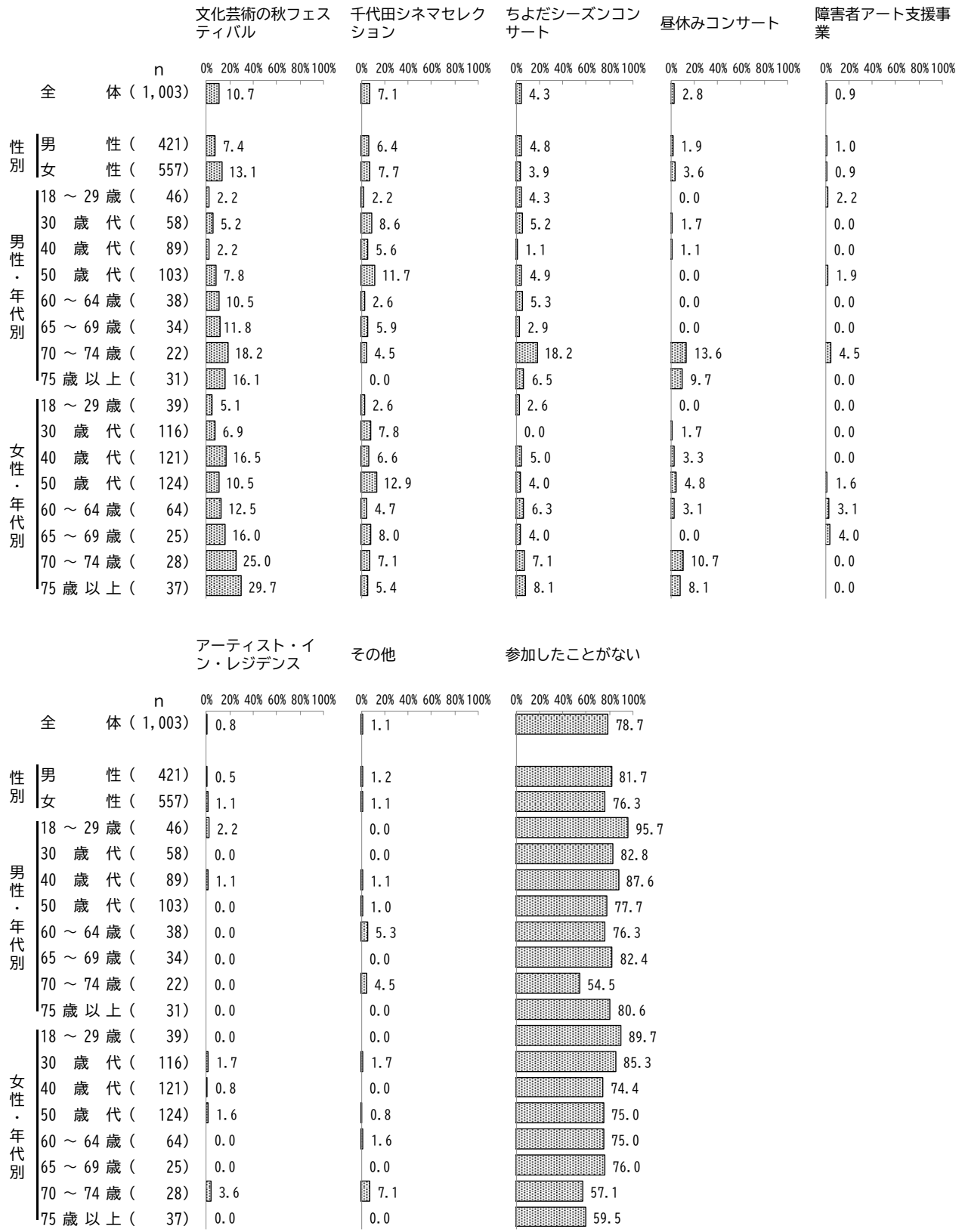


文化芸術イベントへの参加状況について聞いたところ、「参加したことがない」(78.7%)が８割近くと最も高くなっている。一方で、参加イベントでは、「文化芸術の秋フェスティバル」(10.7%)が約１割と高くなっている。(図14－１－１)

性・年代別にみると、「文化芸術の秋フェスティバル」は女性75歳以上(29.7%)が３割弱と最も高くなっており、女性70～74歳(25.0%)が２割台半ばと高くなっている。

（図14－１－２）

図14－１－２ 文化芸術イベントへの参加状況（性・年代別）

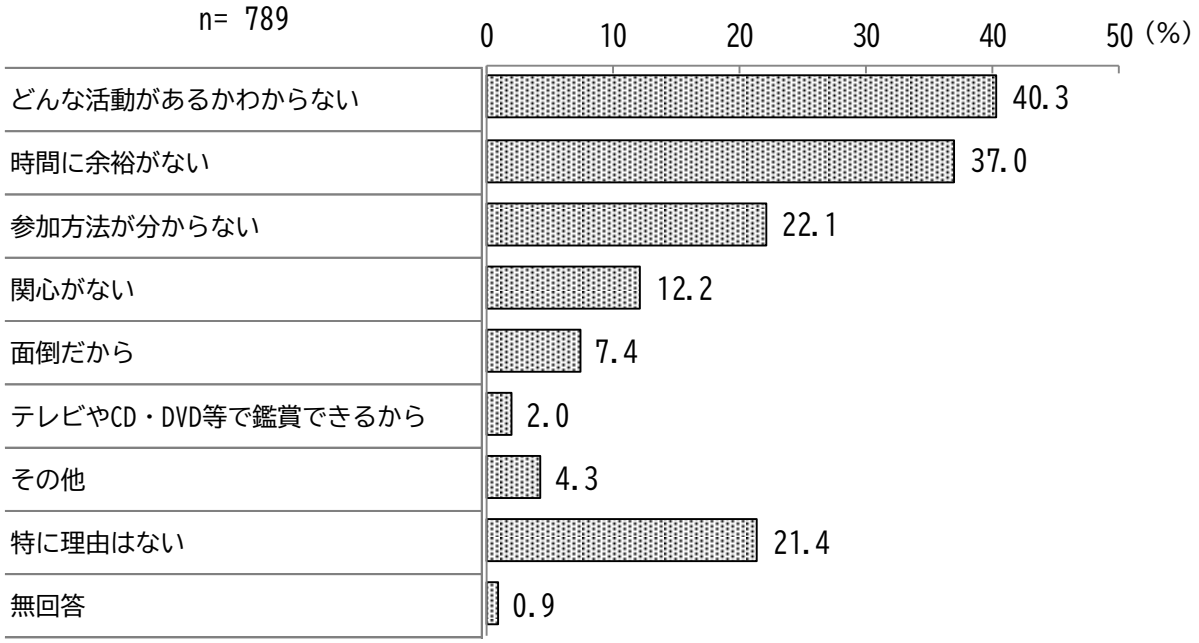


（１－１）参加していない理由

◇「どんな活動があるかわからない」が約４割

（問35において「７.参加したことがない」とお答えの方に）
問35－１　参加したことがない理由は何ですか。（○はいくつでも）

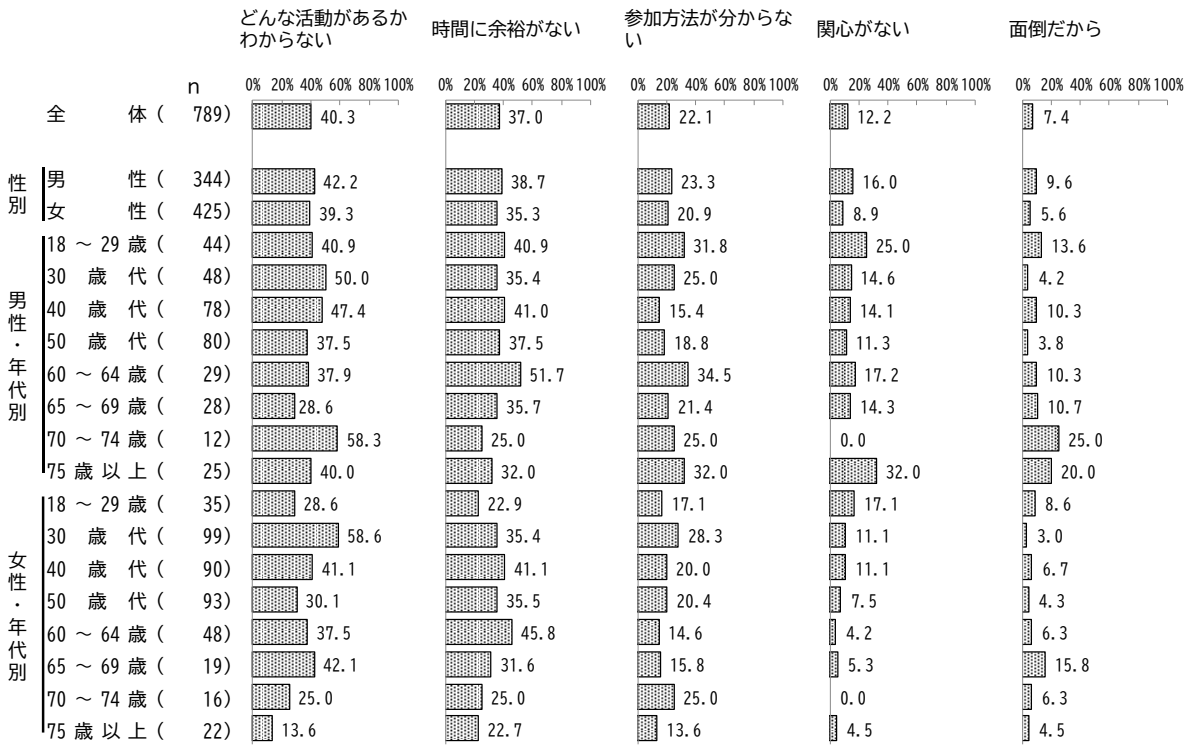
図14－１－３ 参加していない理由

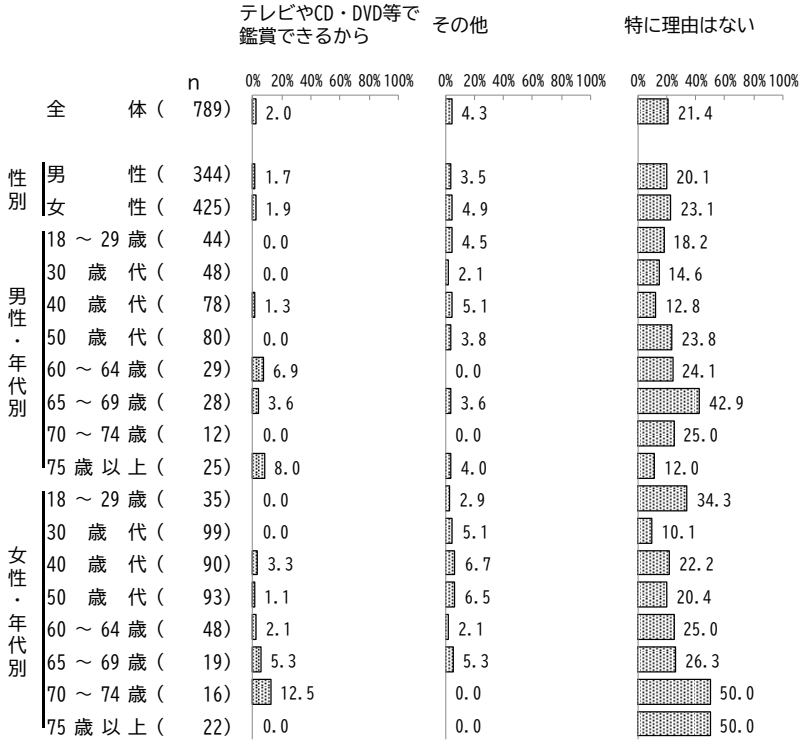


参加していない理由について聞いたところ、「どんな活動があるかわからない」(40.3%)が約４割と最も高く、次いで「時間に余裕がない」(37.0%)が３割台半ば超え、「参加方法が分からない」(22.1%)、「特に理由はない」(21.4%)が２割強と高くなっている。
（図14－１－３）

性・年代別にみると、「どんな活動があるかわからない」は女性30歳代(58.6%)が６割近くと最も高くなっている。また、「時間に余裕がない」は男性60～64歳(51.7%)が５割強と最も高くなっている。「参加方法が分からない」は男性60～64歳(34.5%)が３割台半ば近くと最も高くなっている。「関心がない」は男性75歳以上(32.0%)が３割強と最も高くなっている。(図14－１－４)

図14－１－４ 参加していない理由（性・年代別）





（２）参加したい文化芸術イベント

問36　今後、あなたが参加したいと感じる文化芸術イベントがあればご記入ください。
（自由記述）

今後、参加したいと感じる文化芸術イベントについて99件の記入があった。記入された内容をカテゴリー分けして、その出現数をまとめると下表のとおりとなる。

No.	分類	出現数
1	音楽イベント	43
2	映画イベント	12
3	舞台イベント	10
4	アートイベント	7
5	歴史学習	5
6	フリーマーケット・マルシェ	3
7	まち歩きイベント	3

No.	分類	出現数
8	祭り	3
9	交流イベント	3
10	障害者芸術文化	2
11	その他イベント	9
12	その他ご意見	10
13	特に無し	7

※　自由記述の中には重複するものもあるため、出現数の合計と回答者数は一致しない。

上位５位の主な意見は以下の通り

１位　音楽イベント（43件）
- クラシックコンサート
- Ｊａｚｚフェスティバル
- プロレベルでなくても良いので、演奏会や合唱コンなど拝見したい

２位　映画イベント（12件）
- 千代田シネマセレクション
- 屋外での映画上映会
- 夜間などのフリーシアターイベント

３位　舞台イベント（10件）
- 演劇
- 区でクラシックバレエやミュージカルを優先でみれるもの
- 歌舞伎
- 能楽関連イベント
- 落語

４位　アートイベント（７件）
- 芸術系のイベント
- ビエンナーレの様なアートイベント
- アーティスト・イン・レジデンスに興味があります

５位　歴史学習（５件）

- 江戸文化を紹介するイベント
- 区内名所旧跡等の探訪
- 歴史講座

また、イベントの内容ではなく、イベントに関する意見として主に以下のものが見られた。

【イベント内容に言及するもの】

- 親子で一緒に参加できるもの
- 親子向け楽器体験
- 子ども向け音楽会

【参加の障壁に言及するもの】

- 幼児も鑑賞OKのオーケストラ、またはバレエまたは歌舞伎
- コンサートや野外での映画観賞があれば夫、子ども、できたら犬も一緒に行きたいです
- 誰でも行けるコンサートの機会の充実

【参加費に言及するもの】

- 区内のコンサートに区民割を作ってほしい
- リハーサル時の区民無料鑑賞会

（２－１）自由記述の共起ネットワーク

参加したいと感じる文化芸術イベントについての自由記述の中では、様々な単語が出てきた。これらの単語の間には時に強い関係（共起関係）が見られることがある。そこで、自由記述の単語の間の関係を捉えるため、共起ネットワークとして描出した。

描出にあたっては、自由記述全体で２回以上出現している単語を対象とし、単語と単語の関係を見るものとした。また、共起関係は上位60までとした。作図にあたっては、単語同士の関係が強いほど濃く太い線（実線・破線ともに）とし、サブグラフ検出はRandom walk中心性に基づいて実施した。

図では出現頻度の多い単語ほど円が大きくなっており、単語の関係性（共起関係）が強い場合太い線で結ばれている。また、関係性が強い単語同士のグループ（サブグラフ）は円を同じ色で塗分けるとともに破線の楕円で囲っている。

単語の関係性をネットワーク（共起ネットワーク）として解析を行うと、７つの関係性の強い単語のグループ（サブグラフ）が確認された。各サブグラフをグループ01～グループ07とすると、以下のような単語の関係性と頻度は以下の通りとなる。

グループ01

「千代田」、「区」、「区民」、「思う」、「ホール」、「イベント」が、それぞれ５回以下の頻度で出現しており、単語同士で強く結びついている。

グループ02

「音楽」、「参加」がそれぞれ５回以上10回未満の頻度で出現しており、「行ける」、「無料」「参加」、「フェス」、「機会」がそれぞれ５回以下の頻度で出現しており、単語同士で強く結びついている。

グループ03

「鑑賞」、「オーケストラ」、「歌舞伎」、「クラシック音楽」がそれぞれ５回以下の頻度で出現しており、単語同士で強く結びついている。

グループ04

「舞台」、「映画」、「ミュージカル」、「演劇」がそれぞれ５回以下の頻度で出現しており、単語同士で強く結びついている。

グループ05

「子ども」、「一緒」、「映画鑑賞」、「野外」がそれぞれ５回以下の頻度で出現しており、単語同士で強く結びついている。

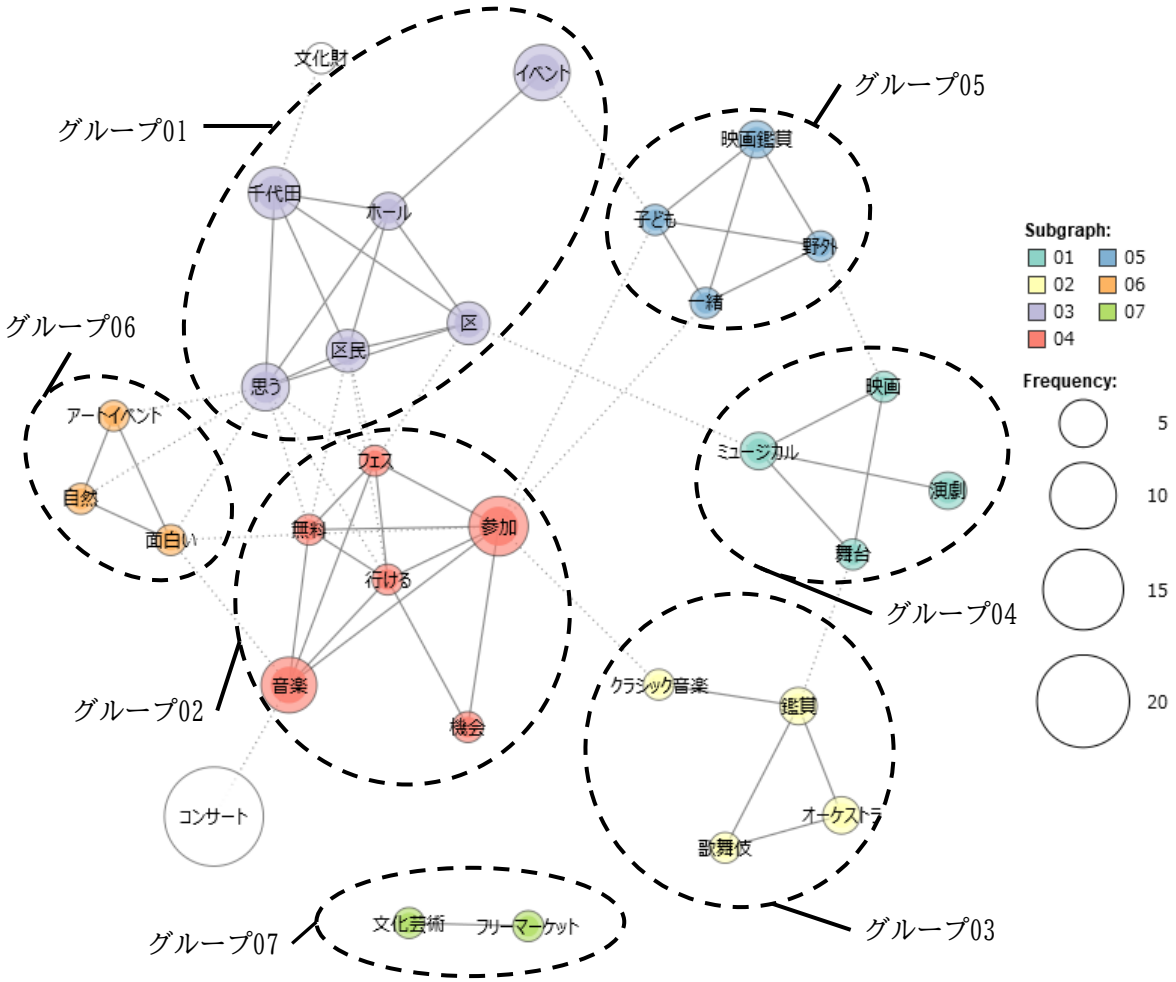
グループ06

「アートイベント」、「自然」、「面白い」がそれぞれ５回以下の頻度で出現しており、単語同士で強く結びついている。

グループ07

「文化芸術」、「フリーマーケット」がそれぞれ５回以下の頻度で出現しており、単語同士で強く結びついている。

図１４－２－１　文化芸術イベントについての自由記述の共起ネットワーク



参考：共起ネットワークの考え方

ア．共起ネットワークとは

（ア）共起ネットワーク

自由記述の中に出てくる単語のうち共起関係を線で結んで図示したもの。

（イ）共起関係

テキスト中に、ある単語（ノード）を基準として、その単語の前後に出てくる頻度が（有意に）多い単語同士は出現パターンが似通っており、強い関係があると考えられる。この強い関係のことを共起関係と呼ぶ。

共起関係のある単語同士は線（実線または破線）で結び付けており、線が太いほど共起関係が強い（図中での単語同士の近さは共起関係の程度を表現しない）。

イ．図の凡例の意味

（ア）Subgraph（サブグラフ）

ネットワークの中で、他の単語よりも比較的強くお互いに結びついている単語のグループのこと。図１４－２－１では、実線でつながっている単語同士がサブグラフである。破線でつながっているものは個々の単語として共起関係のあるもの同士となっている。

（イ）Frequency（頻度）

テキスト全体（今回のアンケートの自由記述の全文）の中で、その単語が出てくる回数のこと。図１４－２－１では、単語の出現する回数が多いほど円が大きい。

ウ．グラフ作成の手法

（ア）媒介中心性

単語同士を線で結んだ際に、直接線でつながっていない単語の中継地点となる単語であること。いくつかの中心性の評価手法はあり、以下のようなものがあげられる。

次数中心性　　：どれだけ他の単語と線でつながっているかを基準として、単語に結びついている線の数を指標として各単語の中心性を評価する手法

固有ベクトル中心性：ある単語の中心性を評価する際に単語が結びついている線だけではなく、その単語が線で結びついている先の単語が持っている線の数も反映させて、それぞれの単語の中心性を評価する手法

（イ）サブグラフ検出

サブグラフ検出とは、単語に結びついているそれぞれの線がどれだけ多くの単語同士を結びつける働きをしているかに基づいて、単語同士のつながりの強いグループ（サブグラフ）を検出する方法。

（ウ）サブグラフ検出の方法１：サブグラフ（random walk）

Random Walk中心性ともいわれ、サブグラフ検出をするにあたって最短経路ではなく単純ランダムウォークを用いて、最短経路上にない単語にも中心性の部分点を与えて検出する方法。

図１４－２－１では、この手法でサブグラフを検出している。

（エ）サブグラフ検出の方法２：サブグラフ（modularity）

Modularityとは、分割されたサブグラフ内の辺の数とサブグラフ間の辺の数を比較して、高密度のものを抽出する指標。この指標に基づいてサブグラフの描出をすることもある。

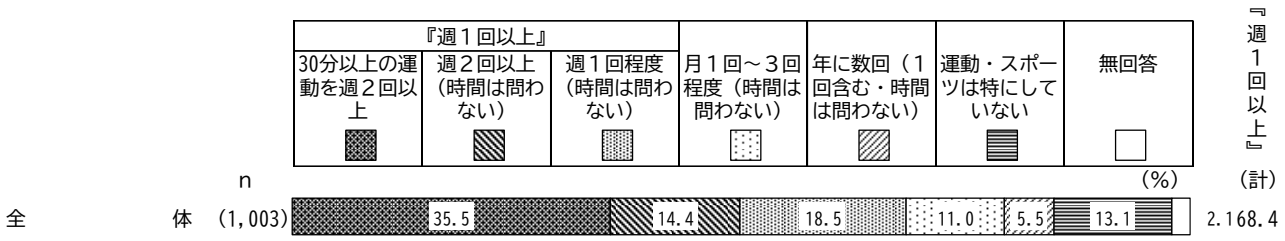
15. スポーツ実施率やスポーツへの興味・関心

（１）運動・スポーツを行う頻度

◇「30分以上の運動を週２回以上」が３割台半ば

問37　あなたは、この１年間で散歩やウォーキングを含めてどの程度、運動・スポーツを行いましたか。（○は１つ）

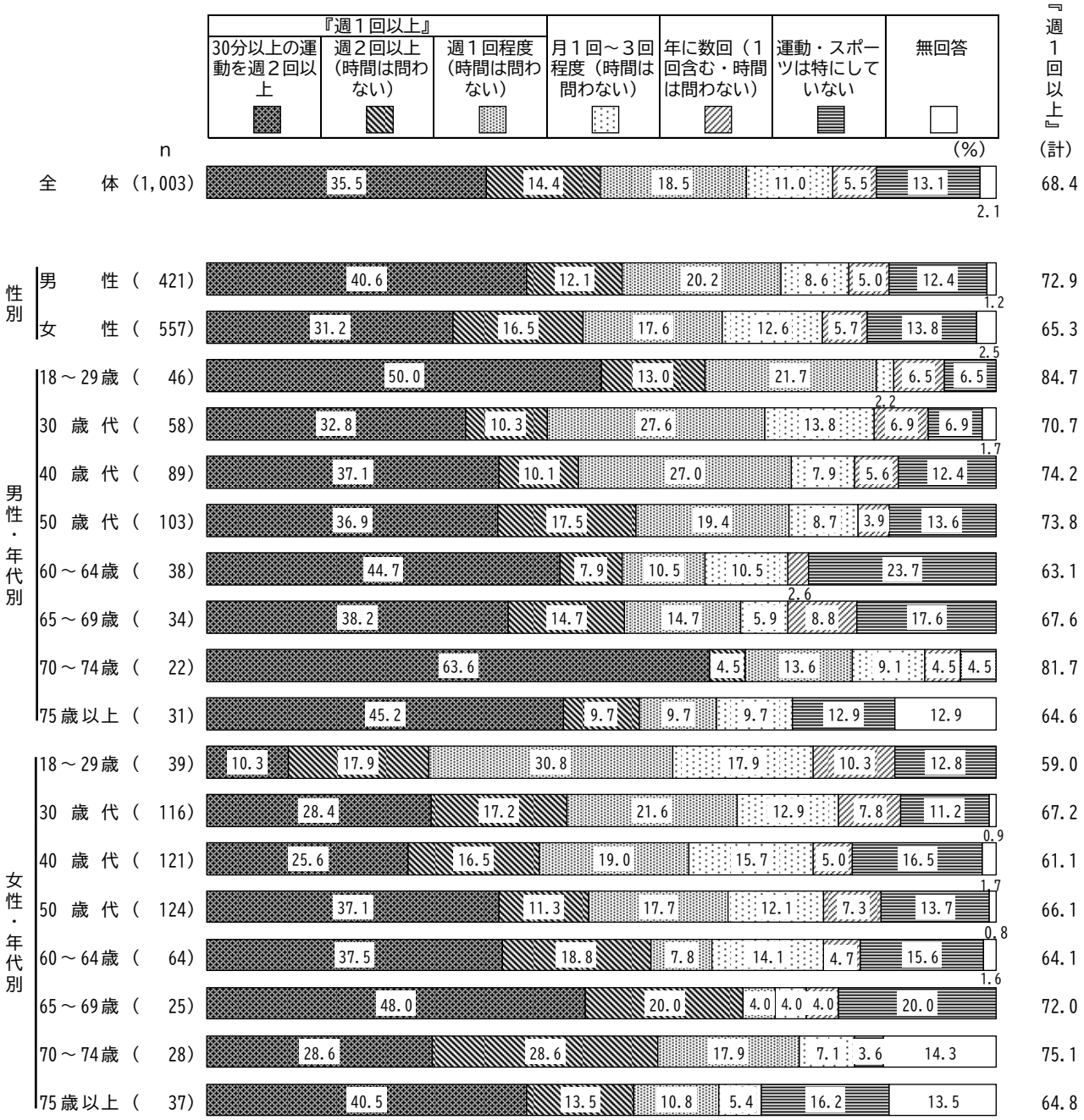
図15－１－１　運動・スポーツを行う頻度



運動・スポーツを行う頻度について聞いたところ、「30分以上の運動を週２回以上」(35.5%)が３割台半ばと最も高くなっており、「週２回以上（時間は問わない)」(14.4%)、「週１回程度（時間は問わない)」(18.5%)を合わせた『週１回以上』(68.4%)が７割近くとなっている。(図15－１－１)

性・年代別にみると、「30分以上の運動を週２回以上」は男性18～29歳(50.0%)が５割と高くなっている。(図15－１－２)

図15－１－２ 運動・スポーツを行う頻度（性・年代別）



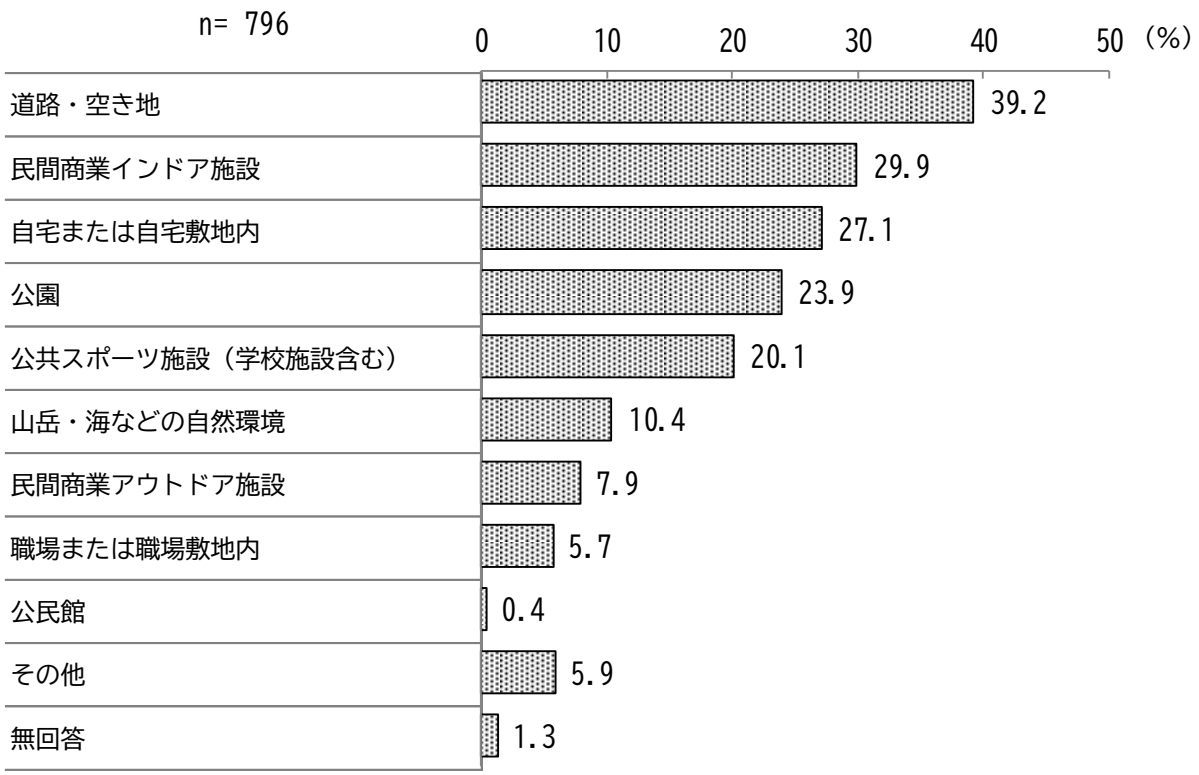
（１－１）この１年間に運動・スポーツを行った場所

◇「道路・空き地」が４割弱

（問37で「１.30分以上の運動を週２回以上」「２．週２回以上（時間は問わない）」「３．週１回程度（時間は問わない）」「４．月１回～３回程度（時間は問わない）」とお答えの方に）

問37ー１　あなたが、この１年間に運動・スポーツを実施した場所はどこですか。
（○は３つまで）

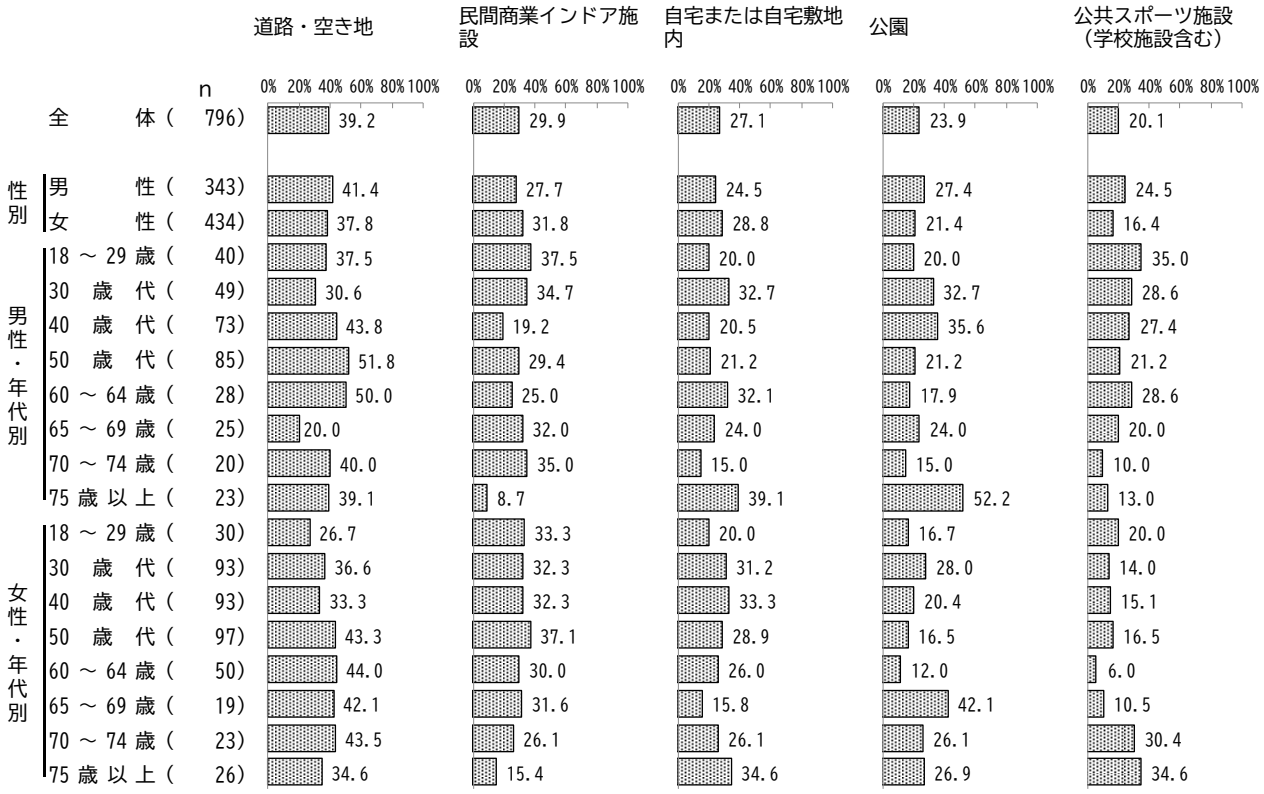
図15－１－３ この１年間に運動・スポーツを行った場所



この１年間に運動・スポーツを行った場所について聞いたところ、「道路・空き地」(39.2%)が４割弱と最も高く、次いで「民間商業インドア施設」(29.9%)が３割弱、「自宅または自宅敷地内」(27.1%)が２割台半ば超え、「公園」(23.9%)が２割台半ば近く、「公共スポーツ施設（学校施設含む)」(20.1%)が約２割と高くなっている。(図15－１－３)

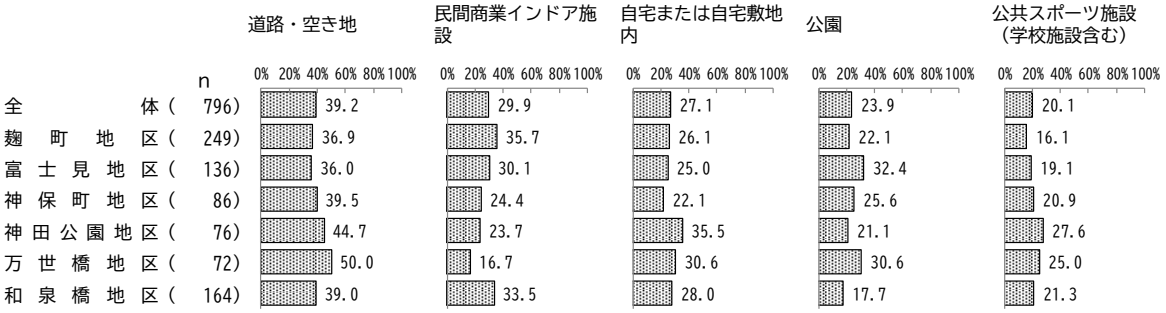
性・年代別にみると、「公園」は男性40歳代(35.6%)が３割代半ばと最も高くなっている。(図15－１－４)

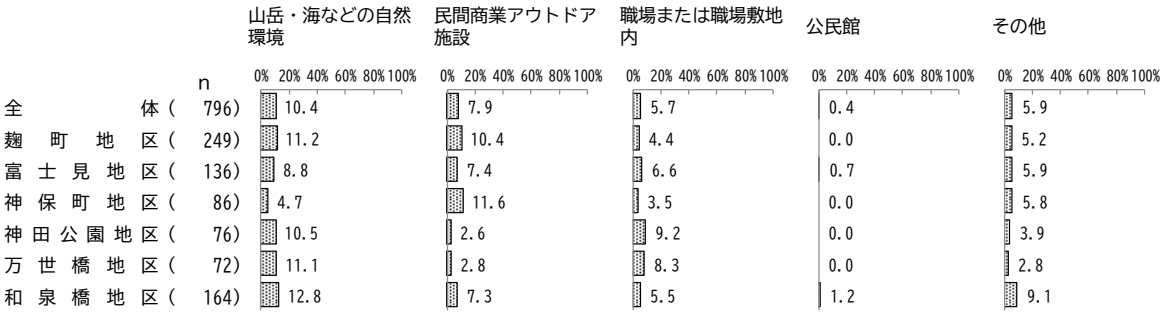
図15－１－４ この１年間に運動・スポーツを行った場所（性・年代別）



地区別にみると、「道路・空地」は万世橋地区(50.0%)が５割と最も高くなっている。（図15－１－５）

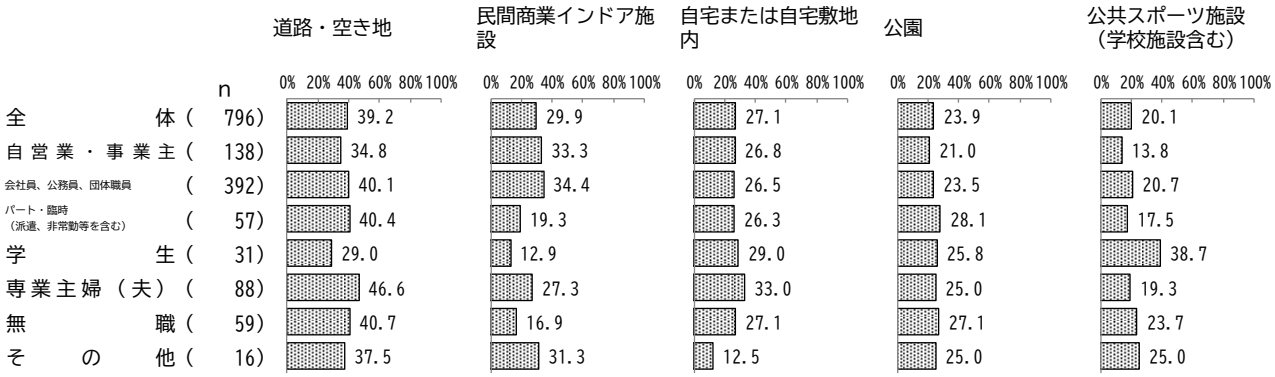
図15－１－５ この１年間に運動・スポーツを行った場所（地区別）

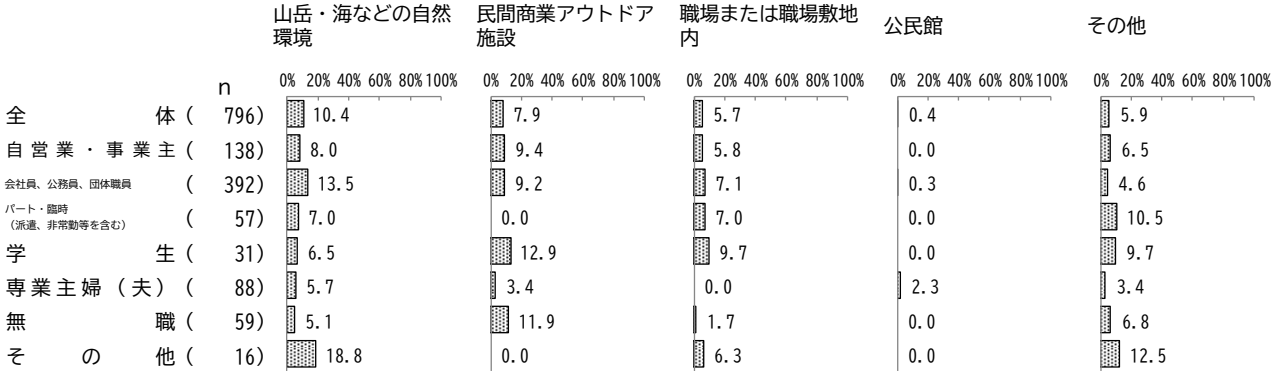




職業別にみると、「公共スポーツ施設（学校施設含む）」は学生(38.7%)が４割近くと最も高くなっている。（図15－１－６）

図15－１－６ この１年間に運動・スポーツを行った場所（職業別）





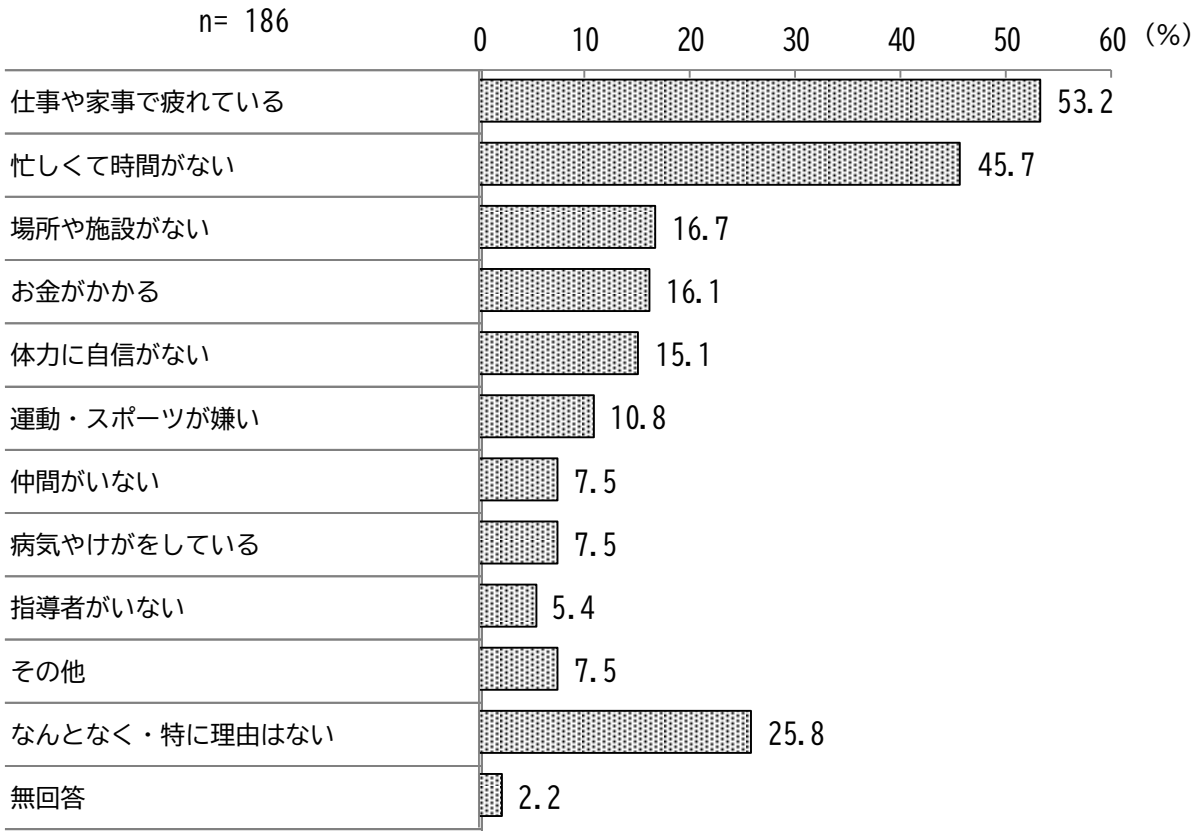
（１－２）この１年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由

◇「仕事や家事で疲れている」が５割台半ば近く

（問37で「５.年に数回（１回含む・時間は問わない)」「６．運動・スポーツは特にしていない」とお答えの方に）

問37－２　あなたが、この１年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由は何ですか。（○はいくつでも）

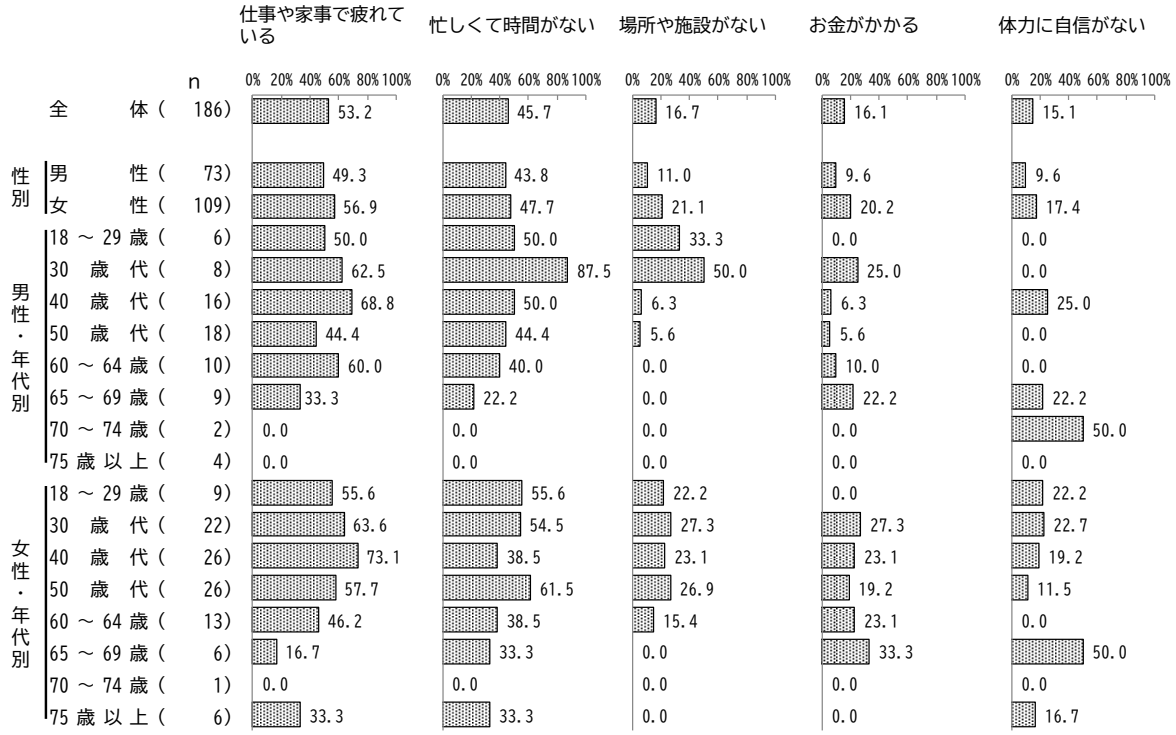
図15－１－６ この１年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由



この１年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由について聞いたところ、「仕事や家事で疲れている」(53.2%)が５割台半ば近くと最も高く、次いで「忙しくて時間がない」(45.7%)が４割台半ばと高くなっている。(図15－１－６)

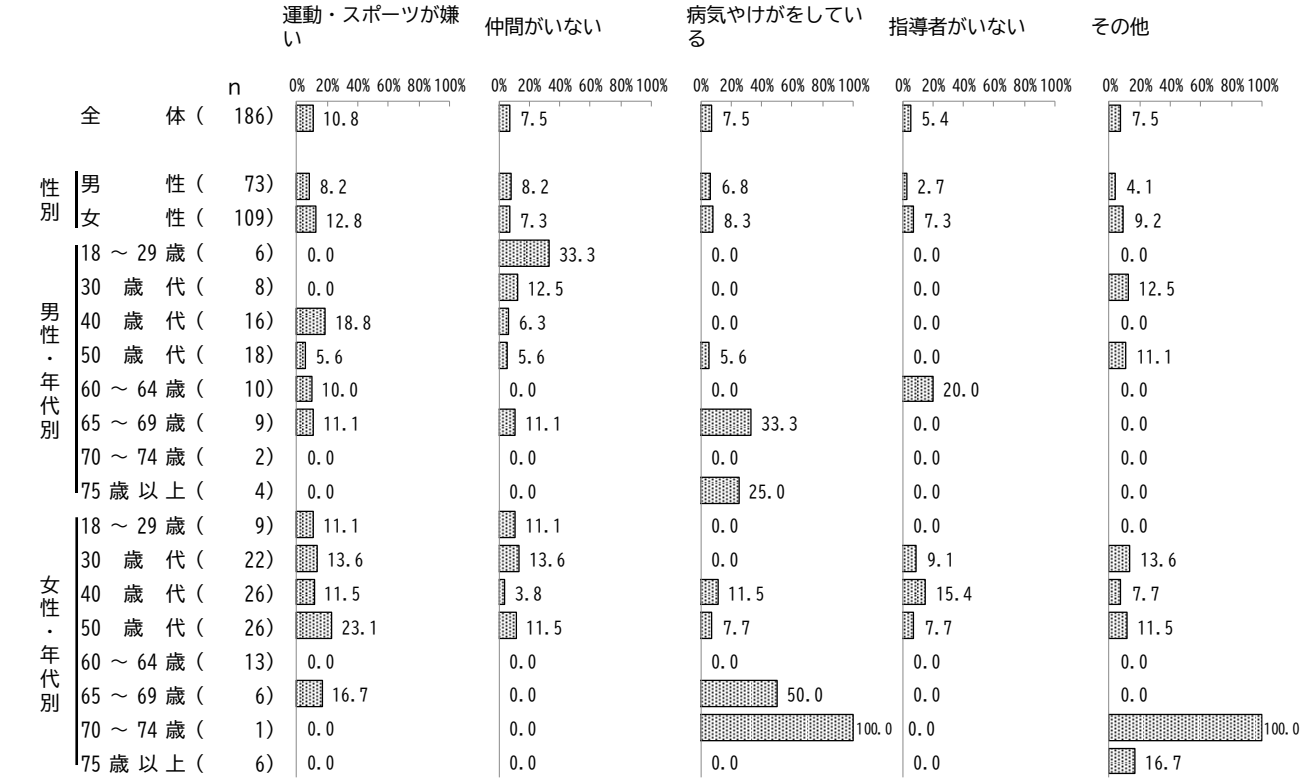
性・年代別にみると、「仕事や家事で疲れている」は女性40歳代(73.1%)が７割台半ば近くと最も高くなっている。(図15－１－７―１)

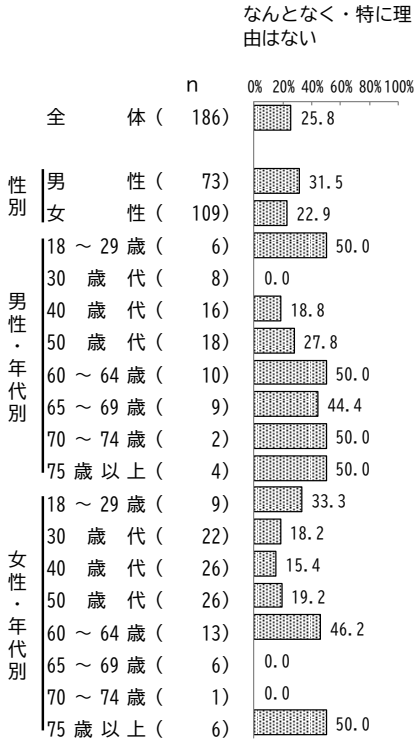
図15－１－７－１　この１年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由（性・年代別）（１）



性・年代別にみると、「運動・スポーツが嫌い」は女性50歳代(23.1%)が２割台半ば近くと最も高くなっている。(図15－１－７―２)

図15－１－７－２ この１年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由（性・年代別）（２）



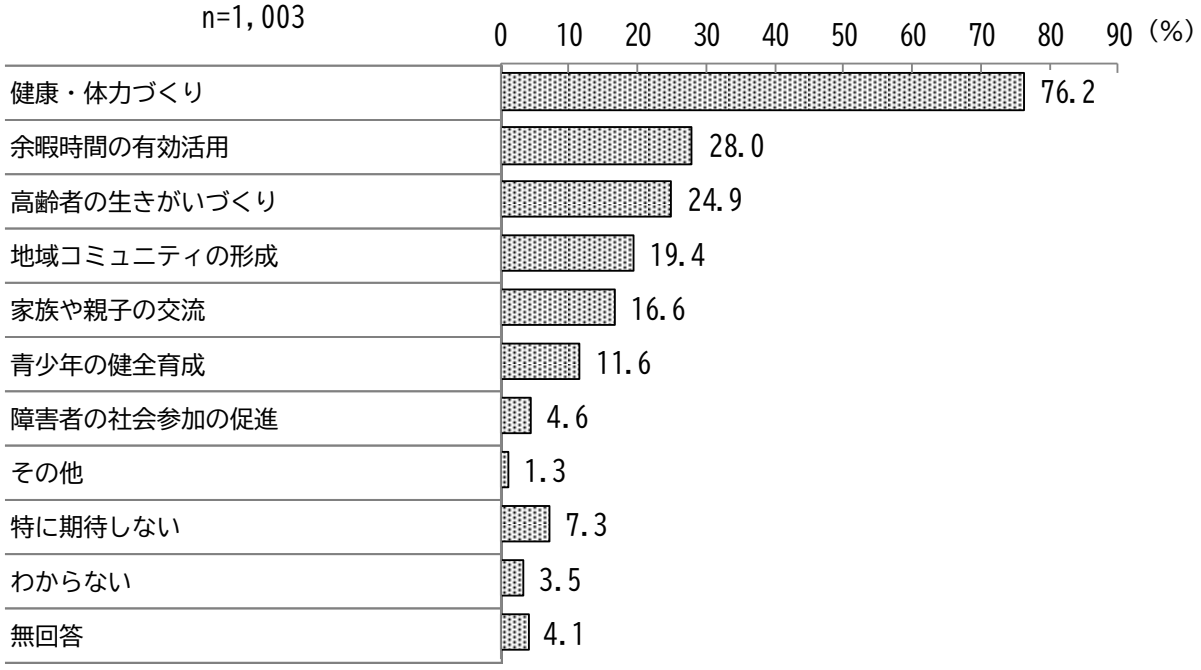


（２）地域での運動やスポーツ活動に期待する効果

◇「健康・体力づくり」が７割台半ば超え

問38　あなたは、地域での運動やスポーツ活動に対し、どのような効果を期待しますか。
（○は３つまで）

図15－２－１　地域での運動やスポーツ活動に期待する効果

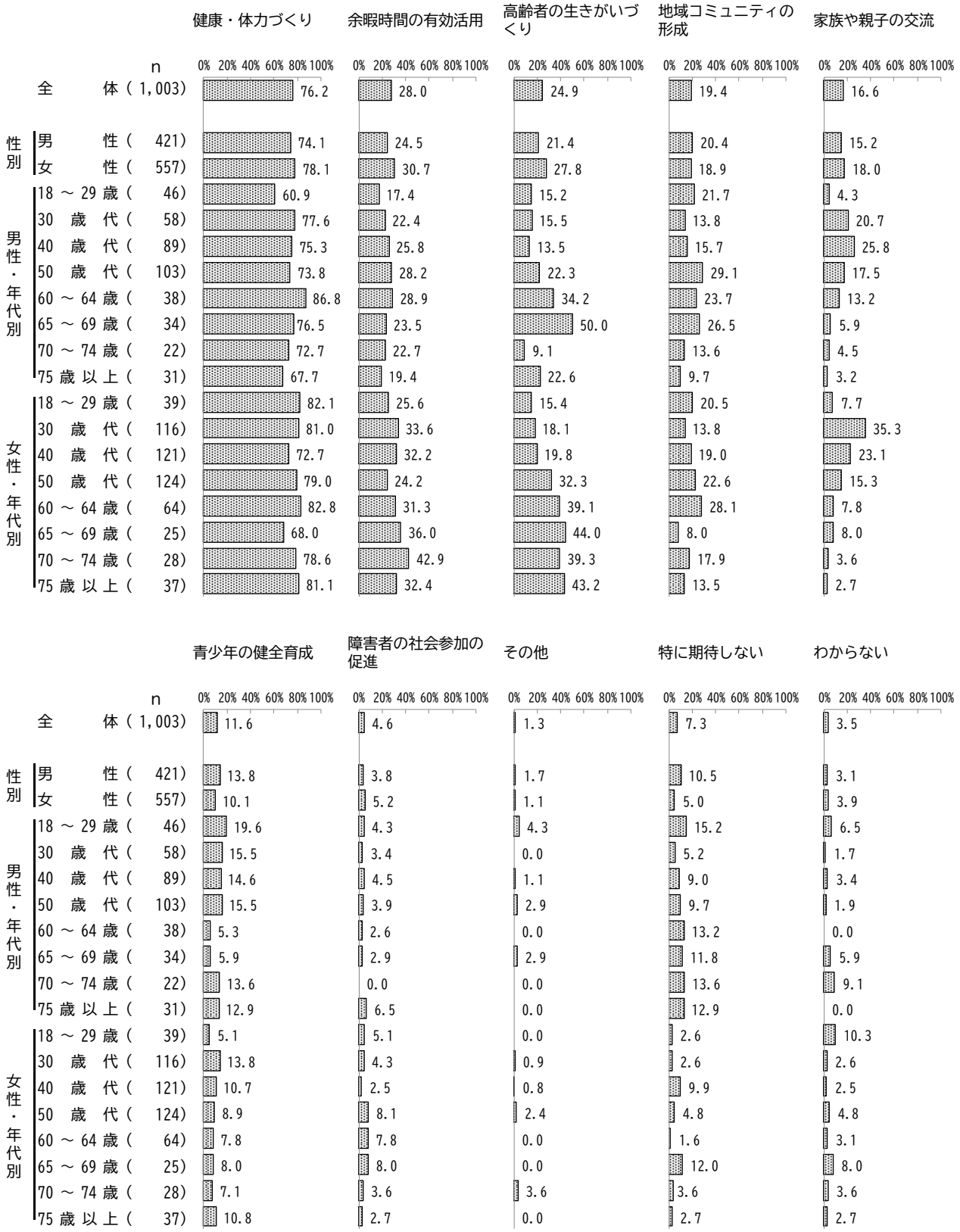


地域での運動やスポーツ活動に期待する効果について聞いたところ、「健康・体力づくり」(76.2%)が７割台半ば超えと最も高く、次いで「余暇時間の有効活用」(28.0%)が３割近く、「高齢者の生きがいづくり」(24.9%)が２割台半ば近くと高くなっている。

（図15－２－１）

性・年代別にみると、「高齢者の生きがいづくり」は男性65～69歳(50.0%)で５割と最も高くなっている。(図15－２－２)

図15－２－２ 地域での運動やスポーツ活動に期待する効果（性・年代別）

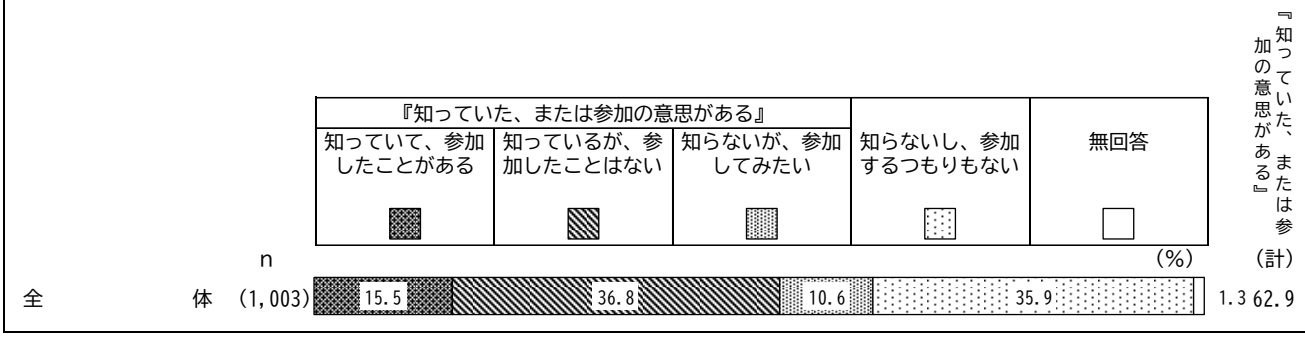


（３）千代田区民体育大会の認知度

◇「知っているが、参加したことはない」が３割台半ば超え

問39　あなたは、千代田区民体育大会を知っていますか。（○は１つ）

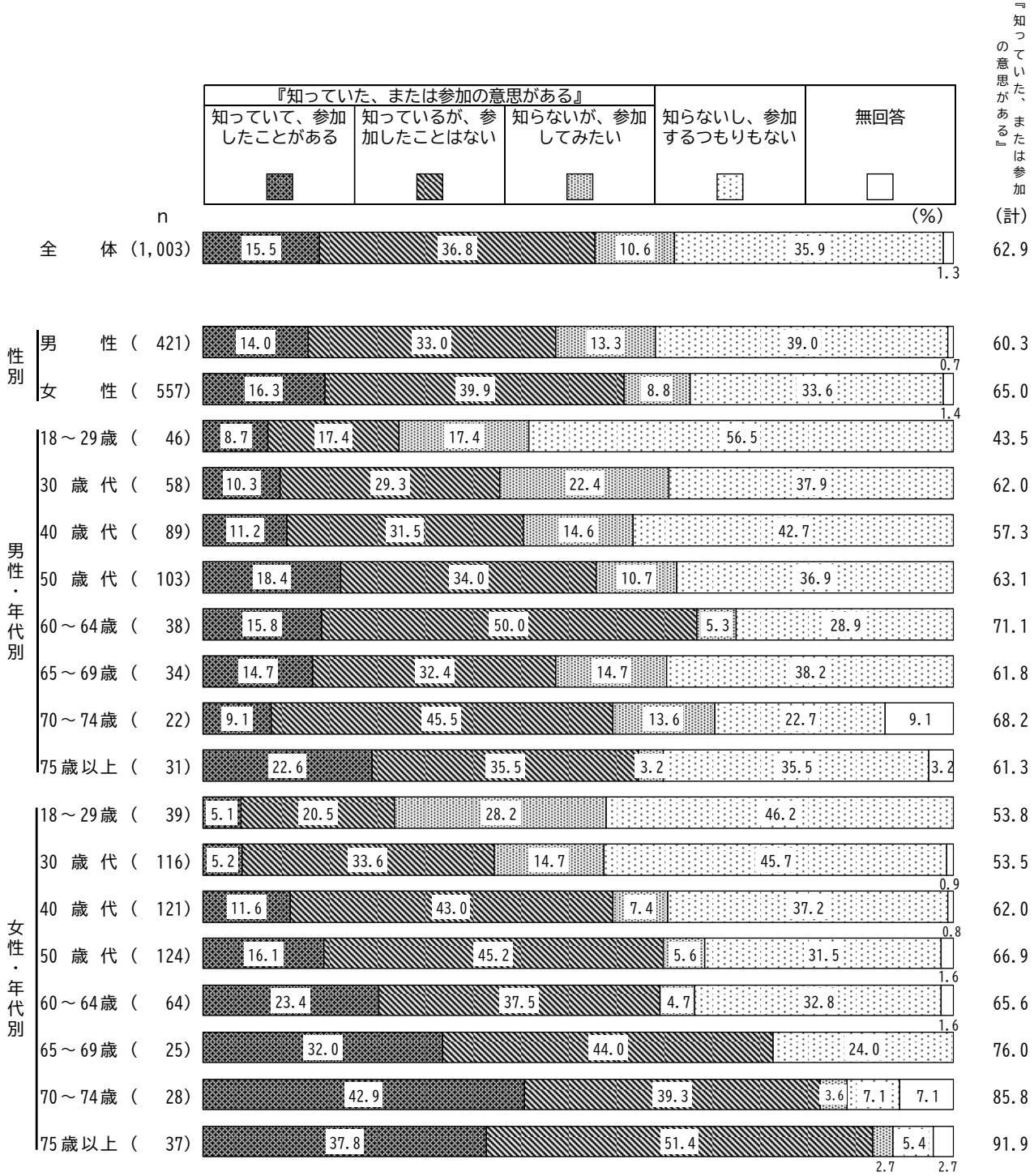
図15－３－１　千代田区民体育館の認知度



千代田区民体育大会の認知度について聞いたところ、「知っているが、参加したことはない」(36.8%)が３割台半ば超えと最も高く、これに「知っていて、参加したことがある」(15.5%)、「知らないが、参加してみたい」(10.6%)を合わせた『知っていた、または参加の意思がある』(62.9%)は６割強となっている。一方で、「知らないし、参加するつもりもない」(35.9%)が３割台半ばと高くなっている。(図15－３－１)

性・年代別にみると、『知っていた、または参加の意思がある』は女性75歳以上(91.9%)が９割強と最も高くなっており、次いで女性70～74歳(85.8%)が８割台半ばと高くなっている。(図15－３－２)

図15－３－２ 千代田区民体育館の認知度（性・年代別）



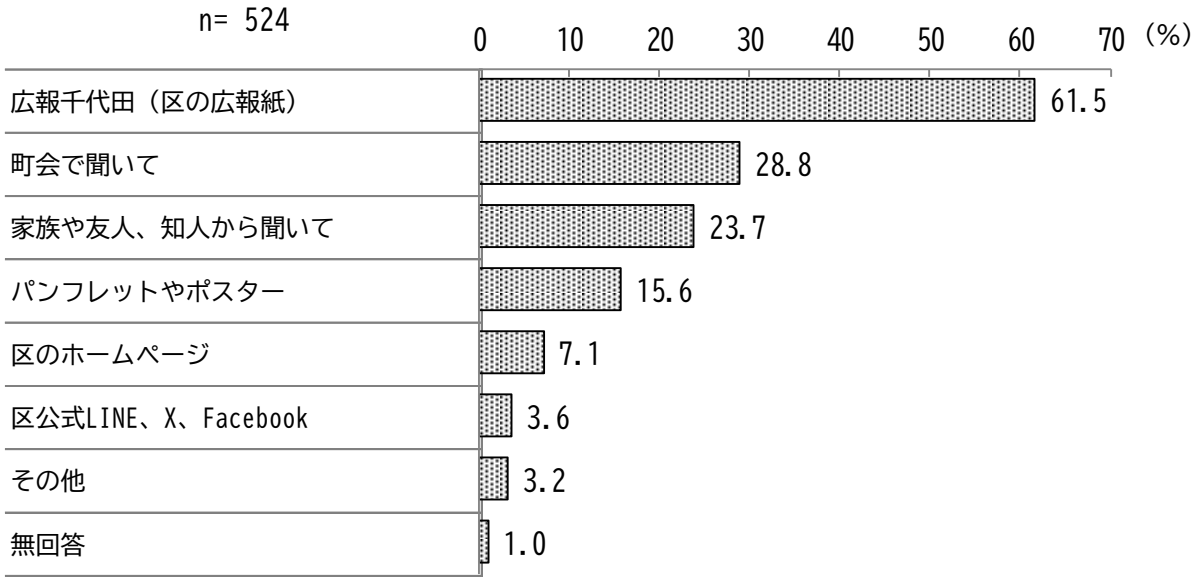
（３－１）千代田区民体育大会を知ったきっかけ

◇「広報千代田（区の広報紙）」が６割強

（問39で「１.知っていて、参加したことがある」か「２．知っているが、参加したことはない」とお答えの方に）

問39－１　あなたは、千代田区民体育大会を何で知りましたか。（○はいくつでも）

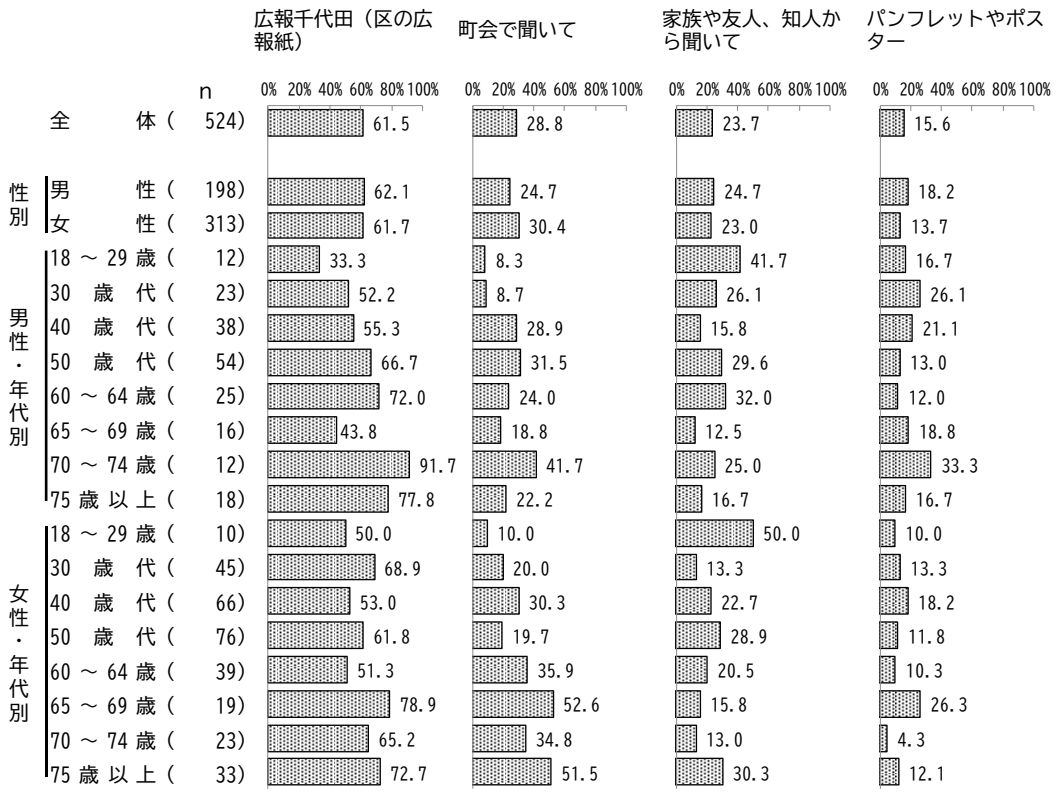
図15－３－３ 千代田区民体育大会を知ったきっかけ

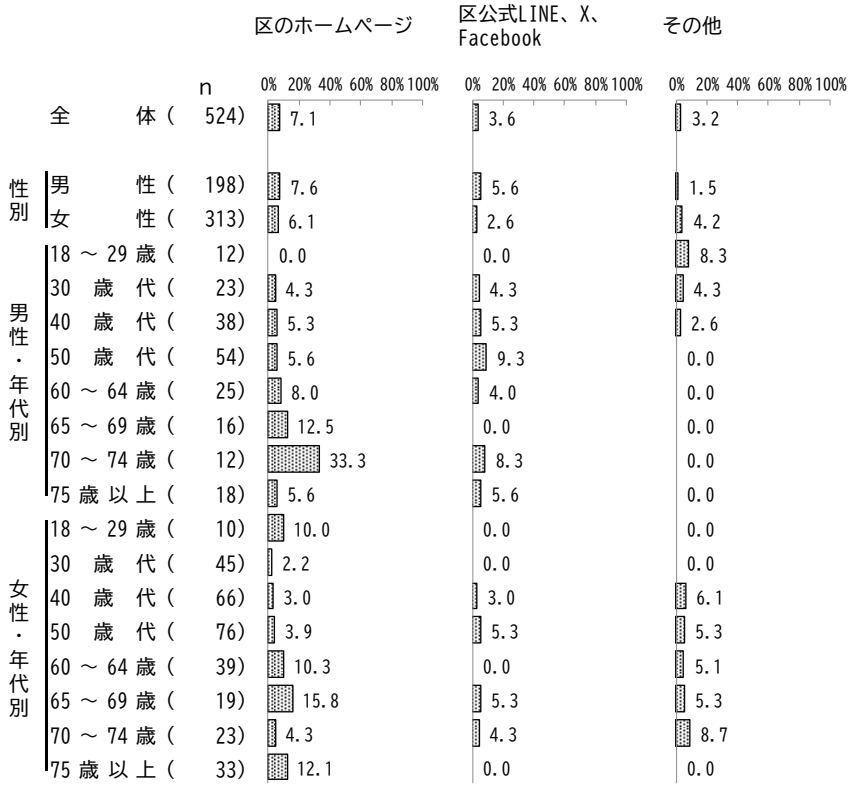


千代田区民体育大会を知ったきっかけについて聞いたところ、「広報千代田（区の広報紙）」(61.5%)が６割強と最も高く、次いで「町会で聞いて」(28.8%)が３割近く、「家族や友人、知人から聞いて」(23.7%)が２割台半ば近くと高くなっている。（図15－３－３）

性・年代別にみると、「広報千代田（区の広報紙）」は女性75歳以上(72.7%)が７割強と最も高くなっている。「町会で聞いて」は女性75歳以上(51.5%)が５割強と高くなっている。(図15－３－４)

図15－３－４ 千代田区民体育大会を知ったきっかけ（性・年代別）





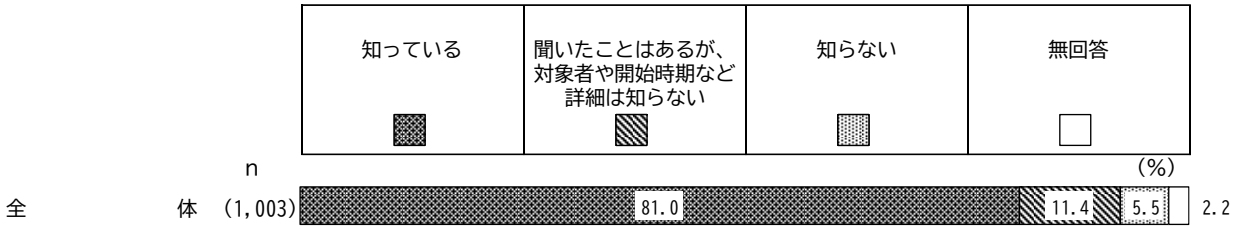
16. 自転車の交通安全

（１）自転車利用者のヘルメット着用の努力義務化についての認知度

◇「知っている」が８割強

問40　すべての自転車利用者にヘルメット着用が努力義務化されたことを知っていますか。（○は１つ）

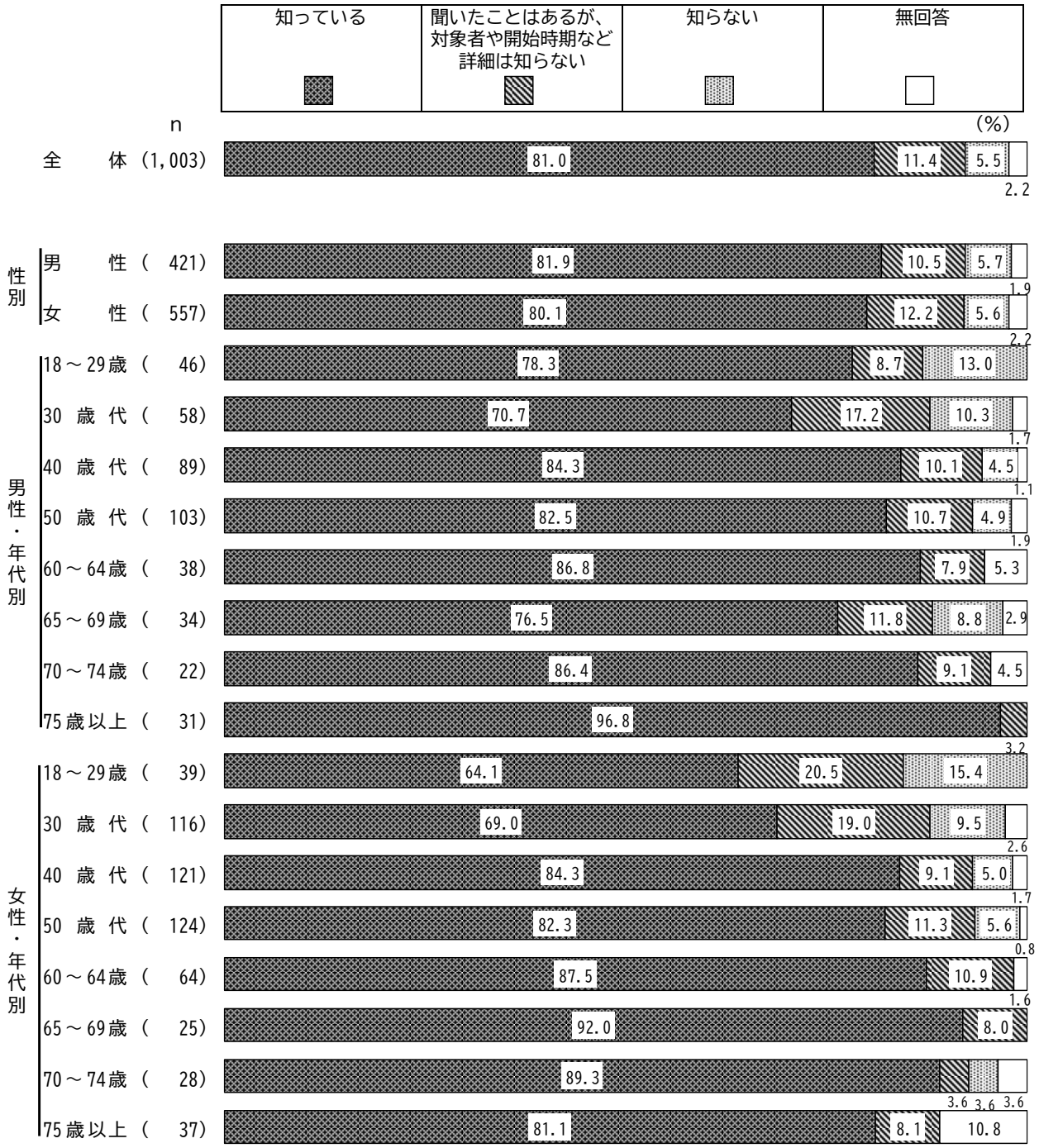
図16－１－１　自転車の交通安全



自転車利用者のヘルメット着用の努力義務化についての認知度について聞いたところ、「知っている」(81.0%)が８割強と最も高くなっている。（図16－１－１）

性・年代別にみると、「知っている」は男性75歳以上(96.8%)が９割台半ば超えと最も高くなっており、次いで女性65～69歳(92.0%)が９割強と高くなっている。(図16－１－２)

図16－１－２ 自転車の交通安全（性・年代別）

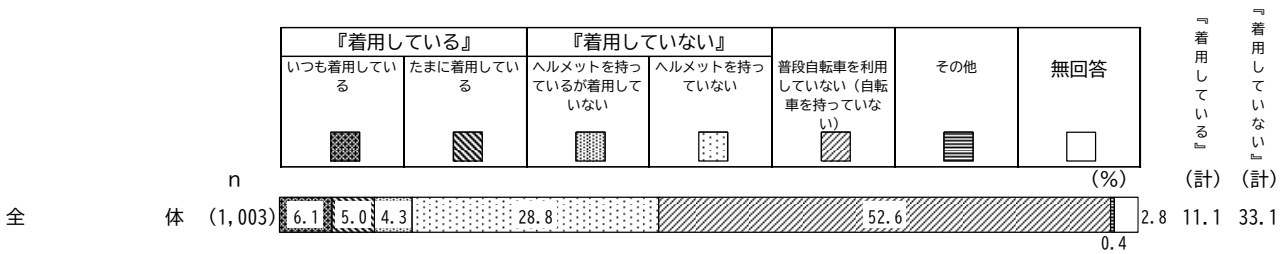


（２）自転車乗車時のヘルメットの着用状況

◇「普段自転車を利用していない（自転車を持っていない）」が５割強

問41　自転車に乗るときはヘルメットを着用していますか。（○は１つ）

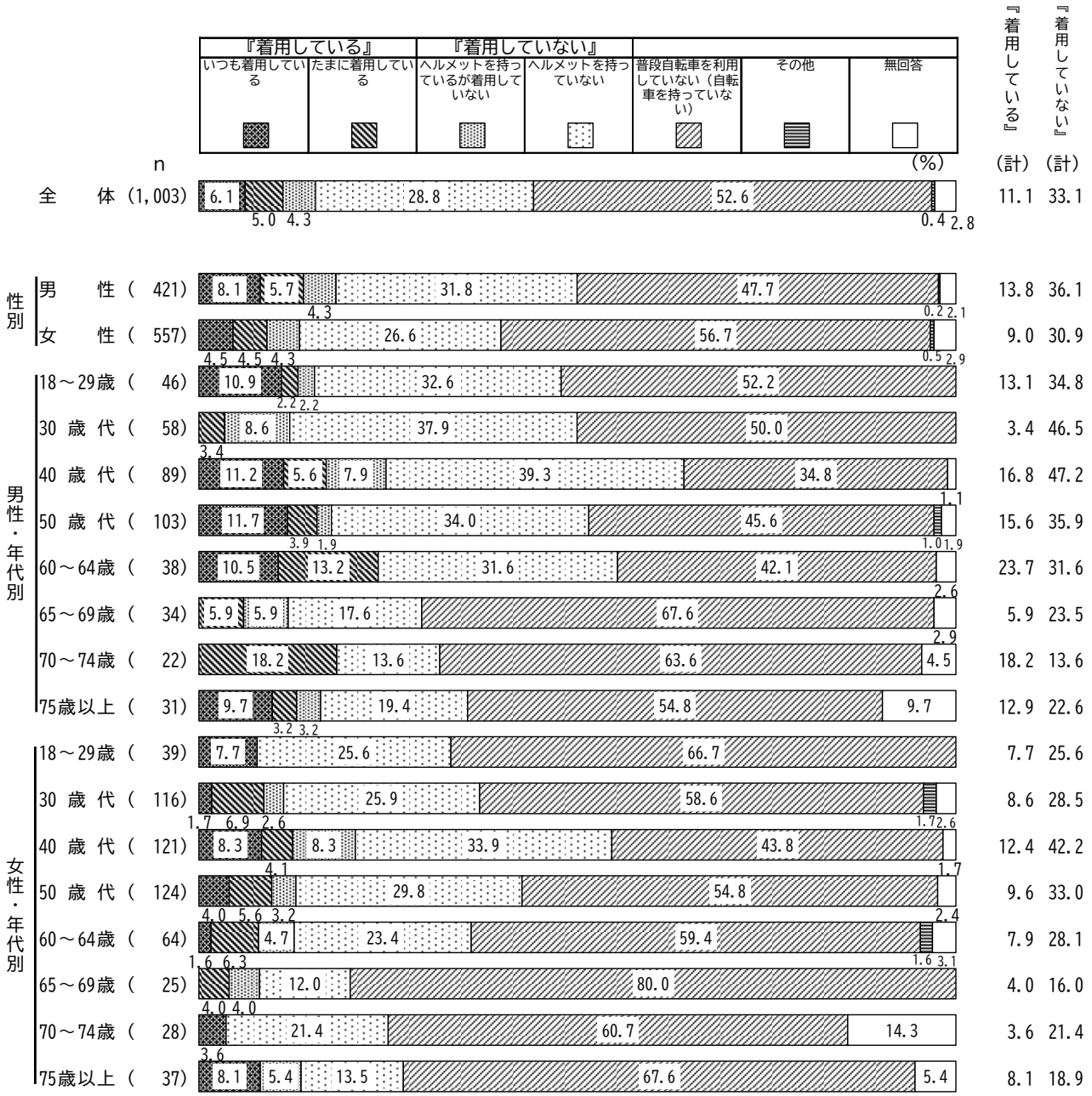
図16－２－１　自転車乗車時のヘルメットの着用状況



自転車乗車時のヘルメットの着用状況について聞いたところ、「普段自転車を利用していない（自転車を持っていない）」(52.6%)が５割強と最も高く、次いで「ヘルメットを持っていない」(28.8%)が３割近くと高く、これに「ヘルメットを持っているが着用していない」(4.3%)を合わせた『着用していない』(33.1%)が３割台半ば近くとなっている。一方で、「いつも着用している」(6.1%)、「たまに着用している」(5.0%)を合わせた『着用している』(11.1%)は１割強となっている。(図16－２－１)

性・年代別にみると、「普段自転車を利用していない（自転車を持っていない）」は女性65～69歳(80.0%)で８割と最も高くなっている。(図16－２－２)

図16－２－２ 自転車乗車時のヘルメットの着用状況（性・年代別）



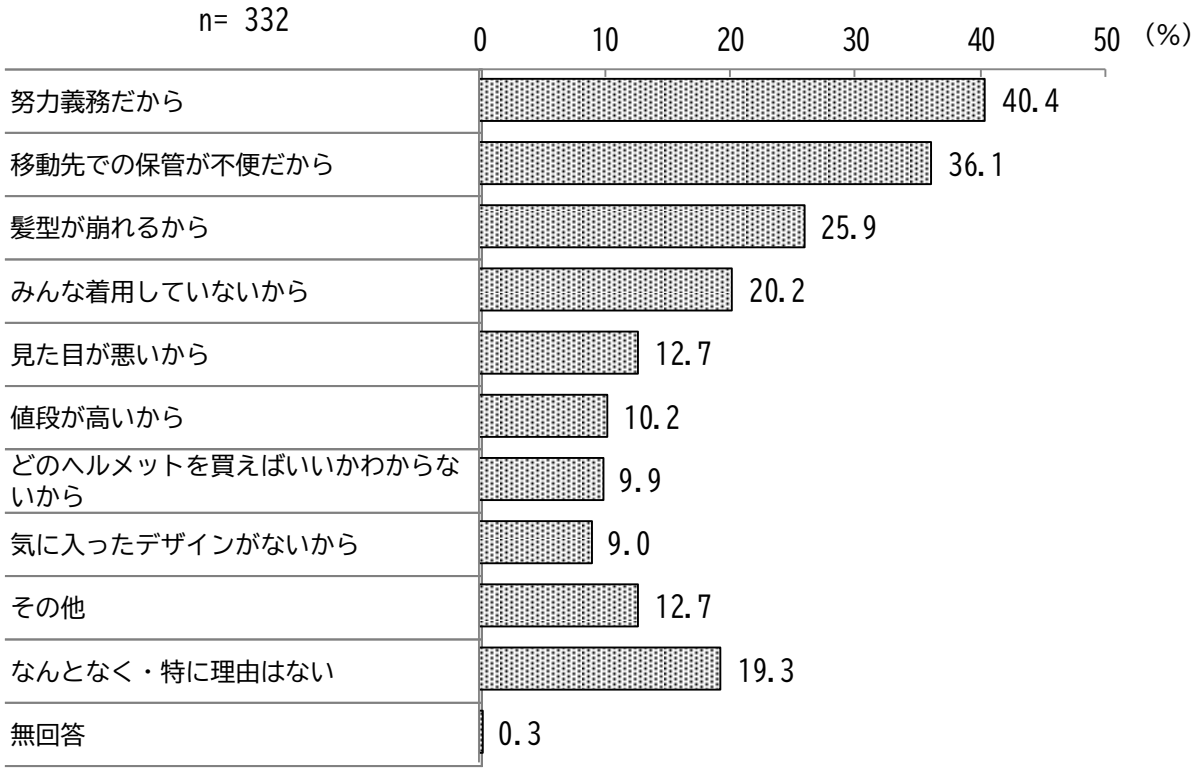
（２－１）ヘルメットを着用していない/持っていない理由

◇「努力義務だから」が約４割

（問41で「３.ヘルメットを持っているが着用していない」か「４.ヘルメットを持っていない」とお答えの方に）

問41－１　自転車に乗るときにヘルメットを着用しない又は持っていない理由は何ですか。（○はいくつでも）

図16－２－３ ヘルメットを着用していない/持っていない理由

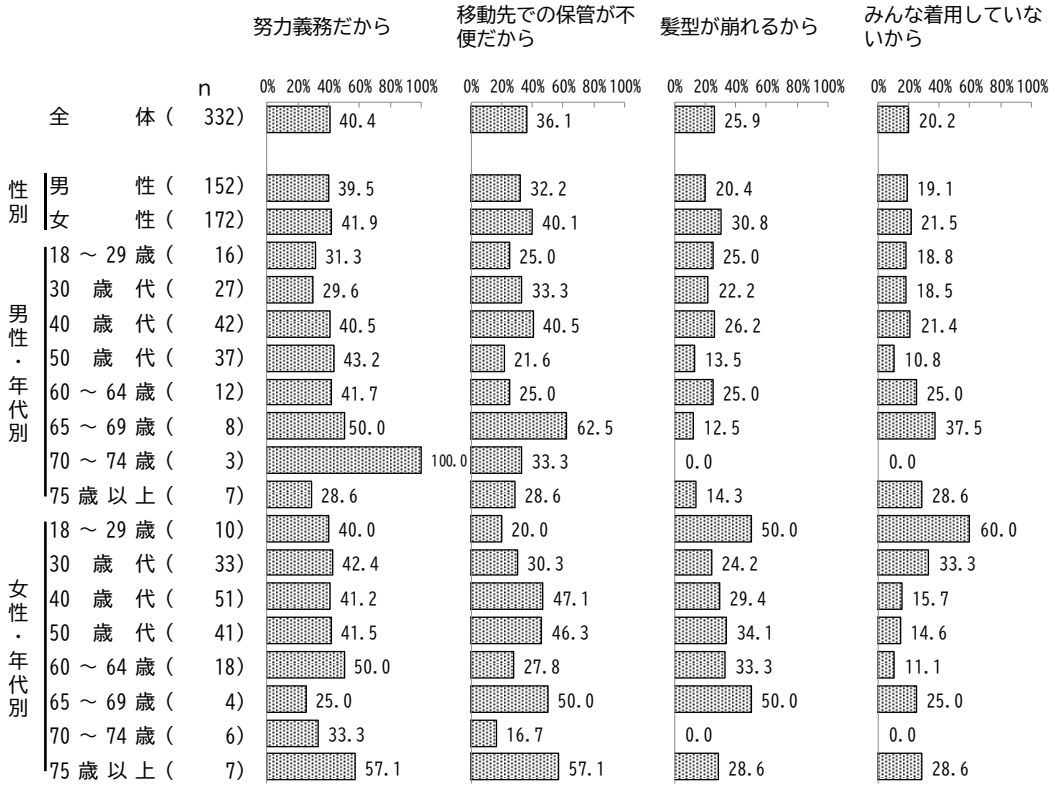


ヘルメットを着用していない/持っていない理由について聞いたところ、「努力義務だから」(40.4%)が約４割と最も高く、次いで「移動先での保管が不便だから」(36.1%)が３割台半ば超え、「髪型が崩れるから」(25.9%)が２割台半ば、「みんな着用していないから」(20.2%)が約２割と高くなっている。(図16－２－３)

性・年代別にみると、「移動先での保管が不便だから」は女性40歳代(47.1%)が４割台半ば超え、次いで女性50歳代(46.3%)が４割台半ば超えと高くなっている。「みんな着用していないから」は女性30歳代(33.3%)で３割台半ば近くと最も高くなっている。

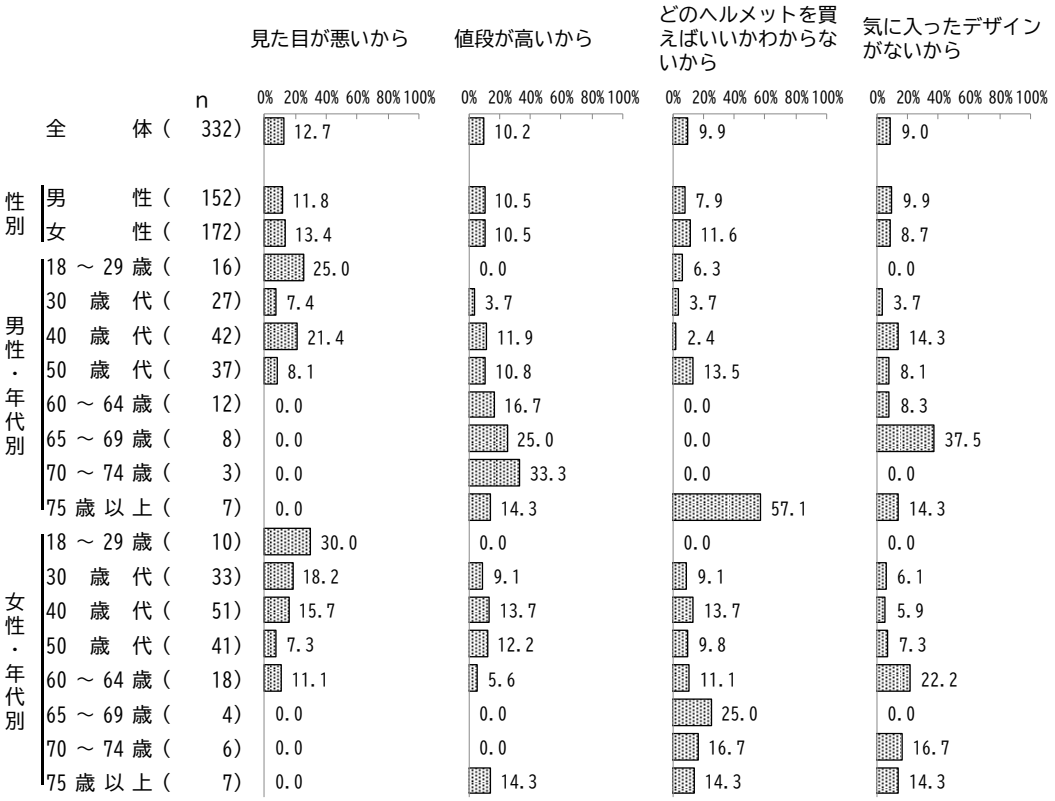
（図16－２－４－１）

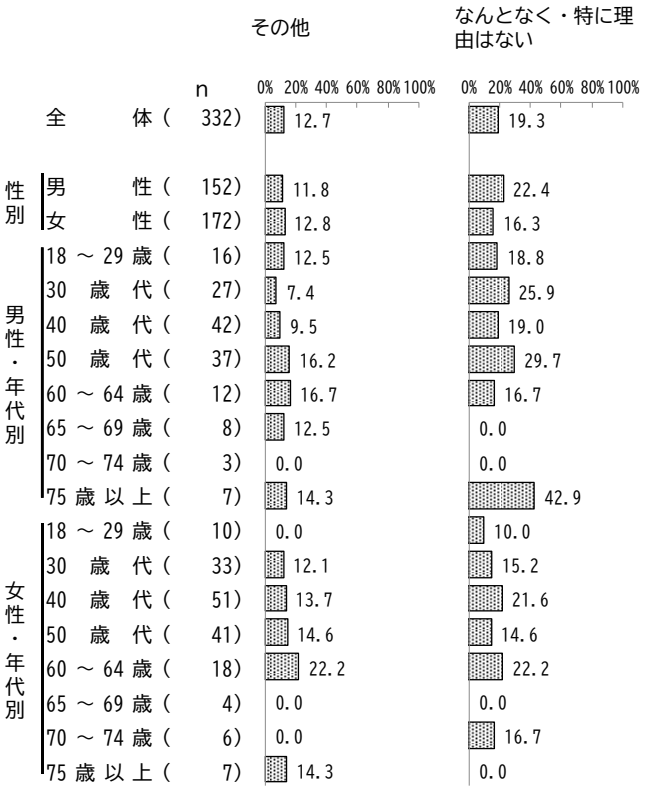
図16－２－４－１ ヘルメットを着用していない/持っていない理由（性・年代別）（１）



性・年代別にみると、「見た目が悪いから」は男性40歳代(21.4%)が２割強と高くなっている。(図16－２－４－２)

図16－２－４－２ ヘルメットを着用していない/持っていない理由（性・年代別）（２）



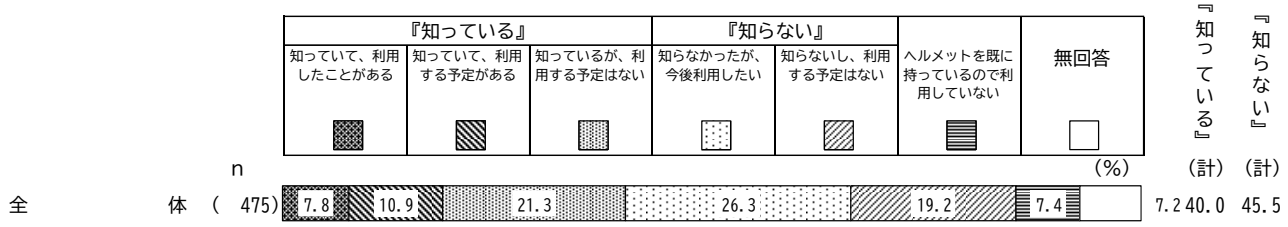


（３）自転車用ヘルメット購入補助事業の利用意向

◇「知らなかったが、今後利用したい」が２割台半ば超え

問42　千代田区で実施している自転車用ヘルメット購入費補助事業を知っていますか。また、利用したことがありますか。（○は１つ）

図16－３－１　自転車用ヘルメット購入補助事業の利用意向

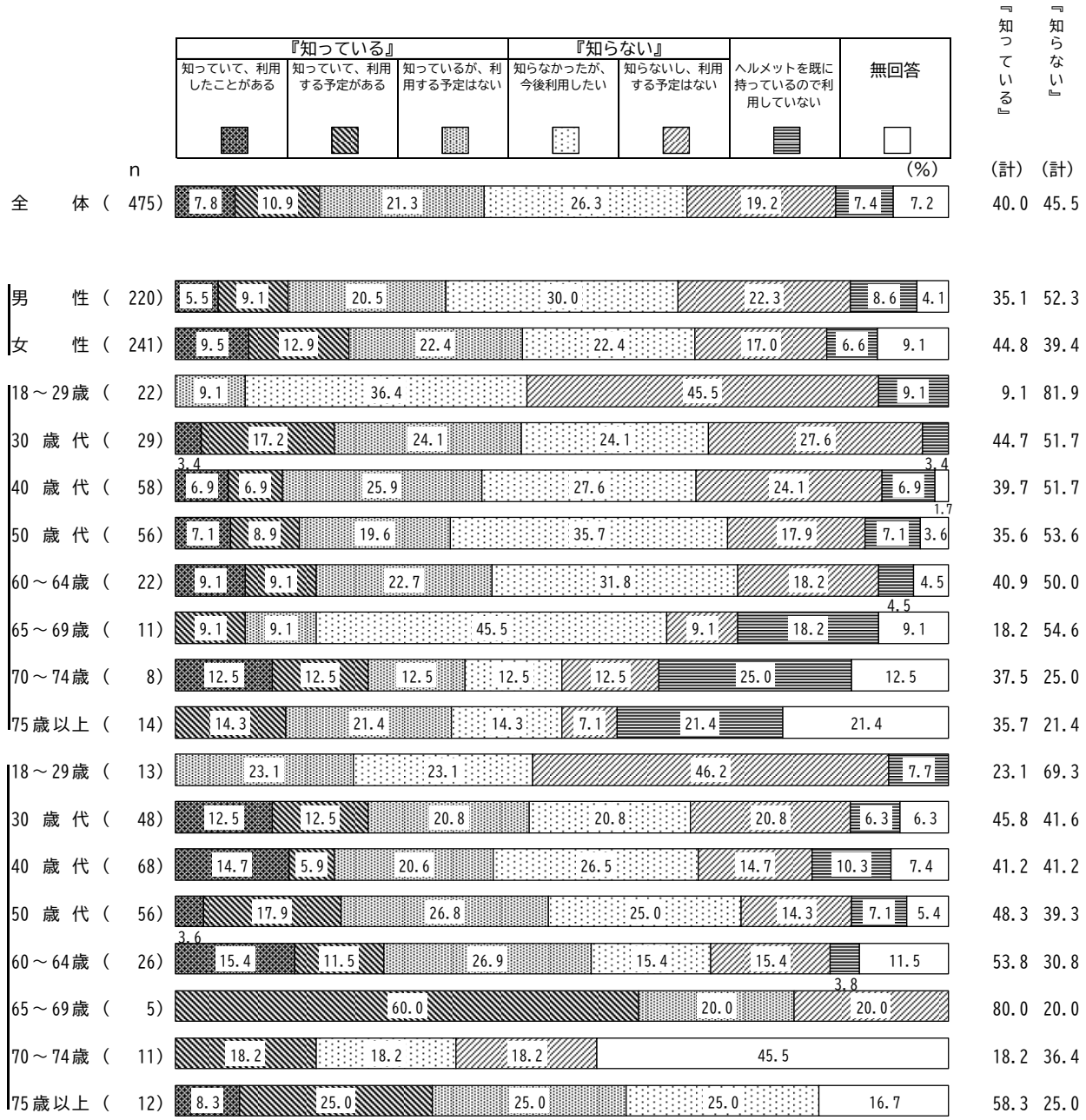


自転車用ヘルメット購入補助事業の利用意向について聞いたところ、「知らなかったが、今後利用したい」(26.3%)が２割台半ば超えと最も高く、これに「知らないし、利用する予定はない」(19.2%)を合わせた『知らなかった』(45.5%)は４割台半ばとなっている。一方で、「知っていて、利用したことがある」(7.8%)、「知っていて、利用する予定がある」(10.9%)、「知っているが、利用する予定はない」(21.3%)を合わせた『知っている』(40.0%)と４割となっている。(図16－３－１)

性・年代別にみると、『知っている』は女性60～64歳(53.8%)で５割台半ば近くと高くなっている。一方で、『知らない』は男性18～29歳(81.9%)が８割強と高くなっている。

（図16－３－２）

図16－３－２ 自転車用ヘルメット購入補助事業の利用意向（性・年代別）

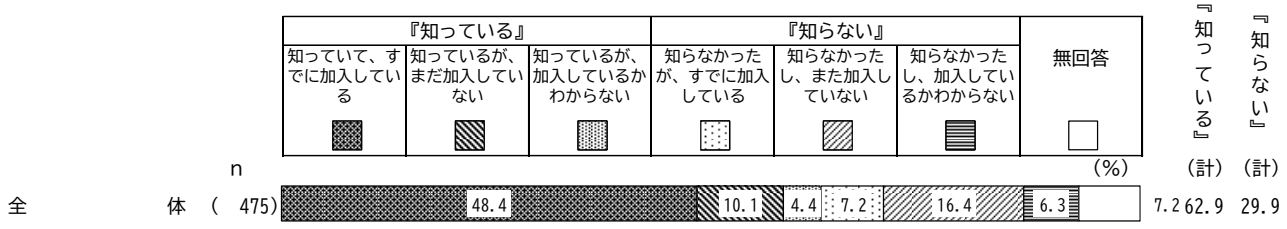


（４）自転車事故の損害賠償保険等の義務化の認知度と加入状況

◇「知っていて、すでに加入している」が５割近く

問43　自転車事故の損害賠償保険等へ加入が義務化されたことを知っていますか。また、自転車損害賠償保険等に加入していますか。（○は１つ）

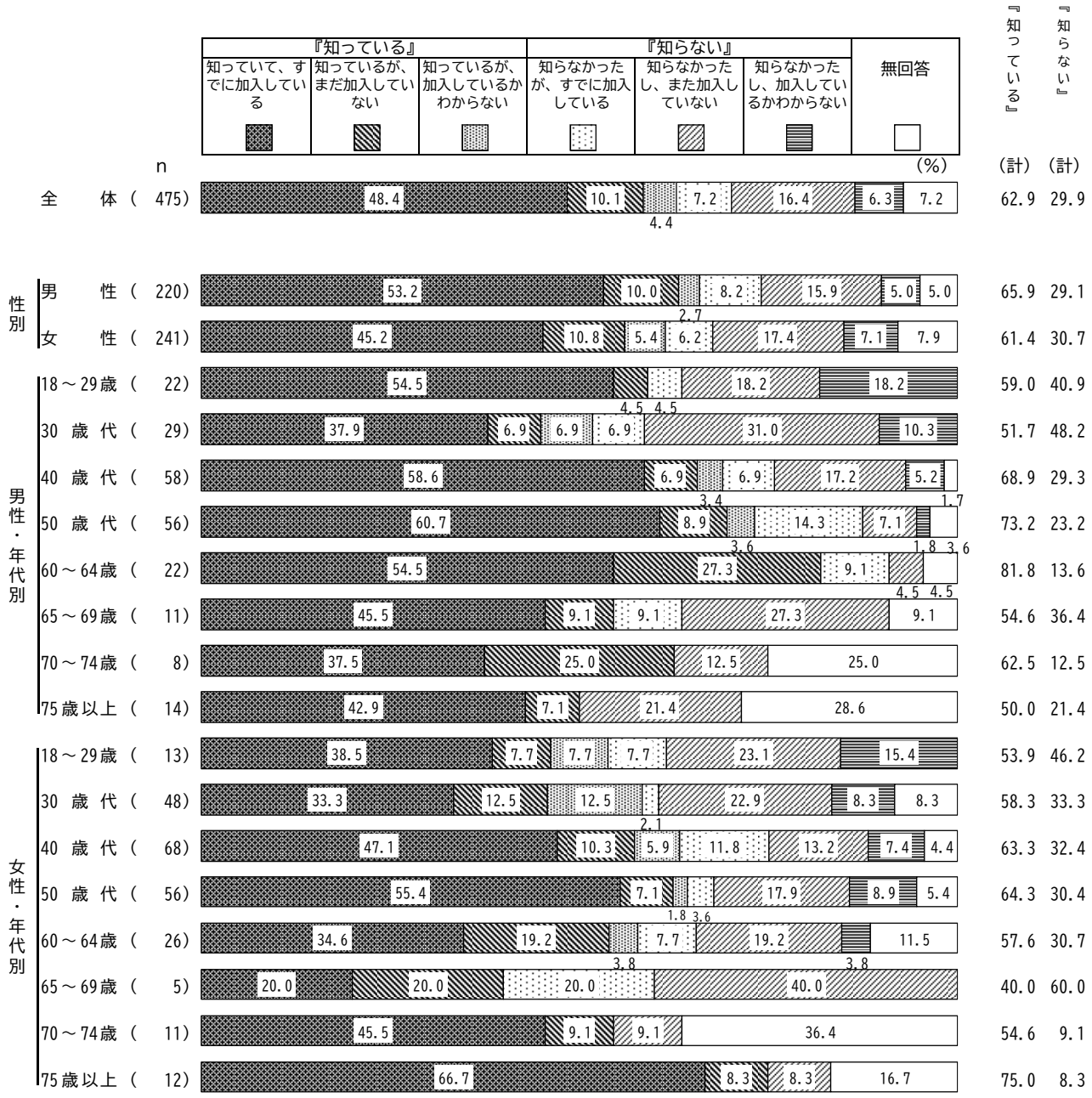
図16－４－１　自転車事故の損害賠償保険等の義務化の認知度と加入状況



自転車事故の損害賠償保険等の義務化の認知度と加入状況について聞いたところ、「知っていて、すでに加入している」(48.4%)が５割近くと最も高くなっており、これに「知っているが、まだ加入していない」(10.1%)、「知っているが、加入しているかわからない」(4.4%)を合わせた『知っている』(62.9%)が６割強となっている。一方で、「知らなかったが、すでに加入している」(7.2%)、「知らなかったし、まだ加入していない」(16.4%)、「知らなかったし、加入しているかわからない」(6.3%)を合わせた『知らない』(29.9%)が３割弱となっている。(図16－４－１)

性・年代別にみると、『知っている』は男性50歳代(73.2%)で７割台半ば近くと高くなっている。(図16－４－２)

図16－４－２ 自転車事故の損害賠償保険等の義務化の認知度と加入状況（性・年代別）



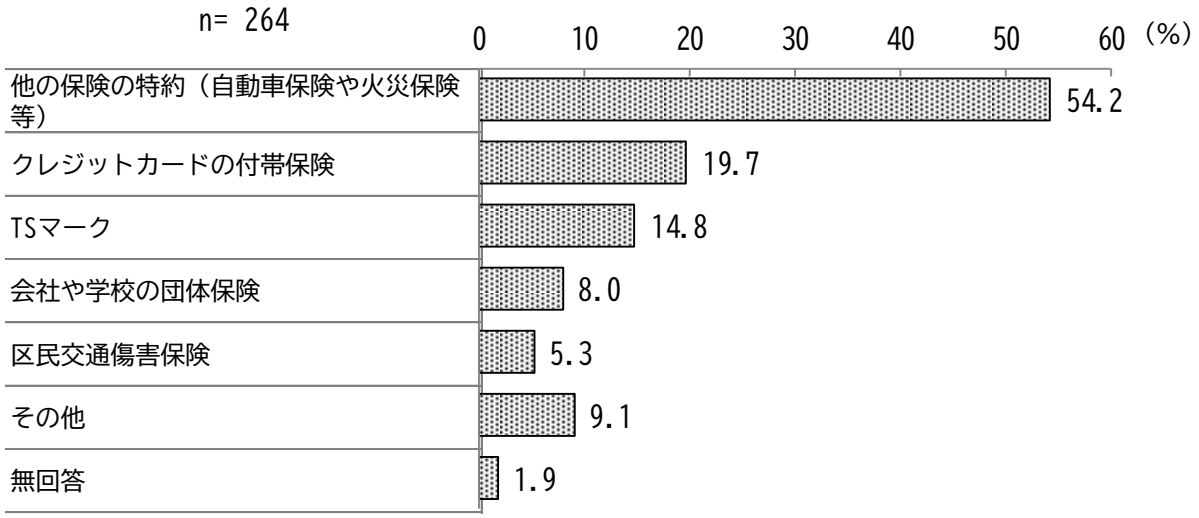
（４－１）加入している自転車事故の損害賠償保険等

◇「他の保険の特約（自動車保険や火災保険等）」が５割台半ば近く

（問43で「１．知っていて、すでに加入している」か「４．知らなかったが、すでに加入している」とお答えの方）

問43－１　どのような自転車損害賠償保険等に加入していますか。（○はいくつでも）

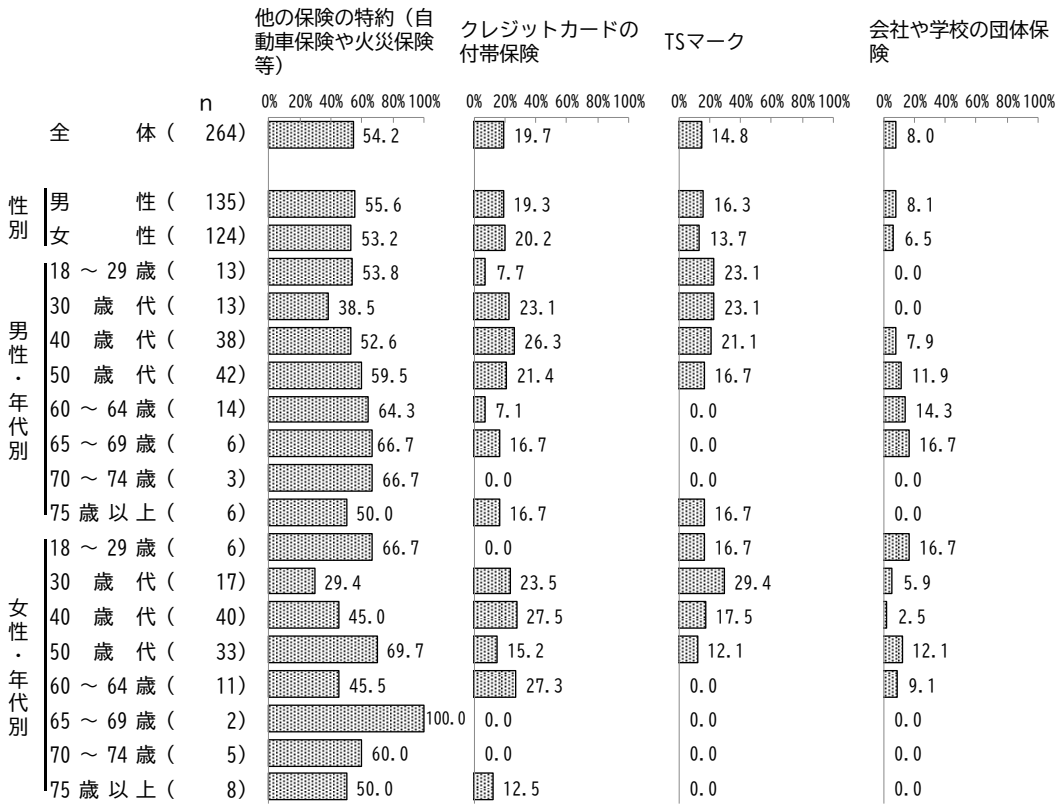
図16－４－３ 加入している自転車事故の損害賠償保険等

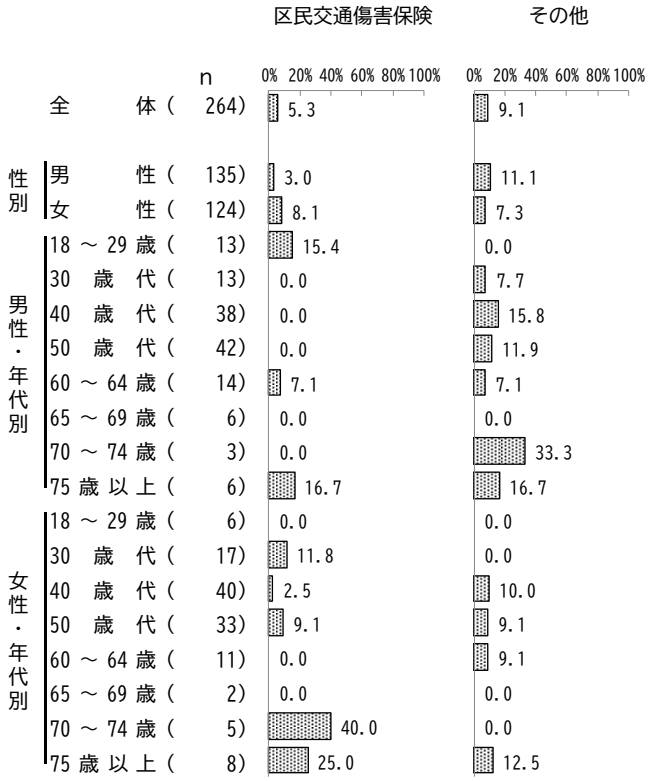


加入している自転車事故の損害賠償保険等について聞いたところ、「他の保険の特約（自動車保険や火災保険等）」（54.2%）が５割台半ば近くと最も高くなっている。その他を具体的に回答とした方は７名おり、主に「民間保険会社の自転車保険」や「生協」が挙げられている。（図16－４－３）

性・年代別にみると、「他の保険の特約（自動車保険や火災保険等）」は女性50歳代(69.7%)が７割弱となっている。(図16－４－４)

図16－４－４ 加入している自転車事故の損害賠償保険等（性・年代別）





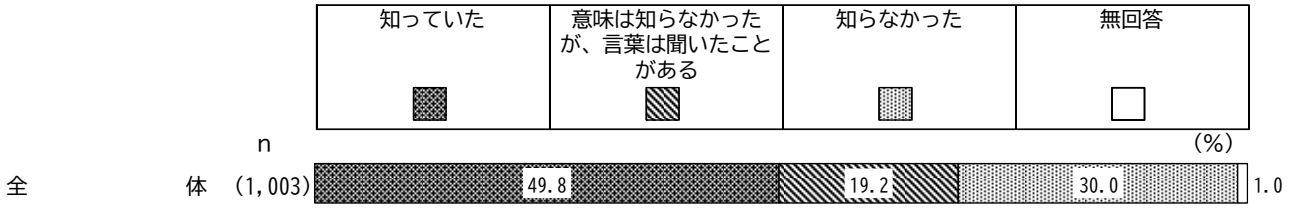
17. 生物多様性

（１）生物多様性という言葉の認知度

◇「知っていた」が５割弱

問44　あなたは、生物多様性という言葉の意味を知っていましたか。（○は１つ）

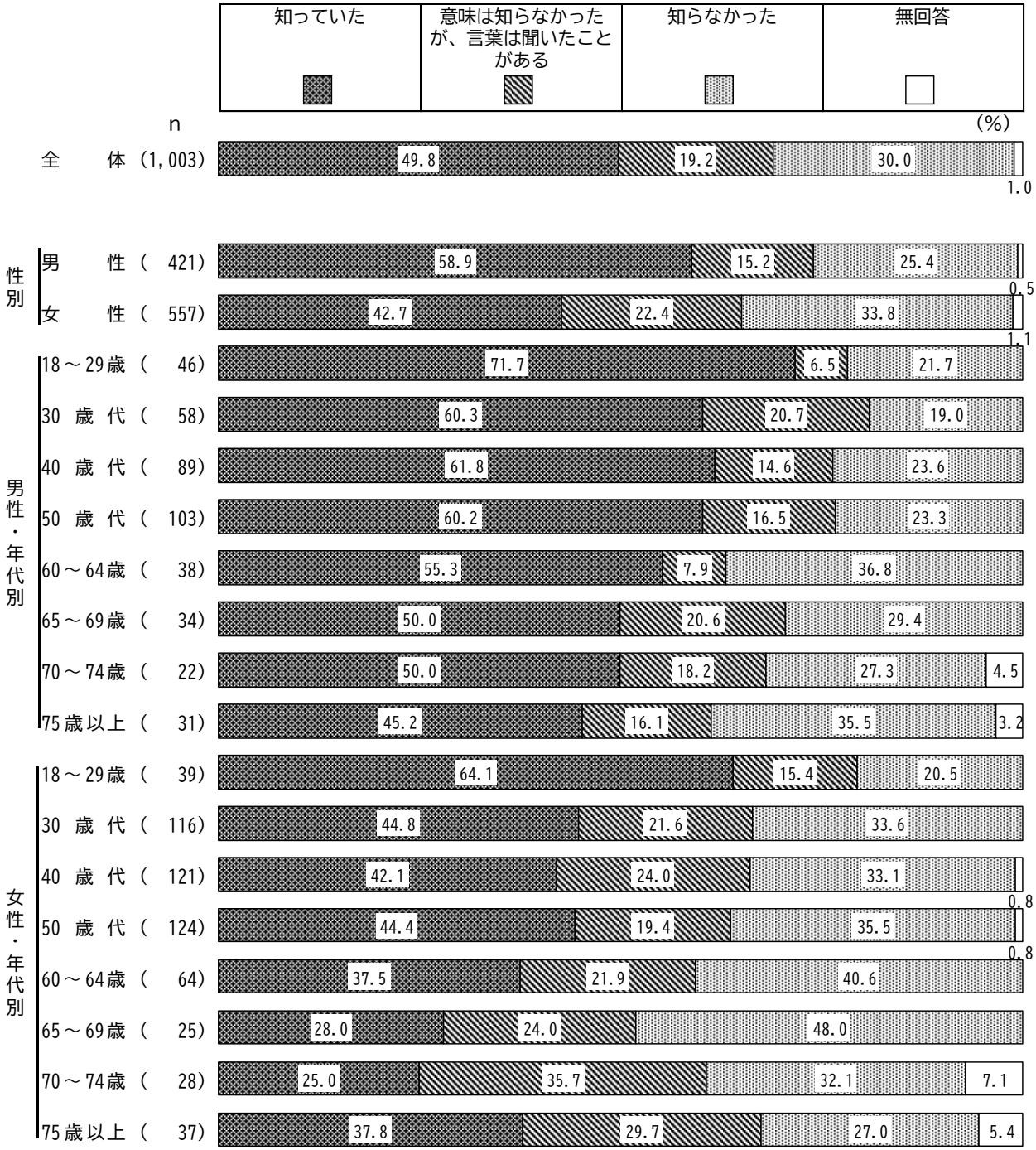
図17－１－１ 生物多様性という言葉の認知度



生物多様性という言葉の認知度について聞いたところ、「知っていた」(49.8%)が５割弱と最も高く、次いで「知らなかった」(30.0%)が３割と高くなっている。(図17－１－１)

性・年代別にみると、「知っていた」は男性18～29歳(71.7%)が７割強と最も高くなっている。(図17－１－２)

図17－１－２ 生物多様性という言葉の認知度（性・年代別）

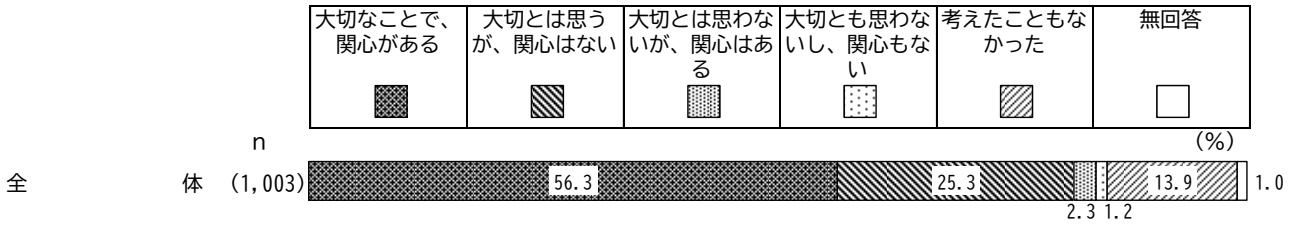


（２）生物多様性への関心の有無

◇「大切なことで、関心がある」が５割台半ば超え

問45　あなたは、生物多様性に関心がありますか。（○は１つ）

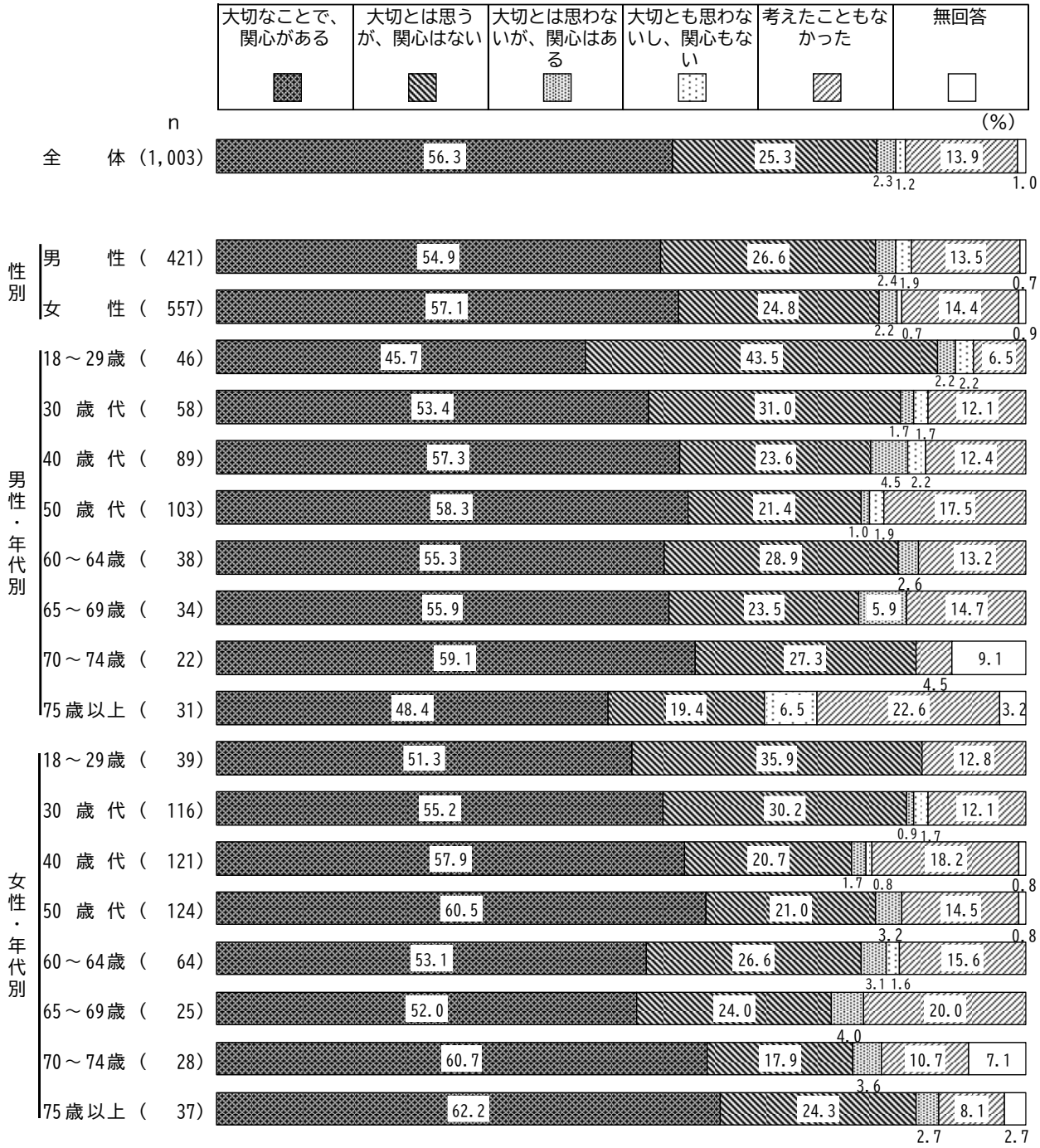
図17－２－１　生物多様性への関心の有無



生物多様性への関心の有無について聞いたところ、「大切なことで、関心がある」(56.3%)が５割台半ば超えと最も高く、次いで「大切とは思うが、関心はない」(25.3%)が２割台半ばと高くなっている。（図17－２－１）

性・年代別にみると、「大切とは思うが、関心はない」は男性18～29歳(43.5%)が４割台半ば近くと最も高くなっており、女性18～29歳(35.9%)が３割台半ばと高くなっている。
（図17－２－２）

図17－２－２ 生物多様性への関心の有無（性・年代別）

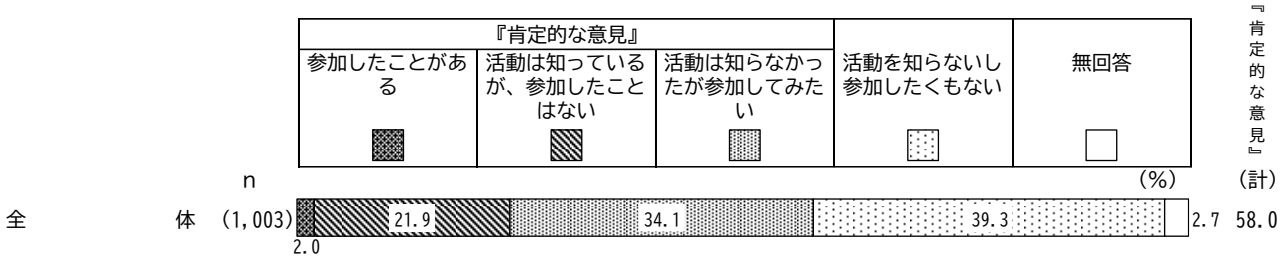


（３）生物多様性の保全活動等への参加経験

◇「活動を知らないし参加したくもない」が４割弱

問46　あなたは、区内の緑地の維持管理活動や生物多様性の保全活動に参加したことがありますか。参加したことがある方は、参加した活動名や場所等を具体的にご記入ください。（例：アダプトシステムへの参加・生きものに関するイベントへの参加）（○は１つ）

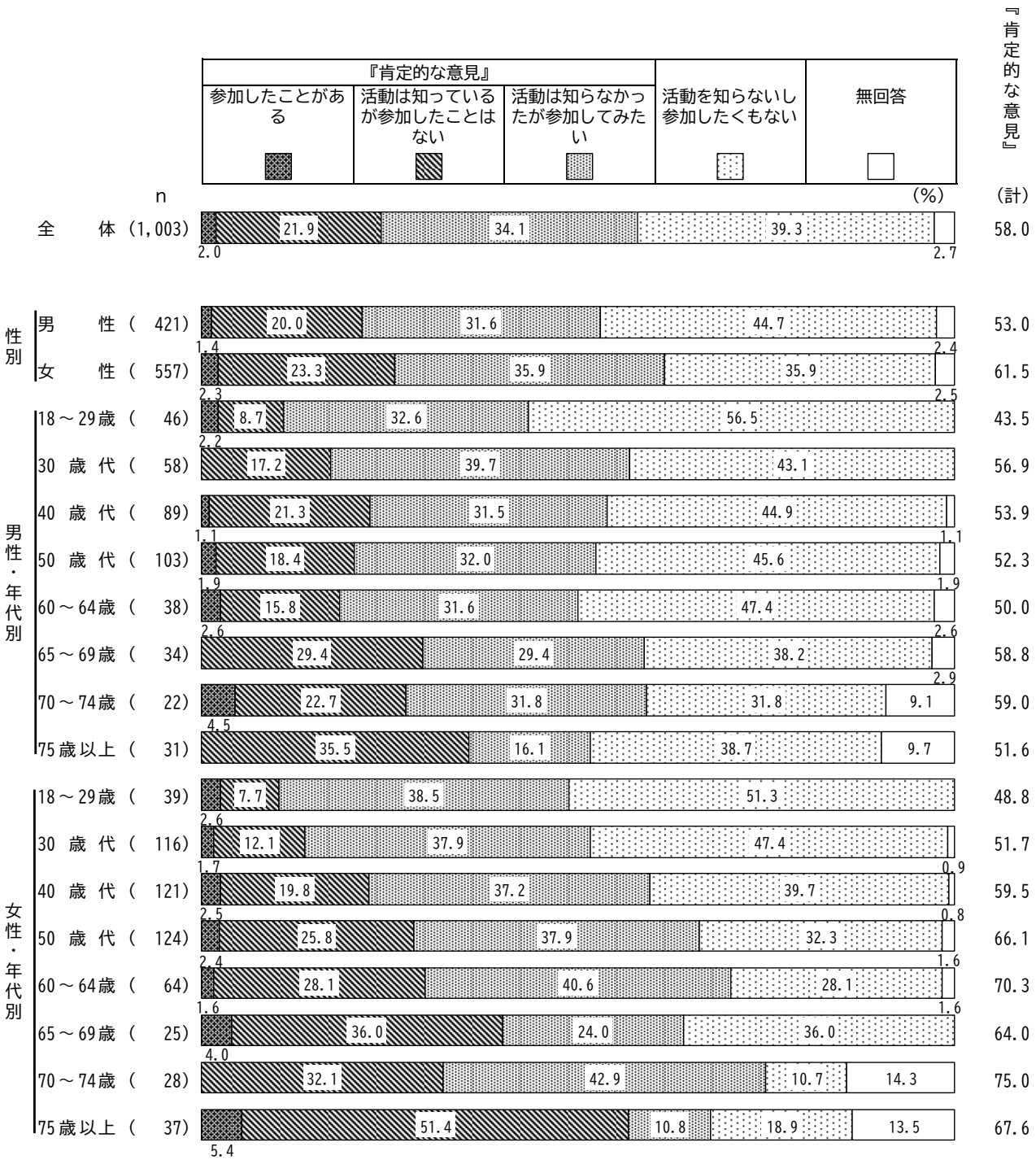
図17－３－１　生物多様性の保全活動等への参加経験



生物多様性の保全活動等への参加経験について聞いたところ、「活動を知らないし参加したくもない」(39.3%)が４割弱と最も高く、次いで「活動は知らなかったが参加してみたい」(34.1%)が３割台半ば近く、「活動は知っているが、参加したことはない」(21.9%)が２割強と高くなっており、これらに「参加したことがある」(2.0%)を合わせた『肯定的な意見』(58.0%)が６割近くとなっている。(図17－３－１)

性・年代別にみると、「活動は知っているが、参加したことはない」は女性75歳以上(51.4%)が５割強と最も高くなっている。(図17－３－２)

図17－３－２ 生物多様性の保全活動等への参加経験（性・年代別）



（３－１）参加したことのある活動・場所等

（問46で「１．参加したことがある」とお答えの方に）
問46－１　参加した活動名や場所等は何ですか。（自由記述）

区内の緑地の維持管理活動や生物多様性の保全活動に「参加したことがある」(2.0%)と回答した方に、参加した活動や場所をたずねたところ、以下の回答が得られた。

●緑化活動

・町内・公園・学校などの緑化・花植え（４件）
・アダプトシステム※１への参加（３件）
・日比谷公園の花壇整備（区内企業主催）

●体験・啓発活動

・明治大学の農業体験
・エコグリーン活動、植物を育てる苗をもらう
・Ｂｉｏｍｅ※２

●その他の活動やご意見

・バードウォッチング
・今はあまり活動しているように思えない。子供中心になっているのでは？

※１　アダプトシステム

地域の方や企業・団体が、道路・公園等の公共施設や花壇の管理・清掃等の一部を引き受けることを通して環境美化活動をする制度。
千代田区では、地域団体・市民団体・学校・民間事業者等が、区の管理する道路・公園・児童遊園等で、草花の植付、管理や清掃などの環境美化活動を行っている。
自発性・自主性に基づく管理・清掃の計画・実施によって公共施設がより身近なものになるとともに、地域の主体同士の交流が深まり、地域の活性化が期待できる。
参考：千代田区公式ＨＰ　アダプトシステム（道路や公園等の公共施設の環境美化活動）
https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kurashi/volunteer/adapt.html

※2　Ｂｉｏｍｅ

撮影した季節と場所からいきものを判定する最新の生物名前判定AIを備え、『図鑑』『マップ』『SNS』『クエスト』など、いきものにまつわる様々な機能を備えているアプリ。
千代田区では、毎年実施している区民参加型モニタリング調査「千代田区生きものさがし」で『クエスト』機能を利用した千代田区版いきものクエストを実施している。

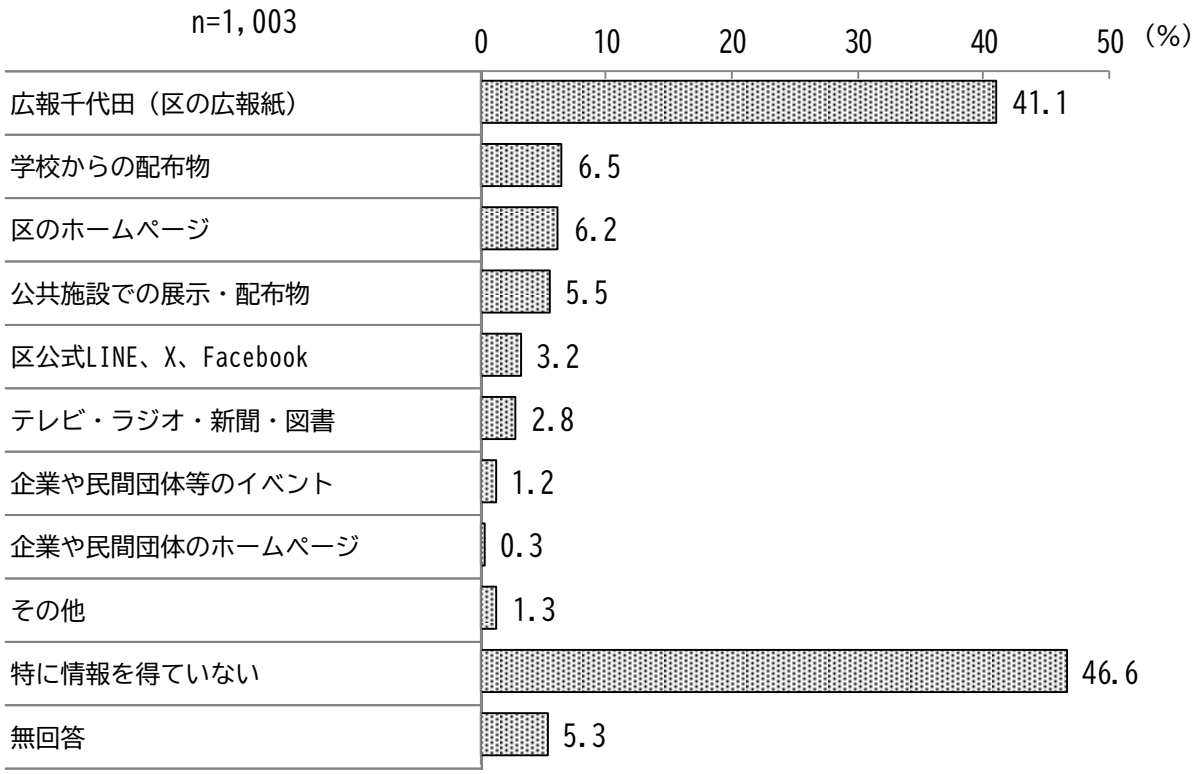
参考：いきものコレクションアプリBiome　ＨＰ
　　千代田区公式ＨＰ　生物多様性
　　https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/machizukuri/kankyo/sebutsutayose/index.html

（４）区内の生物多様性に関する情報の取得媒体

◇「広報千代田（区の広報紙）」が４割強

問47　あなたは、区内の生物多様性に関する情報（生きもの、環境イベント、取り組み、活動など）は主に何で知りますか。（○はいくつでも）

図17－４－１　区内の生物多様性に関する情報の取得媒体

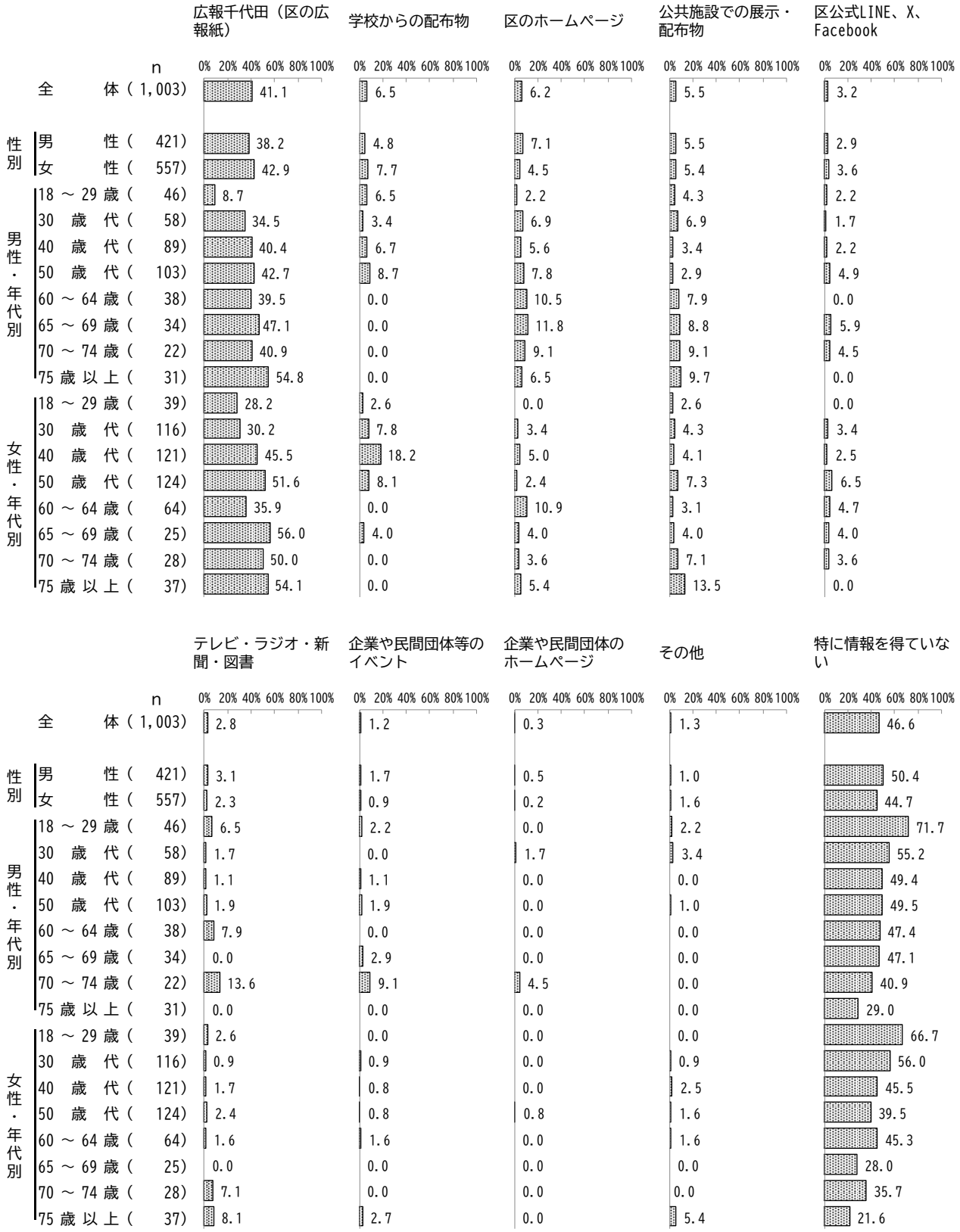


区内の生物多様性に関する情報の取得媒体について聞いたところ、「広報千代田（区の広報紙）」（41.1%）が４割強と最も高くなっている。（図17－４－１）

性・年代別にみると、「特に情報を得ていない」は男性18～29歳(71.7%)が７割強と最も高くなっており、次いで女性18～29歳(66.7%)が６割台半ば超えと高くなっている。

（図17－４－２）

図17－４－２ 区内の生物多様性に関する情報の取得媒体（性・年代別）



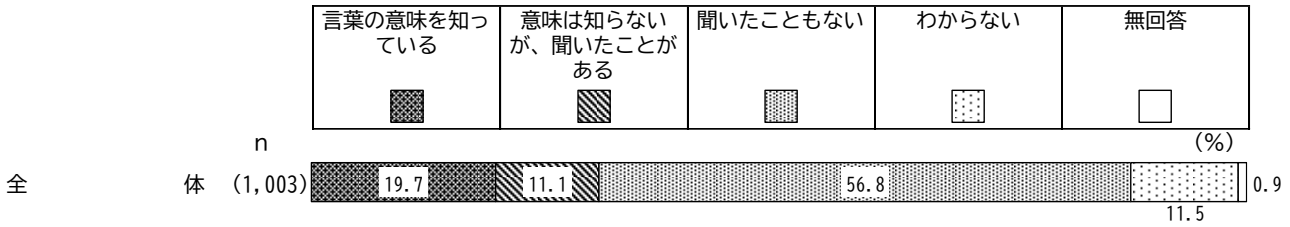
18. 2050 ゼロカーボンちよだに向けた取り組み

（１）「2050 ゼロカーボンちよだ」の認知度

◇「聞いたこともない」が５割台半ば超え

問48　あなたは、「2050 ゼロカーボンちよだ」をご存じですか。（○は１つ）

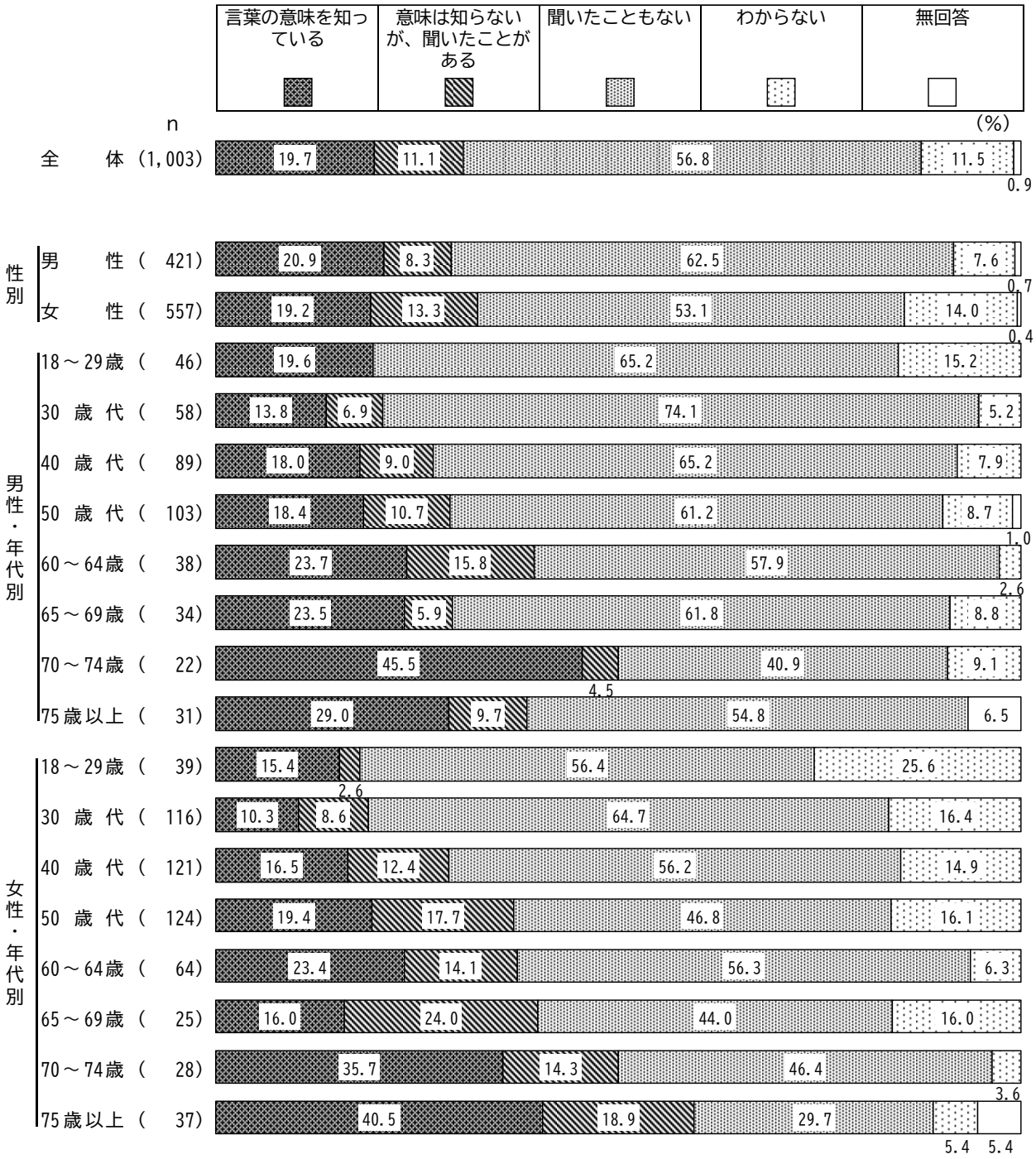
図18－１－１　「2050 ゼロカーボンちよだ」の認知度



「2050 ゼロカーボンちよだ」の認知度について聞いたところ、「聞いたこともない」(56.8%)が５割台半ば超えと最も高くなっている。（図18－１－１）

性・年代別にみると、「言葉の意味を知っている」は女性75歳以上(40.5%)で約４割と高くなっている。(図18－１－２)

図18－１－２ 「2050 ゼロカーボンちよだ」の認知度（性・年代別）

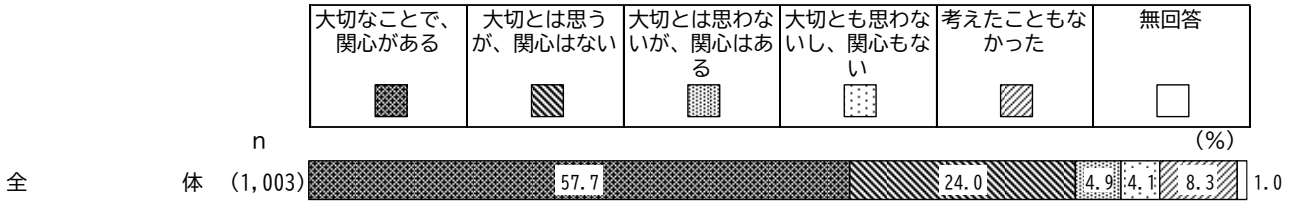


（２）脱炭素社会への関心の有無

◇「大切なことで、関心がある」が５割台半ば超え

問49　あなたは、脱炭素社会に関心がありますか。（○は１つ）

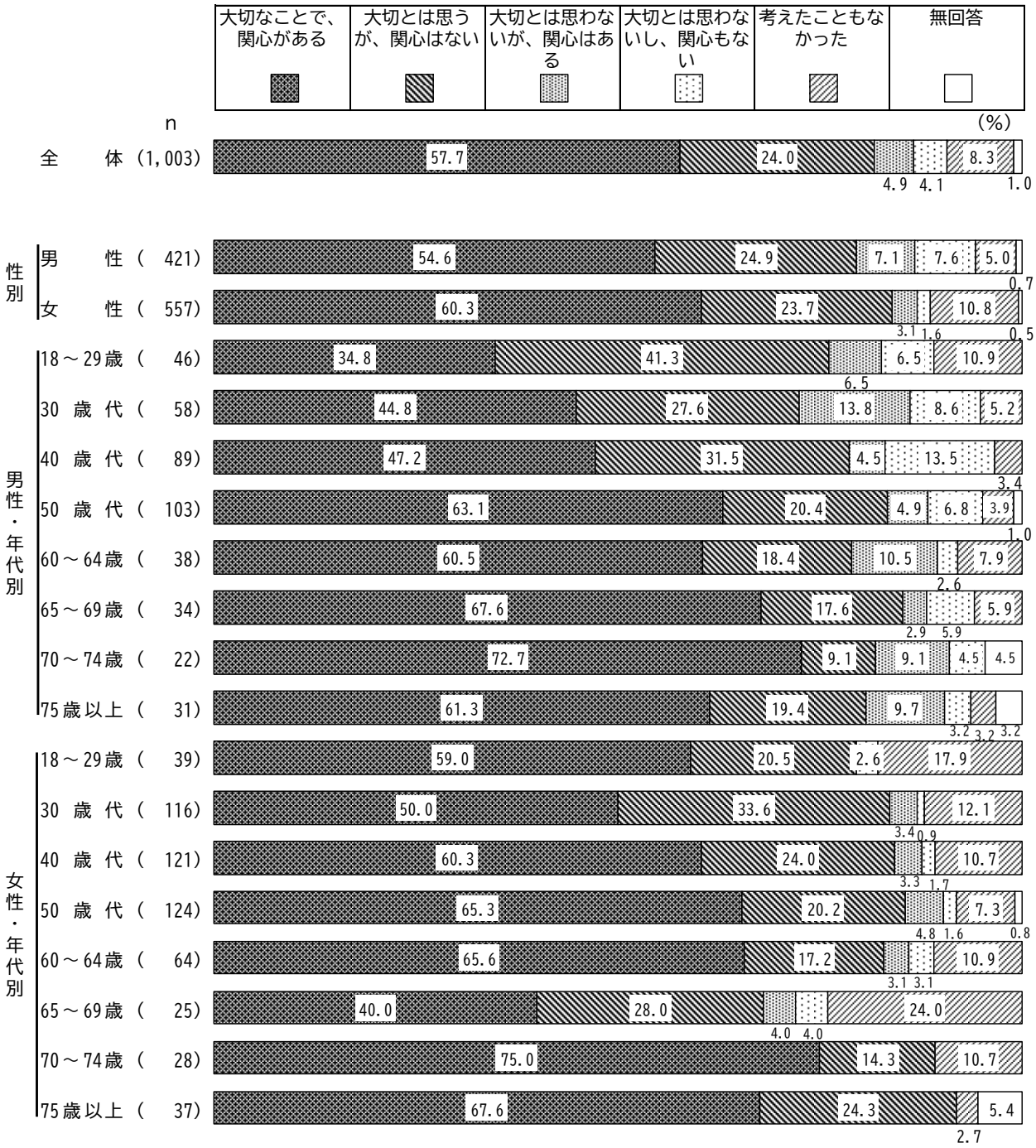
図18－２－１　脱炭素社会への関心の有無



脱炭素社会への関心の有無について聞いたところ、「大切なことで、関心がある」(57.7%)が５割台半ば超えと最も高く、次いで「大切とは思うが、関心はない」(24.0%)が２割台半ば近くと高くなっている。（図18－２－１）

性・年代別にみると、「大切なことで、関心がある」は女性70～74歳(75.0%)が７割台半ばと最も高くなっている。「大切とは思うが、関心はない」は男性18～29歳(41.3%)が４割強と最も高くなっている。「考えたこともなかった」は女性65～69歳(24.0%)が２割台半ば近くと最も高くなっている。(図18－２－２)

図18－２－２ 脱炭素社会への関心の有無（性・年代別）

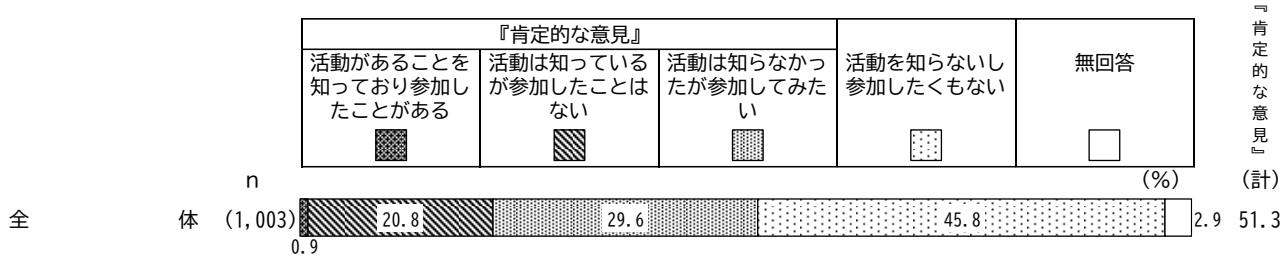


（３）環境保全イベントや活動への参加経験

◇「活動を知らないし参加したくもない」が４割台半ば

問50　区では脱炭素社会の実現を促進するための取り組みを推進しています。あなたは、環境保全イベントや活動に参加したことがありますか。（○は１つ）

図18－２－１　環境保全イベントや活動への参加経験

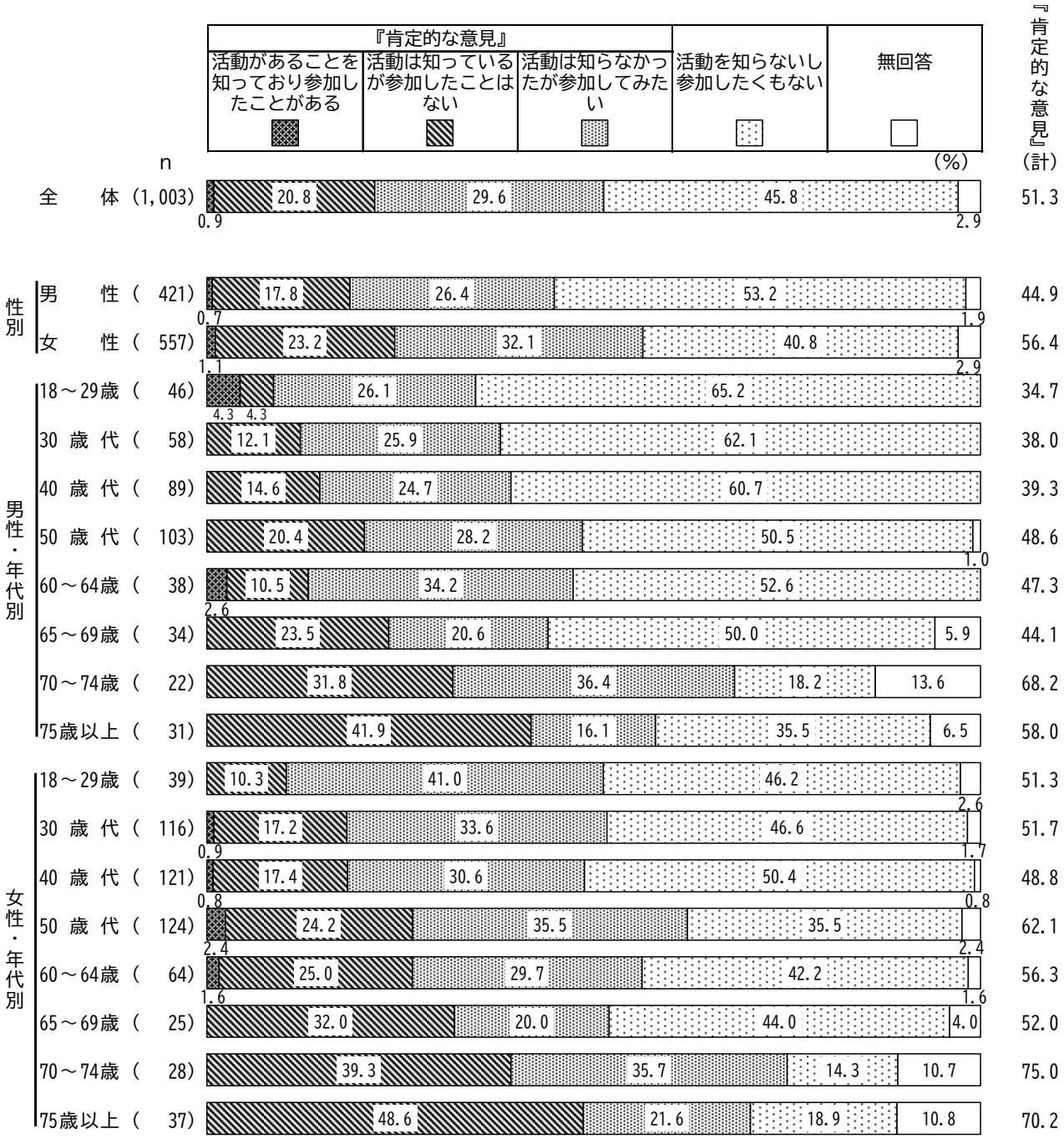


環境保全イベントや活動への参加経験について聞いたところ、「活動を知らないし参加したくもない」(45.8%)が４割台半ばと最も高くなっている。一方で、「活動は知らなかったが参加してみたい」(29.6%)が３割弱、「活動は知っているが参加したことはない」(20.8%)が約２割と高くなっており、この２つに「活動があることを知っており参加したことがある」(0.9%)を合わせた『肯定的な意見』(51.3%)が５割強となっている。

（図18－２－１）

性・年代別にみると、『肯定的な意見』は女性70～74歳(75.0%)が７割台半ばと最も高くなっている。(図18－２－２)

図18－２－２ 環境保全イベントや活動への参加経験（性・年代別）



（３－１）参加したことのある環境保全イベントや活動等

（問50で「１.活動があることを知っており参加したことがある」とお答えの方に）
問50－１　参加した活動名や場所等は何ですか。（自由記述）

環境保全イベントや活動に「活動があることを知っており参加したことがある」（0.9%）と回答した方に、参加した活動や場所をたずねたところ、以下の回答が得られた。

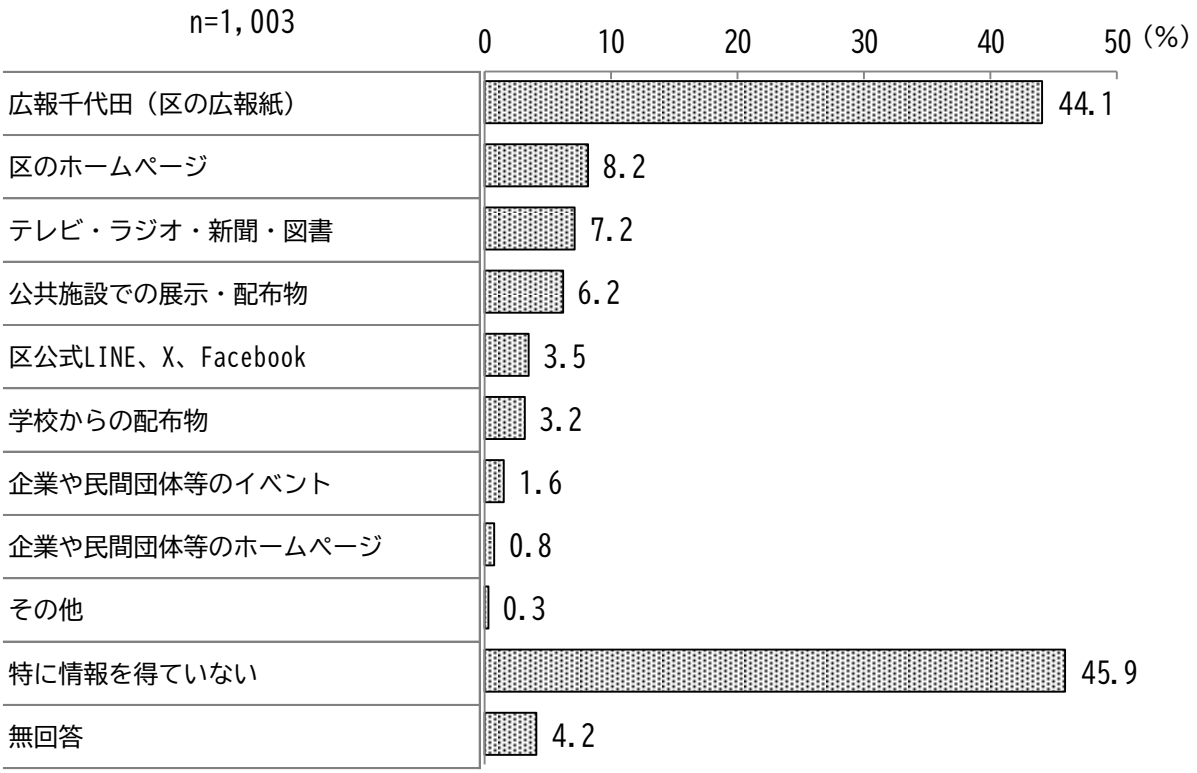
- エコ活動の研修受講
- 千代田エコシステム

（４）区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体

◇「広報千代田」が４割台半ば近く

問51　あなたは、区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報を主に何で知りますか。
（○はいくつでも）

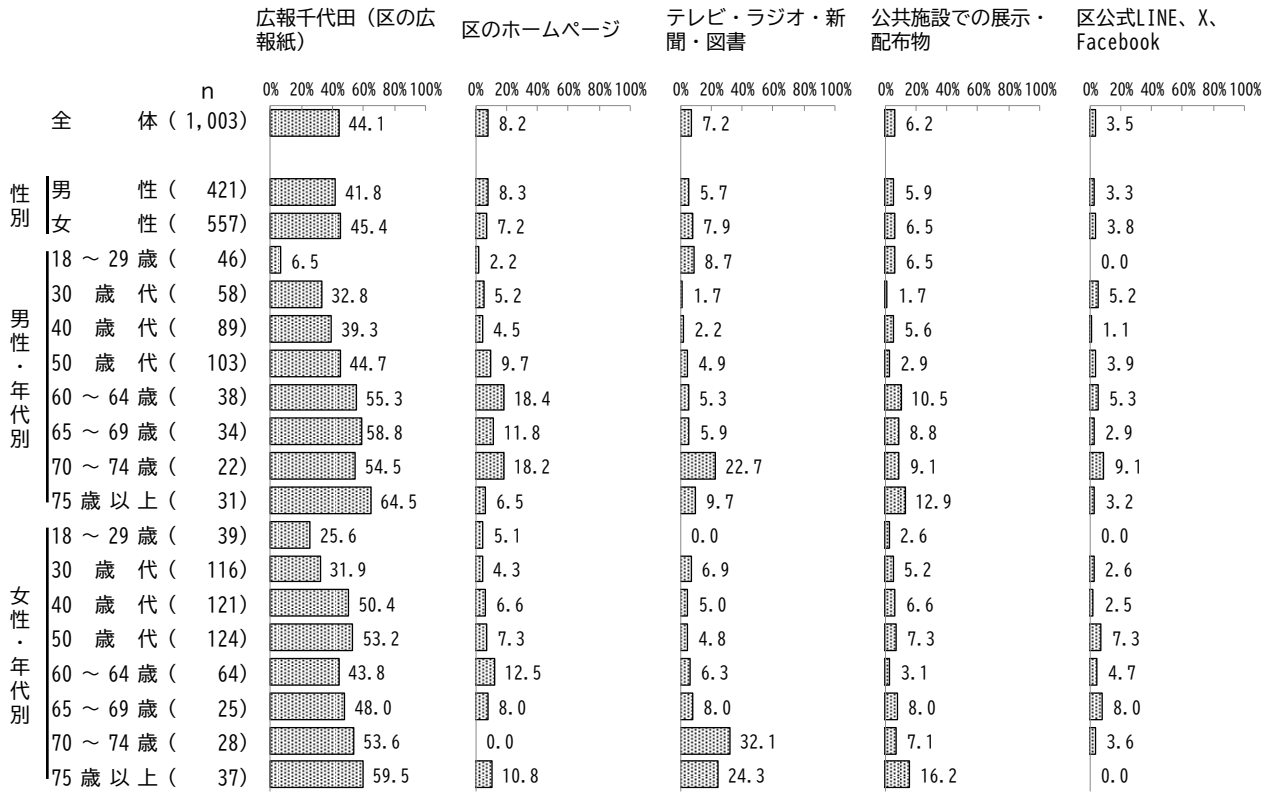
図18－４－１　区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体



区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体について聞いたところ、「広報千代田（区の広報紙）」(44.1%)が４割台半ば近くと最も高くなっている。(図18－４－１)

性・年代別にみると、「広報千代田（区の広報紙）」は男性75歳以上(64.5%)が６割台半ば近くと最も高くなっている。「テレビ・ラジオ・新聞・図書」は女性70～74歳(32.1%)が３割強と最も高くなっている。(図18－４－２)

図18－４－２ 区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体（性・年代別）



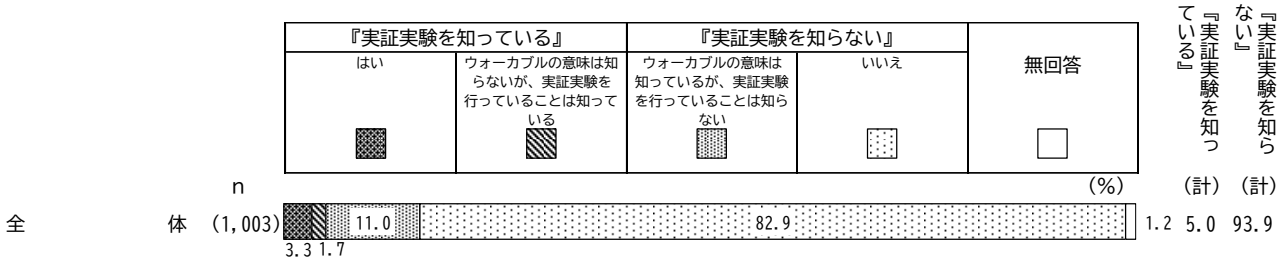
19. ウォーカブルやエリアマネジメント団体の取り組み

（１）ウォーカブルという言葉とウォーカブル事業の実証実験の認知度

◇「いいえ」が８割強

問52　令和４年度からウォーカブル事業の推進として実証実験等を行っていますが、ウォーカブルという言葉や実証実験の実施について知っていますか。（○は１つ）

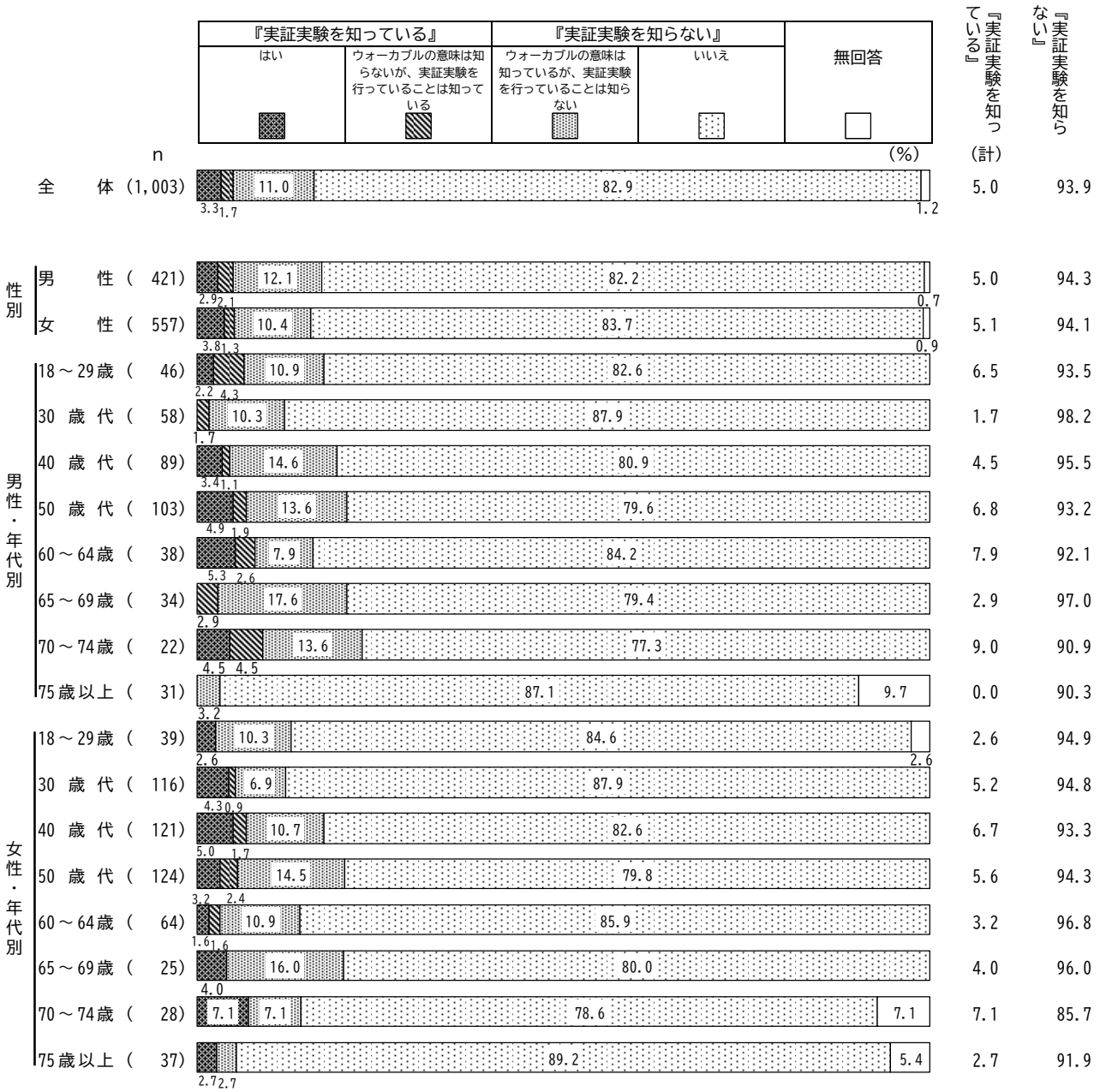
図19－１－１　ウォーカブルという言葉とウォーカブル事業の実証実験の認知度



ウォーカブルという言葉とウォーカブル事業の実証実験の認知度について聞いたところ、「いいえ」(82.9%)が８割強と最も高くなっており、「ウォーカブルの意味は知っているが、実証実験を行っていることは知らない」(11.0%)と合わせた『実証実験を知らない』(93.9%)が９割台半ば近くとなっている。一方で、「はい」(3.3%)と「ウォーカブルの意味は知らないが、実証実験を行っていることは知っている」(1.7%)とを合わせた『実証実験を知っている』(5.0%)が１割未満となっている。(図19－１－１)

性・年代別にみると、「ウォーカブルの意味は知っているが、実証実験を行っていることは知らない」は男性65～69歳(17.6%)が１割台半ば超えと最も高くなっている。「いいえ」は女性75歳以上(89.2%)が９割弱と最も高くなっている。(図19－１－２)

図19－１－２ ウォーカブルという言葉とウォーカブル事業の実証実験の認知度（性・年代別）

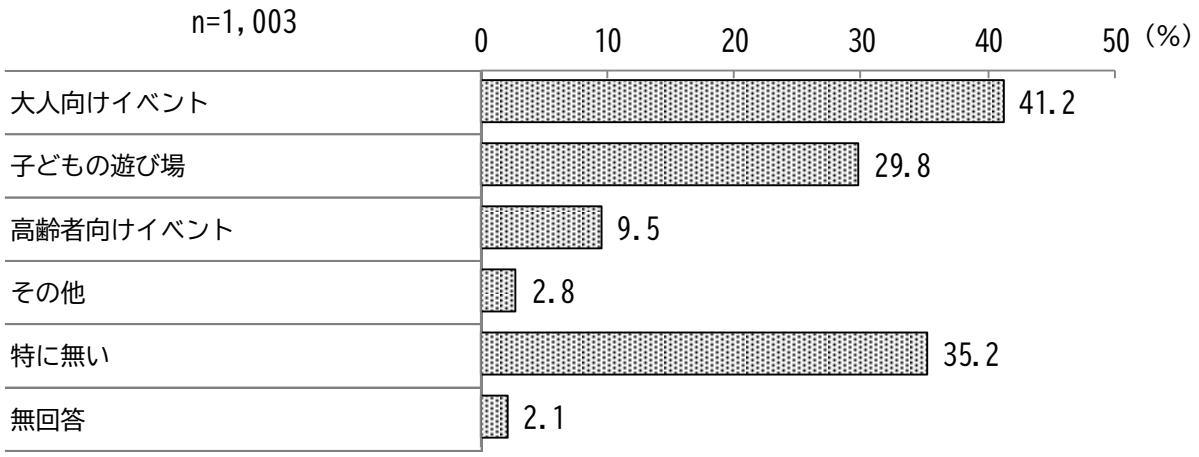


（２）公共空間で行われるイベントで期待するもの

◇「大人向けイベント」が４割強

問53　公共空間（道路や公園など）で行われるイベントについて、どのようなものが行われると参加したいですか。（○はいくつでも）

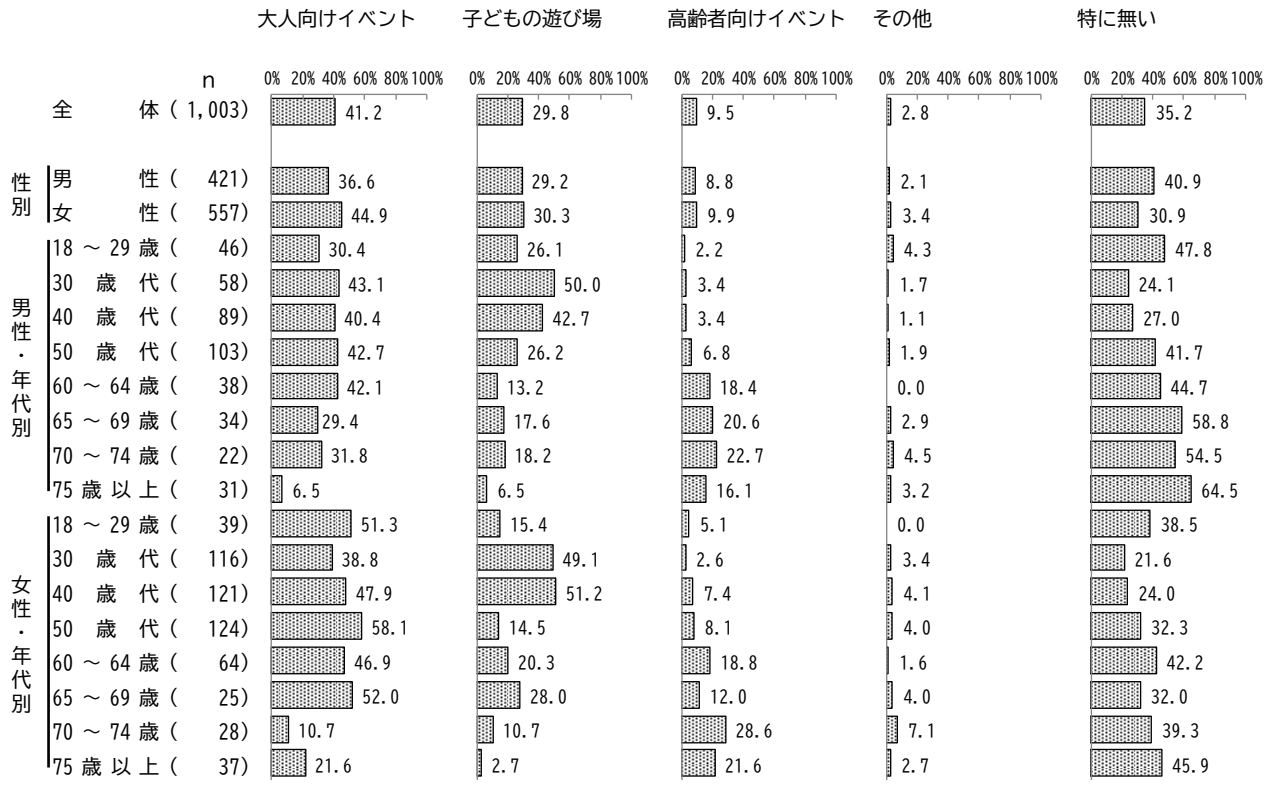
図19－２－１　公共空間で行われるイベントで期待するもの



公共空間で行われるイベントで期待するものについて聞いたところ、「大人向けイベント」(41.2%)が４割強と最も高く、次いで「特に無い」(35.2%)が３割台半ば、「子どもの遊び場」(29.8%)が３割弱と高くなっている。(図19－２－１)

性・年代別にみると、「子どもの遊び場」は女性40歳代(51.2%)が５割強と最も高くなっており、次いで男性30歳代(50.0%)で５割と高くなっている。(図19－２－２)

図19－２－２ 公共空間で行われるイベントで期待するもの（性・年代別）

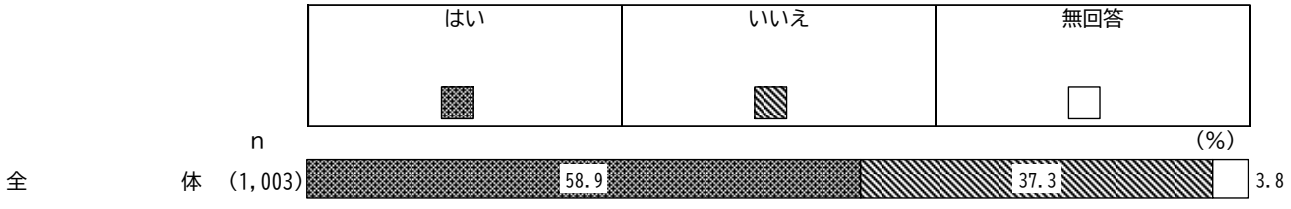


（３）地域とエリアマネジメント団体とが協力できる場への期待

◇「はい」が６割近く

問54　区民や町会などの集まりがイベントに参加または企画したい場合に、イベント企画やサポートする団体（以下、エリアマネジメント団体と表記）と協力してできるような場があると良いと思いますか。（○は１つ）

図19－３－１　地域とエリアマネジメント団体とが協力できる場への期待

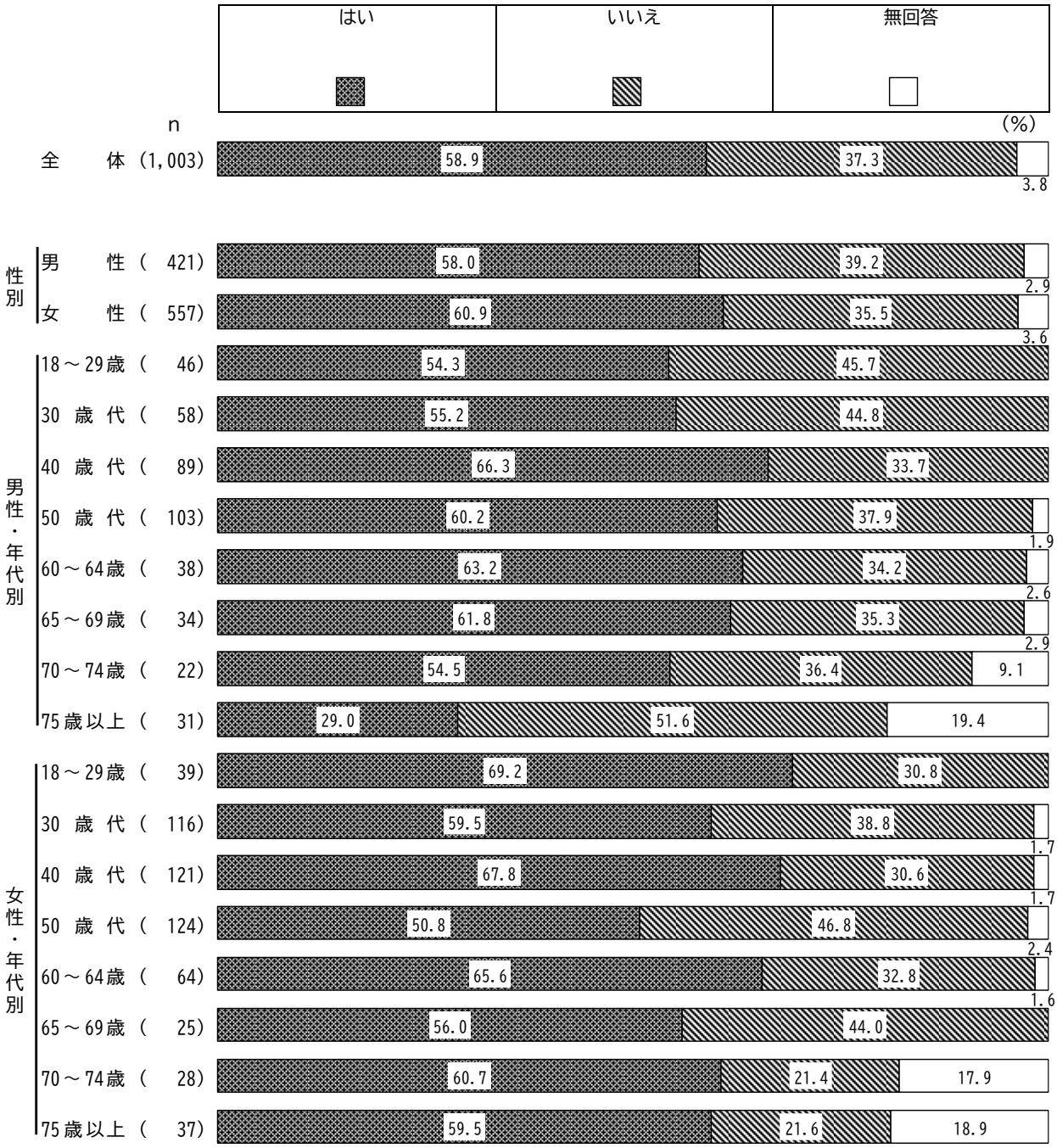


地域とエリアマネジメント団体とが協力できる場への期待について聞いたところ、「はい」(58.9%)が６割近くと高く、一方で、「いいえ」(37.3%)が３割台半ば超えとなっている。(図19－３－１)

性・年代別にみると、「はい」は女性18～29歳(69.2%)が７割弱と最も高くなっている。一方で、「いいえ」は男性75歳以上(51.6%)が５割強と最も高くなっている。

（図19－３－２）

図19－３－２ 地域とエリアマネジメント団体とが協力できる場への期待（性・年代別）



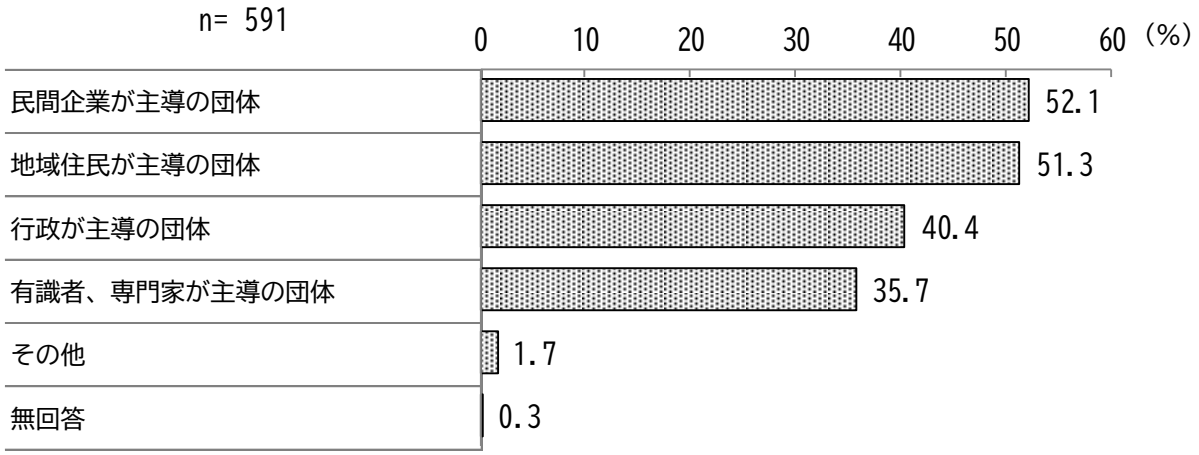
（４）協働したいエリアマネジメント団体

◇「民間企業が主導の団体」が５割強

（問54で「１.はい」とお答えの方に）

問54－１　どのようなエリアマネジメント団体と協力してイベントを実施したいですか。
（○はいくつでも）

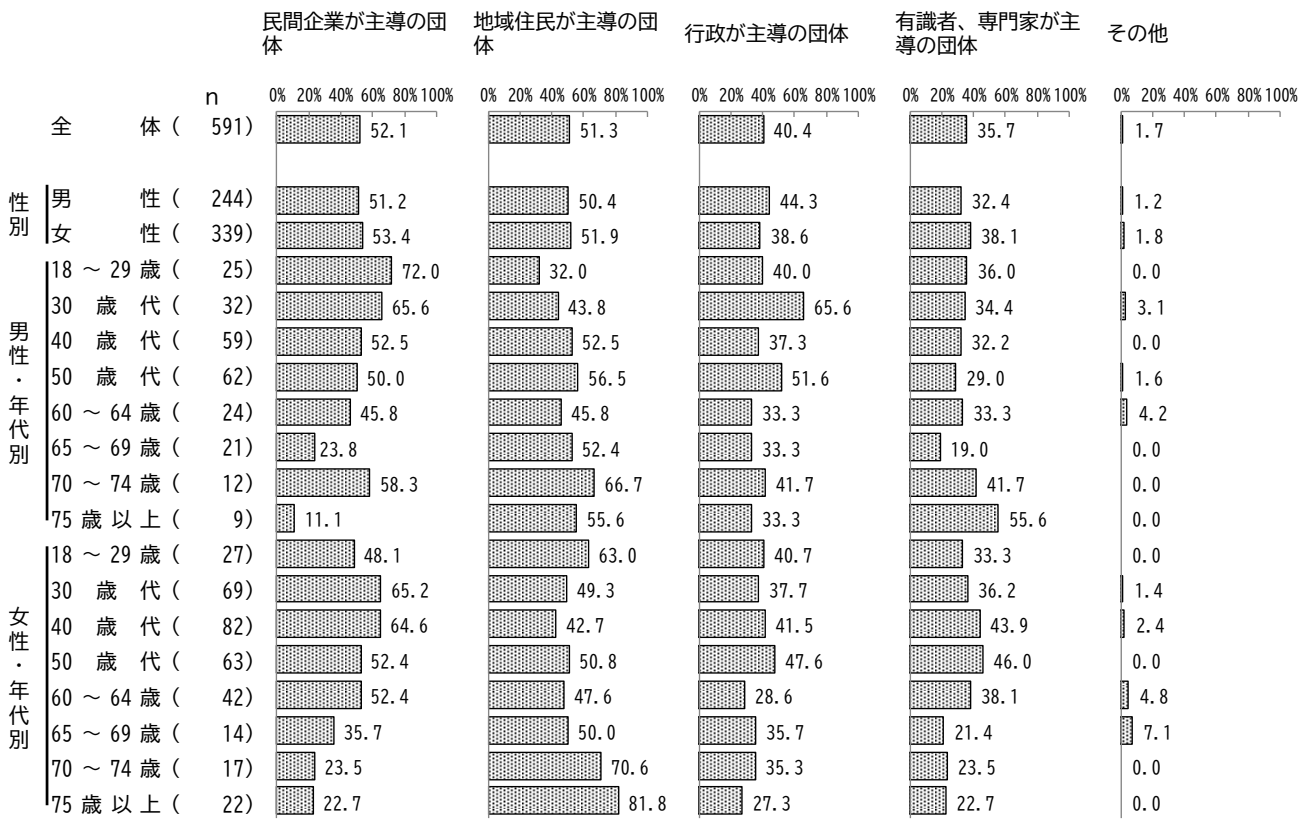
図19－４－１　協働したいエリアマネジメント団体



協働したいエリアマネジメント団体について聞いたところ、「民間企業が主導の団体」(52.1%)が５割強と最も高く、次いで「地域住民が主導の団体」(51.3%)が５割強、「行政が主導の団体」(40.4%)が約４割、「有識者、専門家が主導の団体」(35.7%)が３割台半ばと高くなっている。(図19－４－１)

性・年代別にみると、「地域住民が主導の団体」は女性75歳以上(81.8%)が８割強と最も高くなっている。「行政が主導の団体」は男性30歳代(65.6%)が６割台半ばと最も高くなっている。(図19－４－２)

図19－４－２ 協働したいエリアマネジメント団体（性・年代別）



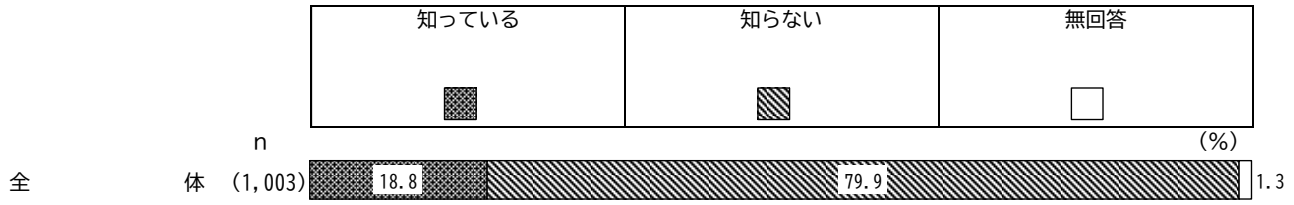
20. 川に架かる橋およびその周辺の有効活用

（１）震災復興橋梁の認知度

◇「知らない」が８割弱

問55　区が管理している橋の多くは、関東大震災の復興で架けられ、まもなく約100年になります。区の橋の多くが関東大震災の復興で架けられた橋であることを知っていますか。（○は１つ）

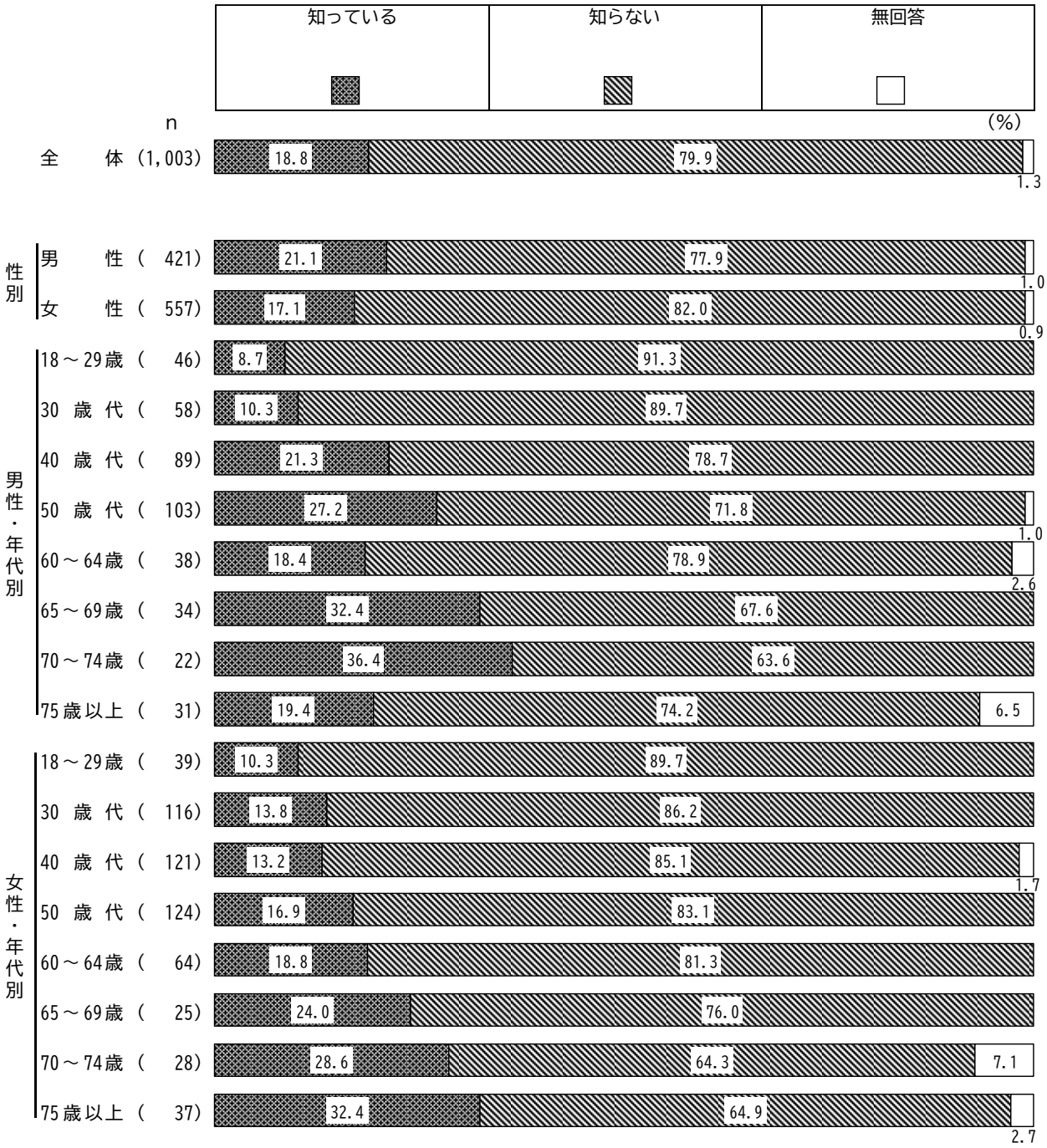
図20－１－１　震災復興橋梁の認知度



震災復興橋梁の認知度について聞いたところ、「知らない」(79.9%)が８割弱と高くなっている。（図20－１－１）

性・年代別にみると、「知っている」は男性65～69歳(32.4%)、女性75歳以上(32.4%)が３割強と高くなっている。一方で、「知らない」は男性18～29歳(91.3%)が９割強と最も高くなっている。(図20－１－２)

図20－１－２ 震災復興橋梁の認知度（性・年代別）

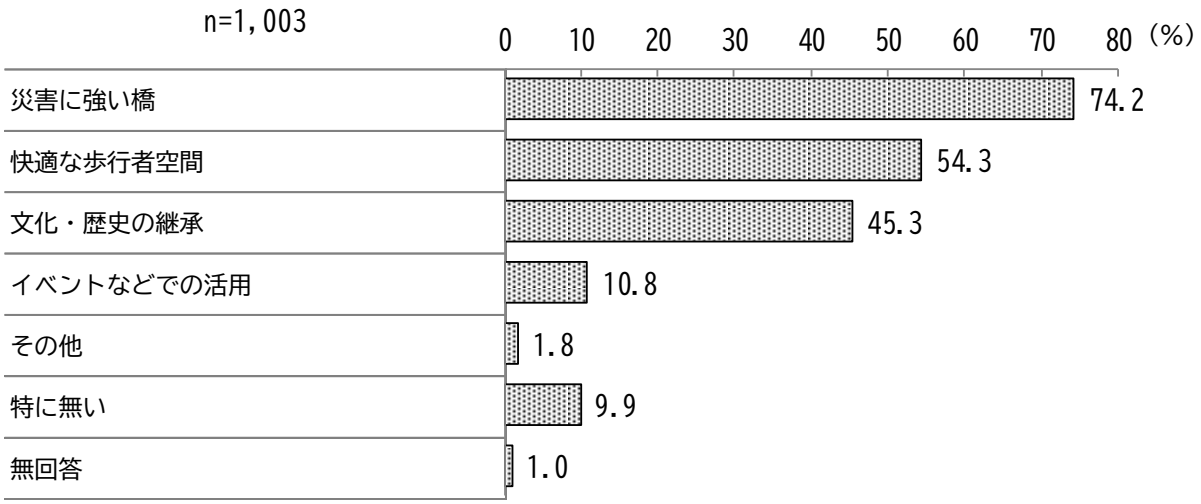


（２）橋への期待

◇「災害に強い橋」が７割台半ば近く

問56　川沿いの橋について横断する目的以外に期待することなどはありますか。
（○はいくつでも）

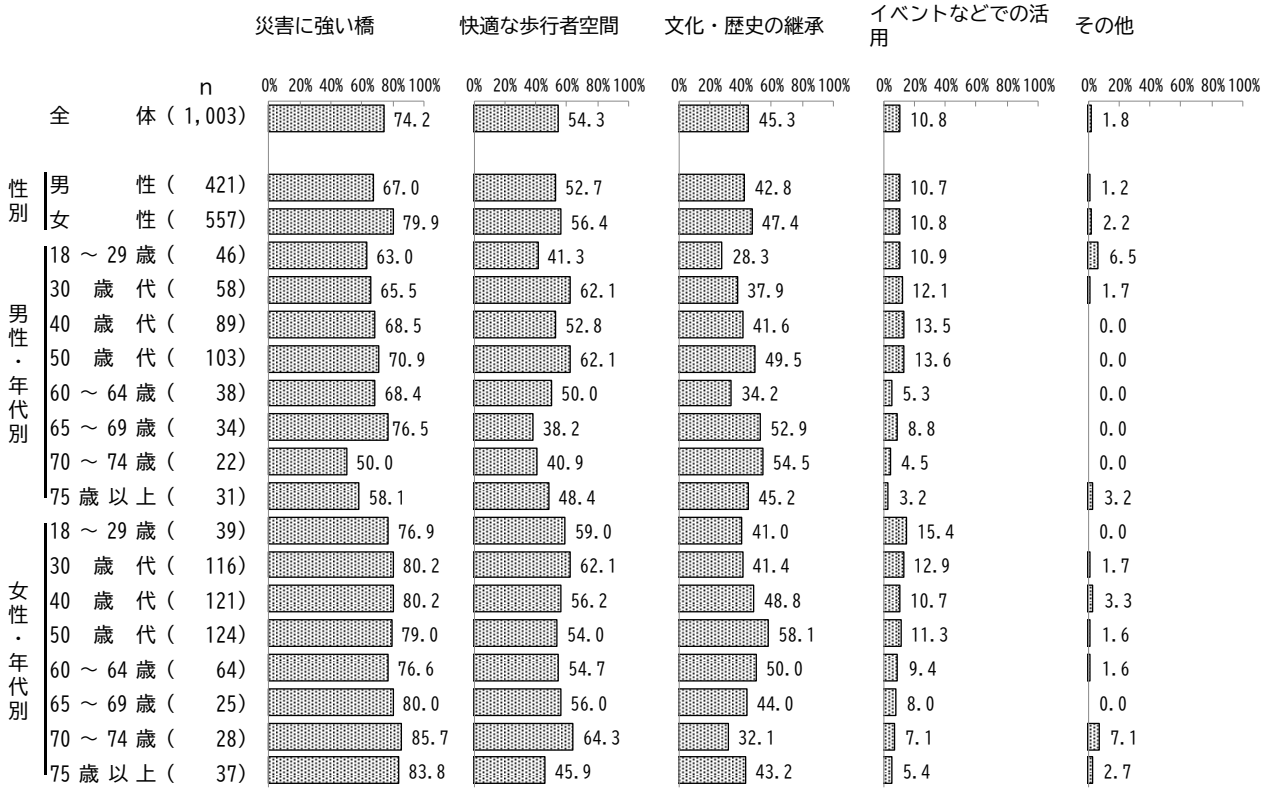
図20－２－１　橋への期待

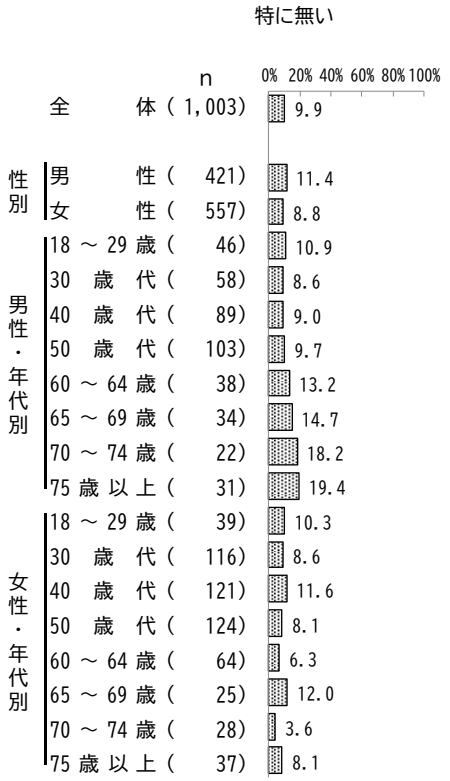


橋への期待について聞いたところ、「災害に強い橋」(74.2%)が７割台半ば近くと最も高く、次いで「快適な歩行者空間」(54.3%)が５割台半ば近く、「文化・歴史の継承」(45.3%)が４割台半ばと高くなっている。(図20－２－１)

性・年代別にみると、「災害に強い橋」は女性70～74歳(85.7%)が８割台半ばと最も高くなっている。「文化・歴史の継承」は女性50歳代(58.1%)が６割近くと最も高くなっている。(図20－２－２)

図20－２－２ 橋への期待（性・年代別）



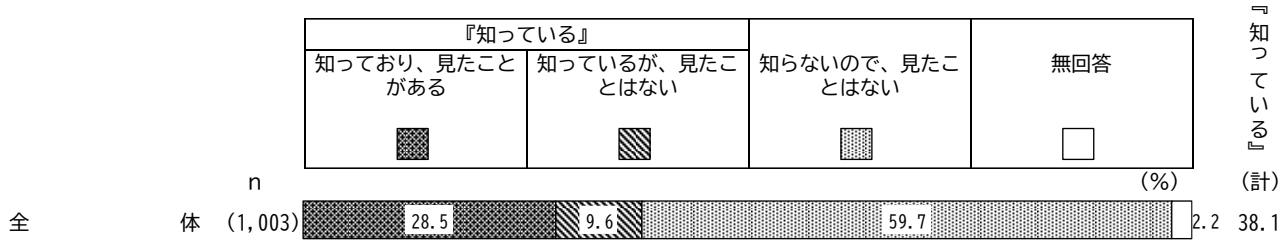


（３）橋をライトアップすることの認知度

◇「知らないので、見たことはない」が６割弱

問57　区では橋をライトアップすることを検討しています。橋をライトアップすることで川沿いの効果的な利活用を図ることができます。こうした取り組みは他の地域でも実施していますが、橋とその周辺のライトアップを知っていますか。または、見たことはありますか。（○は1つ）

図20－３－１　橋をライトアップすることの認知度



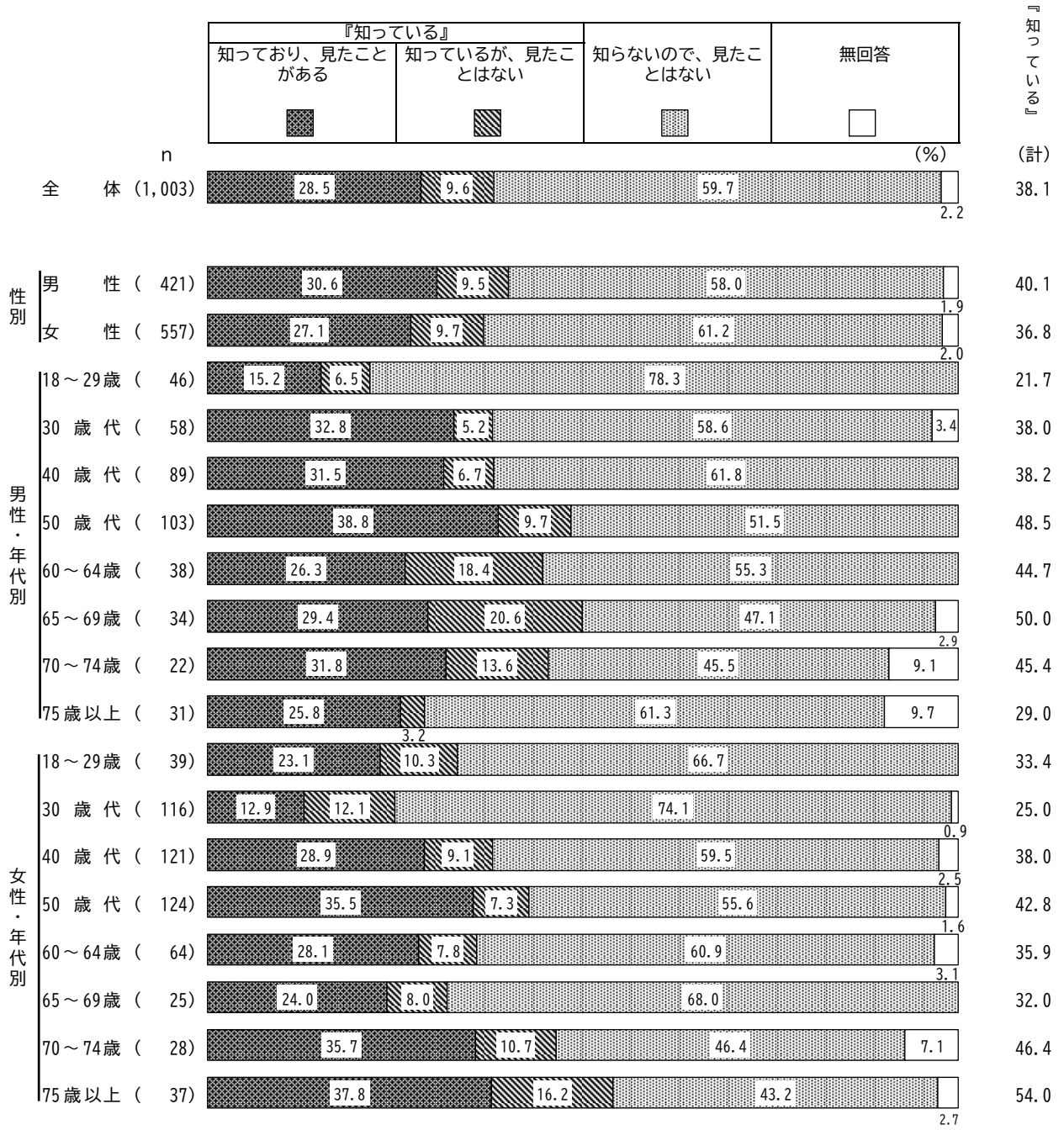
橋をライトアップすることの認知度について聞いたところ、「知らないので、見たことはない」(59.7%)が６割弱と最も高く、「知っており、見たことがある」(28.5%)と「知っているが、見たことはない」(9.6%)を合わせた『知っている』(38.1%)が４割近くとなっている。(図20－３－１)

性・年代別にみると、「知っており、見たことがある」は男性50歳代(38.8%)が４割近くと最も高くなっている。「知っているが、見たことはない」は男性65～69歳(20.6%)で約２割と最も高くなっている。「知っており、見たことがある」と「知っているが、見たことはない」を合わせた『知っている』は女性75歳以上(54.0%)が５割台半ば近くと最も高く、次いで男性65～69歳(50.0%)が５割、男性50歳代(48.5%)が５割近くと高くなっている。

一方で、「知らないので、見たことはない」は男性18～29歳(78.3%)が８割近くと最も高くなっており、次いで女性30歳代(74.1%)が７割台半ば近くと高くなっている。

(図20－３－２)

図20－３－２ 橋をライトアップすることの認知度（性・年代別）



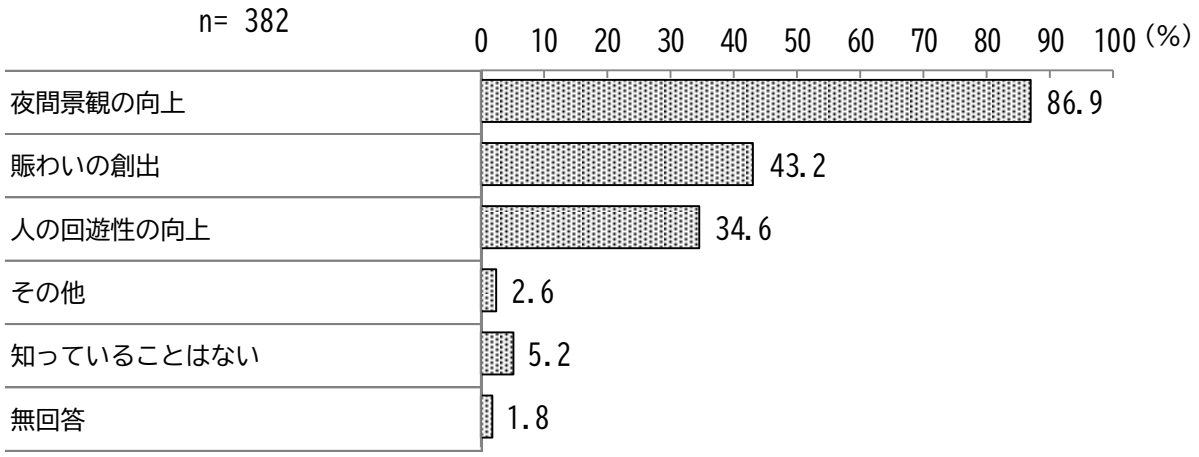
（３－1）橋のライトアップに関する知識

◇「夜間景観の向上」が８割台半ば超え

（問57で「１.知っており、見たことがある」か「２.知っているが、見たことはない」とお答えの方に）

問57－１　橋のライトアップの効果について知っていることはありますか。
（○はいくつでも）

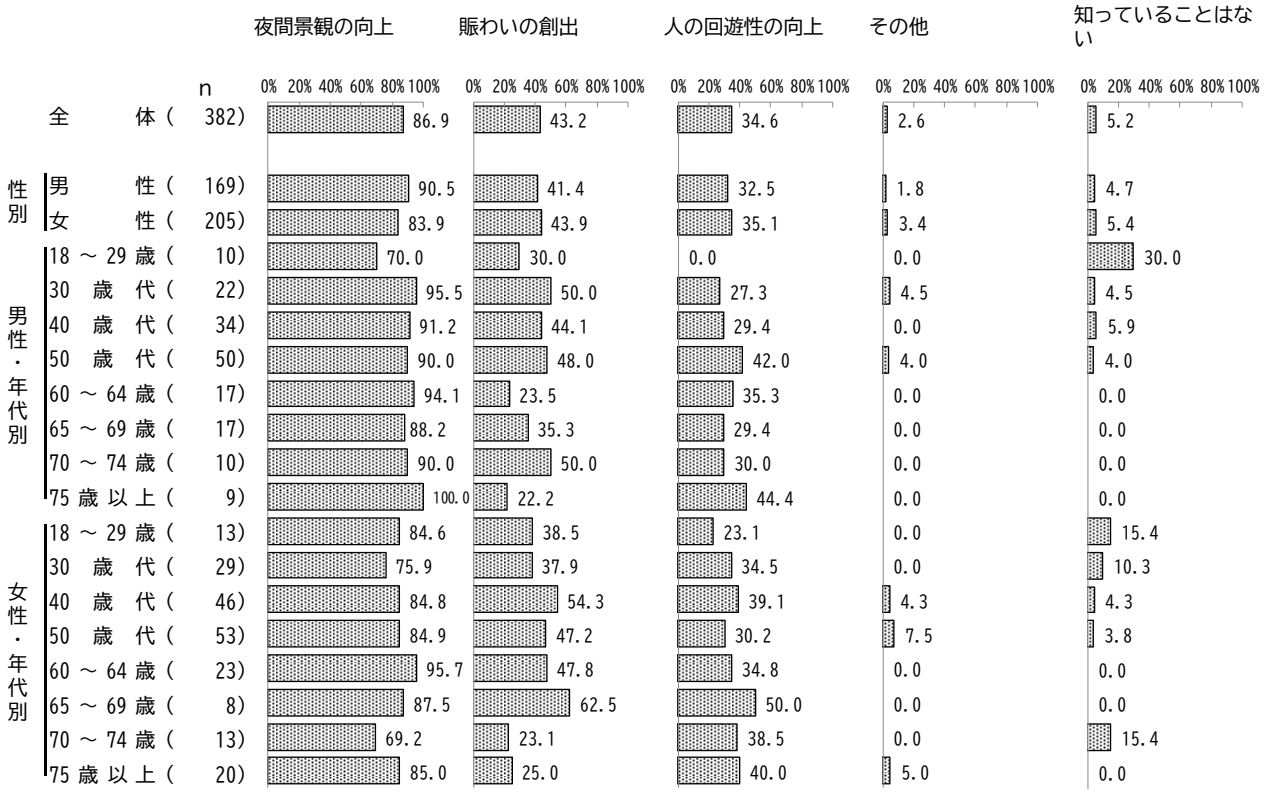
図20－３－３ 橋のライトアップの認知度



橋のライトアップに関する知識について聞いたところ、「夜間景観の向上」(86.9%)が８割台半ば超えと最も高く、次いで「賑わいの創出」(43.2%)が４割台半ば近く、「人の回遊性の向上」(34.6%)が３割台半ば近くと高くなっている。(図20－３－３)

性・年代別にみると、「賑わいの創出」は女性40歳代(54.3%)で５割台半ば近くと高くなっている。(図20－３－４)

図20－３－４ 橋のライトアップの認知度（性・年代別）

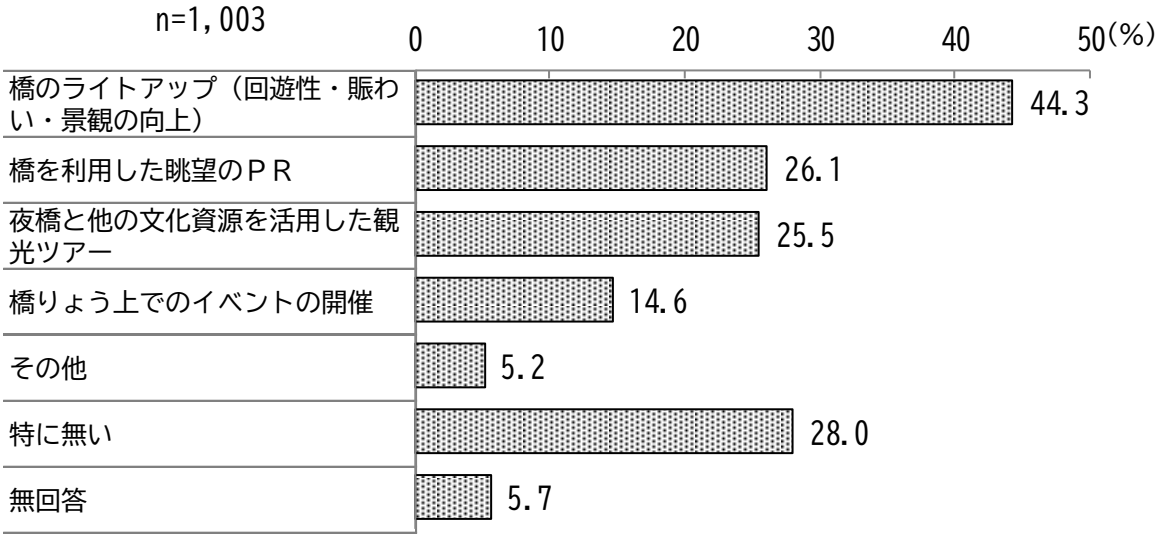


（４）橋の活用のために必要な取り組み

◇「橋のライトアップ（回遊性・賑わい・景観の向上）」が４割台半ば近く

問58　橋の活用のためにどのような取り組みが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

図20－４－１　橋のライトアップの認知度

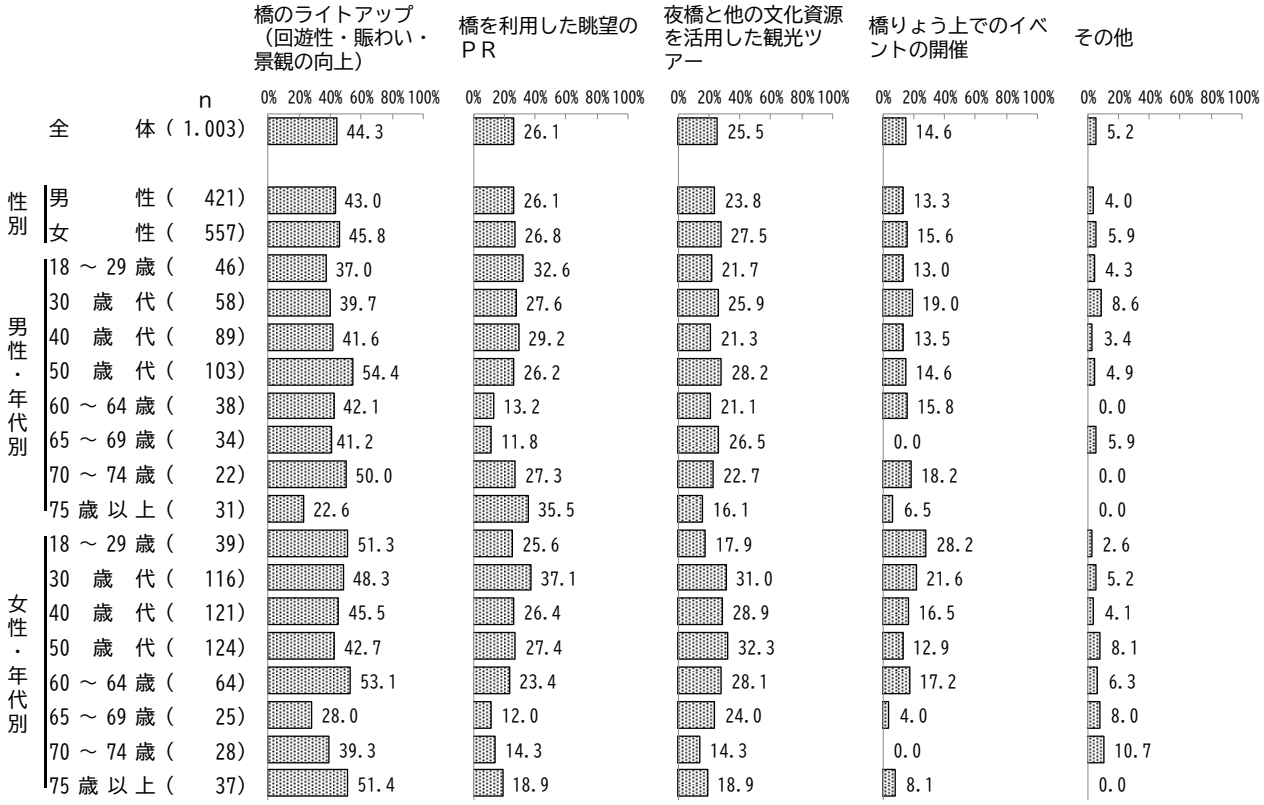


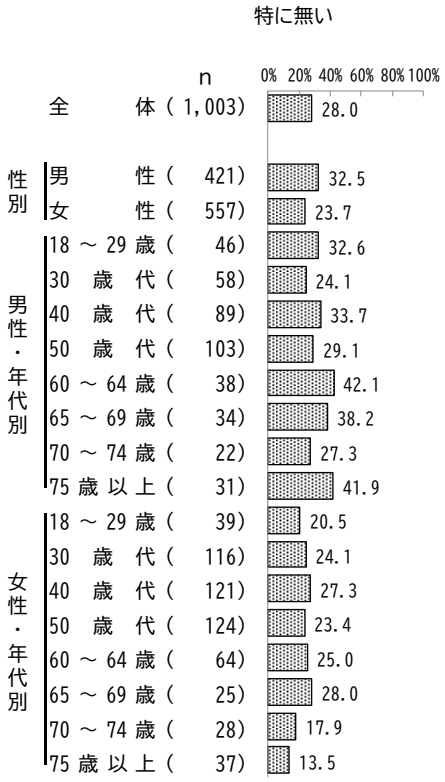
橋の活用のために必要な取り組みについて聞いたところ、「橋のライトアップ（回遊性・賑わい・景観の向上）」(44.3%)が４割台半ば近くと最も高く、次いで「特に無い」(28.0%)が３割近く、「橋を利用した眺望のＰＲ」(26.1%)が２割台半ば超え、「夜橋と他の文化資源を活用した観光ツアー」(25.5%)が２割台半ばと高くなっている。

（図20－４－１）

性・年代別にみると、「橋のライトアップ（回遊性・賑わい・景観の向上）」は男性50歳代(54.4%)が５割台半ば近くと最も高くなっている。「橋を利用した眺望のＰＲ」は女性30歳代(37.1%)が３割台半ば超えと最も高くなっている。「橋りょう上でのイベントの開催」は女性18～29歳(28.2%)が３割近くと最も高くなっている。（図20－４－２）

図20－４－２ 橋のライトアップの認知度（性・年代別）





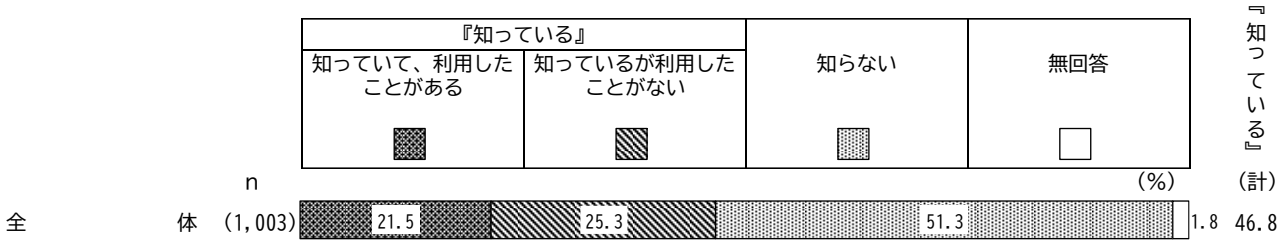
21. ポータルサイトの利用状況

（１）千代田区ポータルサイトの認知度

◇「知らない」が５割強

問59　千代田区ポータルサイトを知っていますか。（○は1つ）

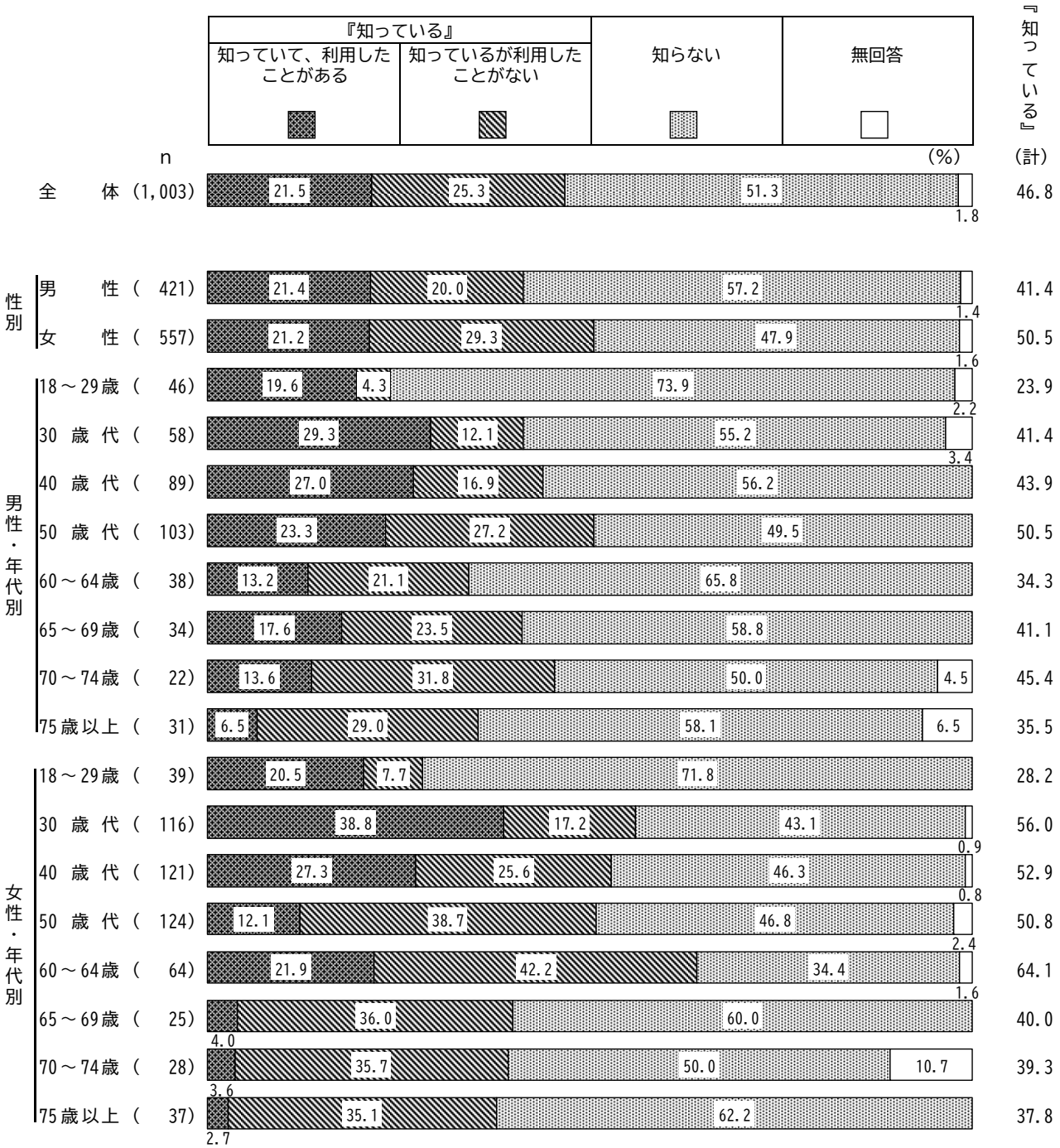
図21－１－１　千代田区ポータルサイトの認知度



千代田区ポータルサイトの認知度について聞いたところ、「知らない」(51.3%)が５割強と最も高くなっている。一方で、「知っているが利用したことがない」(25.3%)と「知っていて、利用したことがある」(21.5%)とを合わせた『知っている』(46.8%)が４割台半ば超えとなっている。（図21－１－１）

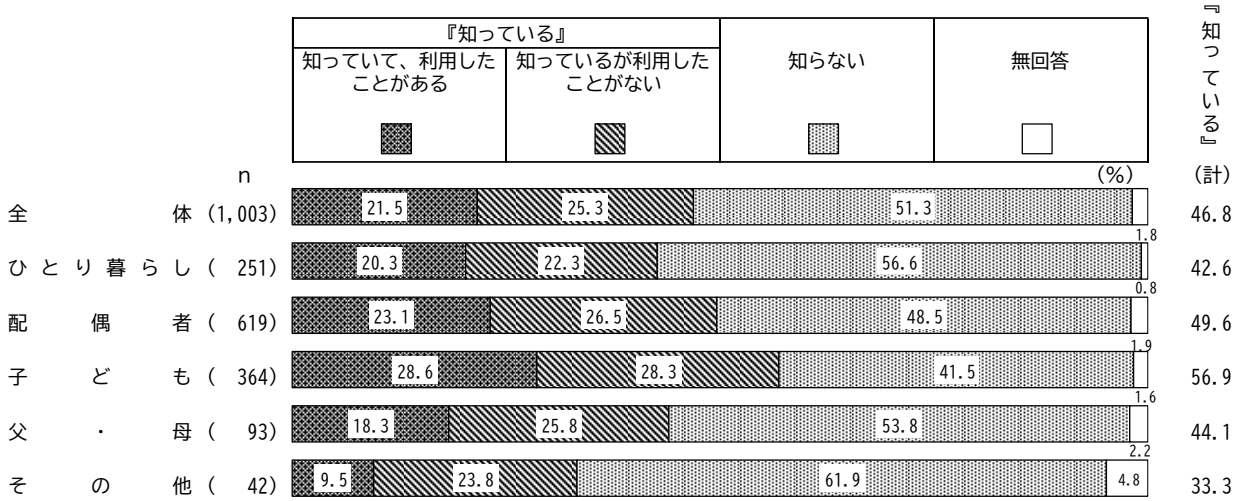
性・年代別にみると、「知らない」は男性18～29歳(73.9%)が７割台半ば近くと最も高くなっており、次いで女性18～29歳(71.8%)が７割強と高くなっている。(図21－１－２)

図21－１－２ 千代田区ポータルサイトの認知度（性・年代別）



世帯構成別にみると、『知っている』は子どもがいる世帯(56.9%)が５割台半ば超えと最も高くなっている。(図21－１－３)

図21－１－３ 千代田区ポータルサイトの認知度（世帯構成別）



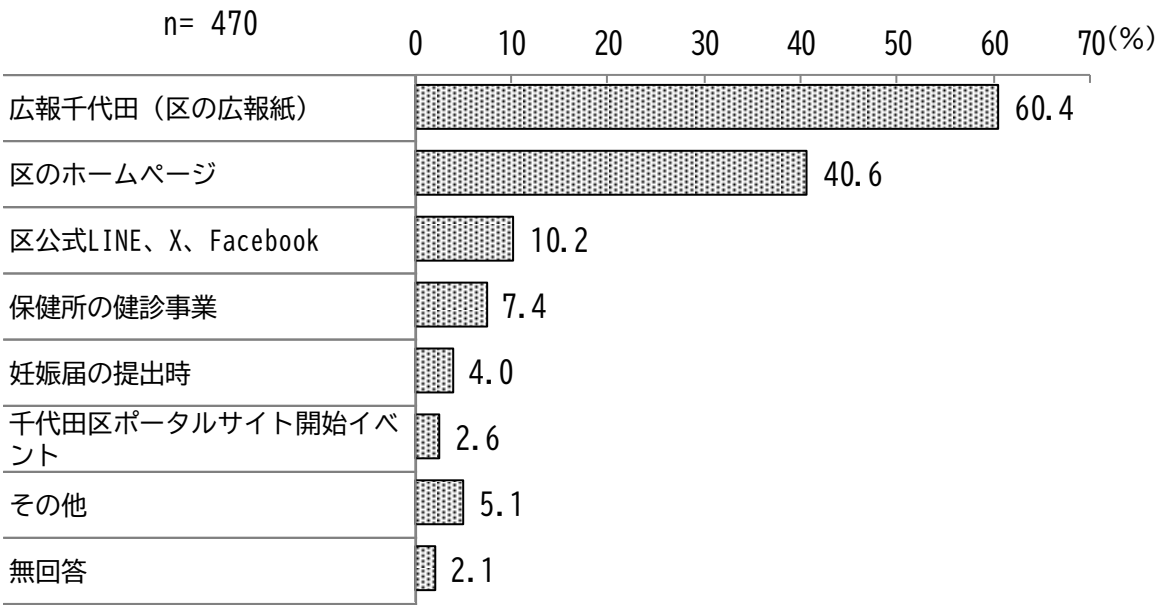
（１－１）千代田区ポータルサイトを知ったきっかけ

◇「広報千代田（区の広報紙）」が約６割

（問59で「１.知っていて、利用したことがある」か「２.知っているが利用したことがない」とお答えの方に）

問59－１　どこで知りましたか。（○はいくつでも）

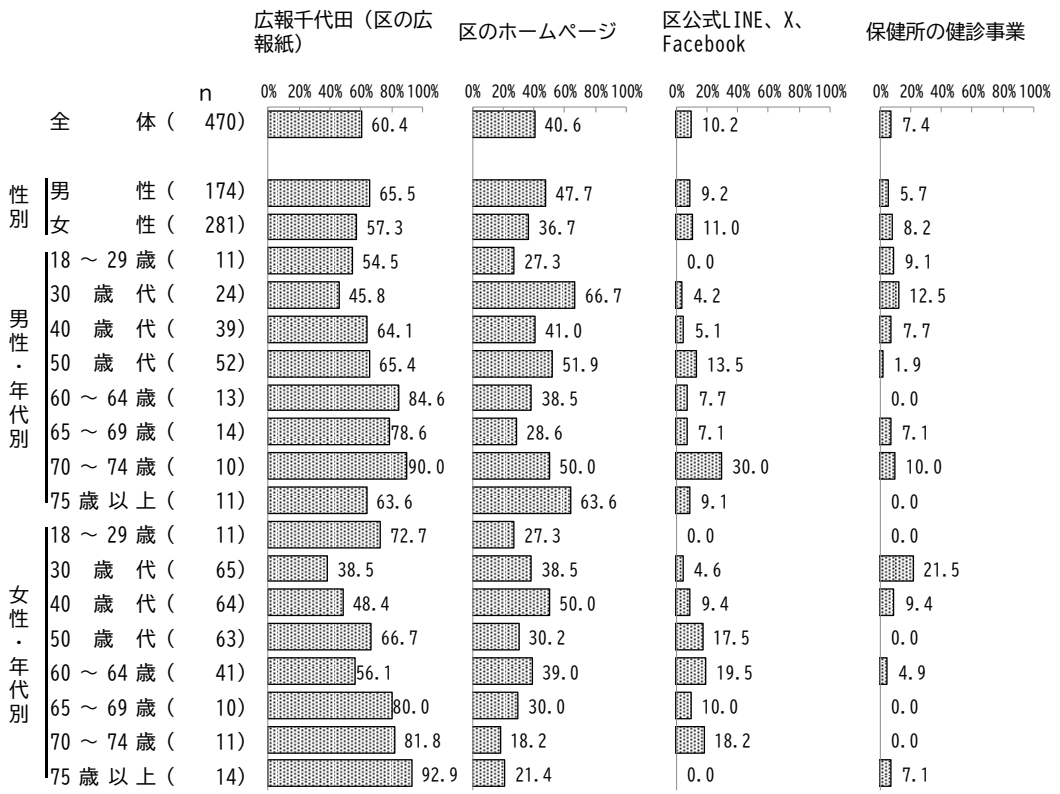
図21－１－４ 千代田区ポータルサイトを知ったきっかけ

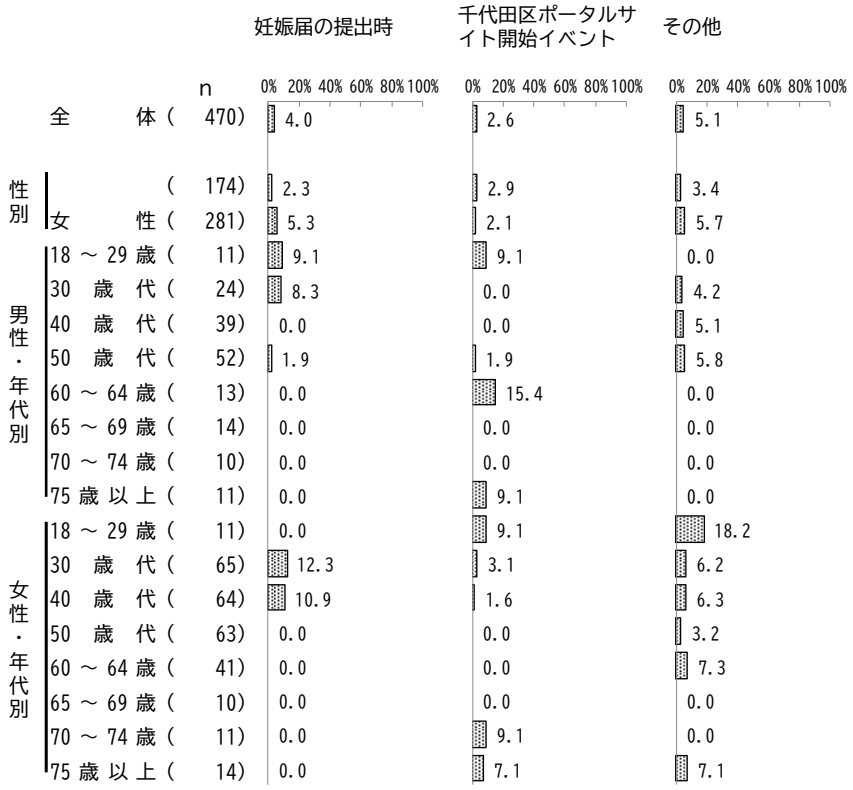


千代田区ポータルサイトを知ったきっかけについて聞いたところ、「広報千代田（区の広報紙）」(60.4%)が約６割と最も高く、次いで「区のホームページ」(40.6%)が約４割と高くなっている。（図21－１－４）

性・年代別にみると、「広報千代田（区の広報紙）」は女性75歳以上(92.9%)が９割強と最も高くなっている。「区のホームページ」は男性50歳代(51.9%)が５割強と高くなっている。(図21－１－５)

図21－１－５ 千代田区ポータルサイトを知ったきっかけ（性・年代別）



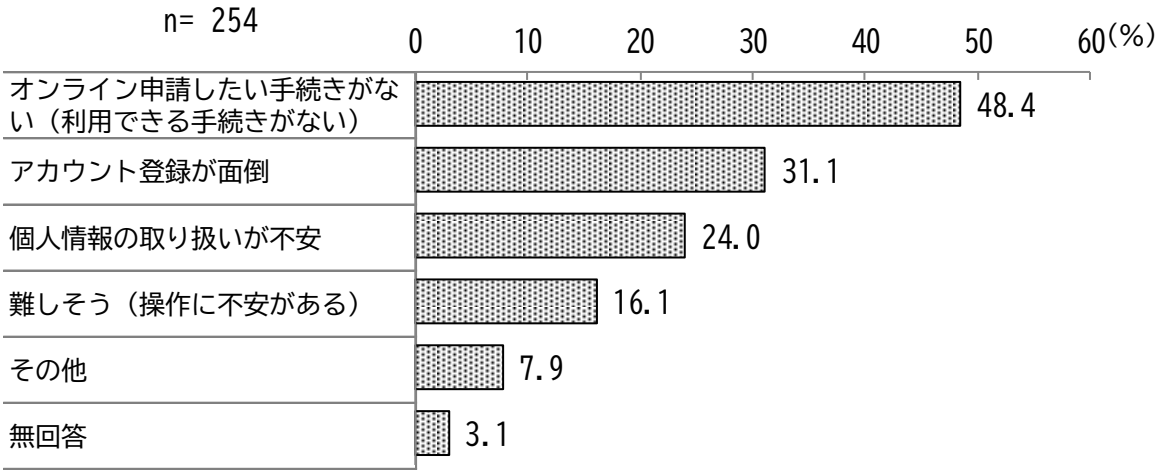


（１－２）千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由

◇「オンライン申請したい手続きがない（利用できる手続きがない）」が５割近く

（問59で「２.知っているが利用したことがない」とお答えの方に）
問59－２　理由を教えてください。

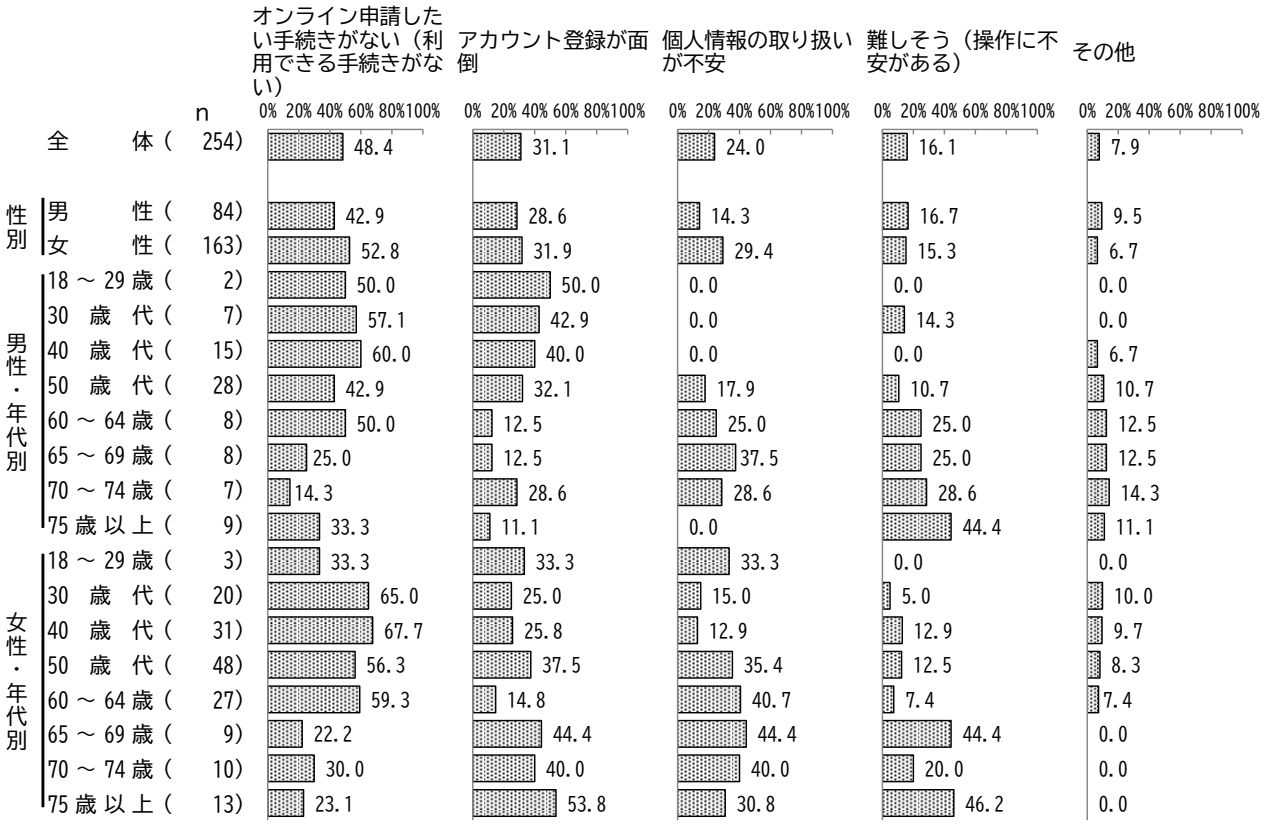
図21－１－６ 千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由



千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由について聞いたところ、「オンライン申請したい手続きがない（利用できる手続きがない）」(48.4%)が５割近くと最も高く、次いで「アカウント登録が面倒」(31.1%)が３割強、「個人情報の取り扱いが不安」(24.0%)が２割台半ば近くと高くなっている。(図21－１－６)

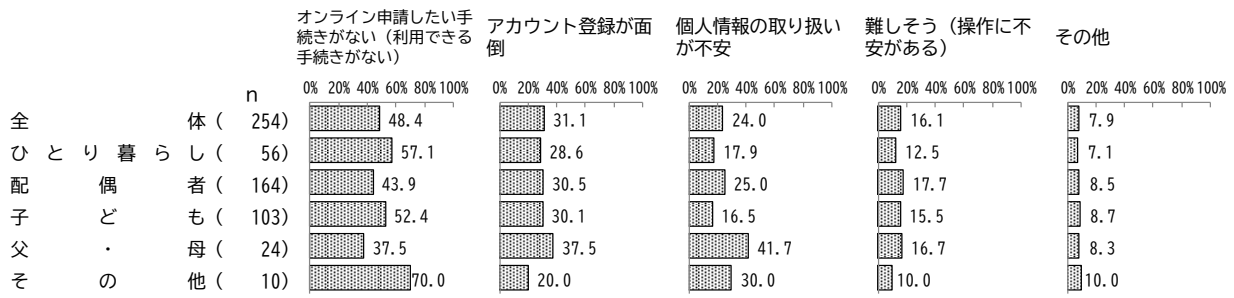
性・年代別にみると、「オンライン申請したい手続きがない(利用できる手続きがない)」は女性40歳代(67.7%)が６割台半ば超えと最も高く、次いで女性60～64歳代(59.3%)が６割弱と高くなっている。(図21－１－７)

図21－１－７ 千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由（性・年代別）



世帯構成別にみると、「個人情報の取り扱いが不安」は父・母がいる世帯(41.7%)が４割強と最も高くなっている。(図21－１－８)

図21－１－８ 千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由（世帯構成別）



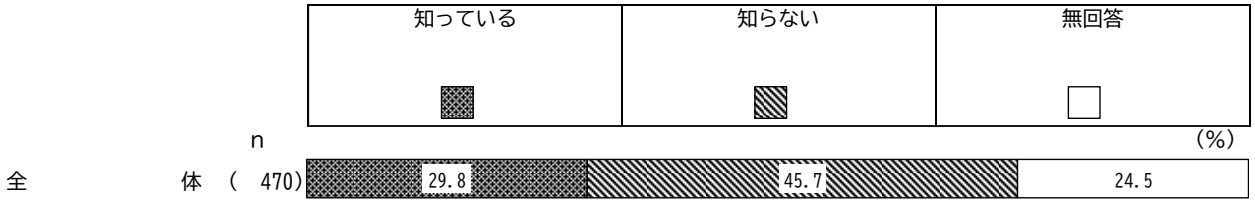
（２）登録すると区から必要な情報がポータル上で届くことの認知度

◇「知らない」が４割台半ば

（問59で「１.知っていて、利用したことがある」か「２.知っているが利用したことがない」とお答えの方に）

問59－３　千代田区ポータルサイトに登録すると、オンライン申請ができるだけではなく、登録したアカウント情報や興味のある分野に基づいて区から必要な情報がポータル上で届くことを知っていますか。（○は1つ）

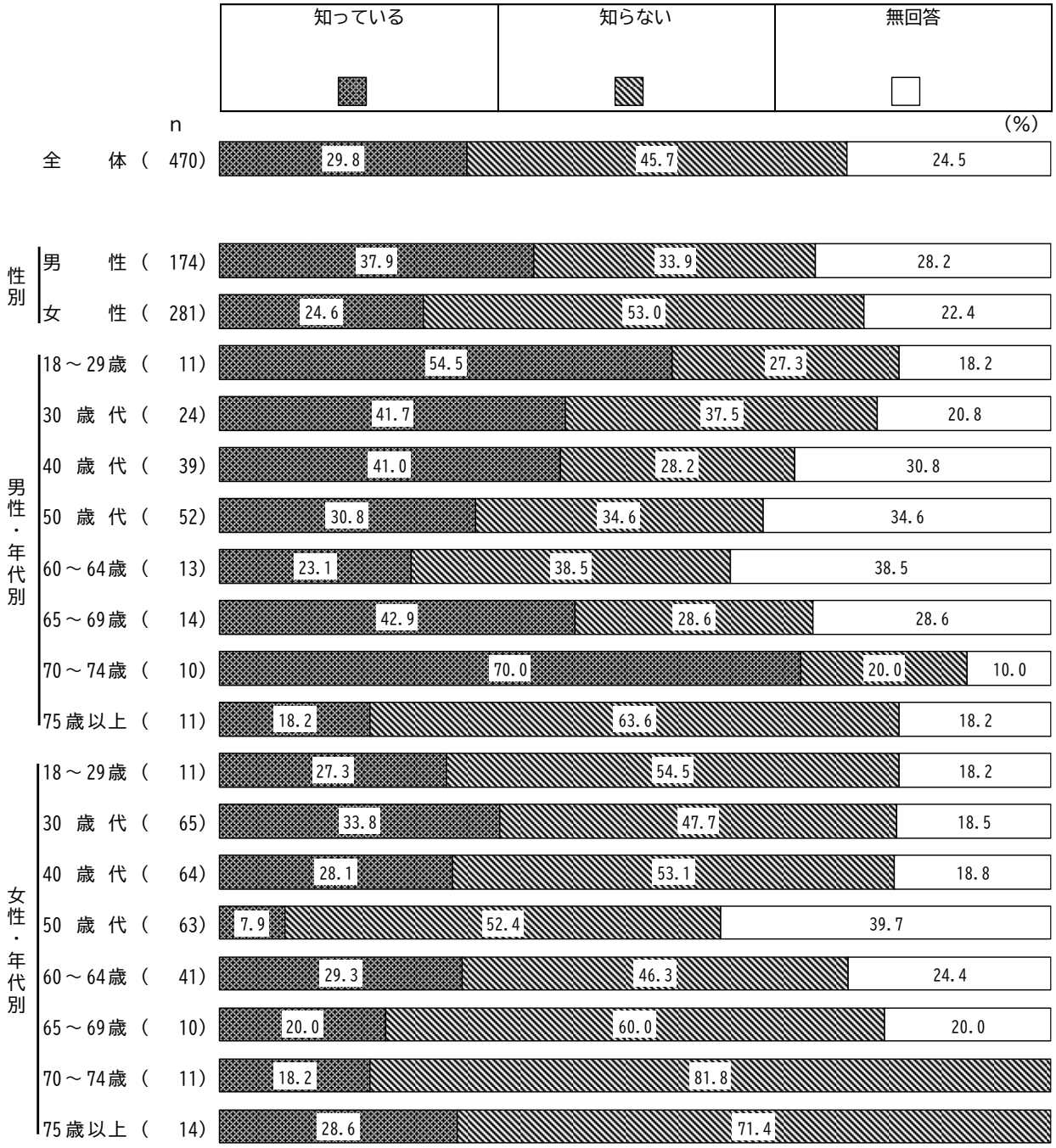
図21－２－１　登録すると区から必要な情報がポータル上で届くことの認知度



登録すると区から必要な情報がポータル上で届くことの認知度について聞いたところ、「知らない」(45.7%)が４割台半ばと高くなっている。一方で、「知っている」(29.8%)が３割弱となっている。（図21－２－１）

性・年代別にみると、「知っている」は男性70～74歳(70.0%)で７割と最も高くなっており、次いで男性18～29歳(54.5%)が５割台半ば近くと高くなっている。一方で、「知らない」は女性70～74歳(81.8%)が８割強と最も高くなっており、次いで女性75歳以上(71.4%)が７割強と高くなっている。(図21－２－２)

図21－２－２ 登録すると区から必要な情報がポータル上で届くことの認知度（性・年代別）



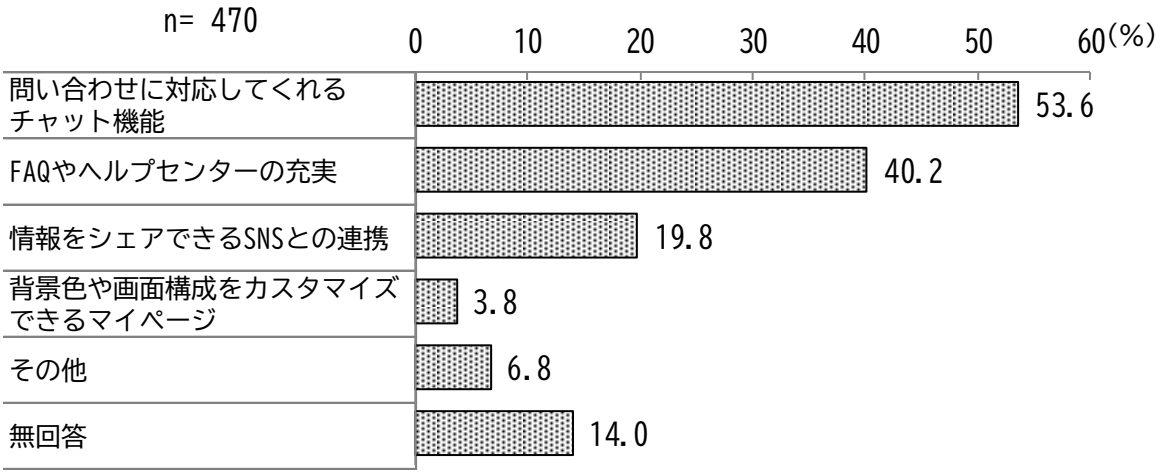
（３）千代田区ポータルサイトに欲しい機能

◇「問い合わせに対応してくれるチャット機能」が５割台半ば近く

（問59で「１.知っていて、利用したことがある」か「２.知っているが利用したことがない」とお答えの方に）

問59－４　千代田区ポータルサイトにあったら良いと思う機能を教えてください。（○はいくつでも）

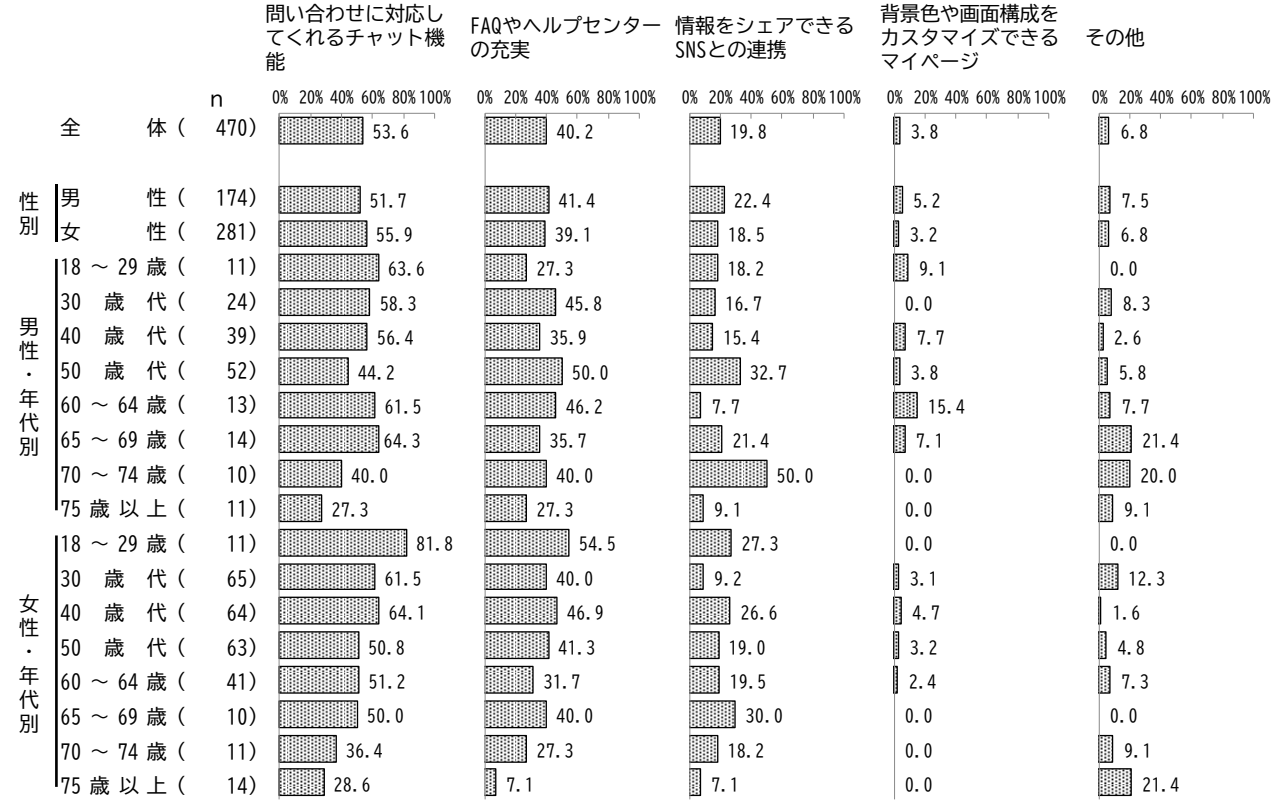
図21－３－１　千代田区ポータルサイトに欲しい機能



千代田区ポータルサイトに欲しい機能について聞いたところ、「問い合わせに対応してくれるチャット機能」(53.6%)が５割台半ば近くと最も高く、次いで「FAQやヘルプセンターの充実」(40.2%)が約４割と高くなっている。(図21－３－１)

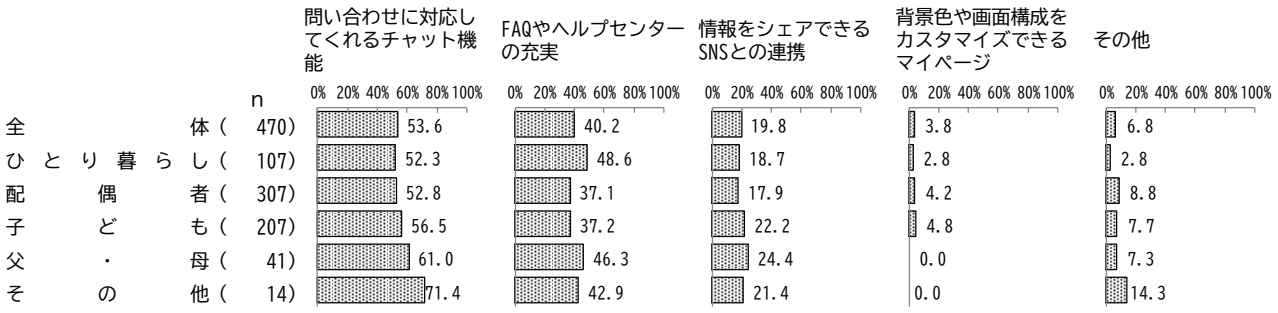
性・年代別にみると、「問い合わせに対応してくれるチャット機能」は女性40歳代(64.1%)が６割台半ば近くと高くなっている。「情報をシェアできるSNSとの連携」は男性50歳代(32.7%)で３割強と高くなっている。(図21－３－２)

図21－３－２ 千代田区ポータルサイトに欲しい機能（性・年代別）



世帯構成別にみると、「FAQやヘルプセンターの充実」はひとり暮らし(48.6%)が５割近くと最も高くなっている。(図21－３－３)

図21－３－３ 千代田区ポータルサイトに欲しい機能（世帯構成別）



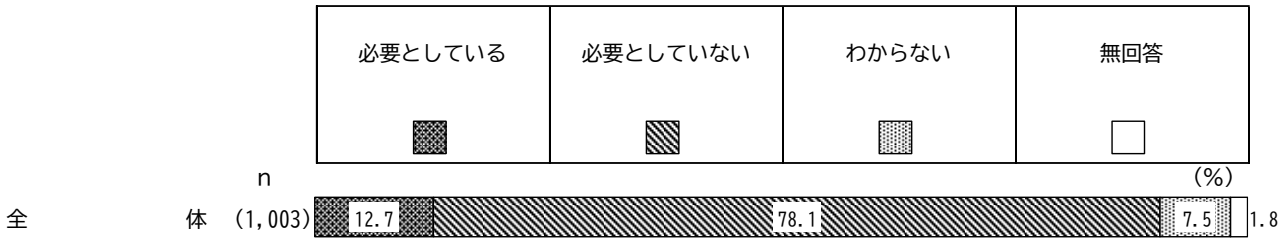
22. デジタル機器の活用状況

（１）デジタル機器の利活用への支援の必要性

◇「必要としていない」が８割近く

問60　スマホ等のデジタル機器の利活用に不安を覚え、支援を必要としていますか。
（○は1つ）

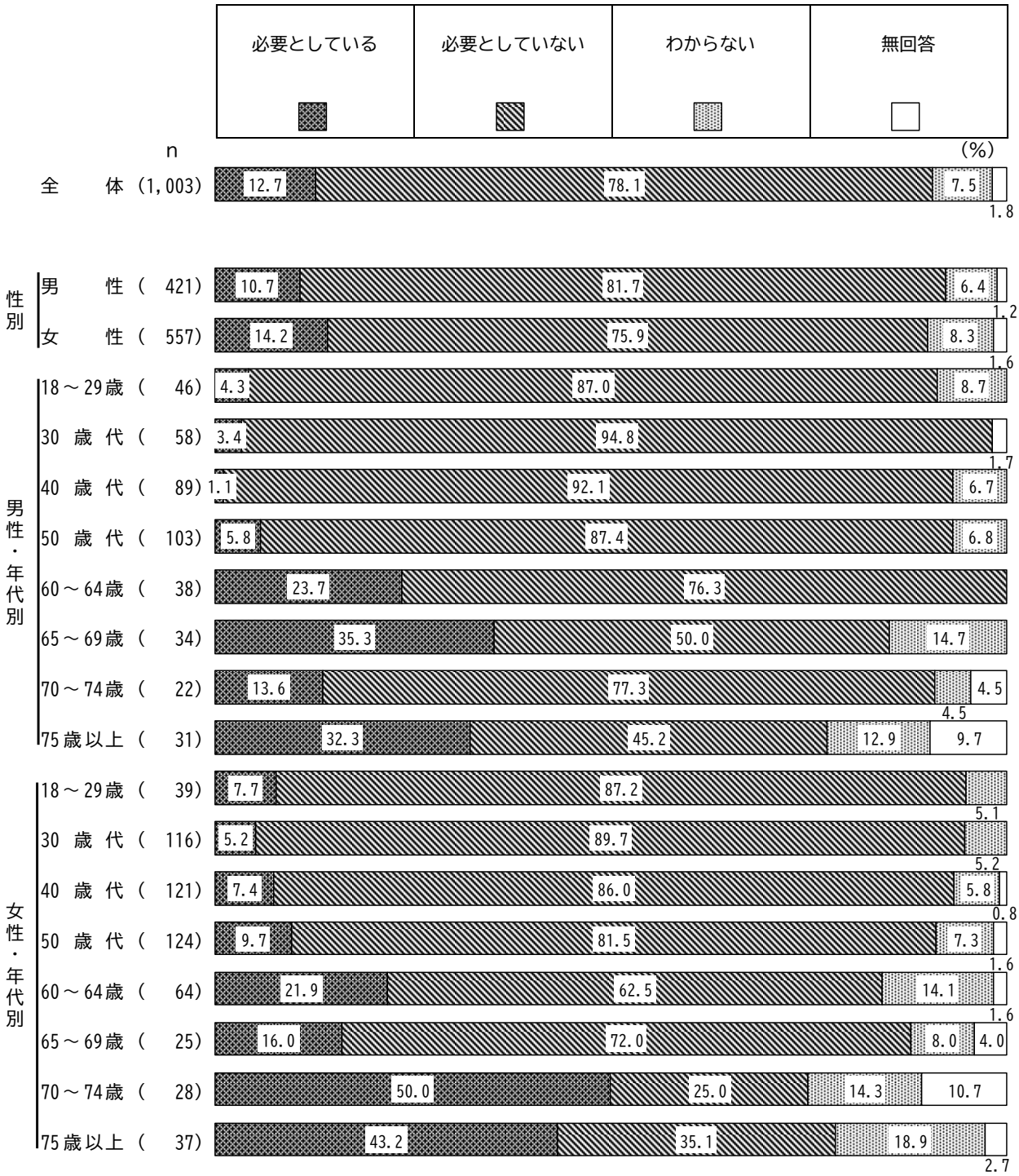
図22－１－１　デジタル機器の利活用への支援の必要性



デジタル機器の利活用への支援の必要性について聞いたところ、「必要としていない」(78.1%)が８割近くと最も高くなっている。(図22－１－１)

性・年代別にみると、「必要としている」は女性70～74歳(50.0%)で５割と最も高くなっており、次いで女性75歳以上(43.2%)が４割台半ば近く、男性65～69歳(35.3%)が３割台半ばと高くなっている。(図22－１－２)

図22－１－２ デジタル機器の利活用への支援の必要性（性・年代別）

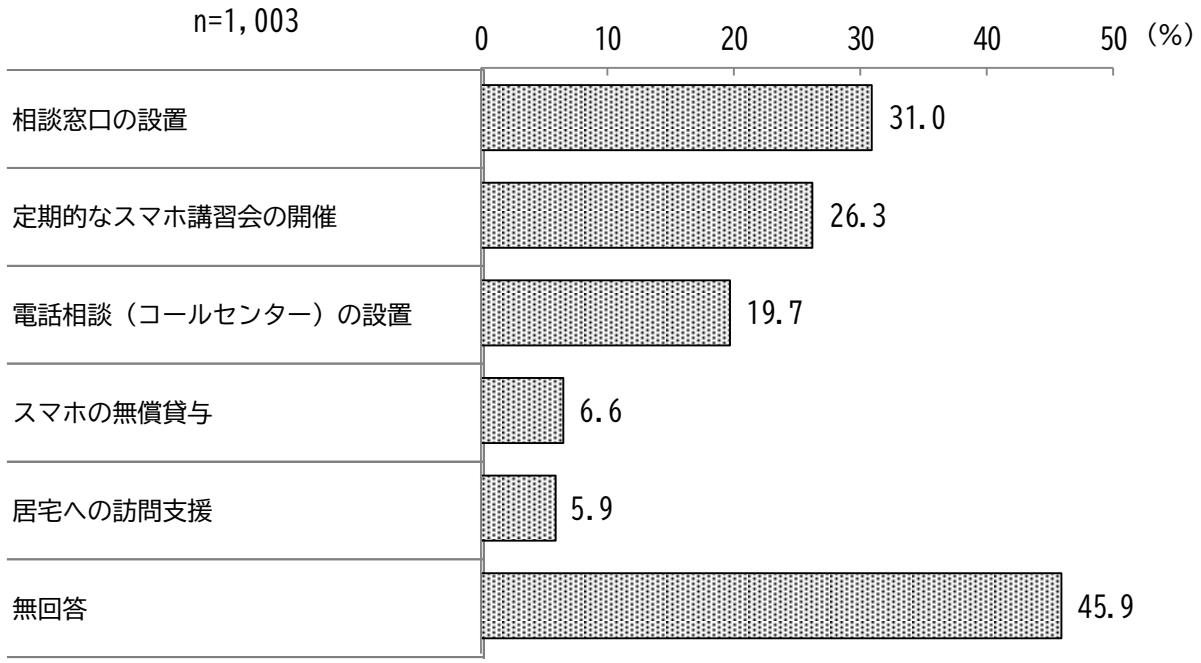


（２）デジタル機器利活用支援について望まれるあり方

◇「相談窓口の設置」が３割強

問61　支援を必要としている場合、どのような支援があると良いですか。
（○はいくつでも）

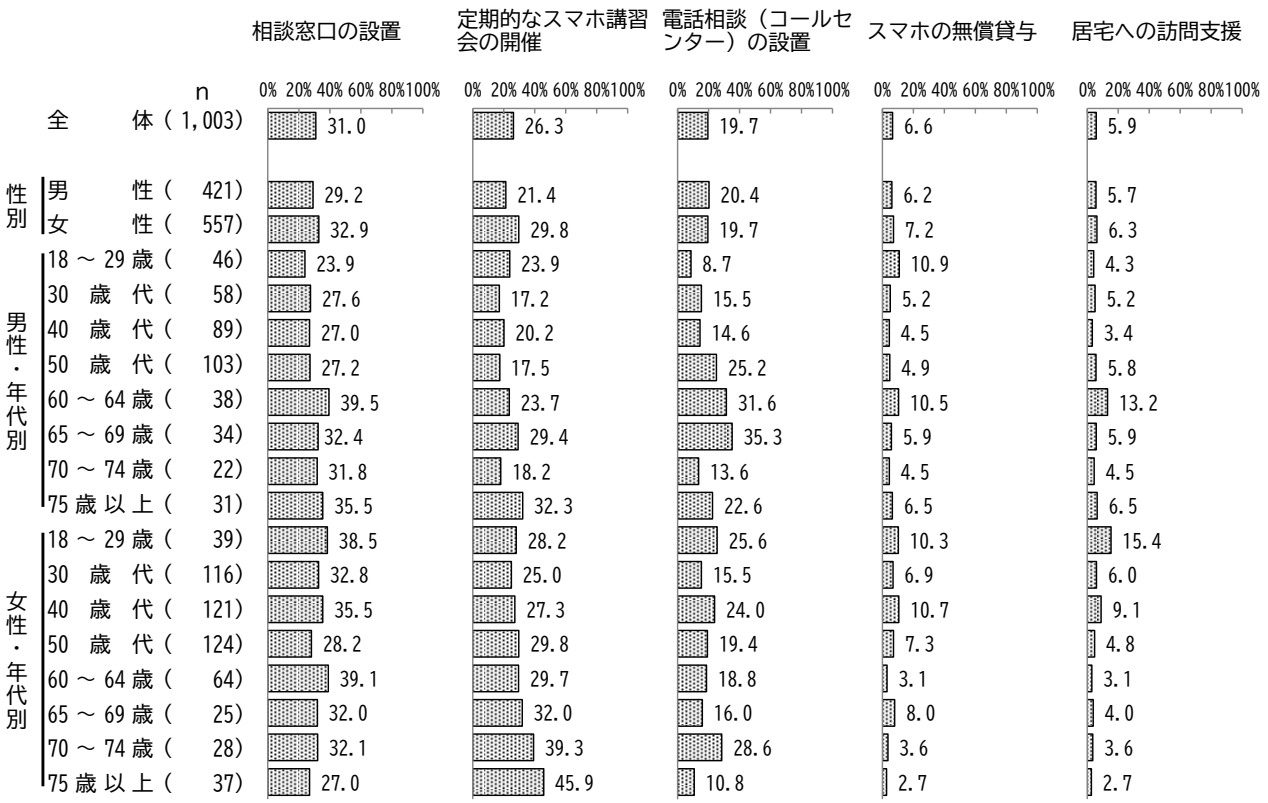
図22－２－１　デジタル機器利活用支援について望まれるあり方



デジタル機器利活用支援について望まれるあり方について聞いたところ、「相談窓口の設置」(31.0%)が３割強と最も高く、次いで、「定期的なスマホ講習会の開催」(26.3%)が２割台半ば超えと高くなっている。(図22－２－１)

性・年代別にみると、「定期的なスマホ講習会の開催」は女性75歳以上(45.9%)が４割台半ばと最も高くなっており、次いで女性70～74歳(39.3%)が４割弱と高くなっている。「電話相談（コールセンター）の設置」は男性65～69歳(35.3%)が３割台半ばと最も高くなっており、次いで男性60～64歳(31.6%)が３割強と高くなっている。(図22－２－２)

図22－２－２ デジタル機器利活用支援について望まれるあり方（性・年代別）



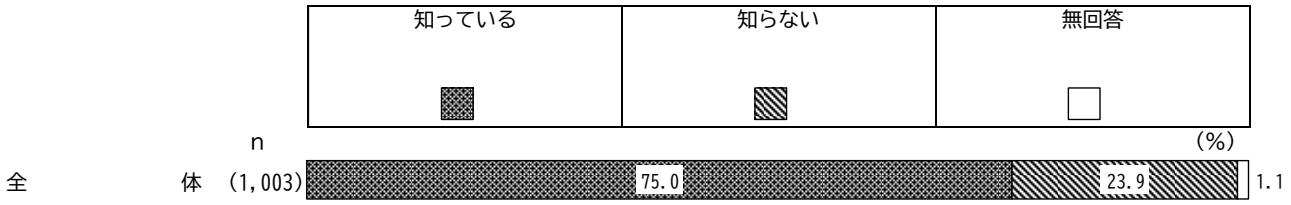
23. 区民の防災対策

（１）地域の避難所の認知度

◇「知っている」が７割台半ば

問62　地域の避難所がどこにあるのかを知っていますか（○は１つ）

図23－１－１　地域の避難所の認知度

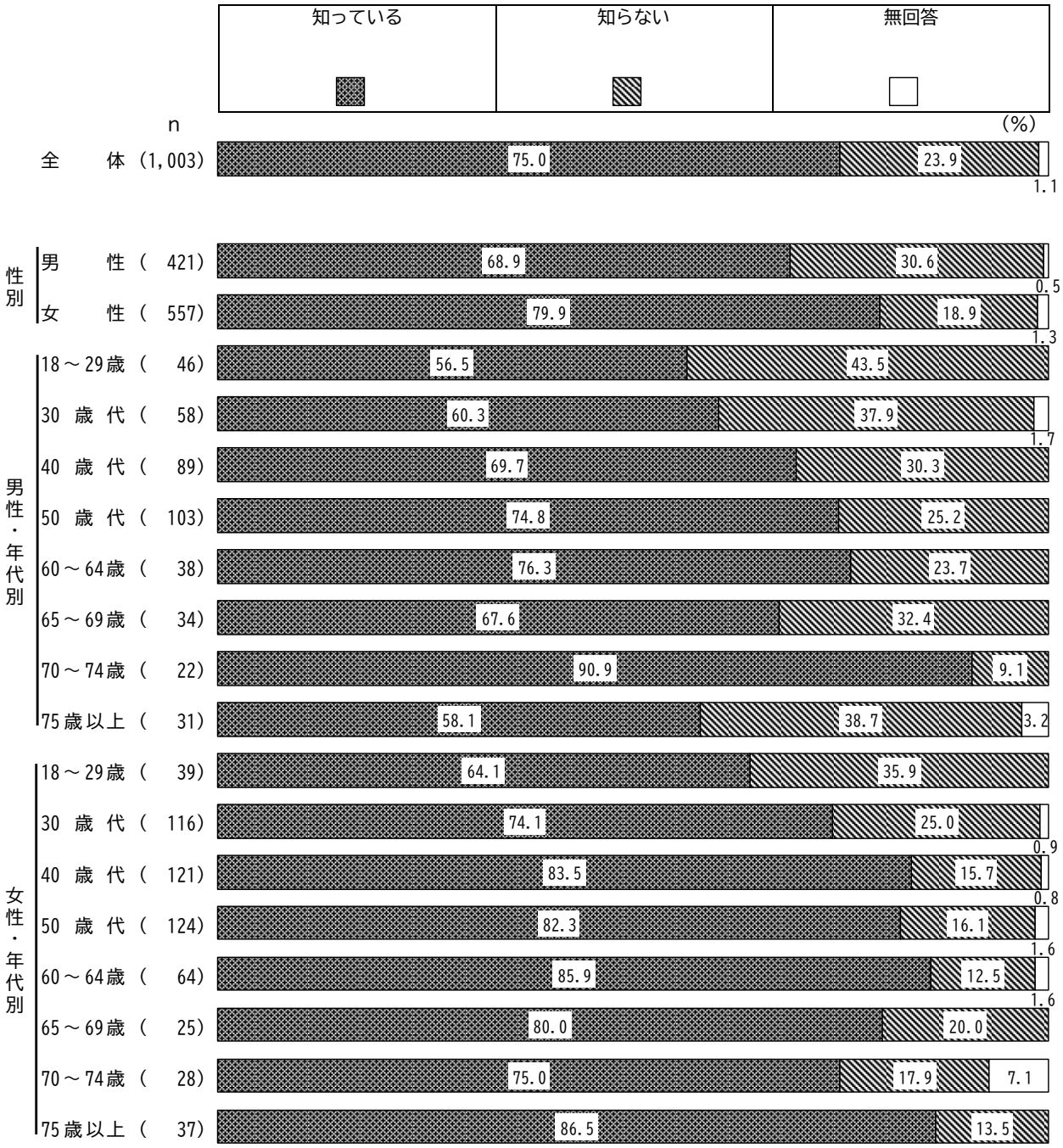


地域の避難所の認知度について聞いたところ、「知っている」(75.0%)が７割台半ばと高くなっている。一方で、「知らない」(23.9%)が２割台半ば近くとなっている。

（図23－１－１）

性・年代別にみると、「知っている」は女性75歳以上(86.5%)が８割台半ば超え、女性60～64歳(85.9%)が８割台半ばと高くなっている。一方で、「知らない」は男性18～29歳(43.5%)が４割台半ば近くと最も高くなっており、次いで男性75歳以上(38.7%)が４割近く、男性30歳代(37.9%)が３割台半ば超え、女性18～29歳(35.9%)が３割台半ばと高くなっている。(図23－１－２)

図23－１－２ 地域の避難所の認知度（性・年代別）

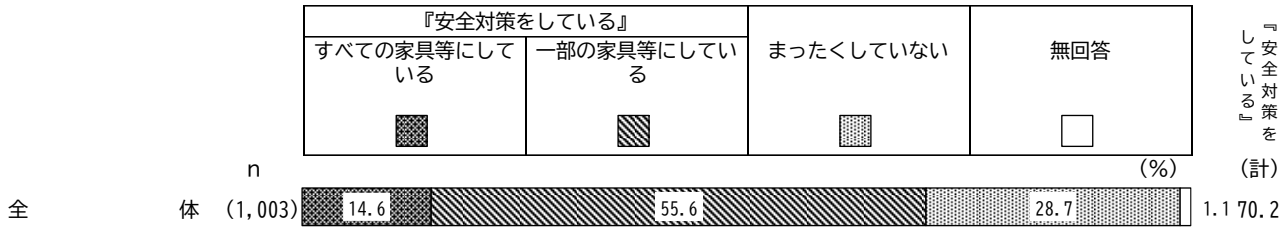


（２）家具等の安全対策の実施状況

◇「一部の家具等にしている」が５割台半ば

問63　震災時に転倒の恐れのある家具等について、安全対策を実施していますか。
（○は１つ）

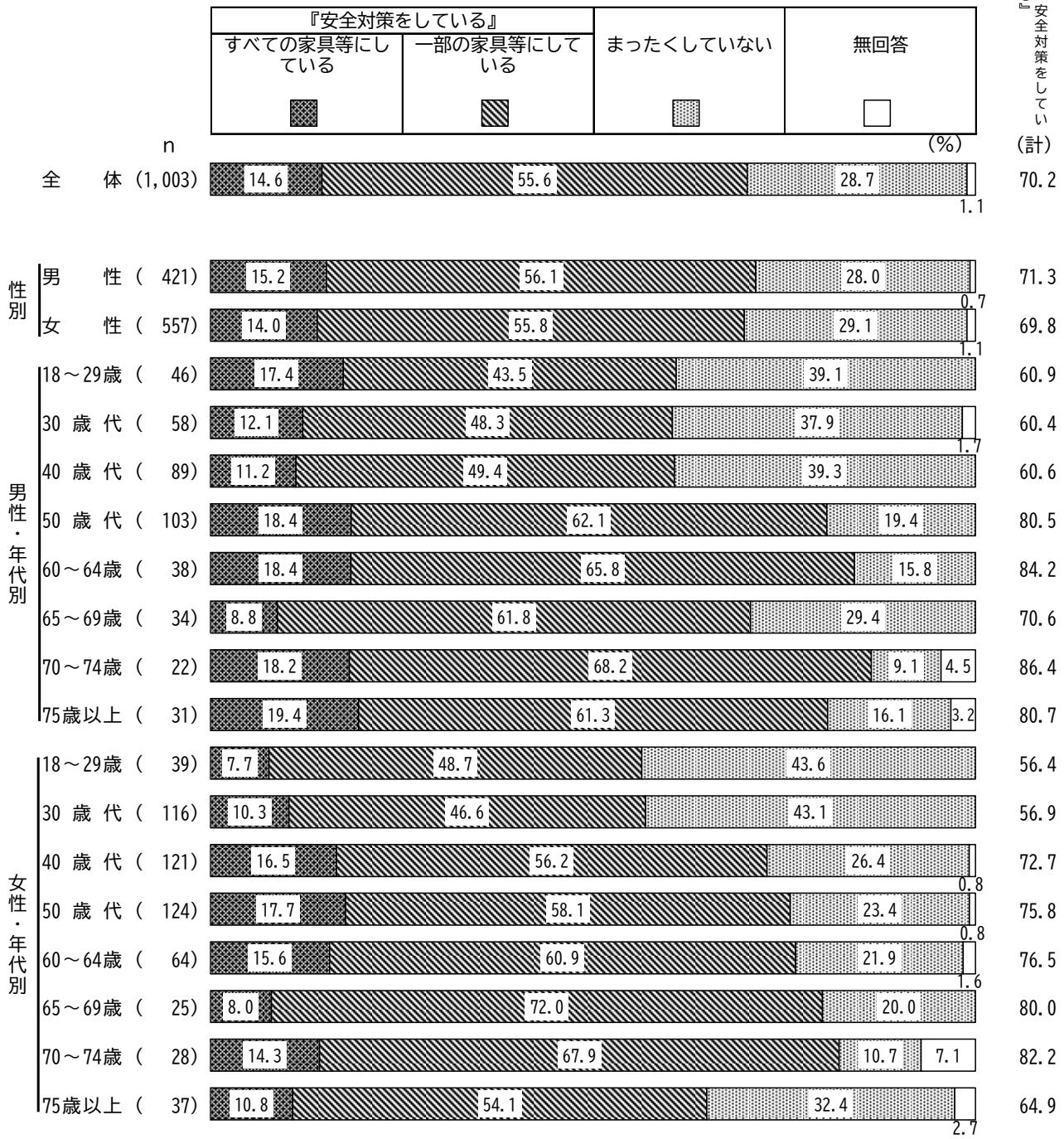
図23－２－１　家具等の安全対策の実施状況



家具等の安全対策の実施状況について聞いたところ、「一部の家具等にしている」(55.6%)が５割台半ばと最も高く、「すべての家具等にしている」(14.6%)と合わせた『安全対策をしている』(70.2%)が約７割となっている。一方で、「まったくしていない」(28.7%)が３割近くとなっている。(図23－２－１)

性・年代別にみると、「一部の家具等にしている」は女性65～69歳(72.0%)が７割強と最も高くなっている。「一部の家具等にしている」と「すべての家具等にしている」と合わせた『安全対策をしている』は男性60～64歳(84.2%)が８割台半ば近くと最も高くなっている。(図23－２－２)

図23－２－２ 家具等の安全対策の実施状況（性・年代別）

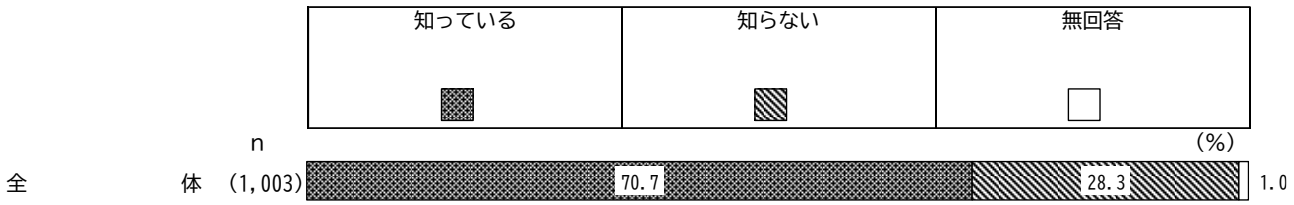


（３）自宅周辺の災害リスクの認知度

◇「知っている」が約７割

問64　あなたのお宅の周辺の、洪水などの災害リスクについてご存知ですか。
（○は１つ）

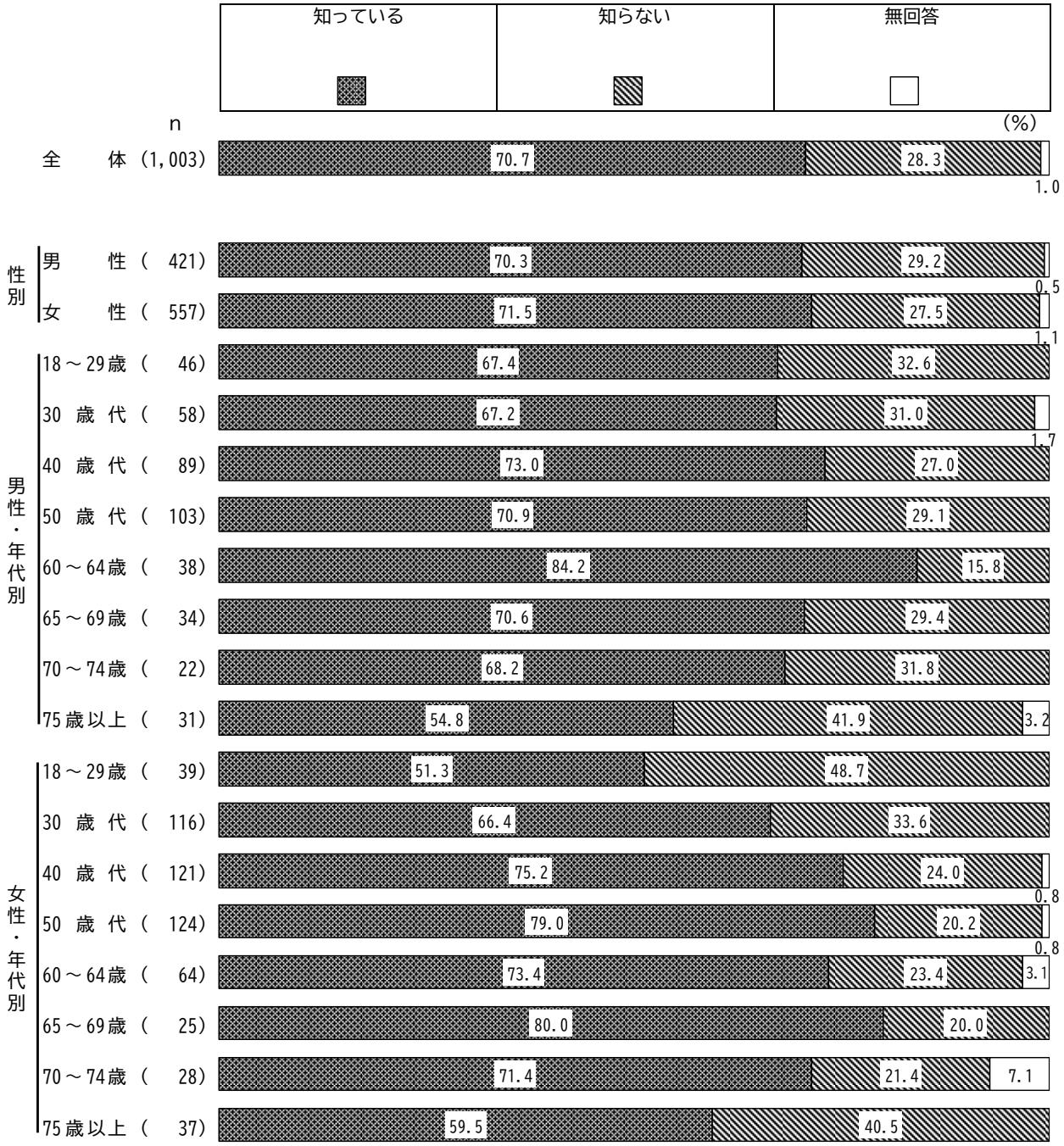
図23－３－１　自宅周辺の災害リスクの認知度



自宅周辺の災害リスクの認知度について聞いたところ、「知っている」(70.7%)が約７割と高く、一方で、「知らない」(28.3%)が３割近くとなっている。(図23－３－１)

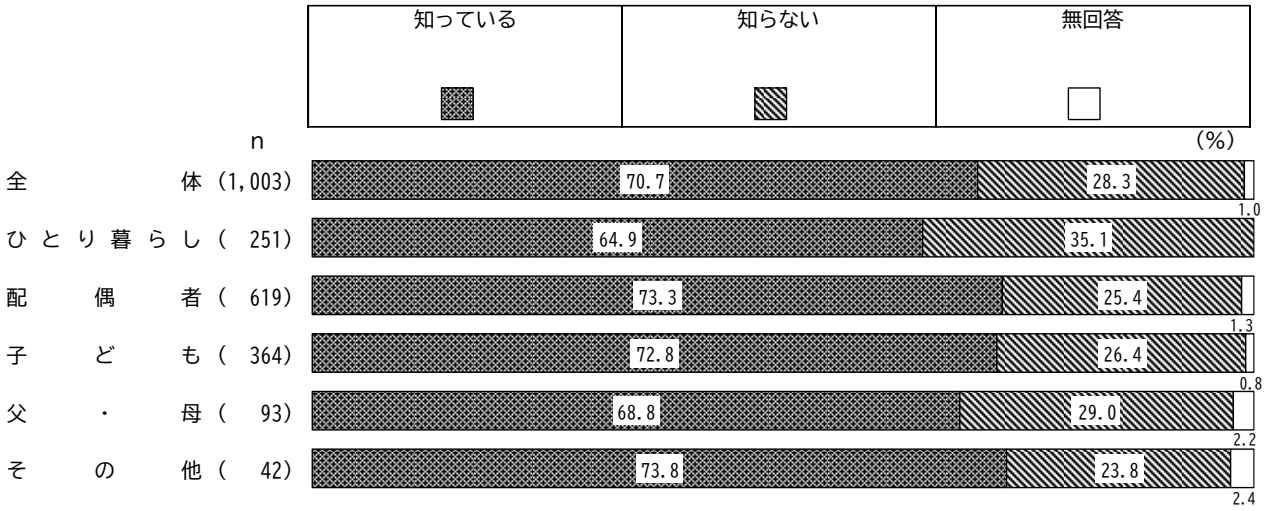
性・年代別にみると、「知らない」は女性18～29歳(48.7%)が５割近くと高くなっている。(図23－３－２)

図23－３－２ 自宅周辺の災害リスクの認知度（性・年代別）



世帯構成別にみると、「知らない」はひとり暮らし(35.1%)が３割台半ばと高くなっている。(図23－３－３)

図23－３－３ 自宅周辺の災害リスクの認知度（世帯構成別）

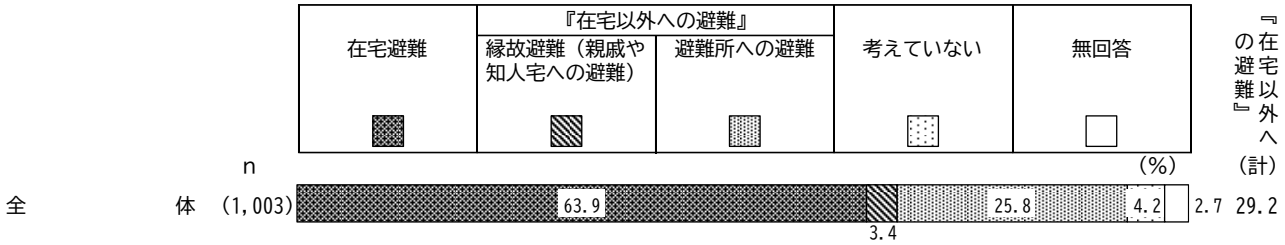


（４）災害時の避難方法

◇「在宅避難」が６割台半ば近く

問65　あなたは、災害が起きた時どのような避難方法を考えていますか。（○は１つ）

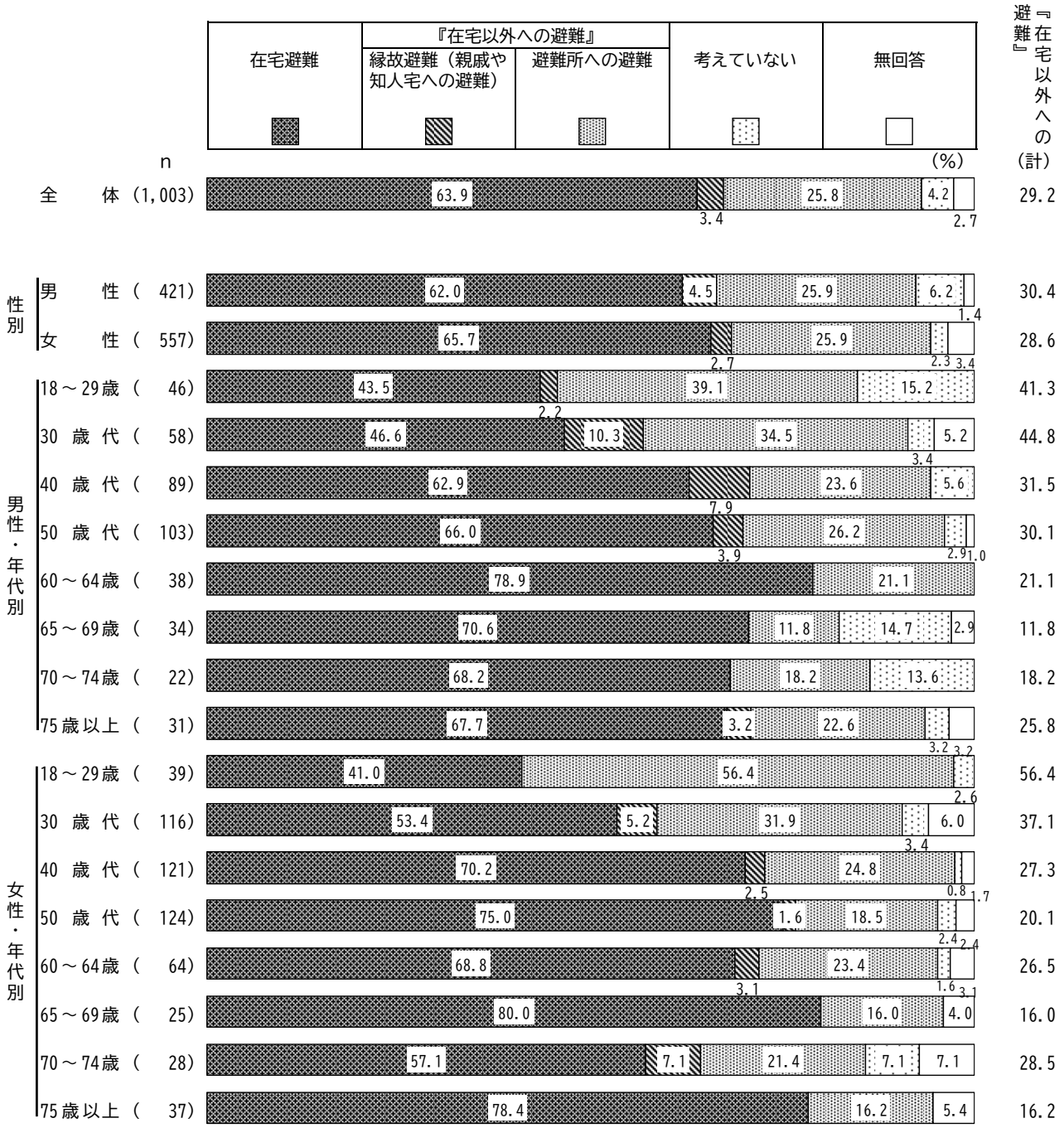
図23－４－１　災害時の避難方法



災害時の避難方法について聞いたところ、「在宅避難」(63.9%)が６割台半ば近くと最も高くなっている。また、「避難所への避難」(25.8%)が２割台半ばと高く、「縁故避難（親戚や知人宅への避難)」(3.4%)と合わせた『在宅以外への避難』(29.2%)が３割弱となっている。(図23－４－１)

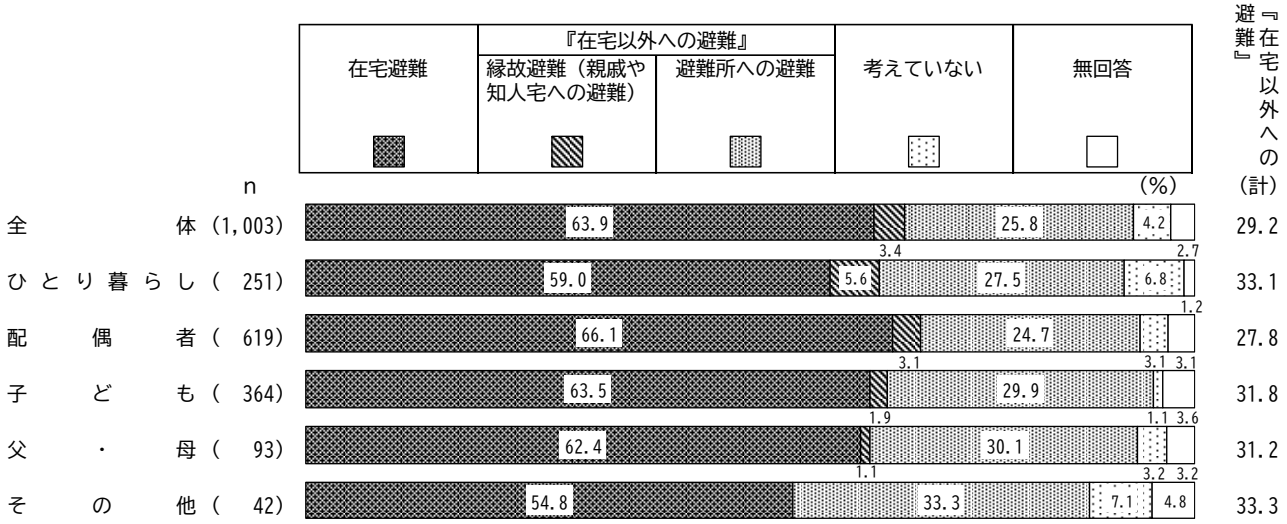
性・年代別にみると、『在宅以外への避難』は女性18～29歳(56.4%)が５割台半ば超えと最も高くなっている。(図23－４－２)

図23－４－２ 災害時の避難方法（性・年代別）



世帯構成別にみると、『在宅以外への避難』はひとり暮らし(33.1%)が３割台半ば近くとなっている。(図23－４－３)

図23－４－３ 災害時の避難方法（世帯構成別）

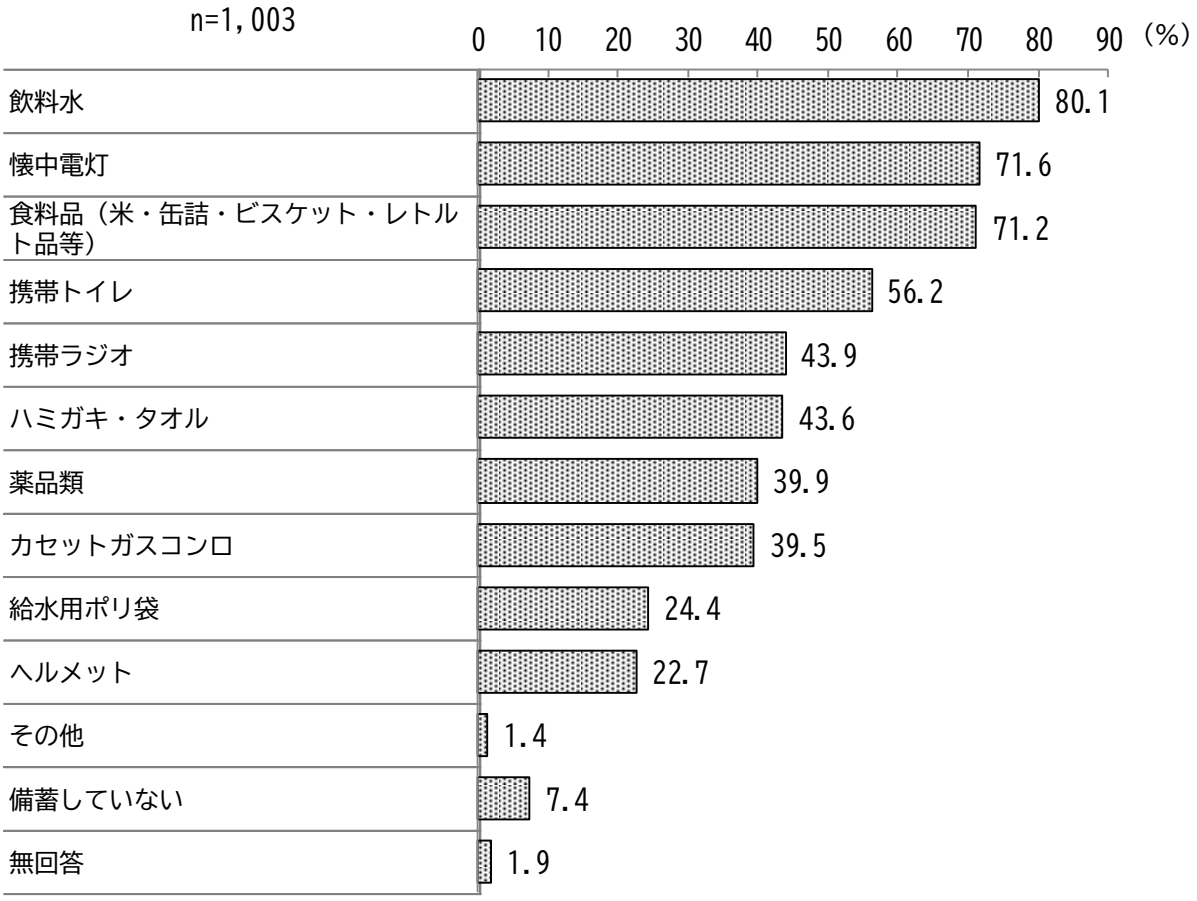


（５）災害に備えた備蓄状況

◇「飲料水」が約８割

問66　あなたのお宅では、地震等の災害に備えてどのようなものを備蓄していますか。
（○はいくつでも）

図23－５－１　災害に備えた備蓄状況



災害に備えた備蓄状況について聞いたところ、「飲料水」(80.1%)が約８割と最も高く、次いで「懐中電灯」(71.6%)が７割強、「食料品（米・缶詰・ビスケット・レトルト品等)」(71.2%)が７割強、「携帯トイレ」(56.2%)が５割台半ば超え、「携帯ラジオ」(43.9%)が４割台半ば近く、「ハミガキ・タオル」(43.6%)が４割台半ば近く、「薬品類」(39.9%)が４割弱、「カセットガスコンロ」(39.5%)が４割弱、「給水用ポリ袋」(24.4%)が２割台半ば近く、「ヘルメット」(22.7%)が２割強と高くなっている。(図23－５－１)

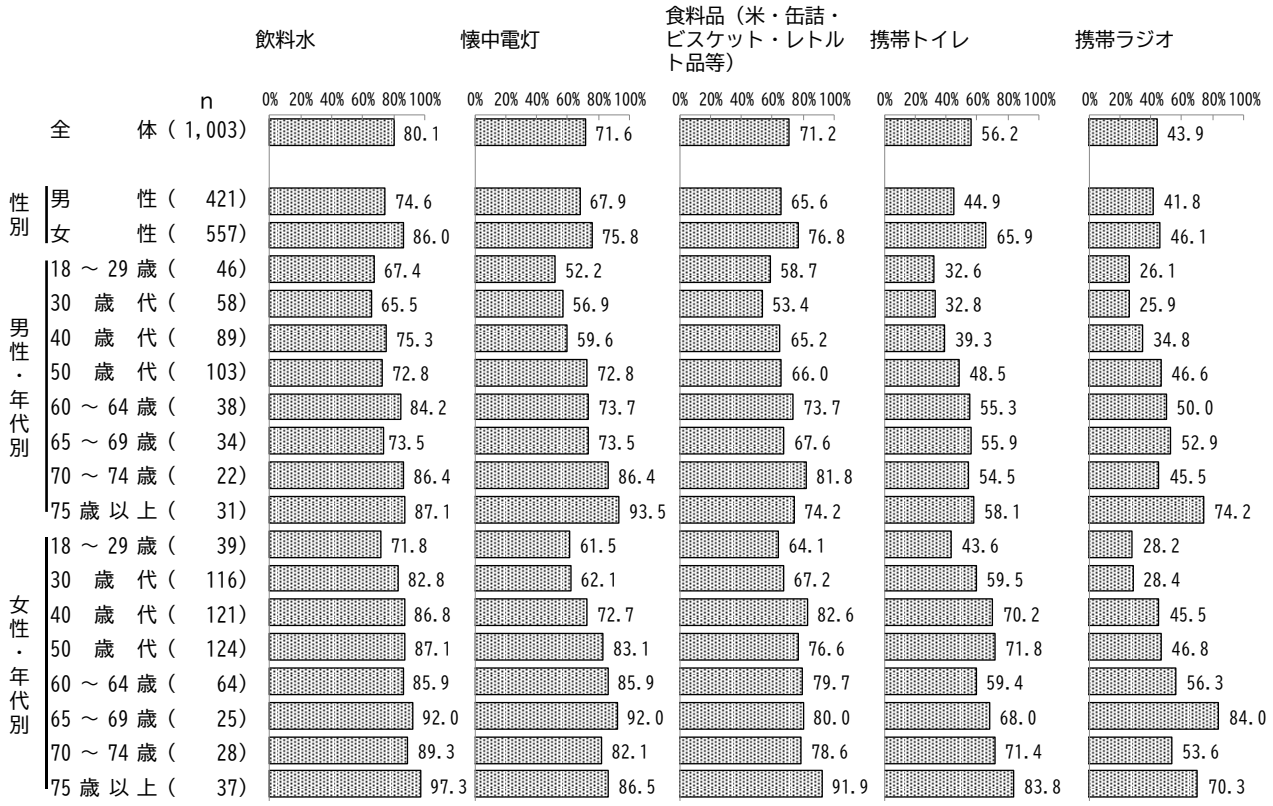
性・年代別にみると、「懐中電灯」は男性75歳以上(93.5%)が９割台半ば近くと最も高くなっており、次いで女性65～69歳(92.0%)が９割強と高くなっている。

「食料品（米・缶詰・ビスケット・レトルト品等)」は女性75歳以上(91.9%)が９割強と最も高くなっている。

「携帯トイレ」は女性75歳以上(83.8%)が８割台半ば近くと最も高くなっている。

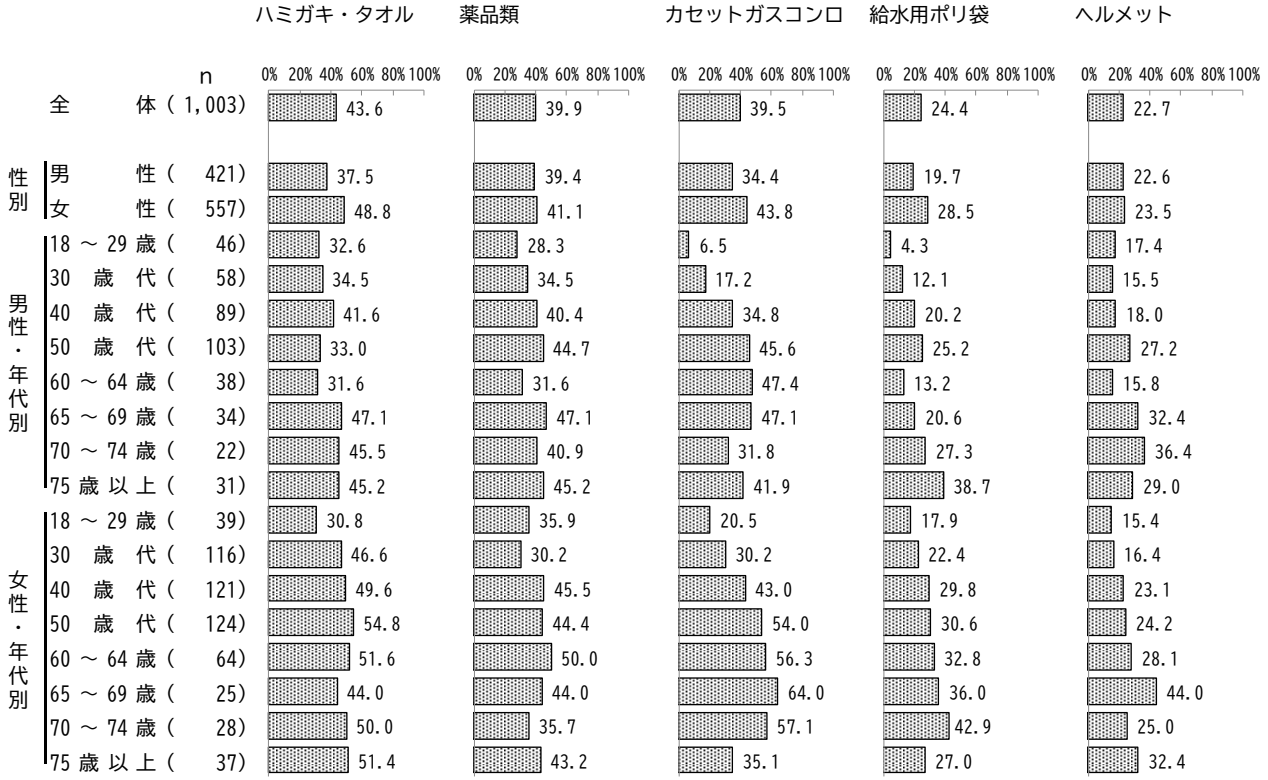
「携帯ラジオ」は女性65～69歳(84.0%)が８割台半ば近くと最も高くなっており、次いで男性75歳以上(74.2%)が７割台半ば近く、女性75歳以上(70.3%)で約７割と高くなっている。(図23－５－２－１)

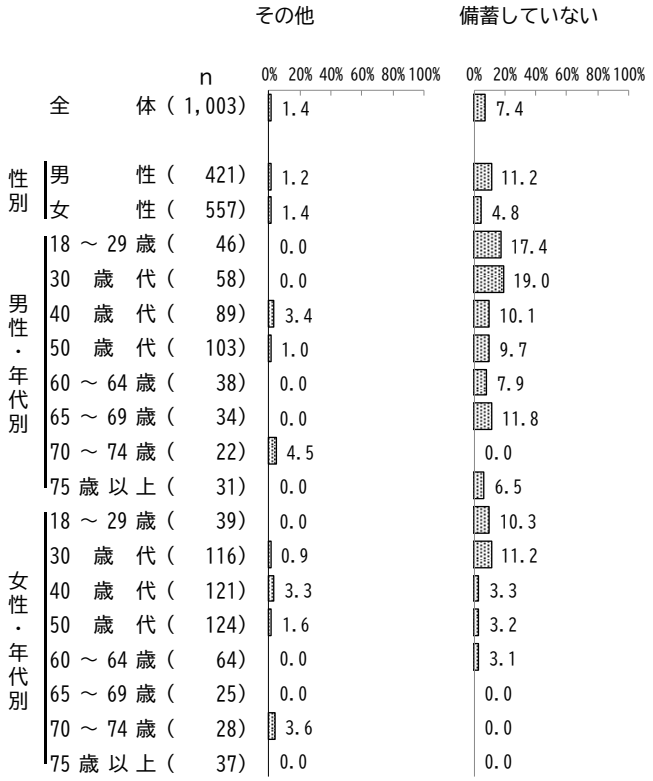
図23－５－２－１ 災害に備えた備蓄状況（性・年代別）（１）



性・年代別にみると、「カセットガスコンロ」は女性65～69歳(64.0%)が６割台半ば近くと最も高くなっている。「ヘルメット」は女性65～69歳(44.0%)が４割台半ば近くと最も高くなっている。(図23－５－２－２)

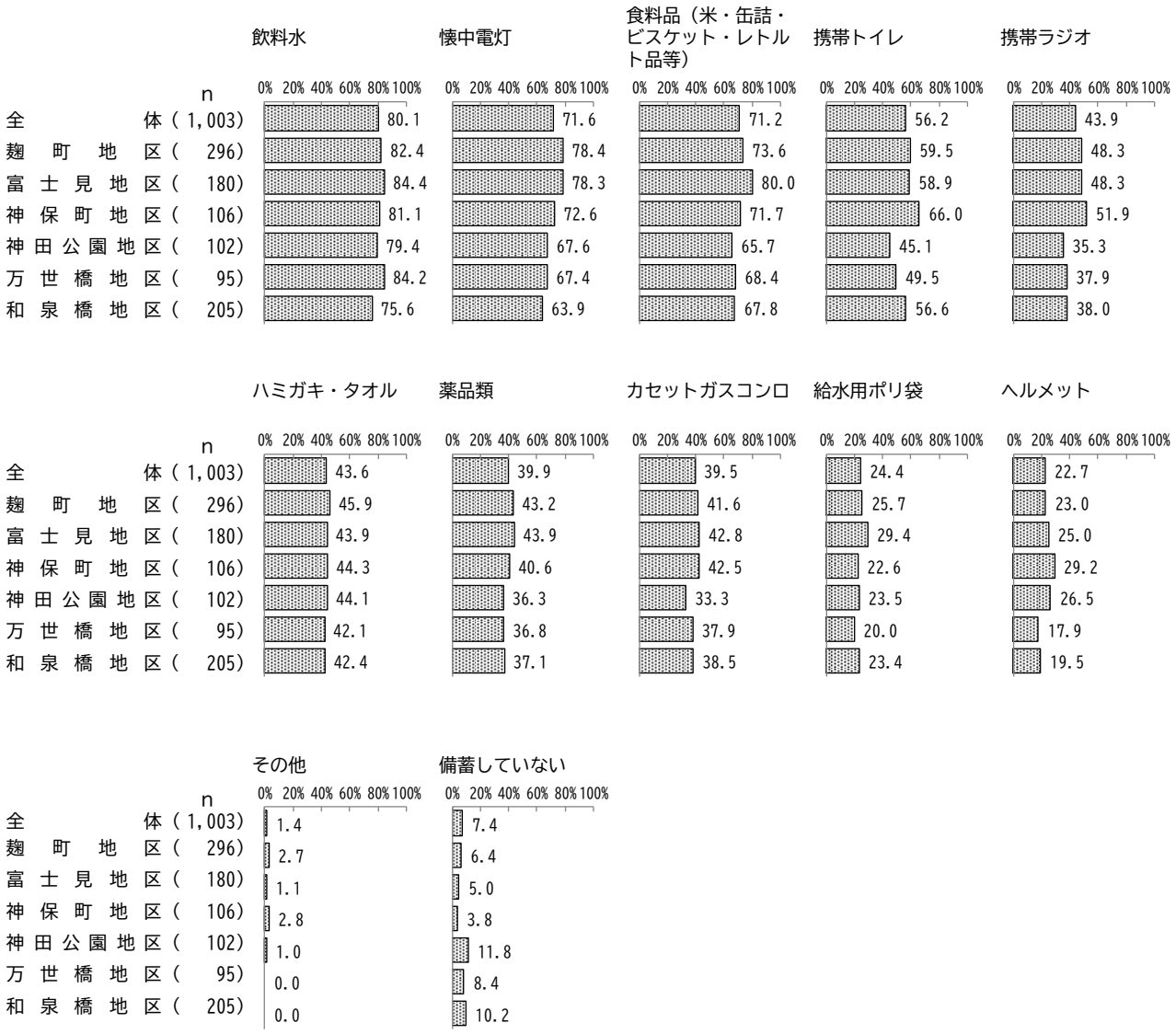
図23－５－２－２ 災害に備えた備蓄状況（性・年代別）（２）





地区別にみると、「食料品（米・缶詰・ビスケット・レトルト品等)」は富士見町地区(80.0%)が８割と最も高くなっている。また、「携帯トイレ」は神保町地区(66.0%)が６割台半ば超えと最も高くなっている。「携帯ラジオ」は神保町地区(51.9%)が５割強と最も高くなっている。(図23－５－３)

図23－５－３ 災害に備えた備蓄状況（地区別）



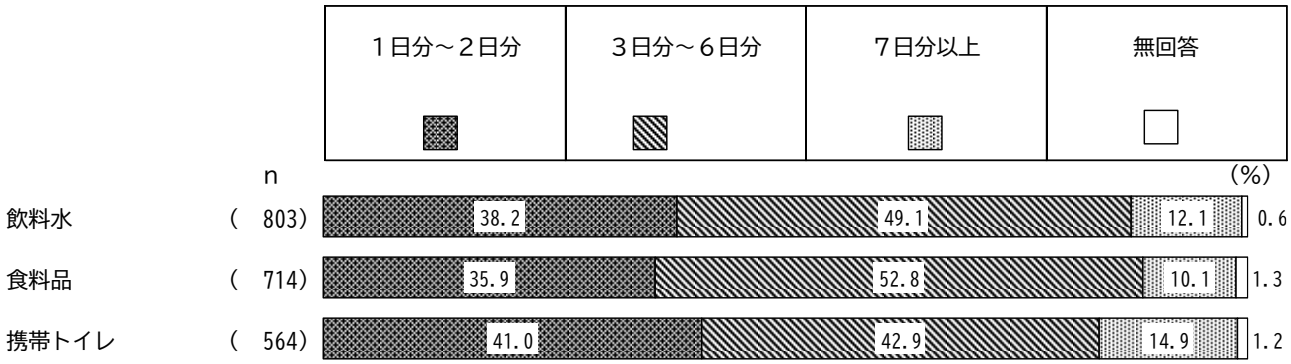
（５－１）備蓄量

◇「３日分～６日分」が５割弱

（問66「１．飲料水」「２．食料品」「３．携帯トイレ」とお答えの方に）

問66－１　あなたのお宅では、災害に備えて何日分の飲料水・食料品・携帯トイレを備蓄していますか。（参考：1人1日あたり飲料水3リットル、保存食等3食、携帯トイレ概ね5枚）（○は１つ）

図23－５－４ 備蓄量



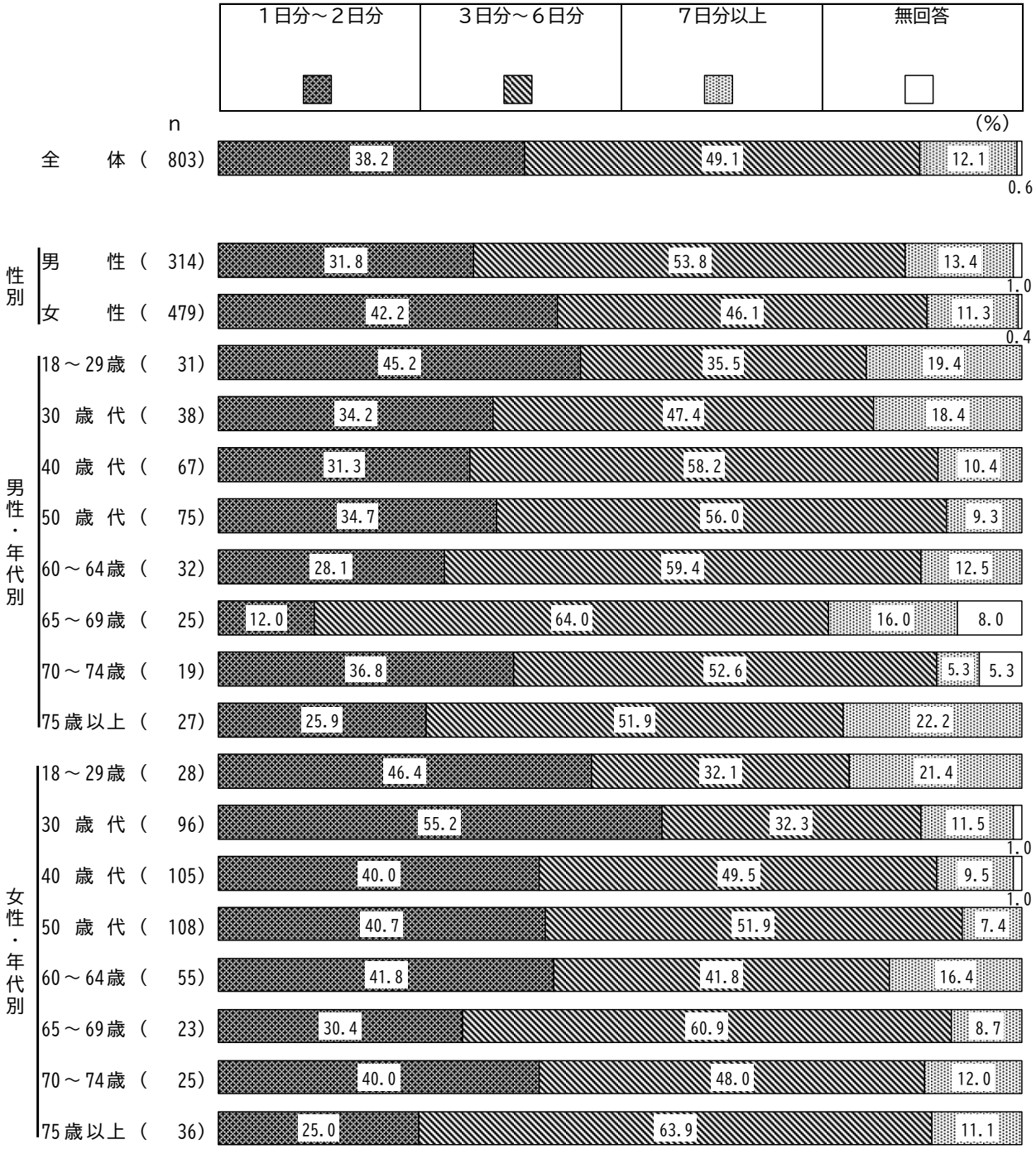
“飲料水”について聞いたところ、「３日分～６日分」(49.1%)が５割弱と最も高く、次いで「１日分～２日分」(38.2%)が４割近くと高くなっている。

“食料品”について聞いたところ、「３日分～６日分」(52.8%)が５割強と最も高く、次いで「１日分～２日分」(35.9%)が３割台半ばと高くなっている。

“携帯トイレ”について聞いたところ、「３日分～６日分」(42.9%)が４割強と最も高く、次いで「１日分～２日分」(41.0%)が４割強と高くなっている。(図23－５－４)

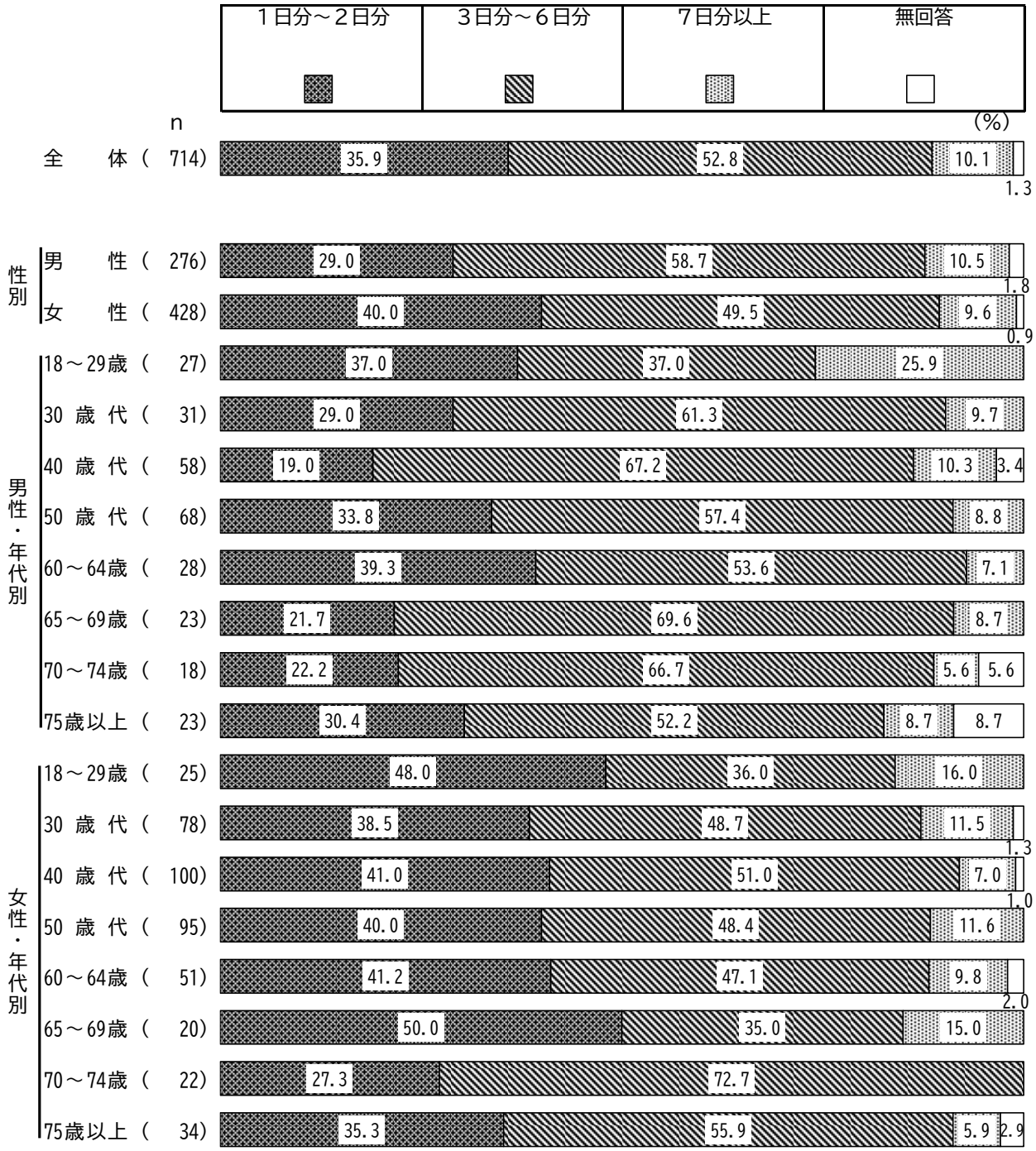
性・年代別に“飲料水”の備蓄量をみると、「１日分～２日分」は女性30歳代(55.2%)が５割台半ばと最も高くなっている。「３日分～６日分」は男性65～69歳(64.0%)が６割台半ば近くと最も高くなっており、女性75歳以上(63.9%)が６割台半ば近く、男性60～64歳(59.4%)が６割弱と高くなっている。「７日分以上」は男性75歳以上(22.2%)が２割強と最も高くなっている。(図23－５－５)

図23－５－５ 飲料水の備蓄量（性・年代別）



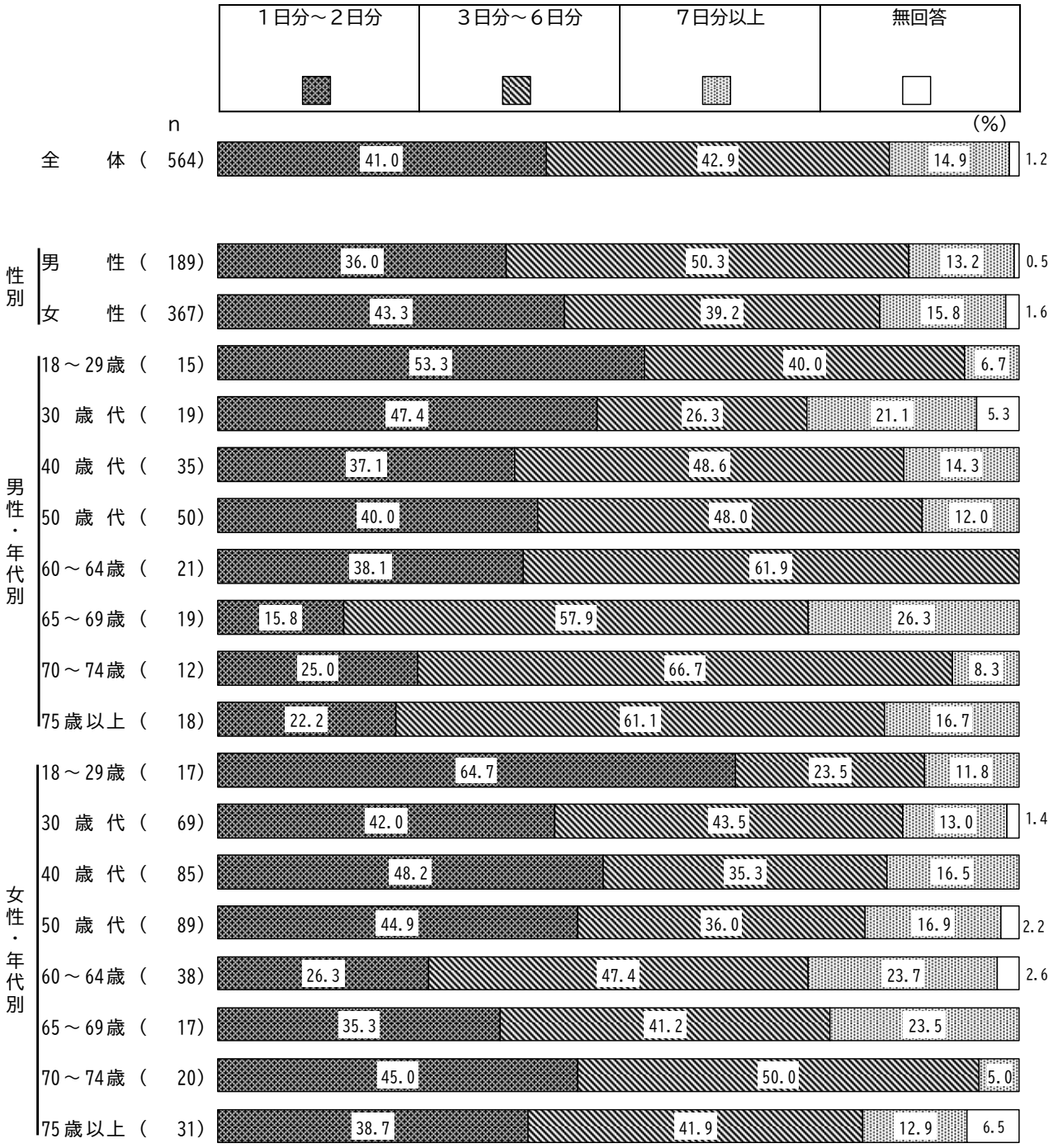
性・年代別に“食料品”の備蓄量をみると、「１日分～２日分」は女性18～29歳(48.0%)が５割近くと高くなっている。「３日分～６日分」は男性40歳代(67.2%)が６割台半ば超えが６割台半ば超えと高くなっている。「７日分以上」は男性18～29歳(25.9%)が２割台半ばと最も高くなっている。(図23－５－６)

図23－５－６ 食料品の備蓄量（性・年代別）



性・年代別に“携帯トイレ”の備蓄量をみると、「１日分～２日分」は女性40歳代(48.2%)が５割近くとなっている。「７日分以上」は女性60～64歳(23.7%)が２割台半ば近くとなっている。(図23－５－７)

図23－５－７ 携帯トイレの備蓄量（性・年代別）

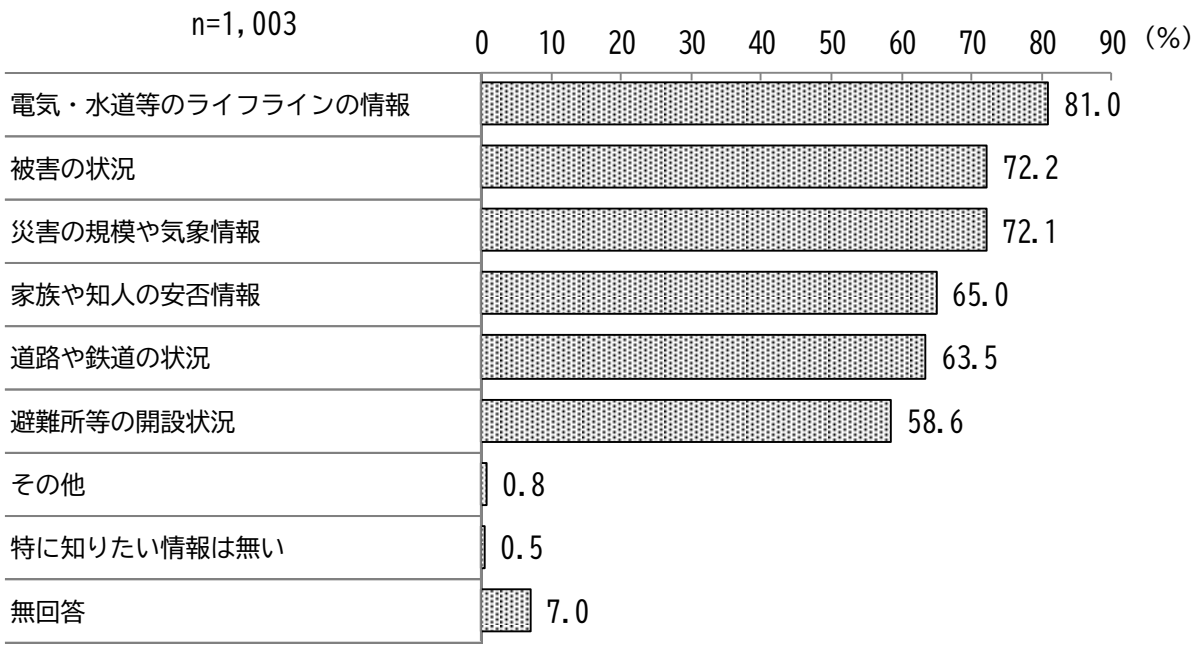


（６）災害発生時に知りたい情報

◇「電気・水道等のライフラインの情報」が８割強

問67　災害が発生したときに、特に知りたい情報は何ですか。（○はいくつでも）

図23－６－１　災害発生時に知りたい情報

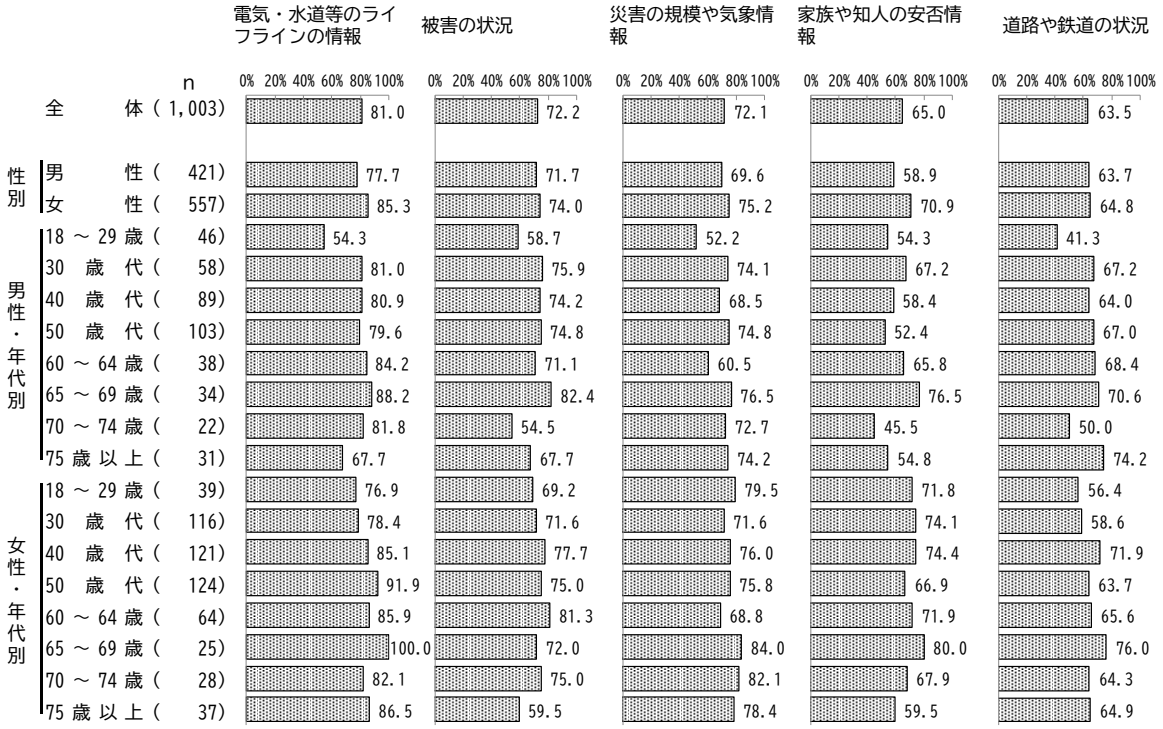


災害発生時に知りたい情報について聞いたところ、「電気・水道等のライフラインの情報」(81.0%)が８割強と最も高く、次いで「被害の状況」(72.2%)が７割強、「災害の規模や気象情報」(72.1%)が７割強、「家族や知人の安否情報」(65.0%)が６割台半ば、「道路や鉄道の状況」(63.5%)が６割台半ば近く、「避難所等の開設状況」(58.6%)が６割近くと高くなっている。(図23－６－１)

性・年代別にみると、「電気・水道等のライフラインの情報」は女性65～69歳(100.0%)と最も高くなっており、女性50歳代(91.9%)が９割強と高くなっている。「災害の規模や気象情報」は女性65～69歳(84.0%)が８割台半ば近くと最も高くなっている。「被害の状況」は男性65～69歳(82.4%)が８割強と最も高くなっている。「道路や鉄道の状況」は女性65～69歳(76.0%)が７割台半ば超えと最も高くなっており、次いで男性75歳以上(74.2%)が７割台半ば近くと高くなっている。「家族や知人の安否情報」は女性65～69歳(80.0%)で８割と最も高くなっており、男性65～69歳(76.5%)が７割台半ば超えと高くなっている。

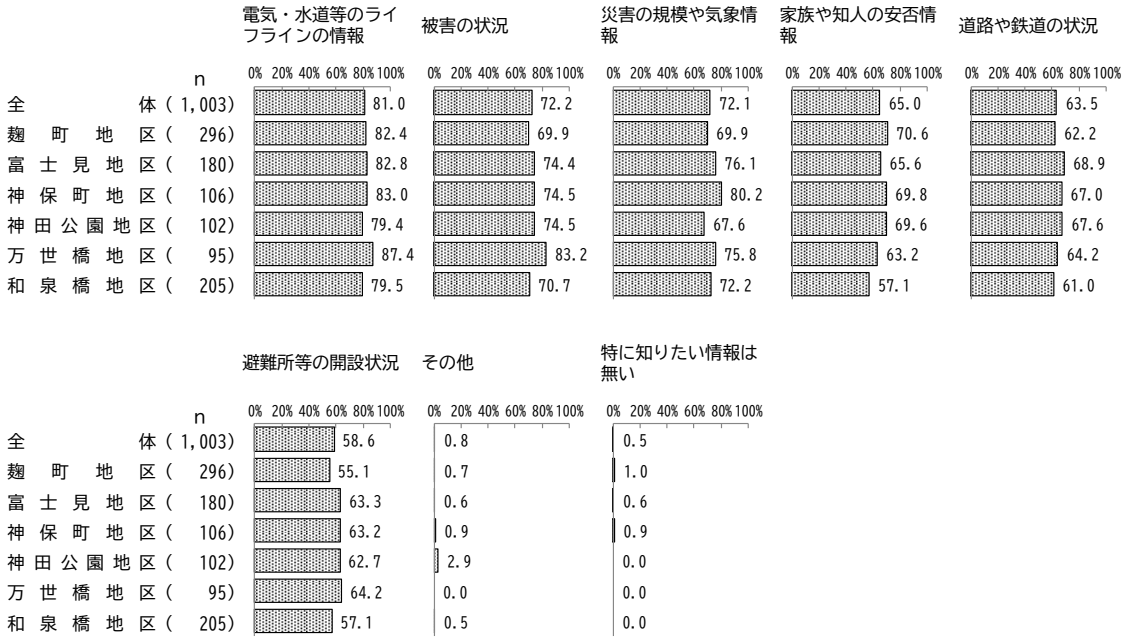
（図23－６－２）

図23－６－２ 災害発生時に知りたい情報（性・年代別）



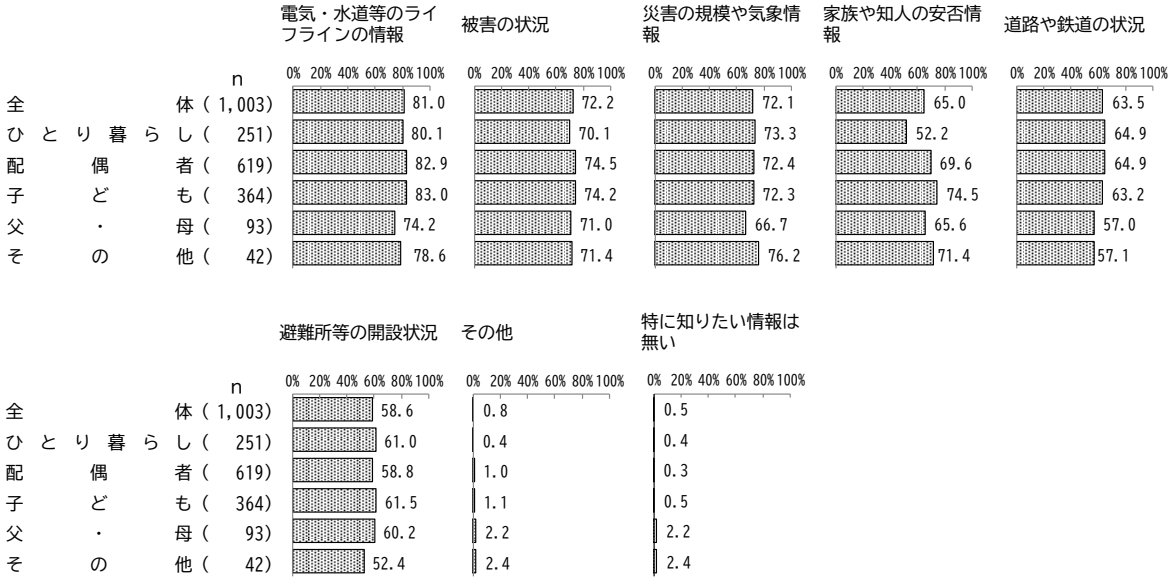
地区別にみると、「被害の状況」は万世橋地区(83.2%)が８割台半ば近くと最も高くなっている。(図23－６－３)

図23－６－３ 災害発生時に知りたい情報（地区別）



世帯構成別にみると、「家族や知人の安否情報」は子どものいる世帯(74.5%)が７割台半ば近くと最も高くなっている。(図23－６－４)

図23－６－４ 災害発生時に知りたい情報（世帯構成別）

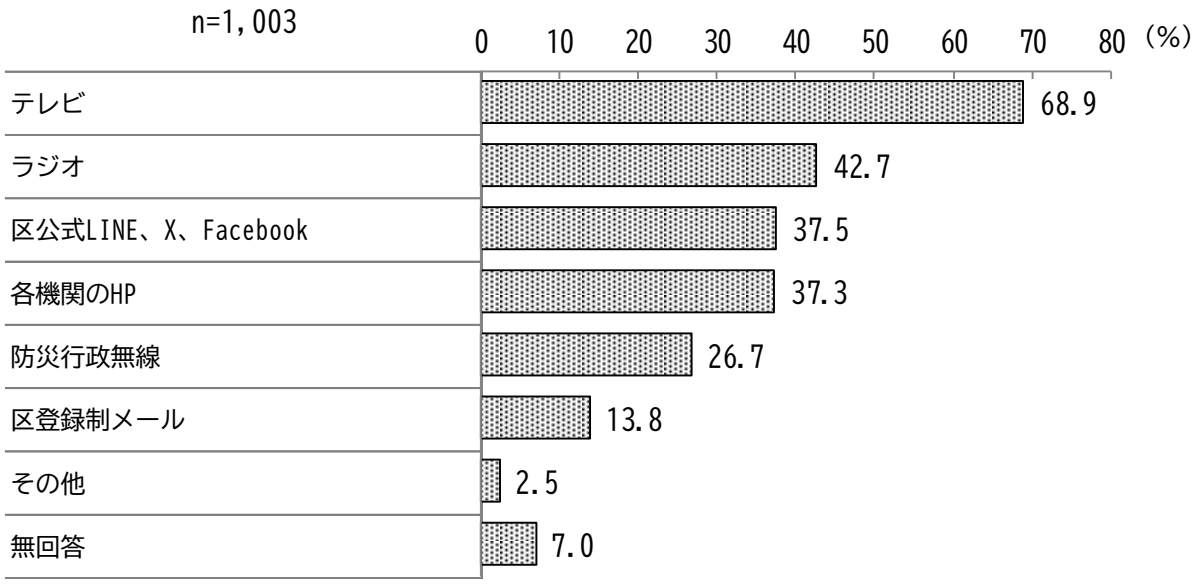


（７）災害時に情報を取得する媒体

◇「テレビ」が７割近く

問68　災害時にはどのような媒体から情報を取得しますか。（○はいくつでも）

図23－７－１　災害時に情報を取得する媒体

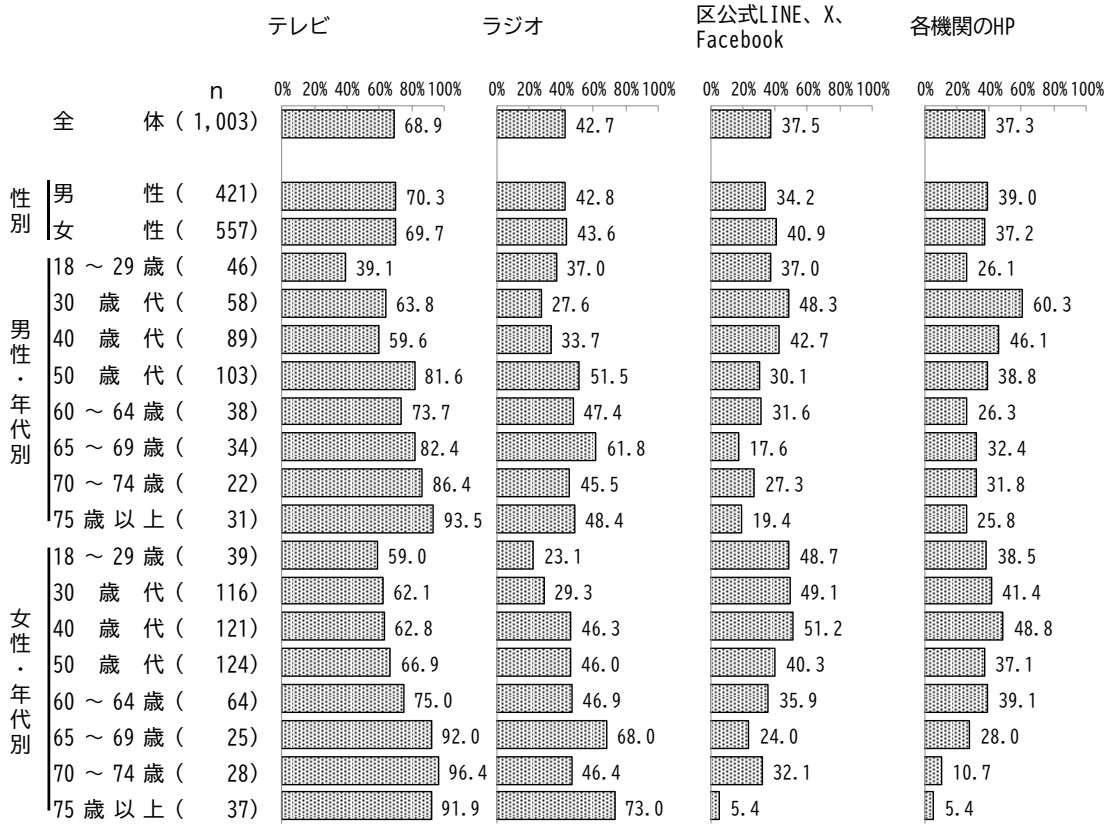


災害時に情報を取得する媒体について聞いたところ、「テレビ」(68.9%)が７割近くと最も高く、次いで「ラジオ」(42.7%)が４割強、「区公式LINE、X、Facebook」(37.5%)が３割台半ば超え、「各機関のHP」(37.3%)が３割台半ば超え、「防災行政無線」(26.7%)が２割台半ば超えと高くなっている。(図23－７－１)

性・年代別にみると、「テレビ」は女性70～74歳(96.4%)が９割台半ば超えと最も高くなっており、次いで男性75歳以上(93.5%)が９割台半ば近く、女性65～69歳(92.0%)が９割強、女性75歳以上(91.9%)が９割強と高くなっている。「ラジオ」は女性75歳以上(73.0%)が７割台半ば近くと最も高くなっており、次いで女性65～69歳(68.0%)が７割近くと高くなっている。「各機関のHP」は男性30歳代(60.3%)で約６割と最も高くなっている。

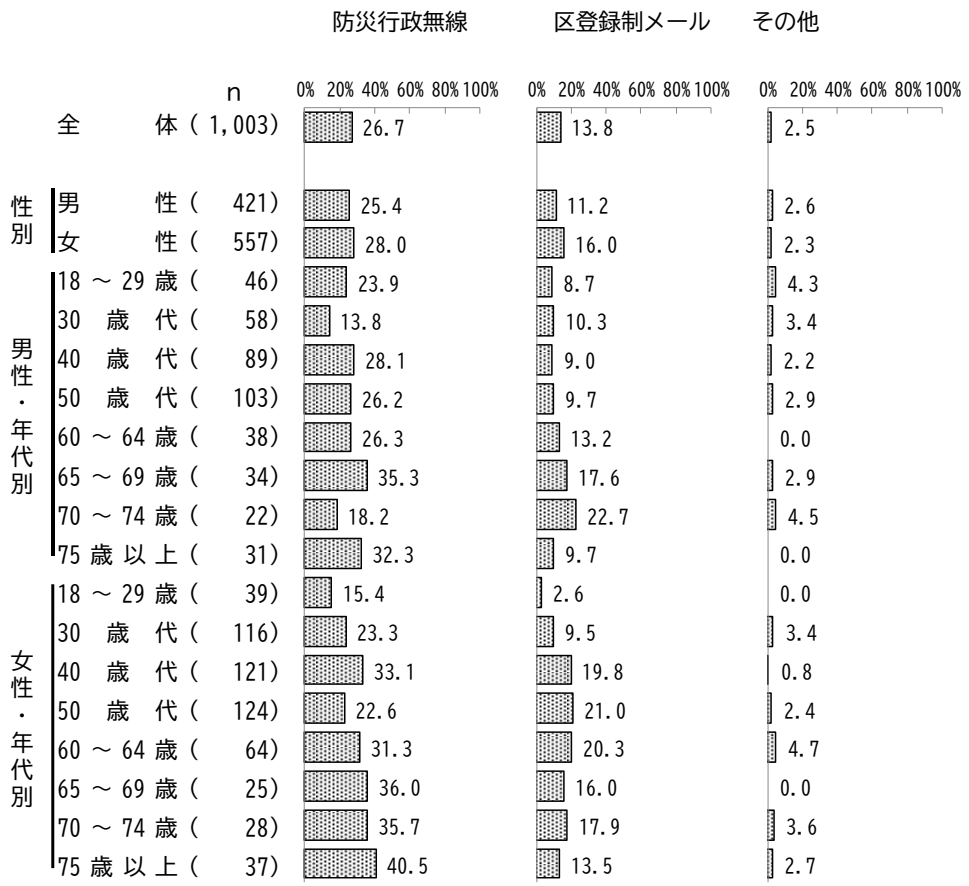
（図23－７－２－１）

図23－７－２－１ 災害時に情報を取得する媒体（性・年代別）（１）



性・年代別にみると、「防災行政無線」は女性75歳以上(40.5%)が約４割と最も高くなっている。(図23－７－２－２)

図23－７－２－２ 災害時に情報を取得する媒体（性・年代別）（２）



地区別にみると、「テレビ」は富士見地区(76.1%)が７割台半ば超えと最も高くなっている。(図23－７－３)

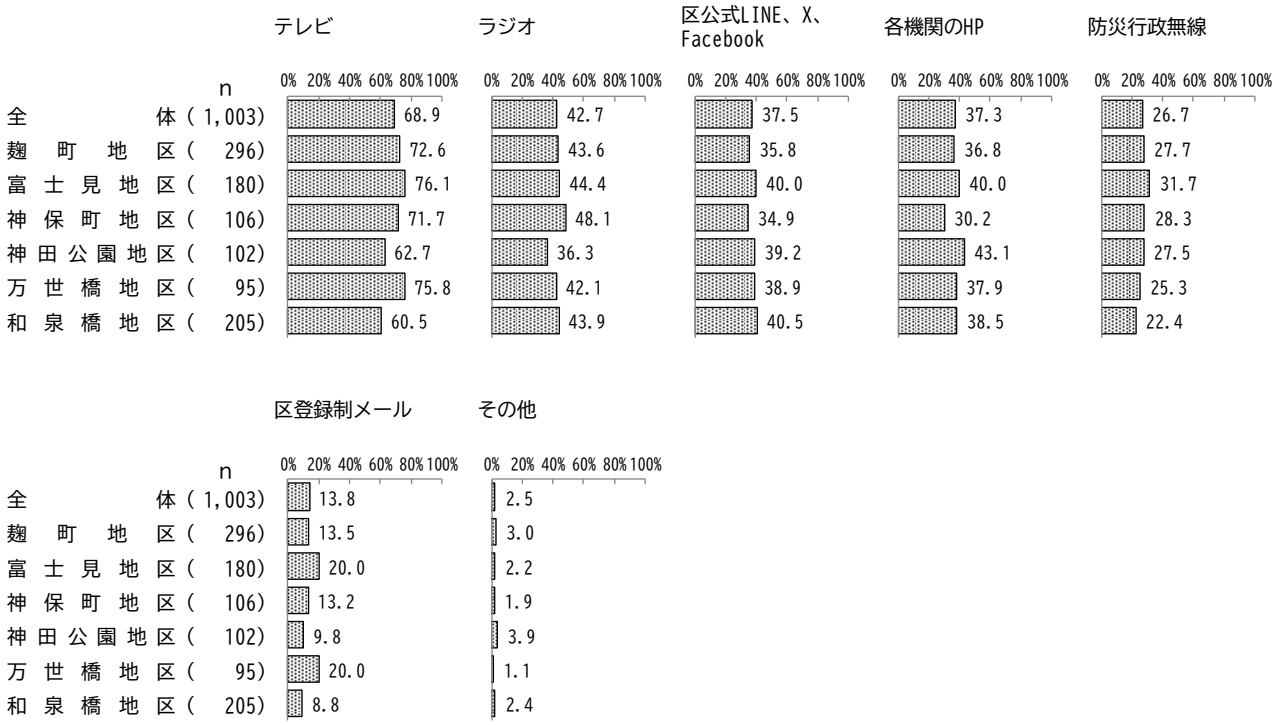



図23－７－３ 災害時に情報を取得する媒体（地区別）